

參照 子爵竹屋春光家子爵綾小路護の項

西岡金太郎

紅谷本店、菓子商
東京府在籍
妻 明二、一、二、三、養父幾次郎二女
男 勲二、明四、七、生
女 モト 大二、三、生

西岡國吉

從五位勳五等、判事、名古屋控訴
院判事、福井縣在籍
妻 慶應三、一、生、福井、吉田宗三
長女
男 直治 明四、五、七、生
女 正 惠 明四、一、四、生
女 薰 明四、二、八、生

西岡幸兵衛

佐賀縣多額納稅者、伊萬里銀行、
カスケード商會各株、取締役、農
業、佐賀縣在籍
妻 ノ 明二、八、一、生、長崎、上、犬尾寅
男 幸一 大二、五、生
女 雅子 大六、三、生

西岡竹次郎

衆議院議員(長崎縣選出)
長崎縣在籍
君は長崎縣人手島耕太郎の弟にして明治二十三年六月
を以て生れ西岡伊三の養子となり同二十五年家督を
相続す大正五年早稲田大學法律科を卒業し新聞記者
雜誌「青年」社長普通選舉期成同盟會常任幹事等を経て
同十年外遊ロンドン大學に學び更に議會政治社會政
策研究の爲め獨佛伊米等の諸國を歴遊し歸朝後同十三
年長崎民友新聞社を創設し其社長となり
昭和三年衆議院議員に當選し立憲政友會に屬す(東
京、赤坂、一ツ木町六六電番山三三〇)

西岡貞太郎

西岡貞商店社長、化粧品雜貨
商、大阪府在籍
妻 明一、六、三、生、養父幾太郎養子、奈
良、西岡美徳藏妹
男 紀之松 明四、二、二、女
女 和喜榮 明三、九、九、生、日本女子大學校在
學
女 喜美 明四、四、五、生

西岡平藏

近江屋、肥料商
大阪府在籍
妻 申子 明一、七、一〇、生、滋賀、矢島九三
妹 明二、九、一、生、神戸高等商業學
校及東京高等商業學校專攻科出身
男 治三郎 明三、八、三、生、北海道帝國大學農
學部在學
女 眞子 明四、〇、八、生
女 康子 大二、五、生

西岡安左衛門

兵庫縣議員、竹庄運送店(株)社
長、西灘村長、兵庫縣在籍
妻 たね 明一、七、七、生、養父安左衛門二女
男 安男 明三、二、五、生
男 唯逸 明四、〇、六、生

西岡芳之助

紅谷、菓子食料品商
東京府在籍
妻 こゝろ 明二、五、八、生、養父幾次郎三女
男 宏 大一、〇、一、二、生

西垣重之助

尾張屋、荒物商
大阪府在籍
妻 さら 明九、六、生、大阪、西垣重助妹
男 清一郎 明四、一、八、生
君は大阪府人八木文藏の二男にして明治十四年三月を

西風相之助

和歌山縣多額納稅者、和歌山業
業、和歌山縣在籍
妻 ヒサ 伯母 明一、五、二、生、和歌山、岡田一雄
女 正一 大元、九、生
男 賴 明三、九、七、生、粉河高等女學校出
女 貞子 明四、二、一、生、粉河高等女學校出
女 身 明四、三、三、生、粉河高等女學校出
女 身 明四、三、三、生、粉河高等女學校出
君は和歌山縣人西風重遠の弟にして明治七年八月を以
て生れ大正五年分家父清五郎の家督を相続す吳服商を
營ふ傍ら和歌山業業會社取締役に任ぜられ和歌山縣多額納
稅者たり眞に粉河町長に推舉せらるる家族は尙二男正六
(大六、八、生)三男九三(同九、三、生)四男士(同二、七
生)あり(和歌山、那賀、粉河町)

西風重遠

勤四等、和歌山縣多額納稅者、富
島組、武庫酒造各(株)取締役、同
清業、和歌山縣在籍
妻 眞 明三、九、八、生、和歌山、田口善吉
女 眞子 明四、〇、一、二、生
女 千鶴子 明四、四、三、生

西形吉次郎

福島商工會議所副會頭、福島製
水(株)取締役會長、福島製
水(株)代表取締役、福島電氣鐵道
(株)代表取締役、福島電氣鐵道
(株)代表取締役、西形商店(資)代表社
長、福島縣在籍
妻 いち 女 明二、〇、二、生、宮城、大沼正七三
男 圭一 大元、九、生
女 峰 明四、三、七、生
君は福島縣人西形吉太郎の長男にして明治十五年十二
月を以て生れ同四十二年家督を相続す現時前記各會社
の重役にして福島商工會議所副會頭に任ぜらるる家族は

にして農業を營み傍ら前記銀行會社の重役を兼ねる家族
は尙二男輝二(大一、三、一、生)あり弟治助(明二、四、一
二、生)同勝次(同二、七、一〇、生)は各分家し姉マキ(同
六、一、二、生)は佐賀縣士族甲斐熊彦に嫁せり(佐賀、西
松浦、二里村)

參照 小限長左衛門の項

西岡甚平

福井縣多額納稅者
福井縣在籍
妻 ひさる 明二、一、二、生、福井、馬場善十
郎長女
男 芳雄 大二、九、九、生
女 常子 明三、九、八、生
女 竹子 明四、二、六、生

西岡竹藏

繁盛銀行(株)頭取
兵庫縣在籍
妻 安 明三、〇、一、二、生
男 安憲 明三、〇、一、二、生
女 トク 明三、三、一、生、長男安憲妻、兵庫
縣 新 明三、五、四、生

西垣正太郎

大阪コルク商事(株)専務取締役、
西垣會社代表社員、京都府在籍
妻 たか 養子 明三、〇、八、生、愛知、鬼頭岩次郎
君は京都府人西垣清八の五男にして明治二十六年四月
を以て生れ大正十一年分家して一家を創立す同六年慶
應義塾大學理財科を卒業し現時前記諸會社の重役たり
家族は尙長女由紀子(大二、一、七、生)二女喜代子(同
二、一、二、生)あり(京都、下京、佛光寺綾小路下ル電下
一八七七)

西岡平藏

近江屋、肥料商
大阪府在籍
妻 申子 明一、七、一〇、生、滋賀、矢島九三
妹 明二、九、一、生、神戸高等商業學
校及東京高等商業學校專攻科出身
男 治三郎 明三、八、三、生、北海道帝國大學農
學部在學
女 眞子 明四、〇、八、生
女 康子 大二、五、生

西岡貞太郎

西岡貞商店社長、化粧品雜貨
商、大阪府在籍
妻 明一、六、三、生、養父幾太郎養子、奈
良、西岡美徳藏妹
男 紀之松 明四、二、二、女
女 和喜榮 明三、九、九、生、日本女子大學校在
學
女 喜美 明四、四、五、生

西岡平藏

近江屋、肥料商
大阪府在籍
妻 申子 明一、七、一〇、生、滋賀、矢島九三
妹 明二、九、一、生、神戸高等商業學
校及東京高等商業學校專攻科出身
男 治三郎 明三、八、三、生、北海道帝國大學農
學部在學
女 眞子 明四、〇、八、生
女 康子 大二、五、生

西方利馬

衆議院議員(山形縣選出)、中山商
山形縣在籍、農業
妻 マリヤ 明二、一、一、生、東京、益田種妹
女 眞喜 明四、五、四、生

西川虎次郎 大郎の項
 從三位勳一等功三級、豫備陸軍中將、福岡縣在籍
 妻 明一四、一〇生、東京、宮川基邦

君は福岡縣土族西川勝太郎の弟にして、慶應三年九月を以て生れ、明治三十五年分れて一家を創立す。陸軍士官學校を卒業し、同二十二年陸軍歩兵少尉に任じ、大正六年陸軍中將に昇進す。其間陸軍戸山學校陸軍大學校を卒業し、參謀本部參謀陸軍大學校教官第三師團參謀長、關東都督府陸軍部參謀長、參謀本部々々陸軍歩兵學校校長、第十三師團長第一師團長等に歴補し、大正十二年豫備編入仰付らる。明治三十五年英國に差遣さる。日露戰役に功あり、五級勳章、北清事變の際勳五等に敘じ、日露戰役に功あり、勳三級を賜ひ、大正九年第十三師團長として西伯利亞に出征し、勳一等旭日大綬章を賜ふ。家族は尙三男(明四二、四生)四男(大元、九生)孫順一(同一三、二生)長男俊元(長男)同福子(同一四、三生)同長女あり(福岡市西新町)

西川虎之助 東京府土族、日製製水(株)顧問
 妻 正心 明二〇、一〇生
 女 アサコ 明八、八生
 女 憲 明二二、五生
 君は廣島縣土族西川理三郎の長男にして、安政二年正月を以て生れ、後家督を相續す。肥料に關する造詣深く、明治四十四年工學博士の學位を授けらる。曾て大阪アルカリ會社取締役兼工務長、大阪硫黄會社取締役兼技術部長、並工務支配人、大日本人造肥料會社取締役兼技術部長、同顧問、臺灣肥料會社取締役兼野蠻會社監査役等に擧げられ、現に日東製水會社顧問たり(東京、赤坂、永川町五電番山三六四三)

西川寅太郎 奈良縣多額納稅者、農林業
 妻 林之助 明三六、六生
 妻 トキ 明三七、一〇生、長男林之助妻、京都、岡田長兵衛三女
 女 トシ 明二三、八生
 男 林 明四〇、二生
 君は奈良縣人西川林一郎の長男にして、明治元年十月を以て生れ、同三十七年家督を相續す。農林業を營み、奈良縣多額納稅者たり。家族は尙三男(明四二、九生)四男(明四五、三生)孫タカ(大一一、一〇生)長男林之助(長女)あり。二女ミヅ(明二六、一〇生)は奈良縣人森井根太郎長男降一に三女マサ(同三〇、六生)は同縣人小林繁藏弟繁次郎に嫁し、弟虎次郎(同一三、三生)は分家せり(奈良、北葛城、磐城村)

西川寅太郎 滋賀縣多額納稅者、日本土地商工(株)取締役、滋賀縣在籍
 妻 孝一 明四三、一〇生
 女 敏 明三九、五生
 君は滋賀縣人小菅嘉三郎の弟にして、明治十二年十月を以て生れ、同三十七年西川三郎の養子となり、家督を相續し、前名誠三を改む。現に日本土地商工會社取締役にして、滋賀縣多額納稅者たり。二女操(明四一、二生)は滋賀縣人西川庄六の養子となり、妹つれ(同一九、一〇生)は同縣人岡田延太郎に嫁せり(滋賀、蒲生、八幡町)

西川晴太郎 安田銀行(株)安治川支店長
 妻 信 明三二、七生、大阪、山口キク二
 女 武 米 明四〇、三生
 君は大阪府人西川平太郎の三男にして、明治十八年二月を以て生れ、同三十九年家督を相續す。同三十七年安田銀行に入り、累進して現に同行安治川支店長たり。家族は尙

西川元藏 鳥取縣多額納稅者
 妻 その 長女 文久三、一〇生、鳥取、小林亦衛
 君は鳥取縣人西川莊五郎の長男にして、安政五年二月を以て生れ、明治十七年家督を相續す。資産家にして、鳥取縣多額納稅者たり(鳥取、八頭、安部村)

西川義方 從五位勳六等、醫學博士、侍醫
 妻 やすみ 明四五、一〇生、和歌山、尾崎榮之
 男 一 明四四、三生
 君は和歌山縣人西川信一郎の長男、同義方の兄にして、明治十年六月を以て生れ、同三十七年家督を相續す。同四十年東京帝國大學醫學科大學を卒業し、内科を専攻し、大正八年醫學博士の學位を受く。現時侍醫を奉職し、歐州各國に差遣せらる。家族は尙二男(明二二、五生)三男(明二五、六生)長女(明二九、一〇生)四男(明三〇、一〇生)五男(明三〇、一〇生)あり(東京、本郷、彌生町二はノ四九電小石川三〇三五)

西川義英 從五位、醫學博士、北海道帝國大學教授、醫學部勤務、國際外科學會會員、日本外科學會評議員、日本整形外科學會評議員
 妻 榮子 明三〇、一〇生、山梨、渡邊澤次
 男 義正 明三八、一〇生
 君は和歌山縣人西川信一郎の四男、同義方の弟にして、明治二十一年三月を以て生れる。大正二年東京帝國大學醫學科大學を卒業し、岡山醫學專門學校教授となり、同九年英國蘭園に留學す。歸朝後岡山醫學科大學教授、附屬專門學校教授に任ぜられ、同十三年醫學博士の學位を受く。現時北海道帝國大學教授たり。家族は尙長女(明一〇、七生)あり

西川平藏 塚本商事(株)監査役
 妻 いそ 明七、九生、東京、松村伊助姉
 妻 幸三郎 明四四、一〇生、滋賀、塚本藤三郎
 君は東京府人西川平藏の長男にして、明治元年七月を以て生れ、同二十九年家督を相續す。現時前記會社の重役たり。妹たく(明一〇、八生)は東京府人森岡文三郎に同女(同一五、九生)は滋賀縣人塚本藤三郎に同せき(同一二〇、四生)は東京府人廣岡助五郎に嫁せり(東京市外入新井町新井宿一三六二電大森六七〇)

西川孫兵衛 金物商
 妻 天保九、九生、大阪、島田宗兵衛
 妻 テイ 明一四、一二生、大阪、中田藤吉
 妻 定二郎 明三四、四生
 女 ノブ 明四三、一〇生
 君は大阪府人西川孫一郎の長男にして、明治四年六月を以て生れ、同十六年家督を相續す。金物商を營み、父孫一郎(嘉永四、一〇生)は母は(安政元、三生)大阪、櫻井彌兵衛伯母)と共に分家し、弟竹松(明一九、六生)同實三郎(同一三、一〇生)も亦各分家し、妹マサ(同一二、八生)は大阪府人瀬尾喜次郎に同トコ(同一四、八生)は同府人水谷泰造に養子たり(同一七、九生)は同府人泉清七長男猪之助に嫁せり(大阪、北、天神筋町一〇三電北二八一)

西川政吉 近政商店、海產物商
 妻 トク 明二八、九生、栃木、渡邊金一郎
 女 眞一 大五、一〇生

西河治平 宮崎縣多額納稅者、都城銀行(株)頭取、都城電氣(株)取締役、吳服商、宮崎縣在籍
 妻 キク 明四四、三生
 君は宮崎縣人西河理兵衛の長男にして、明治元年四月を以て生れ、同二十五年家督を相續す。吳服商を營み、宮崎縣多額納稅者にして、傍ら前掲銀行會社の重役たり。長女ハル(明二五、一〇生)は宮崎縣人兒玉藤之助に二女惠美(明三〇、四生)は宮崎縣人小林熊太郎長男哲之助に三女ヒサ(同三三、一〇生)は同縣人南崎雄七に四女八重(同三五、三生)は鹿兒島縣人葛原直隆に五女ヨネ(同三七、二生)は宮崎縣人黒木彌一郎に六女千惠(同四〇、

西河治平 京都府在籍
 妻 フサ 明一八、六生、京都、鈴木喜兵衛
 妻 政次郎 明三六、五生
 妻 巳代治 明三八、二生
 妻 源三 明四〇、二生
 妻 芳子 明四〇、二生
 君は京都府人先代源治郎の長男にして、明治十四年一月を以て生れ、同十六年家督を相續す。前名政次郎を改め、名を藤商を營む。家族は尙四男(明四二、九生)五男(明四九、一〇生)二女(明一〇、二生)九男(明一〇、二生)九女(明一〇、二生)あり(京都、下京、四條通柳馬場西入電中一五〇五)

西河治平 關西監査役(株)取締役、一志銀行(株)監査役、三重縣在籍
 妻 さき 明二〇、一〇生、三重、川村六助長女
 男 利通 明四一、一〇生
 君は三重縣人先代利造の長男にして、明治十一年六月を以て生れ、大正二年家督を相續す。共に前名利三郎を改む。現に前記銀行會社の重役たり。家族は尙二男(明四四、一〇生)あり(三重、一志、川合村)

西河治平 京都府在籍
 妻 フサ 明一八、六生、京都、鈴木喜兵衛
 妻 政次郎 明三六、五生
 妻 巳代治 明三八、二生
 妻 源三 明四〇、二生
 妻 芳子 明四〇、二生
 君は京都府人先代源治郎の長男にして、明治十四年一月を以て生れ、同十六年家督を相續す。前名政次郎を改め、名を藤商を營む。家族は尙四男(明四二、九生)五男(明四九、一〇生)二女(明一〇、二生)九男(明一〇、二生)九女(明一〇、二生)あり(京都、下京、四條通柳馬場西入電中一五〇五)

西河治平 宮崎縣多額納稅者、都城銀行(株)頭取、都城電氣(株)取締役、吳服商、宮崎縣在籍
 妻 キク 明四四、三生
 君は宮崎縣人西河理兵衛の長男にして、明治元年四月を以て生れ、同二十五年家督を相續す。吳服商を營み、宮崎縣多額納稅者にして、傍ら前掲銀行會社の重役たり。長女ハル(明二五、一〇生)は宮崎縣人兒玉藤之助に二女惠美(明三〇、四生)は宮崎縣人小林熊太郎長男哲之助に三女ヒサ(同三三、一〇生)は同縣人南崎雄七に四女八重(同三五、三生)は鹿兒島縣人葛原直隆に五女ヨネ(同三七、二生)は宮崎縣人黒木彌一郎に六女千惠(同四〇、

西川増次郎 松阪銀行(株)頭取、三重縣在籍
 妻 さよ 明三、六生、三重、笠原瀧三郎妹
 男 平右衛門 明三二、三生
 妻 より 明三七、七生、三男平右衛門妻、三重、長谷川六郎次長女
 男 幸三 明三五、一〇生
 女 こ う 明三六、八生、大阪、大手前高等女學校出身
 女 さ た 明四一、六生、大阪、大手前高等女學校出身
 君は三重縣人西川馬之助の弟にして、明治二年九月を以て生れ、同十三年家督を相續す。現に前記松阪銀行頭取たり。家族は尙孫隆夫(大一一、八生)三男平右衛門(長男)あり。長女さよ(明二七、八生)は三重縣人西川利三郎の死跡を相續せり(大阪、東、北濱一ノ二六電本局二五七二)

西川萬治郎 資産家
 妻 こさ 長女 明一九、七生
 妻 眞造 明三六、一〇生、長男眞造妻、三重、伊藤清英二女
 妻 末子 明三三、七生
 妻 いそ 明三三、一〇生
 君は愛知縣人西川九郎兵衛の長男にして、安政二年四月を以て生れ、明治二十年家督を相續す。資産家たり。家族は尙孫その(大七、三生)長男眞造(三女)同弘(同九、二生)同長男(同修二)同弘(同五、七生)同二男あり。長女錫子(明一四、二生)は愛知縣人生田治助に嫁せり(同三、七生)は同縣人久野園次に同じけ(同九、九生)は

西川増次郎 松阪銀行(株)頭取、三重縣在籍
 妻 さよ 明三、六生、三重、笠原瀧三郎妹
 男 平右衛門 明三二、三生
 妻 より 明三七、七生、三男平右衛門妻、三重、長谷川六郎次長女
 男 幸三 明三五、一〇生
 女 こ う 明三六、八生、大阪、大手前高等女學校出身
 女 さ た 明四一、六生、大阪、大手前高等女學校出身
 君は三重縣人西川馬之助の弟にして、明治二年九月を以て生れ、同十三年家督を相續す。現に前記松阪銀行頭取たり。家族は尙孫隆夫(大一一、八生)三男平右衛門(長男)あり。長女さよ(明二七、八生)は三重縣人西川利三郎の死跡を相續せり(大阪、東、北濱一ノ二六電本局二五七二)

西川増次郎 松阪銀行(株)頭取、三重縣在籍
 妻 さよ 明三、六生、三重、笠原瀧三郎妹
 男 平右衛門 明三二、三生
 妻 より 明三七、七生、三男平右衛門妻、三重、長谷川六郎次長女
 男 幸三 明三五、一〇生
 女 こ う 明三六、八生、大阪、大手前高等女學校出身
 女 さ た 明四一、六生、大阪、大手前高等女學校出身
 君は三重縣人西川馬之助の弟にして、明治二年九月を以て生れ、同十三年家督を相續す。現に前記松阪銀行頭取たり。家族は尙孫隆夫(大一一、八生)三男平右衛門(長男)あり。長女さよ(明二七、八生)は三重縣人西川利三郎の死跡を相續せり(大阪、東、北濱一ノ二六電本局二五七二)

西川増次郎 松阪銀行(株)頭取、三重縣在籍
 妻 さよ 明三、六生、三重、笠原瀧三郎妹
 男 平右衛門 明三二、三生
 妻 より 明三七、七生、三男平右衛門妻、三重、長谷川六郎次長女
 男 幸三 明三五、一〇生
 女 こ う 明三六、八生、大阪、大手前高等女學校出身
 女 さ た 明四一、六生、大阪、大手前高等女學校出身
 君は三重縣人西川馬之助の弟にして、明治二年九月を以て生れ、同十三年家督を相續す。現に前記松阪銀行頭取たり。家族は尙孫隆夫(大一一、八生)三男平右衛門(長男)あり。長女さよ(明二七、八生)は三重縣人西川利三郎の死跡を相續せり(大阪、東、北濱一ノ二六電本局二五七二)

西川増次郎 松阪銀行(株)頭取、三重縣在籍
 妻 さよ 明三、六生、三重、笠原瀧三郎妹
 男 平右衛門 明三二、三生
 妻 より 明三七、七生、三男平右衛門妻、三重、長谷川六郎次長女
 男 幸三 明三五、一〇生
 女 こ う 明三六、八生、大阪、大手前高等女學校出身
 女 さ た 明四一、六生、大阪、大手前高等女學校出身
 君は三重縣人西川馬之助の弟にして、明治二年九月を以て生れ、同十三年家督を相續す。現に前記松阪銀行頭取たり。家族は尙孫隆夫(大一一、八生)三男平右衛門(長男)あり。長女さよ(明二七、八生)は三重縣人西川利三郎の死跡を相續せり(大阪、東、北濱一ノ二六電本局二五七二)

西川増次郎 松阪銀行(株)頭取、三重縣在籍
 妻 さよ 明三、六生、三重、笠原瀧三郎妹
 男 平右衛門 明三二、三生
 妻 より 明三七、七生、三男平右衛門妻、三重、長谷川六郎次長女
 男 幸三 明三五、一〇生
 女 こ う 明三六、八生、大阪、大手前高等女學校出身
 女 さ た 明四一、六生、大阪、大手前高等女學校出身
 君は三重縣人西川馬之助の弟にして、明治二年九月を以て生れ、同十三年家督を相續す。現に前記松阪銀行頭取たり。家族は尙孫隆夫(大一一、八生)三男平右衛門(長男)あり。長女さよ(明二七、八生)は三重縣人西川利三郎の死跡を相續せり(大阪、東、北濱一ノ二六電本局二五七二)

西川増次郎 松阪銀行(株)頭取、三重縣在籍
 妻 さよ 明三、六生、三重、笠原瀧三郎妹
 男 平右衛門 明三二、三生
 妻 より 明三七、七生、三男平右衛門妻、三重、長谷川六郎次長女
 男 幸三 明三五、一〇生
 女 こ う 明三六、八生、大阪、大手前高等女學校出身
 女 さ た 明四一、六生、大阪、大手前高等女學校出身
 君は三重縣人西川馬之助の弟にして、明治二年九月を以て生れ、同十三年家督を相續す。現に前記松阪銀行頭取たり。家族は尙孫隆夫(大一一、八生)三男平右衛門(長男)あり。長女さよ(明二七、八生)は三重縣人西川利三郎の死跡を相續せり(大阪、東、北濱一ノ二六電本局二五七二)

一〇生)は同縣人黒岩常平長男常衛に嫁せり(都城、宮丸町)

西久保弘道

從四位勳二等、貴族院議員、武徳會副會長、千葉縣士族

妻 ミサ 慶應二、八生、三重、今井田彌平

養子 眞行 明二八、九生、長野、士、岸真次

事 從弟、正七位、東京地方裁判所判事

妻 翠 明四一、八生、養子眞行妻、東京

君は佐賀縣士族西久保紀林の長男にして文久三年五月

を以て生れ明治四十三年家督を相続す同二十八年帝國

大學法科大學を卒業し内務屬となり愛知縣事務官石川

縣警察部長山梨靜岡茨城各縣書記官滋賀愛媛各縣事務

官福島縣知事北海道廳長官警視總監等に歴任し後貴族

院議員に勅選せらる大正十五年東京市長に推されしも

昭和二年之を辭す家族は尙亡弟豐一郎妻ヒテ(明一〇

六生、佐賀、石井忠男長女)及其一男一女あり(千葉

東葛飾、八幡町)

參照 横山彌太郎中屋重樹の項

西口利平 四日市商工會議所副會頭、四日市

米穀取引所(株)監査役

妻 つね 明九、五生、三重、西口直藏妻

養子 ふみ 明四四、四生、三重、館田太郎三

君は三重縣人前田平十郎の弟にして明治三年五月を以

て生れ同三十三年先代つねの夫となり家督を相続し

前名伊三郎を改む現に前記會社の重役にして推されて

四日市商工會議所副會頭たり(四日市、西町)

西倉重二郎 北海道多額納稅者、北海道興産

(株)取締役、酒造業、北海道在籍

妻 サク 明一〇、一生、北海道、品田無太

郎長女

君は新潟縣人西倉傳の弟にして安政六年十二月を以て

生れ後分れて一家を創立す酒造業を營み傍ら前記會社

の重役にして北海道多額納稅者たり家族は尙は妻期進

參照 小山恒男の項

西崎半右衛門 萬牛、砂糖商

愛知縣在籍

妻 未尾 明二〇、一生、愛知、安藤謙三郎

男 巨 大一一、七生

君は愛知縣人先代半右衛門の長男にして明治三十年二

月を以て生れ大正二年家督を相続し前名半之助を改め

萬牛と稱し砂糖商を營み知らる家族は尙長女鈕

(大九、一一生)二男豐(同二三、六生)一女澄(同四四、

一〇生)の外妹ひさ(明三五、一一生)同すま(同四〇、

一二生)弟信二(同四三、三三)あり叔父銀三(同四一、

三三)は分家せり(名古屋、中、門前町五ノ八電本局一

三三)

西崎弘太郎 正四位勳三等、醫學博士、衛生試

驗所技師、東京衛生試驗所長

妻 綾野 明一三、二生、岡山、木村和吉長

女 正 明三三、五生

君は岡山縣人西崎建太郎の長男にして明治三年五月を

以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同年東京帝國

(明四三、一一生、北海道、品田典作五男)あり同實(同

三七、四生、同二男)は分家し孫恒雄(大九、二生、離縁

養子三郎二男)同弘(同一二、一一生、同三男)は

共に新潟縣人西倉りふの養子となり(旭川、五條通

十三丁目)

西坂熊太郎 第三百三十七銀行、藤山電燈各(株)

取締役、兵庫縣在籍

妻 かつ 文久二、一一生、離縁養父五右衛

門長女

男 源三郎 明二三、三三

君は兵庫縣人中野幾之助の弟にして嘉永四年二月を以

て生れ西坂五右衛門の養子となり明治十年養祖父三郎

進の後を承け家督を相続す義に第三百三十七銀行頭取

りしが現時其取締役にして前記會社の重役たり家族は

尙孫政子(大四、四生、長男源三郎長女)同長治(同六、

一一生、同長男)同春子(同八、三三、同二女)同長三(同

一、三三、同二男)同富子(同一三、一一生、同三女

同幾子(昭二、四生、同四女)あり三女ます(明二二、

七生)は京都府人土井市兵衛に嫁し二男元三(同二七、

七生)は同妻のみ(同一二、九生、三三、兵庫、生田新右

衛門三女)を伴ひ分家せり(兵庫、多紀、篠山町)

參照 生田新右衛門、土井市兵衛の項

西崎勝之 正五位勳三等、海軍少將、海軍艦

政本部出仕、岡山縣士族

妻 てい 明一八、三三、兵庫、鹽津庄右衛

門二女

男 太郎 明四四、一一生

君は岡山縣士族西崎久の二男にして明治十四年四月

を以て生れ大正十三年家督を相続す既に海軍に入り累

進して海軍少將に陞る義に海軍艦政本部第一第三課

長に補せられ現時海軍艦政本部出仕たり家族は尙二男

二郎(大七、八生)四女晶子(同一〇、二生)五女幸子(同

一二、七生)あり(東京、四谷、西信濃町一電四谷六

五七〇)

參照 木村和吉の項

西崎康久 正五位勳四等、判事、八代區裁判

所判事兼熊本地方裁判所八代支部

妻 まつ 明一七、六生、群馬、柳下忠妹

男 康道 明三四、一一生

君は岡山縣人先代康久の長男にして慶應二年三月を以

て生れ明治六年家督を相続し前名竹太郎を改む同三十

年東京帝國大學法科大學法學科を卒業し同三十四年

判事に任じ爾來大阪區同地方裁判所判事判事

館控訴院判事同地方裁判所部長高田區同監督佐世保區

同監督那覇區同監督に歴補し大正十四年前記現職に轉

す家族は尙二女淑(大二三、五生)あり長女純(明三八、

一〇生)は福岡縣人眞鍋茂樹に嫁せり(熊本、八代、八代町區裁判

所官舎)

西崎林兵衛 岡山縣多額納稅者、農業

岡山縣在籍

妻 鶴 明一二、一一生、岡山、田中竹太郎

男 隆 明三四、一一生

君は岡山縣人先代林吉の長男にして元治元年四月を以

西崎謙三 阿波風、酒類商

東京府在籍

妻 高正 大二、七生

養母 ハル 慶應三、四生、大阪、志摩宗次郎

妻 みさ 明二五、五生、東京、木村謙次郎

三女

君は神奈川縣人志摩宗次郎の弟にして明治二十年十二

月を以て生れ後先代謙三の養子となり大正十年家督を

相続し前名宗一を改む阿波風と稱し酒類商を營む家族

は尙長女美代子(大四、二生)二男謙三郎(同六、九生)

二女美津子(同一〇、六生)三女さよ子(同一二、四生)

四男謙五郎(同一五、一一生)あり(東京、麻布、新網

町二ノ三電青山五五〇六)

參照 安藤謙三其の項

西崎鶴太郎 鎮南浦倉庫(株)社長、朝鮮中央鐵

業(株)取締役、朝鮮火災海上保險

妻 くみ 明二八、一一生、養子貞夫、京都

養子 省三 垂水源一、一一生、養子省三妻、兵庫

養子 貞 明三〇、九生、養子省三妻、兵庫

養子 庸三 明二六、八生、養子ちる夫、兵庫

養子 ちる 明三五、四生、養子庸三妻、兵庫

君は兵庫縣人西崎莊夫の長男にして慶應三年十二月

を以て生れ明治四十五年家督を相続す先是同二十四年

明治大學を卒業し同四十年以來朝鮮鐵道山嶺の經營

從事し鎮南浦協議員同府商業會議所會頭鎮南浦汽

合資會社々長鎮南浦電氣會社々長朝鮮鐵業會理事大同

銀行監査役たりしこあり現時前掲諸會社の重役たり

家族は尙孫莊太郎(大二〇、一一生、養子省三長男)同健

次郎(同一四、一一生、同二男)あり(朝鮮、平壤、大和

町)

西崎傳一郎 住友電線製造所(株)取締役

大阪府士族

妻 隆 明三一、三三、滋賀、石田慶次郎

男 博 造 大一一、一〇生

君は滋賀縣人西澤德太郎の弟にして明治二十四年三月

を以て生れ先代伊三郎の養子となり同四十四年家督を

相続し慶名す同四十四年東京高等商業學校を卒業し吳

服商を營み長崎縣多額納稅者たり家族は尙長女照子

(大一一、一一生)二男博造(同一四、一〇生)あり(長崎市

本古川町)

西澤龜太郎 日本コナミルク(株)常務取締役、

長野縣在籍

妻 すう 明一八、一一生

男 捷 明三三、一一生

君は長野縣人西澤岩吉の長男にして明治九年十一月を

以て生れ同三十一年家督を相続す現に日本コナミルク

會社常務取締役にして東洋ビスケット會社代表社員た

り(東京市外淀橋町木五三三電四谷一六〇一)

西澤寛次郎 正五位勳四等、判事、古川區裁判

所判事兼仙臺地方裁判所古川支部

妻 はん 嘉永五、一一生、長野、久保田島

母 揚太郎 明三九、九生

君は岡山縣人西崎建太郎の長男にして明治三年五月を

君は長野縣人西澤泰助の長男にして明治十一年三月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十三年明治法律學校を卒業し判事登用試験に合格同三十八年判事に任じ爾來古川區區長島岡地方弘前區各裁判所判事福島山形各地方裁判所部長大館區裁判所判事同監督等に歴補し大正十一年前記現職に轉ず家族は尙三女五枝(大正三、七生)三男三郎(同六、二生)五男八郎(同二、一、二生)の外妹ひさの(明一、六、四生)及其一子あり姉たか(同四、一、生)は長野縣人村上賢に嫁みつ江(同二、六、一、生)は長野縣人玉井孝道に嫁し二男三郎(同四、三、九、生)は山梨縣人中村市左衛門の死跡を相續せり(宮城、志田、古川區裁判所官舎)

西澤喜太郎

長野縣多額納税者、長野農工銀行、長野貯蓄銀行各株、取締役、長野製糖各株、銀行、信濃電氣、長野製糖各株、取締役、長野製糖在籍

養母 ちか 安政元、七生、長野、倉石喜曾八長女

妻 くに 明三、一、生、養父喜太郎長女

男 義雄 明二、二、生、長女あり、夫、長野、倉石喜曾八長女

女 咲子 明四、七、生

女 百合子 大正、二、生

君は長野縣人西澤泰助の長男にして明治十一年三月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十三年明治法律學校を卒業し判事登用試験に合格同三十八年判事に任じ爾來古川區區長島岡地方弘前區各裁判所判事福島山形各地方裁判所部長大館區裁判所判事同監督等に歴補し大正十一年前記現職に轉ず家族は尙三女五枝(大正三、七生)三男三郎(同六、二生)五男八郎(同二、一、二生)の外妹ひさの(明一、六、四生)及其一子あり姉たか(同四、一、生)は長野縣人村上賢に嫁みつ江(同二、六、一、生)は長野縣人玉井孝道に嫁し二男三郎(同四、三、九、生)は山梨縣人中村市左衛門の死跡を相續せり(宮城、志田、古川區裁判所官舎)

ちやう(同三四、三、生、出身校同上)は宮城地方裁判所檢事正豊田多三郎養子太郎に嫁せり(長野市櫻枝町電九五〇)

參照 浮田和民、豊田多三郎の項

西澤義徹

從五位勳五等、總領事兼臺灣總督府事務官、福州駐在

父 岩吉 安政三、一、生、現戸主

妻 セイ 明二、七、一、生、長崎、原秀太姪

西澤公雄

正四位勳二等、製鐵所技師、製鐵所大出出張所長、東京府士族

妻 喜美 明三、八、一、生、二男公平妻、東京府士族、兼松七一長女

製鐵所大出出張所長として同地に在り家族は尙孫裕一(大、一、四、五、生、二男公平長男、同義雄(同、一、五、一、〇、生、同二男)あり長女キヨ(明二、八、一、生)は專賣局技師小橋清久に嫁せり(支那、大治製鐵所官舎)

西澤邦次

第一ビルプロカー(株)事務取締役、丸二商會株、取締役

父 太郎治 慶應三、九、生、現戸主

母 ツネ 明五、一、生、新潟、山田貞之助二女

妻 邦子 明三、三、二、生、東京、町田弘姉

西澤定七

北安銀行、池田商業銀行各株、取締役、大町銀行株、監査役

長野縣在籍

妻 さよ 嘉永二、六、生、長野、西澤彌惣治長女

男 佐一郎 明七、六、生

婦 さく 明五、一、生、長男佐一郎妻、長野、西澤彌惣治長女

孫 定居 明二、九、八、生、長男佐一郎長男

孫妻 うしよ 高橋庄重二女

君は長野縣人西澤佐七の長男にして嘉永六年五月を以て生れ明治十七年家督を相續す現時北安銀行取締役以前記銀行の重役たり家族は尙孫善昌(明四、八、生、長男佐一郎三男)同妻(同四、七、生、同四男)同正子(大、三、二、生、同長女)曾孫美枝(同、一、二、二、生、孫定居長女)同芳彦(同、一、四、一、生、同長男あり長女てつ(明五、八、生)は長野縣人西澤新三郎長男藤次郎に嫁せり(長野、北安、八阪村)

西澤八三郎

綿布輸出商、滋賀縣在籍

妻 八重子 明二、七、一、二、生、大阪、木村太兵衛長女

男 善三郎 大七、五、生

女 君 大七、二、生

君は滋賀縣人先代八右衛門の二男にして明治十六年九月を以て生れ綿布輸出商を營む家族は尙二女禮子(大、四、一、一、生)三男淳介(同、一、二、一、一、生)三女龍子(同、一、五、五、生)兄八右衛門(明四、八、生、現戸主)同妻みね(同、一、二、四、生、愛知、村上庄三長女)其一男一女あり妹シム(同三、二、五、生)は愛知縣人山田啓二郎に嫁ふ(同三、五、二、生)は同縣人田中増兵衛に嫁せり(大阪、東、備後町一丁目電本町八八〇)

西澤富則

正五位勳六等、高知高等學校教授、長野縣在籍

父 徳十 安政三、一、〇、生、現戸主

妻 連 晴一、四、一、〇、生、長野、土、菅谷

男 正光 大、四、六、生

君は長野縣人西澤徳十の二男にして明治十八年三月を以て生れ同四十二年東京帝國大學文科大學獨逸文學科を卒業し直ちに第七高等學校造士館第五高等學校各教授等に歴任し大正十二年高知高等學校教授に任ぜられ

現時に至る昭和二年獨逸文學研究の爲獨逸に留學を命ぜられ目下同地に在り諸曲釣魚に趣味を有す家族は尙長女百合子(大、三、四、生)二男則夫(同、八、一、生)の外兄寛延(明一、三、七、生)同妻きよ(同、一、八、五、生、長野、瀧澤六妹)との間に子女あり弟富太郎(同二、五、八、生)は同妻春子(同二、九、一、生、長野、藤田小文治二女)及其一子を伴ひ分家し姉よれ(同、一、五、九、生)は長野縣人荒井傳兵衛に嫁し(同、二、一、一、生)は同縣人宮坂俊秋に同さ(同、二、三、三、生)は同縣人北澤親太郎に同や(同三、一、一、一、生)は同縣人西澤平太郎に嫁せり(留守宅)長野、更級、稻荷山町菅谷)

西澤武助

西武商店(株)社長、太平護謨(株)取締役、綿糸ル綿商、大阪府在籍

妻 たけ 明三、一、〇、生、兵庫、今井繁勝三女

男 武雄 明二、四、九、生、現戸主、早稻田大學商科出身

婦 住江 明三、二、四、生、二男武雄妻、大阪、山田祥三妹

君は滋賀縣人西澤武右衛門の長男にして安政元年八月を以て生れ明治十年家督を相續せし大正十五年に至り是を男武雄に譲り退隱す風に綿糸ル綿商を營み同七年營業を株式組織に變更し西武商店と號し現に其社長たる外前記會社の取締役たり諸曲及び義太夫に興味を有す家族は尙孫文子(大、一、〇、八、生、二男武雄長女)同武也(同、二、七、生、同長男)同佑次(同、一、五、七、生、同二男)あり(大阪、東、南久太郎町三ノ二八電船場二一八八)

西澤勇志智

從五位、東京帝國大學助教授、工學部勤務、東京府在籍

妻 壽太郎 明四、一、六、生

君は東京府人西澤常次郎の孫にして明治十五年七月を以て生れ同三十七年家督を相續す同三十九年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し大正二年京城女子高等普通學校教諭兼朝鮮總督府中學校教諭に任ぜられ京城醫學專門學校教授東京帝國大學助教授等に歴任し現に東京帝國大學助教授にして工學部勤務たり家族は尙二

西島佐吉

三國青原電鐵(株)常務取締役、吉崎鐵道(株)取締役、福井縣在籍

妻 節子 明二、五、二、生、奈良、宮崎英次妹

男 達 大六、三、生

君は福井縣人西島彌治兵衛の長男にして明治十二年二月を以て生れ同三十二年家督を相續す風に法政大學及中央大學を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙二男和昇(大、一、二、七、生)長女佐紀子(同、一、四、一、一、生)二女美重子(同、一、五、九、生)姉あり(明九、二、二、生)弟順(同二、五、一、一、生)同妻マツチ(同三、九、一、二、生、福井、北島金藏二女)及其一女あり妹なつ(同二、四、八、生)は東京府人萩野繁松に同はる(同二、八、八、生)は愛知縣人本多春雄に嫁せり(福井、坂井、菅原村青原温泉湯場電一六一)

西島助義

從二位勳一等功二級、男爵、陸軍中將、山口縣華族

妻 サト 安政三、六、生、長崎、安野重吉長女

男 新藏 大八、四、生

女 重子 明四、五、二、生

君は山口縣人西島治右衛門の長男にして弘化四年九月を以て生れ明治十二年先代光義の養子となり翌年家督を相續す同六年陸軍少尉に任じ累進して同三十七年陸軍中將に陞る其間教導團長歩兵第二十四第七各旅團長臺灣守備混成第三旅團長第二第六各師團長駐韓軍司令官等に歴補し日清戰役の功に依り功四級日露戰役の功に依り功二級に叙じ同四十年華族に列し男爵を授けらる家族は尙庶子助繼(明四、三、五、生、生母、長崎、西島ミヤ)あり長女利子(同四、一、三、生)は絶家西島氏を再興せり(長崎市市川町)

西田 永助 資産家
大阪府在籍
妻 ハス 明三一、四生、大阪、中村庄太郎
君は大阪府人先代永助の長男にして明治十九年七月を以て生れ同二十八年家督相続と共に前名永助を改む父永助は曾て現山口銀行の前身山口兩替店當時より同家に入り先代山口吉郎兵衛を扶けて其の業務を擴張せしめ後兩替店を銀行業に變更し其の重役として拮据精勵資産を作り又能く公共の事に携はれり君は適に早稲田大學に學び資産家として知らる姉ウタ(明一〇、一一生)は其夫信吉(同二五、九生)も亦分家せり(大阪、西、土佐堀裏町一三電土佐堀(1010))

西田 盈藏 眞鍮線商
大阪府在籍
妻 ふで 明一三、一一生、養父捨吉長女
男 壽治 明四五、一一生、二男壽治妻、大阪、高辻榮吉二女
女 千代子 大元、八生

西田 嘉兵衛 西田嘉兵衛商店、中央美術各(株)社長、東京藤系紡績(株)取締役、日本製糖(株)監査役、東京府在籍
妻 敏子 明二、一一生、東京、神木保衛養子
孫 敏介 明四〇、九生、長女たか長男、御茶の水高等女學校出身
君は東京府人中山村真太郎の叔父にして慶應二年六月を以て生れ後先代嘉右衛門の養子となり明治二十一年家督を相続し前名徳五郎を改む生糸商を営み西田嘉兵衛町三〇(電南三七八)

西田 時祇 宮崎縣多額納税者、農業
妻 ナヲ 慶應二、三生、宮崎、土、野村左
女 明二二、一一生、宮崎、白尾國範四
君は宮崎縣土族西田省吾の二男にして明治十七年七月を以て生れ大正八年家督を相続す農業を營み同縣多額納税者たり家族は尙二男時治(大三、五生)四男時男(同九、八生)長女サチ子(同二二、三三)五男幸昌(同二五、二生)あり(宮崎、西諸縣、加久藤村)

西田 周吉 三重縣多額納税者、宇治山田市會議員、伊勢山田旅館(株)社長、三重縣消防協會重鎮、宇治山田庶民會館組合長、副會長、宇治山田商工會、都市計畫地方委員、三重縣在籍
妻 明一、一〇生、三重、深江次郎
君は三重縣宇治山田市西田貞助の長男にして明治六年十一月を以て生れ同二十年家督を相続す數代山田ホテル宇治館と號し旅館業を營み別館別荘等八ヶ所に營業所を設け又東京上野驛前に支店を設置し宇治山田市代表的の旅館業者として知られ又魚問屋及日刊新聞伊勢朝報社を經營し兼に三重縣會議長宇治山田市會議長等に推され現時都市計畫地方委員の外幾多の公職を帯び同縣下の多額納税者たり家族は尙四男大一(大元、七生)孫正秀(同二三、三三)長男一雄(同二七、七生)二、一一生、同二女あり父貞助(嘉三、六生)は母ちか(安政元、一一生、西川治平二女)弟米太郎(明九、一一生)妹ちよ(同二三、一一生)弟嶺(同二七、七生)を伴ひ分家し孫貞子(大八、一一生)長男一雄養子、弟嶺長女同敬(同四、一一生)同上養子、同長男(其に三重縣人桑原乙吉長女みよの養子となり)宇治山田、岡本町

西田 辰三郎 從四位勳三等、北海道帝國大學附屬土木專門部教授、三重縣在籍
妻 正 明四〇、九生
君は三重縣人倉田伊左衛門の三男にして明治十年十一月を以て生れ先代いこの養子となり同十六年家督を相続す同三十六年京都帝國大學理工科大學土木科を卒業

西田 幾多郎 正四位勳三等、文學博士、帝國學士院會員、京都帝國大學教授、文學部勤務、京都府在籍
妻 明三三、七生、二男外彦妻、東京、明三八、一〇生
君は石川縣人西田得登の長男にして明治三年四月を以て生れ同十年京都西田九郎の家跡を再興す同二十七年帝國大學文學部哲學科を卒業し石川縣立中學校教諭となり爾來第四高等學校學務院各教授京都帝國大學文科大學助教授を経て大正二年京都帝國大學教授に於ける直觀と反省「意思の研究」「思索と體驗」「自覺の著書あり昭和二年五月帝國學士院會員に擧げらる長女彌生(明二九、三三)は東京府人上田操に嫁し姉まさ(安政六、四生)は石川縣人西田遷次郎方へ入家せり(京都、愛宕、田中村)

西田 久太郎 西田商店株取締役、有價證券買賣、滋賀縣在籍
妻 庄助 明二八、二生、滋賀、北村助左衛門
男 龍太郎 大九、七生
君は滋賀縣人西田庄助の長男にして明治十五年二月を以て生れる有價證券買賣を營み西田商店株取締役たり家族は尙二男洋次郎(大一一、四生)あり(大阪、東、北久)

西田 庄助 勳四等、滋賀縣多額納税者、西田商店(株)取締役、滋賀縣在籍
妻 うた 女 明一五、二生
君は滋賀縣人西田教寬の長男にして安政六年正月を以て生れ明治十四年家督を相続す兼に郡會議員縣會議員に擧げられ大正四年衆議院議員に當選す現に西田商店に取締役にして滋賀縣多額納税者たり長女可津明一七、四生)同夫久次郎(同九、一一生)は其の一子を伴ひ分家し二男庄之助(同三三、八生)三男水之助(同三四、一一生)四男金之助(同三八、六生)も亦各分家し二女子(同二一、九生)は滋賀縣人中山井利助に妻花(同二二、一四生)は同縣人西田又治郎に妻(同二三、七生)は同縣人塚本伊兵衛長男政治郎に妻(同二七、七生)は同縣人中山村忠太郎に妻(同三〇、四生)は同縣人塚本金兵衛に妻(滋賀、犬上、千本村)同縣人塚本金兵衛、中山井利助、西田久太郎の項参照 塚本金兵衛

西田 精 正四位勳三等、工學博士、九州帝國大學教授、工學部勤務
妻 フキ 鳥根縣在籍
君は鳥根縣土族西田哲二の叔父にして明治十年六月を以て生れ同四十四年分家して一家を創立す同三十五年東京帝國大學工學科大學土木工學科を卒業し同大學工學科大學助教授に任じ同四十四年獨逸に留學し在外中九州帝國大學工學科大學助教授に轉じ大正二年歸朝後同教授に任じ現に其職にあり大正四年工學博士の學位を授與さる(福岡市荒戸町)

西田 恒夫 從五位勳三等功五級、陸軍少將、陸軍歩兵學校教育部長
妻 八重 明二二、三三、東京、矢野文雄養子
君は山口縣土族西田明則の二男にして明治十一年七月を以て生れ大正十四年叔父英生方より分れて一家を創立す現に陸軍士官學校を卒業し明治三十三年陸軍歩兵少將に任じ爾來累進して大正十四年陸軍少將に陞る其間陸軍大學校を卒業し師團副官大隊長歩兵學校教育長軍部課長參謀本部課長歩兵第二十九旅團長等に歴補し現時陸軍歩兵學校教育部長たり(千葉市外橋森四八)参照 矢野文雄 江木千之丞 三好學の項

西田 富三郎 北神殖産(株)社長、朝日土地(株)取締役、兵庫縣在籍
妻 明二四、五生、大阪、清村芳藏養子
君は大阪府人西田善一の叔父にして明治九年三月を以て生れ同四十年分家して一家を創立す現時北神殖産會社社長たる外前記會社取締役を兼ねる家族は尙二女幸子(大四、一一生)三女富美子(同一一、三三)あり(神戸、海岸通四ノ三九)

西田 仁三郎 大阪三品取引所取引員
妻 カネ 明二二、一〇生、大阪、森田和一
君は大阪府人西田榮次郎の二男にして明治二十二年七月を以て生れ先代五之助の養子となり同二十四年家督を相続す大正十年東京農業大學本科を卒業し大阪三品取引所第一部取引員たり(大阪、東、北久寶寺町四ノ五五電熊場三八二)

西田 敬止 私立東京女學館幹事
妻 ハツセ 明元、七生、福岡、土、野田征信長女
男 元太郎 明二六、四生
女 カチル 明三七、一一生、長男元太郎妻、大分、田中東喜二女
君は舊柳河藩士西田孫六の二男にして萬延元年十二月を以て生れ明治三年先代兄虎之助の後を襲ひ家督を相続す現に帝國大學古典講習科を卒業し兼に正則中學校幹事となり現時前記の職に在り長女タツタ(明一九、六生)は福岡縣土族禮治に二女ヒロセ(同二三、八生)は同縣土族武藤鐵長男千丈に三女ハナツツ(同三三、六生)は大分縣人勳六等波多博に四女なつみ(同三三、一一生)は若手縣人佐藤強介に養子セキ(同二三、一一生)佐伯本藏長女)は福岡縣人海軍主計少佐鶴田勝に嫁し弟茂(慶應二、三三)は同縣土族西田元祐の養子となり(東京市外灘谷町羽澤一)

西田 厚良 富山縣多額納税者、荻生銀行、中越水電各(株)取締役、磯波銀行、兩越銀行各(株)監査役
妻 昌成 明二八、一一生
君は富山縣人西田温良の長男にして嘉永六年十二月を以て生れ明治三十年家督を相続す現時荻生銀行取締役たる外前記銀行會社の重役にして富山縣多額納税者たり家族は尙五男清真(明四一、一一生)孫眞良(大八、三三)二男昌成(二男)あり長女友(明一九、一一生)は富山縣人野村理兵衛二男鐵太郎に三女翠(同二三、二生)は同縣人岩脇孫八長男仁一に嫁せり(富山、下新川、若栗村)

西田 辰三郎 從四位勳三等、北海道帝國大學附屬土木專門部教授、三重縣在籍
妻 正 明四〇、九生
君は三重縣人倉田伊左衛門の三男にして明治十年十一月を以て生れ先代いこの養子となり同十六年家督を相続す同三十六年京都帝國大學理工科大學土木科を卒業

西田 辰三郎 從四位勳三等、北海道帝國大學附屬土木專門部教授、三重縣在籍
妻 正 明四〇、九生
君は三重縣人倉田伊左衛門の三男にして明治十年十一月を以て生れ先代いこの養子となり同十六年家督を相続す同三十六年京都帝國大學理工科大學土木科を卒業

參照 藤本孝其の項

西田博太郎

從四位勳三等、工學博士、桐生高等工業學校校長兼教授、東京府士族

男 讓治 明三九、五生

女 幾久子 大元、九生

君は山口縣士族西田榮太郎の長男にして明治十年八月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十四年東京帝國大學工學部應用化學科を卒業し同三十六年英獨に留學し纖維工業及染色科を専攻す歸朝後名古屋高等工業學校教授日本セルロイド人造絹絲會社技師同社事務取締役兼技師長名古屋高等工業學校講師日本毛織紡績會社技師桐生高等工業學校教授等を歴任し現時桐生高等工業學校校長兼教授たり大正三年論文を提出し工學博士の學位を受け更に露國に出張を命ぜらるる家族は尙二男健二(大元、二生)三女泰子(同六、三生)四女邦子(同二、一、一生)弟成三(明二三、六生)同妻春(同三〇、二生、理學博士坪井誠太郎妹)及其一男二女弟巳四郎(同二六、七生)同妻梅(同三五、一〇生、奈良、川崎茂助二女)及其一男一女弟俊夫(大七、一、二生、亡弟紀元長男)同榮二(同九、一生、同二男)あり(桐生、桐生高等工業學校内)

西田正俊

大阪港土地、木津川土地運河各(株)社長、別府土地、大阪土地、大阪製鐵、阪神電氣各(株)取締役、實用自動車製造(株)監査役、金庫及衡器製造業、大阪府在籍

妻 きよ 妹元、一生、三重、士、小野春吉

養子 俊一 明二六、九生、廣島、西田仁吉長

君は廣島縣人西田代吉の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治二十三年分家して一家を創立す初め吳服貿易商を營み後金庫衡器製造業を經營し大阪府度量衡組合長に推されるに大阪商業會議所常任議員并に大阪府會議員たりし事あり現時大阪港土地木津川土地運河各會社社長たる外前掲諸會社の重役として知らる(大阪、西、本田町通一ノ一〇電話七三)

西田政治

兵庫縣多額納稅者、地主

母 りへ 明六、四生、兵庫、高見彦次郎二

妻 やぶ 明三三、一生、兵庫、檜木善太郎

君は兵庫縣人西田芳太郎の長男にして明治二十六年八月を以て生れ大正十一年家督を相續す夙に關西學院高等商業部を卒業し第六十五銀行員たりしことあり地主にして兵庫縣多額納稅者たり家族は尙長女雅子(大九、二生)三女治子(同四、八生)弟英雄(明四三、三生)の外妹しづ子(同四〇、七生)及其夫正二(同三五、五生、兵庫、萩野新右衛門三男)あり(神戸、西柳原町二六電報庫二六三七)

西田稔

從四位勳三等、特許局事務官、特許局總務部長兼意匠商標課長

妻 武雄 明四二、五生

女 利喜子 明四二、五生

君は富山縣人西田武右衛門の養子にして明治九年二月を以て生れ同三十八年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し文官高等試験に合格す同四十年鐵道監督署事務官となり大阪鐵道監督局長札幌關西各鐵道局長九州帝國大學講師鐵道監督局長を経て昭和二年特許局事務官に任じ現に前記の職にあり家族は尙二男正(大九、二生)三男至(同九、五生)あり養妹(明二七、二生)は富山縣人田村源之助長男久作に嫁せり(東京、赤坂、青山町六ノ一四七電報庫四〇二二)

西田彌兵衛

兵庫縣在籍

妻 茂野 明三二、四生

男 正雄 明四三、四生

君は大阪府人松谷鶴松の長男にして明治十九年三月を以て生れ同二十年先代彌兵衛の養子となり同三十二年家督相續と共に姓名として前名修三を改む船具商を營む家族は尙二男久次郎(大元、一〇生)長女和子(同四、一〇生)あり

西田保三郎

大阪機械工作所(株)取締役兼技師

妻 富美 明四三、一生

女 富美 明四三、一生

君は岡山縣士族西田直賢の長男にして明治三年正月を以て生れ同十五年家督を相續す現時大阪機械工作所取締役にして技師長を兼ねる家族は尙四女慶(大六、一生)あり長女茂乃(明三三、一生)は京都府人三宅俊造に二女節(同三四、二生)は岡山縣人津熊慶徳に姉、(慶應三、六生)は同縣人野田精一に嫁せり(大阪、住吉、天王寺町一九五四電報四九七七)

西田與四郎

正五位勳六等、奈良女子高等師範學校教授、奈良縣在籍

妻 ナラスエ 明一七、一生、奈良、西田榮藏

女 千代 明四四、一生

君は奈良縣人西田駒治郎の長男にして明治十七年三月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十九年東京高等師範學校地理歴史科を卒業し更に研究に入り同四十五年奈良女子高等師範學校助教授兼教諭に任じ現時同校地理主任教授たり地理書地圖に關する著述多し家族は尙三男和夫(大八、三生)四男正文(同二、一、一生)四女みどり(同三、五生)五男武(昭二、七生)の外弟正一(明二三、一生)同妻子ヨ子(同三〇、三生、大分、植山多藏四女)及其子女並に弟重雄(同三四、一、二生)あり父駒治郎(文久元、五生)は弟春治(明二〇、四生)同妻スミ(同三一、二生、奈良、飯田治妹)及其二子を伴ひ分家せり(奈良市法蓮町)

西田利七

滋賀縣多額納稅者、近江製氷(株)社長、近江製氷(株)取締役、米穀商、滋賀縣在籍

妻 小梅 慶應元、一〇生、滋賀、宮田伊八

君は滋賀縣人西田代吉の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治二十三年分家して一家を創立す初め吳服貿易商を營み後金庫衡器製造業を經營し大阪府度量衡組合長に推されるに大阪商業會議所常任議員并に大阪府會議員たりし事あり現時大阪港土地木津川土地運河各會社社長たる外前掲諸會社の重役として知らる(大阪、西、本田町通一ノ一〇電話七三)

西谷庄八

日本運輸、西出商事各(株)代表取締役、大和汽船(株)取締役、西谷海運(株)監査役、石川縣在籍

妻 わき 文久元、二生、石川、西出孫左衛門二女

男 正治 明二二、九生

女 貞子 明三二、二〇生、長男正治妻、男爵前田孝二女

君は石川縣人先代庄八の長男にして萬延元年九月を以て生れ明治十三年家督を相續す同清業を營み同地實業界の重鎮にして現時日本運輸西出商事各會社代表取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙孫一正(大七、八生、長男正治長男)同常子(同九、九生、同長女)同和子(同二、五生、同二女)同從子(同四、三生、同三女)同滋子(昭二、九生、同四女)あり養子進(明二六、三生、石川、西川理三郎三男)は其妻ゆき(同三四、六生、石川、西出義門二女)及び其子女を伴ひ分家し弟芳吉(同四、九生)も亦分家せり(石川、江沼、橋立村)

西谷藤太郎

日本發動機(株)事務取締役

妻 きよ 文久元、三生、兵庫、西田せい四

女 弘 大九、一〇生

女 しづ子 明四五、六生

君は兵庫縣人西谷多助の長男にして明治十八年十二月を以て生れ同四十三年家督を相續す現時日本發動機會社事務取締役たり家族は尙妹たみ(明二九、八生)あり弟清太郎(同二、五生)は同妻きた(同二七、二生、兵庫、長谷川宇之助長女)と共に分家し弟市太郎(同二三、六生)同鶴之助(同二七、二生)も亦各分家せり(神戸、東尻池町七、一)

西谷亮太郎

青森縣在籍

妻 ひさ 明一八、六生、青森、玉井吉太郎

妹 あい 明四二、四生、青森、内山義三孫

君は青森縣人西谷亮太郎の長男にして明治四年八月を以て生れ同十七年家督を再興す夙に郷里に於て材木商を營みしが同三十五年上京して遼谷町に工場を構へ木箱製造業を開始せり爾來逐年に發展し大藏省專賣局を始め大日本麥酒會社等に納品し現時同業者

西谷金藏

動四等、因伯時報社、倉吉電氣、山陰製紙各(株)社長、協立銀行、日米生絲、山陽水力電氣、皆生溫泉土地、第二山陰製絲、四國生絲、倉吉紡績、大正紡績各(株)取締役、米子電氣軌道、横濱取引所(株)監査役、日本勸業銀行(株)鳥取縣顧問、鳥取縣在籍

妻 たき 安政四、一生、鳥取、谷口德藏長

男 繁藏 明一六、一生、長男繁藏妻、東京、井上義一妹

女 定晴 明二二、一〇生

男 龜野 明二三、四生、二男定晴妻、鳥取、倉吉和一郎三女

女 富美惠 明四三、二生、二男定晴長女

君は鳥取縣人西谷萬市の長男にして安政五年八月を以て生れ明治十七年家督を相續す夙に實業界に入り現時因伯時報社長たる外前記銀行會社の重役を兼ね又第三回總選舉以來衆議院議員に當選する事數回に及び同地實業界の巨頭を以て目せらるる家族は尙孫一朗(明四五、二生、二男定晴長男)同靜子(大九、七生、同二女)同勝安(同五、一〇生、同二男)同武喜(同二〇、二生、同三男)同保(同二三、二生、同四男)同幸江(同五、二生、同三女)同龍子(同五、六生、長男繁藏)同一五、二生、同三女)同龍子(同五、六生、長男繁藏)同三、一〇生、同長男)同妻次(同二五、八生、同二男)あり長女よしの(明一一、二生)は鳥取縣人岸田繁三郎二男恒藏に嫁し二女かつの(同一九、一生)は同縣人市場まんに弟藤吉(同五、二生)は同縣人松尾うたに各養子となれり(東京、牛込、新小川町三ノ一四電報二八八四)

西高辻信雅

正四位勳六等、男爵、官幣中社太宰府神社宮司、舊公卿家

妻 春子 明一五、九生、伯爵立花寛治妹

女 登美 大二、七生

君は滋賀縣人先代利七の長男にして明治十八年五月を以て生れ大正十一年家督相續と共に姓名として前名善之助を改む米穀商を營み傍ら近江製氷會社社長たる外前記會社の重役たり家族は尙二男善雄(明四五、一生)三女喜久(大五、四生)四女多賀(同八、六生)五女登喜(同二、二生)弟利喜三(明四一、四生)あり姉タケ(同二、一、六生)は滋賀縣人山岡いづの養子となり同リキ(同二六、七生)は兵庫縣人吉田金の助に嫁せり(大阪、下堅田町)

西谷一郎

正八位勳六等、陸軍工兵少尉、木箱製造業、東京府在籍

妻 せき 明一五、六生、茨城、三輪尚姉

女 保之助 明二四、二生、長女いよ夫、岩手、波邊留吉二男

女 いよ 明三一、四生、養子保之助妻、實踐女學校出身

君は舊弘前藩士阿部寅十郎の二男にして明治四年八月を以て生れ同十七年家督を再興す夙に郷里に於て材木商を營みしが同三十五年上京して遼谷町に工場を構へ木箱製造業を開始せり爾來逐年に發展し大藏省專賣局を始め大日本麥酒會社等に納品し現時同業者

男 幸郎 昭二、六生
君は青森縣人西谷茂太郎の長男にして明治三十八年十一月を以て生れ昭和二年家督を相續す農業を營み縣下の資産家たり家族は尙姉ヒサ(昭三、一〇生)同夫徳彌(昭二八、三生)青森、須田仁三郎(昭二男)及其五子あり(青森、南津輕、黒石町)

西ヶ谷正己

從五位勳五等、地方技師、長野縣林務課長、靜岡縣在籍
妻 スガ 子 明二〇、六生、京都、片山吉成養子
男 正夫 昭四二、一〇生

君は故江尻貯蓄銀行頭取西ヶ谷可吉の二男にして明治十二年十二月を以て生れ大正元年分れて一家を創立す明治三十八年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し爾來林務官補山形縣同林務技師兵庫鹿兒島各縣技師を歴任し大正十三年地方技師に任ず現に長野縣林務課長たり家族は尙三男夫明四四、二生)長女さ(昭三、七生)四男昭(昭七、六生)二女敏子(昭一、二、六生)五男昭吉(昭一四、六生)あり(長野市櫻枝町官舎)

西出重次

石川縣在籍
君は石川縣人鹿野重興門の甥にして明治二十九年二月を以て生れ先代きとの養子となり大正十二年家督を相續す金融業を營む(大阪、西、江之島東ノ町八八)

西出玉吉

安田銀行(株)山形支店長
北海通在籍
父 嘉右衛門 安政二、六生、現戸主
母 チエ 女 安政元、八生、石川、奥清九郎長子
男 俊平 昭四一、一二生
女 嘉代 昭二、三生

君は石川縣出身西出嘉右衛門の二男にして明治十四年七月を以て生る同三十四年安田銀行に入り累進して現時山形支店長たり家族は尙妹ハル(昭二九、四生)弟六太郎(昭二六、六生)同妻今代(昭三〇、四生)東京、松本(仲吉長女)及其一男一女あり(山形市安田銀行山形支店在籍)

西出孫左衛門

大聖寺川水電(株)社長、八十四銀行、西出商事各(株)取締役
石川縣土族
妻 みよ 女 昭二七、一〇生、西出商事(株)取締役、大和汽船(株)監査役
男 佛二 昭三四、三生、二男佛二妻、石川、町野清太郎長子
女 外輝子 昭三四、三生、二男佛二妻、石川、町野清太郎長女
男 志郎 昭三四、一、二生
女 靜枝 昭三六、一、二生、四男志郎妻、山口、小田タカ長女
女 あい 昭四三、三生

君は石川縣土族先代孫左衛門の弟にして元治元年二月を以て生れ明治二十四年家督を相續し前名佛吉を改む現時大聖寺川水電氣會社社長の外前記銀行會社の重役たり家族は尙六男男治(昭二、二生)孫宜(昭九、六生)二男佛二長男)同妻今代(昭一〇、七生)同女みれい(昭一五、一、一、生)四男志郎長女)妹すて(昭二、二、二生)あり三男均三(昭三二、一、一、生)は分家し弟季吉(昭元、一、一、生)も亦同妻下枝(昭一七、六生)石川、土、稻垣義方(二女)と共に一女を伴ひ分家し女より(昭三七、三生)は石川縣人勝木直次に姉わき女久元(昭二七、三生)は同縣人西谷庄八に姉みち(昭二二、七生)亡兄孫左衛門(二女)は同縣人熊田源太郎に嫁し庶子ツネ(昭三六、七生)生母、北海道、輪島、ミツ)は北海道人藤谷儀八郎に嫁み(昭二〇、七生)同長女)は石川縣土族増田又右衛門に各養子となり(石川、江沼、橋立村)

西洞院信意

從公卿家、子爵
妻 愛一 昭二八、六生、先代信愛庶子、生母、村田アイ、從五位
昭三八、二生、養子愛雄妻、東京
昭三九、二生、跡見女子學校出身

君は滋賀縣人西中文治郎の長男にして明治十一年六月を以て生れ同二十九年家督を相續す現に京都市龍紋氷室山田啓助家に入り後東京支店に轉じ専ら支店長に進み大正八年其株式組織なるや常務取締役に擧げられ現在に及ぶ外前記會社の重役を兼ねる家族は尙四女信子(昭四、三生)五女福子(昭九、三生)あり長女春子(昭三八、三生)日本橋高等女學校出身)は伊勢丹洋服店代表社員細田半三郎長男徳太郎に妹さ(昭二二、一、一、生)は滋賀縣人西中助藏に嫁し弟市治郎(昭二七、一、二、生)は分家せり(東京、日本橋、濱町三ノ八電氣花二四九)

西中勘治郎

龍紋氷室(株)常務取締役、遠州製水(株)取締役、滋賀縣在籍
妻 ちよ 昭一五、五生、京都、土、池田嘉夫妹
男 文一 昭三九、九生
女 幸子 昭四二、七生
女 芳子 昭四四、七生

西成新右衛門

大正石工業(株)取締役、大矢組(株)監査役、海產物商
大阪府在籍
妻 フク 昭元、一、一、生、大阪、粉川市兵衛三女
女 三子 昭元、一、一、生、大阪、粉川市兵衛三女

君は大阪府人西山長兵衛の長男にして慶應三年二月を以て生れ明治二十八年弟西成源三郎の跡を承けて家督を相續し前名覺之助を改む海產物商を營み傍ら前記會社の重役たり弟源三郎(昭八、二生)は大阪府人西山トミの家籍に入れり(大阪、西、駒野通五ノ七)

西野市兵衛

福井縣多額納税者、日出織物、西野製紙所各(株)社長、南越電氣、武岡鐵道、公州電氣各(株)取締役、大和田銀行(株)監査役、製紙業、福井縣在籍
妻 いの 昭四、二生、石川、倉元常松妹
男 謙三 昭二五、四生
女 外喜 昭三四、七生、長男謙三妻、石川、素谷喜沙久六女
養子 弘 昭三三、一、一、生、長女喜代夫、石川、三木新弟
女 喜代 昭三八、六生、養子弘妻

君は福井縣人西野源助の長男にして慶應二年三月を以て生れ明治十五年家督を相續す製紙業を營み傍ら日出織物西野製紙所各(株)社長たる外前記諸會社の重役たり曾て西野商會代表社員南越電氣會社取締役たりし事あり家族は尙孫一郎(昭一〇、三生)長男謙三(昭三、長男)同英二郎(昭二、一、一、生)同昭(昭二、三生)養子弘長男)弟藤助(昭二、一、一、生)同昭(昭二、五、五、生)同妻行(昭二七、五生)石川、織部次右衛門妹)妹ら(昭二、一、一、生)あり弟遠三郎(昭一〇、四生)同妻も(昭一七、一、一、生)福井、笹本富太郎妹)は其一子を作ひ分家し同百助(昭一三、一〇生)同菊之助(昭八、一、一、生)同昌一(昭一七、一〇生)も亦各分家し妹ユウ(昭五、三生)は福井縣人黒谷智恵に嫁し叔母よこ(昭安政元、三生)は福井縣人高島仲右衛門の母たり(福井、今立、岡本村)

西野嘉右衛門

徳島縣多額納税者、金陵西野商店(株)社長、日本製糖、阿波貯蓄銀行、阿波商業銀行、阿波國共同汽船各(株)取締役、藍商、酒造業、徳島縣土族
妻 マサエ 昭二〇、五生、徳島、西野謙四郎二女
男 保太郎 昭元、八生

君は徳島縣土族西野保太郎の二男にして同敬太郎の養叔父に當る明治十一年一月を以て生れ同三十八年兄嘉右衛門の家督を相續し後前名保太郎を改む同三十三年専修學校理財科を卒業す藍商酒造業を營む傍ら金陵西野商店社長外前記銀行會社の重役にして尙徳島縣多額納税者たり家族は尙二男寛次郎(昭三、三、一、男)三男龍三郎(昭六、七生)亡兄嘉右衛門妻ユカカ(昭四、九生)徳島、土、天羽兵太郎妹)あり姉トヲ(安政四、一、一、生)は其夫謙四郎(昭元、一、一、生)と共に分家し弟賢四郎(昭一八、一、一、生)も亦其妻さ(昭二八、三生)兵庫、堀豐彦(二女)及其一子と共に分家せり(徳島、勝浦、小松島町)

西野惠之助

帝國劇場(株)會長、東洋製糖(株)常務取締役、白木屋呉服店(株)取締役、日本鋼管(株)監査役、京都府在籍
妻 豐 昭四一、一、生

君は京都府人藤田茂三郎の二男にして元治元年八月を以て生れ先代りうの養子となり明治十九年家督を相續す同二十年慶應義塾を卒業し直ちに創立中の山陽鐵道會社に入り多年同社の要職にあり鐵道國有法により同三十九年同社買収後帝國劇場の創立と共に同社に入り事務取締役に擧げられ同四十五年即ち劇場開業一ヶ年後迄該劇場の後亡夫人と共に歐米各國を巡遊す其後東京海上火災保險明治火災保險兩會社に關係を有せり大正六年十一月東洋製糖會社創立に際し常務取締役に擧げられ在任の儘大正十年八月白木屋呉服店に入り其社長となり現時其取締役外前記各會社の重役たり長女きみ(昭三〇、一〇生)は靜岡縣人石渡泰三郎に二女美代子(昭三九、六生)聖心女子學院出身)は東京府人

西野謙四郎

阿波貯蓄銀行、阿波商業銀行、阿波國共同汽船各(株)取締役、徳島縣在籍
妻 トヲ 昭四、九生、養父保太郎長女
男 敏太郎 昭一三、一〇生

君は徳島縣土族西野謙右衛門の養兄にして嘉永二年一月を以て生れ明治十一年分家して一家を創立す現時波貯蓄銀行取締役にたる外前記銀行會社の重役たり長女サトシ(昭一、一〇生)は徳島縣人鶴本重太郎長男塚次郎に二女ユカエ(昭二〇、五生)は同縣土族西野嘉右衛門弟保太郎に五女秀(昭二五、一、一、生)は同縣人江木駿太郎弟修に嫁せり(徳島、勝浦、小松島町)

西野省三郎

金陵西野商店(株)常務取締役、大同藍(株)取締役、徳島、西野ハマ姉
妻 ウノ 昭元、六生、徳島、西野平吉二女
女 ヒサシ 昭一九、四生、徳島、西野平吉二女

君は徳島縣人西野豐三郎の二男にして明治十四年十一月を以て生れ先代ウノの養子となり大正七年家督を相續す先是明治四十一年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し現時金陵西野商店常務取締役にたる外前記會社の重役たり(東京、京橋、本八丁堀三ノ六)

西野常太郎

貝塚銀行(株)取締役
大阪府在籍
妻 ミネ 昭二六、六生、大阪、荒野橋太郎二女
養子 樟 昭四四、二生、大阪、山田常三郎二女

君は大阪府人西野橋太郎の四男にして明治十八年五月を以て生れ大正二年家督を相續す現時貝塚銀行取締役にたり(大阪、泉南、麻生郷村)

西野藤助

福井縣多額納税者、福井織物、福井精煉加工、日出織物、福井染色各(株)取締役、西野製紙所(株)監査役、生絲商、福井縣在籍

妻 すき 明一九、一生、福井、大谷彌三次郎妹

西野 敏太郎

君は福井縣人西野源助の四男同市兵衛の弟同百助の兄にして明治十一年十二月を以て生る生絲商を營み福井縣多額納税者にして現時前記各社の重役たり(福井市佐佳枝中町)

西野 奈良榮

君は大阪府人三木佐助の妹にして明治四年九月を以て生れ後先代虎吉に嫁し大正七年家督を相続す先代虎吉鳳に出版業を營み開成館を創設し主として中等學校教科書を刊行し販路全國に普及し同業者有数の出版業者として知らる(至れり君其死後を承けて營業を監督せしも同館の株式組織と共に之を退き現時其株主として知らる(養子リ)明二〇、一生)は埼玉縣人渡部津に嫁せり(東京、小石川、小日向水道町七三電小石川三三九)

西野 仁兵衛

君は鳥取縣土族西野景明の長男にして明治元年一月を以て生れ同十六年家督を相続す同二十年司法省法律學校を卒し判檢事登用試験に合格し判事に任じ宮崎長崎各地方裁判所判事長崎控訴院判事同部長を経て佐賀松方裁判所長に轉ず家族は高崎市(明五、三)あり(金澤、地方裁判所官舎)

西野 文市

君は鳥取縣土族西野景明の長男にして明治元年一月を以て生れ同十六年家督を相続す同二十年司法省法律學校を卒し判檢事登用試験に合格し判事に任じ宮崎長崎各地方裁判所判事長崎控訴院判事同部長を経て佐賀松方裁判所長に轉ず家族は高崎市(明五、三)あり(金澤、地方裁判所官舎)

西野 百助

君は福井縣人西野市兵衛同助の弟にして明治十三年十月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す現に西野製紙所専務取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙二男外喜男(大七、七)長女英子(同四、一)生(三男幸三(同六、一)生)二女他喜子(同九、四)あり(福井、今立、岡本村)

西野 文市

君は鳥取縣土族西野景明の長男にして明治元年一月を以て生れ同十六年家督を相続す同二十年司法省法律學校を卒し判檢事登用試験に合格し判事に任じ宮崎長崎各地方裁判所判事長崎控訴院判事同部長を経て佐賀松方裁判所長に轉ず家族は高崎市(明五、三)あり(金澤、地方裁判所官舎)

西野 喜智

君は兵庫縣人西野次平の三男にして明治十年五月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同三十四年中央大學を卒業し石炭並飛行機材料商を營み傍ら日本石炭會社取締役の外前記會社の重役たり家族は尙長女豐子(大七、一)生(二女清子(同二〇、一)生)あり(兵庫、武庫、御影町篠ノ坪一三六八電話五九七)

西野 守藏

君は兵庫縣人西野次平の三男にして明治十年五月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同三十四年中央大學を卒業し石炭並飛行機材料商を營み傍ら日本石炭會社取締役の外前記會社の重役たり家族は尙長女豐子(大七、一)生(二女清子(同二〇、一)生)あり(兵庫、武庫、御影町篠ノ坪一三六八電話五九七)

西野 元

君は茨城縣土族西野元平の長男にして明治八年十一月を以て生れ同二十八年家督を相続す同三十五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し大藏書記官同省參事官臨時國債整理局書記官等を兼任し歐米各國に差遣せらる歸朝後主計局豫算決算課長の職に就き尋で横濱關長大藏省主計局長大藏次官等に歴任し大正十三年貴族院議員に勅任せられ同年退官し同十四年錦織問候を被仰付十五銀行頭取たり(明二〇、一)生(一)生は醫學博士大瀧潤家に同なほ(同二三、九)生は岡山縣士族小松原隆二に同久米(同二七、一)生は東京府人肥田野行に嫁せり(東京、麻布、宮村町四二電青山六三〇八)

西野 順榮

君は福井縣人西野信の三男にして明治十二年十一月を以て生れ大正十四年家督を相続す營業を營み傍ら前記諸會社の重役に擧げられ現に福井縣多額納税者たり家族は前記の外三女みさを(大四、一)生(三男榮二(昭二、六)生)弟清(明二九、一)生(同妻節枝(同三三、五)生、福井、土、竹吉榮妹)及び其間に子女同信太郎(同三六、九)生(同妻、同二五、七)生(は分家し同濟(同二七、一)生)は同妻、同二四、四)生(石川、北出文右衛門二女)を伴ひ同深(同二四、八)生(は同妻スツチ(同二七、一)生、福井、加藤幸吉四女)と共に其子女を伴ひ分家し妹みどり(同二七、四)生(は福井縣人中島多左衛門長男保に嫁せり(福井、坂井、春江村)

西野 清次郎

君は大阪府人先代清次郎の二男にして明治十五年十一月を以て生れ同二十六年家督を相続し舊名として前名順藏を改む同三十七年大阪高等商業學校を卒業し爾來貸家業を營み今日に至る家族は尙二男順次郎(明四四、四)生(三男恒三郎(大五、四)生)四男慶二(同六、四)生(及姪喜代(同九、一)生)あり姉ツネ(明三、一)生(は大阪府人田中平三郎に嫁せり(大阪、西、江戸堀下通一

西野 米治

君は大阪府人西野吉次の二男にして明治十五年九月を以て生れ同三十八年家督を相続す舊に河泉銀行取締役を擧げられ現時同行頭取たり弟保次(明二八、二)生(は分家せり(大阪、南河内、野田村)

西野 與吉

時能登銀行取締役に於て矢田郷村長たり家族は尙孫宏(大一一、三)生、養子亮次郎長男(同外久子(同二四、八)生、同長女あり(石川、鹿島、矢田郷村)

西野 與吉

時能登銀行取締役に於て矢田郷村長たり家族は尙孫宏(大一一、三)生、養子亮次郎長男(同外久子(同二四、八)生、同長女あり(石川、鹿島、矢田郷村)

西野 與吉

時能登銀行取締役に於て矢田郷村長たり家族は尙孫宏(大一一、三)生、養子亮次郎長男(同外久子(同二四、八)生、同長女あり(石川、鹿島、矢田郷村)

西野 與吉

時能登銀行取締役に於て矢田郷村長たり家族は尙孫宏(大一一、三)生、養子亮次郎長男(同外久子(同二四、八)生、同長女あり(石川、鹿島、矢田郷村)

西野 與吉

時能登銀行取締役に於て矢田郷村長たり家族は尙孫宏(大一一、三)生、養子亮次郎長男(同外久子(同二四、八)生、同長女あり(石川、鹿島、矢田郷村)

西野 與吉

時能登銀行取締役に於て矢田郷村長たり家族は尙孫宏(大一一、三)生、養子亮次郎長男(同外久子(同二四、八)生、同長女あり(石川、鹿島、矢田郷村)

西野 與吉

時能登銀行取締役に於て矢田郷村長たり家族は尙孫宏(大一一、三)生、養子亮次郎長男(同外久子(同二四、八)生、同長女あり(石川、鹿島、矢田郷村)

西野 與吉

時能登銀行取締役に於て矢田郷村長たり家族は尙孫宏(大一一、三)生、養子亮次郎長男(同外久子(同二四、八)生、同長女あり(石川、鹿島、矢田郷村)

西野 與吉

時能登銀行取締役に於て矢田郷村長たり家族は尙孫宏(大一一、三)生、養子亮次郎長男(同外久子(同二四、八)生、同長女あり(石川、鹿島、矢田郷村)

五六電土佐堀(一七三七)

西原壽吉

岡山縣多額納稅者、岡山市會議員、中國鐵道(株)取締役、醬油醸造業、岡山縣在籍

妻 都根 女 明一〇、九生、岡山、佐藤喜平長
男 英太郎 明三三、九生、早稻田大學商科出身、加島銀行員
女 美智子 明四二、八生

西原文平

勤七等、地頭方銀行(株)事務取締役、静岡縣在籍
妻 はま 慶應元、六生、静岡、増田其平妹
男 松平 明二〇、一〇生

西原茂太郎

正四位勳二等功四級、豫備陸軍中將、福岡縣士族
妻 アイ 嘉永二、七生、福岡、新島與右衛門三女
男 道 明三三、六生、東京、士、藤堂景泰三女
男 勇 明三一、六生、岡山、長男勇妻、岡山、明三六、六生、長男勇妻、岡山、明三三、七、一〇生
女 素 明四一、二生、岡山、明四五、七生

君は福岡縣士族西原一郎の長男にして明治五年一月を以て生れ同十三年家督を相繼ぎ同二十六年陸軍士官學校を卒業し同二十七年陸軍工兵少尉に任じ累進して陸軍中將に陞る其間陸軍士官學校教官工兵第七師團第十師團第八大隊隊長陸軍士官學校教官陸軍電信隊長兼陸軍技術審査部員對馬要塞司令官第十三師團司令部附等に歷補し現時豫備役たり家族は岡山三男誠(明四三、長女)四男正(大三、九生)孫義(昭二、四生)長男勇(長女)あり長女秀明(三五、七生)は長野縣人金井滿に嫁し弟勇之助(同九、五生)は同妻きみ(同六一、三三、陸軍中將岡本功妹)を伴ひ分家せり(福岡市各六四五電三四四一)

西原力雄

岡山縣多額納稅者、岡山縣在籍
妻 千代 明二四、九生、岡山、小橋賢郎妹
男 雄太郎 明四五、二生

西廣與一郎

廣島電機製作所、福山瓦斯、日本(株)監査役、廣島縣在籍
妻 千代 明二四、九生、岡山、小橋賢郎妹
男 雄太郎 明四五、二生

西部市左衛門

岐阜縣多額納稅者、美濃銀行、平田製絲各(株)取締役、農業
妻 七キ 弘化三、三三、岐阜、堀源藏姉
男 濱治郎 大四、三三、生母、岐阜、北島亭
君は岐阜縣人先代市左衛門の長男にして明治六年十月を以て生れ大正二年家督を相繼ぎ前名喜市を改む農業を營み務り前記銀行會社の重役にして岐阜縣多額納稅者たり(岐阜、武儀、中有知村)

西堀源治郎

滋賀縣多額納稅者、蒲生銀行、江東貿易各(株)取締役、酒造業、滋賀縣在籍
妻 ちよ 明一六、九生、滋賀、久田清兵衛長女
男 新太郎 明三三、六生
男 新次郎 明三六、二生
女 たま 明四一、一〇生

西卷長三郎

濱濱正金銀行(株)文書課長兼調査課長、新潟縣在籍
妻 ワカ 女 明二三、一〇生、三重、岡田一貫長女
男 一雄 明四四、七生

西卷進四郎

第百三十九銀行(株)監査役、新潟縣在籍
妻 ユ 女 明二七、一〇生、新潟、西卷平助長女
男 達一郎 大五、一〇生

西卷兵一郎

第百三十九銀行(株)監査役、新潟縣在籍
妻 シ 富川謙治妹
男 義 輝 大七、七生

西松 喬

西松商店(株)取締役社長、西松メリヤス(株)取締役社長、貿易商、岐阜縣在籍
妻 トモマツ 明一〇、二〇生、福岡、士、諏訪
男 寅次郎 明三五、一〇生

西松 友吉

西松メリヤス(株)取締役、莫大小商、大阪府在籍
妻 フユ 明四四、一〇生
男 和男 明四四、一〇生

西松 唯一

正五位勳三等、東京帝國大學教授、工學部勤務、愛媛縣在籍
妻 カツ 女 安政六、六生、愛媛、白形熊治二女
男 和男 明四四、一〇生

西見重太郎

福岡縣多額納稅者、福岡(株)社長、福岡縣在籍
妻 サト 女 嘉永三、四生、福岡、吉田市三女
男 裕 惠 女 明一八、四生、福岡、光安成記二女
男 太郎 明四三、九生

西牟田房吉

長崎縣多額納稅者、松浦汽船、窓乃梅酒造各(株)取締役、佐世保商業銀行(株)監査役、長崎縣在籍
妻 ツネ 明六、九生、佐賀、香月萬藏長女

君は神奈川縣人先代庄兵衛の長男にして元治元年十一月を以て生れ明治十七年家督を相續す先代庄兵衛は元靜岡の人横濱に出で、茶商を營む君は明治學院を卒業し札幌農學校に學ぶ初め横濱へリヤ商館に入り後大谷嘉兵衛と製茶會社を起し製茶輸出に従事し次で古谷竹之助と米國組市に茶商を經營し明治貿易會社に合併するに及びて其の取締役となり又村井貿易會社取締役となる現時村井電機會社取締役なり長女ミサホ(明治三三、一、一)は埼玉縣人吉岡長次郎に二女(同三三、一、六)は靜岡縣人横山榮次に嫁し弟茂三郎(同二二、七)は分家せり(横濱、鶴見、鶴見町月見臺)

西村 輔三

正六位、日本生命保險(株)監査役、齒科醫師、大阪府在籍
妻 キン 文久元、八生、東京、士、藤井與一、郎二女

君は兵庫縣人西村彦三郎の弟にして安政元年三月を以て生れ明治十五年分家して一家を創立す齒科醫にして傍ら日本生命保險會社監査役たり二男(明治一七、一〇)生(一、二)生、生母、西村ミツ(は分家し孫宜雄(大五、七)生、離縁養子好徳二男)は前記西村ミツの家籍に入れり(大阪、東、今橋五ノ七三電本局八九)

西村 清七

京都府多額納稅者、山清、大物商
妻 ひさ 明一六、一、一、京都、山添直一、姉

君は京都府人先代清七の長男にして明治十二年十月を以て生れ同四十五年家督を相續し前名清太郎を改む山清と稱し大物商を營み京都府多額納稅者として知らる家族は尙孫芳三(大、一、一〇)生、長男清一(長男)あり弟貞治郎(明二四、二)生(は京都府人太田久七の養子となり(京都、下京、四條通油小路西入藤本寄町二六電

中二六二九

西村 齊次郎

西村商店(株)代表取締役、中外不動産、大丸呉服店各株取締役、日印通商(株)監査役、京都府在籍
妻 てい 明二六、一、一、京都、福田市十郎二女

君は京都府人西村治兵衛の弟にして明治二十三年十二月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙二男(大五、一、二)生(長女澄子(同七、五)生)三男健三(同二〇、六)生(二女邦子(同三、一)生)四男四郎(同四、五)生(五男五郎(同四、五)生)あり(大阪、北河内、枚方町)
參照 西村治兵衛伊藤由太郎長部慎三の項

西村 宗一

十八銀行(株)京城支店長
妻 さめ 文久三、六、生、奈良、辻岡甚平二女

君は奈良縣人西村伊勢松の長男にして明治十九年五月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十二年長崎高等商業學校を卒業し十八銀行に入り現時同行京城支店長たり家族は尙二男(大六、二)生(三男朝三郎(同七、一)生)長女晴子(同九、一〇)生(二女紀子(同二、三)生)四男茂(同四、三)生(五男和(昭二、四)生)妹須恵子(明三九、七)生(あり弟房雄(明三三、一)生)は同妻房乃(同三三、一)生、奈良、辻岡甚四郎(同三三、一)生(を伴ひ分家せり(京城、旭町二〇六九)

西村 莊右衛門

秋田縣多額納稅者、能代商(株)社長、醸造業、秋田縣在籍
妻 ムメコ 明一七、五、生、秋田、兒玉高則妹

君は秋田縣人先代莊右衛門の長男にして明治九年十二月を以て生れ大正三年家督を相續し前名敬治を改め襲名千鶴造業を營み傍ら能代商會社の社長にして秋田

縣多額納稅者たり家族は尙三男(大元、一、二)生(二女トシ(同四、五)生)四男瑞男(同七、三)生(三女多喜(生年月同上)亡)從弟嘉久治長女富美(同三、一〇)生(あり長女ミホ(明三七、六)生(は秋田縣人菅圭一郎に嫁せり(秋田、山本、能代港町)

西村 總左衛門

京都府多額納稅者、西村總(名)代表社員、千總總本店、吳服商
妻 シナ 文久三、九、生、京都、大橋彌右衛門長女

君は越前の儒にして勤王の志士として知られたる三國幽眠の三男にして安政二年五月を以て生れ後先代總右衛門の養子となり明治二十四年家督を相續す千總總本店と稱し吳服商を營み現に京都府多額納稅者たり(京都、下京、三條通烏丸西入御倉町二四電中三七四)
參照 西村總太郎の項

西村 總太郎

西村貿易店(株)社長、千總、貿易
妻 タカ 明二六、五、生、京都、飯田直次郎

君は京都府人大橋孝七の二男にして明治二十三年十一月を以て生れ後同府人西村總左衛門の養子となり前名彌太郎を改む現に歐米に渡り總左衛門の養子となり前名彌太郎を營み現に西村貿易店社長たり家族は尙長女二得子(大四、三)生(あり(東京、麹町、富士見町五ノ七電九段一四八六)
參照 飯田直次郎、西村總左衛門、田附政治郎の項

西村 健

安田銀行(株)堂島支店長
妻 つな 明三三、一、二、生、埼玉、大河内平太郎妹

君は京都府人本多惟孝の二男にして明治二十二年十月を以て生れ同二十六年先代金一の養子となり家督を相續す同三十九年安田銀行に入り累進して現時同行堂島支店長たり家族は尙長女和子(大九、一〇)生(二女ちよ

子(同二、三)生(三女ひろ子(同四、二)生)あり(大阪、北、堂島安田銀行支店內)

西村 直

陸軍砲兵中尉、西村同族、品川白
妻 けむ 長女、明三〇、四、生、東京、西園寺龜次郎

君は京都府人西村勝三の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ同四十年家督を相續す父勝蔵は舊佐倉藩士にして夙に實業に志し組織を起して初めて我國に於ける軍靴及軍用皮革の製造に従事し又洋服裁縫業兵士用英大小製造女工所伊勢白練瓦製造所等を建設して邦家に貢獻する處影からず勳定の綬章を賜はるれ正六位勳五等に叙せらる君は明治四十年其後を享け家督を相續す翌四十二年東京高等工業學校を卒業し尋で一年志願兵として入營し砲兵少尉に任ぜられ後中尉に昇進す大正二年獨逸に航し應用化學を研究し在留二年歐洲戰亂の爲歸朝せり現時西村同族西村工業品川白練瓦各會社社長たる外前掲會社の重役として知らる家族は尙長女節子(大七、二)生(二女ゆり子(同八、六)生)三女彌生(同二五、三)生(あり姉真(明一、一)生)は分家し兄勝三郎(早稻田文學士)は母の生家谷口氏を相續し同族早稻田文學士、號桐谷(は葛城藩平賀河野早輔に同族)は長野縣人渡邊家に各養子となり姉よし(同二八、四)生(は醫學博士佐藤敬夫に妹孝子(同二二、四)生)は法學士古田中正彦に同族(同二五、三)生(は三井物産社員山田政次に姪ナカ(同二九、一〇)生、姉長良女(は東京府人新村新太郎に同族(同三一、八)生、同二女)は徳島縣人醫學博士石丸一に嫁せり(東京、麻布、櫻田町三二電青山六三七七事務所東京、麹町、内幸町一ノ四東北ビルヂング内電銀座三九九一)
參照 古田中正彦、佐藤敬夫、西園寺龜次郎、谷口勝三郎、馬越泰平の項

西村 玉吉

北海道多額納稅者、西村(名)代表社員、土木建築請負業
妻 公子 明三〇、四、生、東京、西園寺龜次郎

西村 丹治郎

勳三等、衆議院議員(岡山縣選出)
妻 勝子 明二六、八、生

君は岡山縣人板野友太郎の弟にして慶應二十年十月を以て生れ西村彌太郎の養子となり明治二十四年分家して一家を創立す同二十三年東京專門學校を卒業後歐米に留學し政治經濟學を研究し歸朝後新聞記者として筆を執り衆議院議員に選出せらる、こま同現に其職に在り立憲民政黨に屬す(岡山、上房、高梁町)

西村 常吉

土木建築請負業
妻 ハナ 明一三、七、生、東京、石井増次郎

君は東京府人近藤卯吉の三男にして明治九年三月を以て生れ同二十一年先代留吉の養子となり家督を相續す土木建築請負業を營む家族は尙三女(大、四、九)生(あり長女久(明三二、九)生(は神奈川縣人中村龜吉長男彦太郎に嫁し二女きみ(同三六、一〇)生(は分家せり(東京、深川、蛤町二ノ一電本所三三三五)
參照 ※男爵本多副善の項

西村 禎介

滋賀縣多額納稅者、醸造業
妻 和子 明二五、一、生、滋賀、北村清一郎

西村 禎平

滋賀縣在籍
妻 正子 明二五、一、生、滋賀、北村清一郎

西村 豐次郎

丸萬、蒲鉾食料品商
妻 志那 明二二、九、生、大阪、西村半助姉

西村 豐次郎

丸萬、蒲鉾食料品商
妻 志那 明二二、九、生、大阪、西村半助姉

は當主傳吉の兄にして先代万助の二男なり明治十三年五月を以て生れ同三十二年西村志郎の入夫となり...

西村直次郎

大阪府在籍 小間物商

妻 マス 明六、三三、大阪、川勝太兵衛二

男 直三 明三九、六三、長男直三妻、大阪、

婦 照子 山口松三郎二女

女 眞 明四〇、五五、青英實科女學校出

君は大阪府人西村平蔵の長男にして慶應三年八月を以て生れ明治十七年家督を相續す小間物商を營み河幸と號す趣味として旅行を好み家族は尙孫保孝(昭二、二生、長男直三長男)あり妹ハル(明一〇、一)は大阪府人本條半兵衛に嫁し弟平三郎(同二三、七)妹マサ(同二七、六)は各分家せり(大阪、南、大寶寺町中三ノ四〇電南二一〇)

西村直藏

八鹿銀行(株)常務取締役 兵庫縣在籍

妻 やす 明二〇、三三、兵庫、牧田章二姉

男 完治郎 明四四、三三

君は兵庫縣人西村勘兵衛の二男にして明治七年十二月を以て生れ西村よしの養子となり同三十五年分れて一家を創立す現に八鹿銀行常務取締役なり家族は尙二女典子(大四、八)あり長女和明(四〇、五)は養母西村よしの死跡を相續せり(兵庫、養父、八鹿町)

西村繪吉

木綿商 大阪府在籍

男 平一郎 明四〇、一八

男 平二郎 明四四、六三

女 芳子 明四四、六三

君は滋賀縣人先代平左衛門の長男にして明治十五年一月を以て生れ大正元年家督を相續し前名平三郎を改め慶名才醸造業を營み現時滋賀縣多額納税者なり家族は尙四男平三(大元、九)二女マサ(同三、二)五男章平(同六、二)六男康平(同七、八)三女久(同九、七)七男榮藏(同二〇、二)八男順七(同二一、二)三男井(同二二、三)三女同妻(同二二、三)三女あり母しけ(安政四、一)生、滋賀、西村彦平長女(分家し弟外治郎(明二二、九)は同妻まきの(同二六、二)生、滋賀、速水宗兵衛(姉)を伴ひ亦分家し妹きた(同二九、二)は大阪府人村建藏に嫁し姪幸子(大六、一)生、弟平四郎(大)は外祖父中島彌三郎の養子となり(滋賀、大上、青波村)

西村平三郎

河幸、貴金屬商 大阪府在籍

妻 しん 明二四、一三、東京、鯉島新造妹

男 信藏 明四三、一一

君は大阪府人西村平蔵の二男直次郎の弟にして明治十三年七月を以て生れ同三十八年分家して一家を創立す河幸と稱し貴金屬商なり家族は尙二男富次郎(大二、二)三男泰輔(同五、六)四男平太郎(同七、一)二女あり(大阪、南、笠屋町二三ノ四電南四二五六)

西村甫太郎

從五位勳六等、判事、福岡區裁判所判事兼福岡地方裁判所判事、福岡區裁判所監督、宮崎縣在籍

父 文 萬延元、一〇生、現戶主

母 ユウ 元治元、一〇生、宮崎、渡邊喜次郎長女

妻 充 明二六、九生、宮崎、河野勢藏二女

男 法 大二三、三三

君は宮崎縣人西村文の長男にして明治十四年七月を以て生れ同四十年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し陸軍省理事補同理事を経て大正三年判事に任じ爾來

妻 シゲ 明一五、一〇生、奈良、古川梅吉長女

養子 修 明四二、一三、奈良、吉田新太郎弟

女 シナ 明四五、二二

君は奈良縣人西村繪三郎の弟にして明治十年一月を以て生れ同三十九年分家して一家を創立す木綿商を營む(大阪、東、中道黒門町一七一電東三五六一)

西村仁兵衛

万仁(名)代表社員、鳩印ヒロスシ ロッパ製造元、京都府在籍

妻 キク 明八、一三、京都、細川長五郎妹

男 重次郎 明三三、八三

男 敬次郎 明三八、八三

君は京都府人西村仁作の二男にして明治元年を以て生れ同三十二年家督を相續す代々油製造業を營み万屋仁作と稱す明治に至り祖業を廢し食料品商を始め鳩印ヒロスシロッパを製造し岡山京都米原濱松沼津の各驛に於て直賣し又全国の停車場に委託販賣を爲す曾て京都商業會議所議員市會議員等の公職に列せり京都府ホテル奈美ホテルは君の計畫創設する處にて多年を經營せし大正二年病の爲に是と斷ち健康回復後専心家業に従事すホテルを經營せる關係に依り熱心なる鐵道廣軌論者なり家族は尙六男俊次郎(明四四、一一)あり二男常次郎四男半次郎は各分家共に東京帝國大學法學部出身にて常次郎は三井銀行大阪支店に半次郎は住友銀行に勤務す三男敬次郎は万仁合名會社の經營に任ず家族は右の外養女スミ(大八、二)生、京都、田中乙次郎四女あり(京都、下京、古川町五四六電中四)

西村彦兵衛

美術京漆器商 京都府在籍

父 彦太郎 元治元、一三

妻 ハナ 明二三、三三、長崎、志波豊治養女

女 トミ 明三九、三三

君は京都府人先代彦兵衛の長男にして明治二十年三月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名亮造を改め慶名才美術京漆器商を營み現に京都漆器同業組合長京都

西村孫兵衛

西陣織物(株)事務取締役兼製造部長 長經理部長、京都府在籍

妻 のぶ 明九、一三、京都、高橋吉兵衛長女

男 周一 明四〇、六三

君は京都府人先代孫兵衛の弟にして明治八年八月を以て生れ同二十九年兄孫兵衛の死跡を相續し慶名として前名竹次郎を改む夙に織物什賣業を營み後西陣織物會社を創立し其事務取締役となり現に製造部長經理部長を兼ね家族は尙三女眞知(大四、三)あり長女フキ(明三二、一〇)生、京都府立第二高等女學校出身(は京都府人能勢島に妹ツル(同二、四)は同府人廣岡伊兵衛に嫁し二女ユキ(同三、三)は分家せり(京都、上京、等持院東町電西陣三〇四)

西村正安

香川縣多額納税者、農業 香川縣在籍

妻 エイ 明二九、一三、香川、眞鍋米五郎長女

男 長安 大五、四三

君は香川縣人西村佐織の三男にして明治二十六年四月を以て生れ大正七年家督を相續す同四年早稲田大學法律科を卒業し爾來祖業を營み現に縣下の多額納税者たり家族は尙長女達子(大九、五)二女慶子(同二、一)二男佐知夫(昭二、二)あり弟定期(明三〇、七)生(は香川縣人赤尾好太郎の養子となり妹勝子(同三、九)一〇生)は同縣人眞鍋米五郎三男善雄に嫁せり(香川、綾歌、造田村)

西村増吉

西村朝日堂、羅紗洋服商 大阪府在籍

妻 まさの 明二五、四三、兵庫、小島久左衛門三女

君は京都府人西村彌吉の長男にして明治八年一月を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十五年京都高等蠶業學校を卒業し爾來家業に携り刷子商を營む現に同府多額納税者なり家族は尙五男彌之助(明四三、一)生七男彌五郎(大三、八)八男春雄(同六、八)二女は

工務品聯合會長の職にあり家族は尙二女慶子(大二三、一)弟辰造(明二八、二)同妻フク(同三四、八)生、京都、八代三太郎(二女)及其一男二女同仙之助(同三四、六)同妻藏(同三七、七)生あり(京都、上京、岡崎最勝寺町電上三三四)

西村久之

長崎縣多額納税者、五島汽船運輸(株)取締役、長崎縣農工銀行(株)監査役、漁業、長崎縣士族

養祖母 シガ 安政三、五生、長崎、西村武平二女

養母 トメ 明一〇、一三、長崎、西村岩之助長女

男 力 大六、四三

君は長崎縣士族幸田久誠の二男にして明治二十六年九月を以て生れ先代力之助の養子となり大正九年家督を相續す漁業を營み傍ら前掲銀行會社の重役にして現に長崎縣多額納税者なり彌之助に長崎縣參事會員たりし事あり家族は尙長女マサ子(大三、一)二男勇(同九、一)二女愛子(同一一、四)あり養姉チエ(明二二、六)生、長崎、眞方幸次郎長女)は長崎縣人木場徳三に嫁し養妹シツ枝(同三一、六)生、長崎、西村正輔(三女)同夫長民(同二九、八)生、長崎、荒木良平(二男)は其一子を伴ひ分家せり(長崎、東松浦、岐宿村)

西村兵次郎

關東堂、藥種商 兵庫縣在籍

妻 はる 文久三、三三、兵庫、松田あさ長女

養子 光雄 明一九、四三、長女まさ夫、大分、明一〇、四三、養子光雄養父

女 まさ 明一〇、四三、養子光雄養父

君は大阪府人細谷喜右衛門の三男にして万延元年三月を以て生れ先代壯次郎の養子となり後家督を相續す關東堂と稱し藥種商を營む家族は尙孫保孝(大六、三)二女更堂(同二、五)三男博(同三、一)三男同(同三、一)同加代(同二、五)同長女あり(神戸、元町通一ノ一二七電三宮一〇六一)

西村平左衛門

滋賀縣多額納税者、醸造業 滋賀縣在籍

妻 フサ 明一九、六三、滋賀、市橋喜平妹

君は兵庫縣人西村吉兵衛の弟にして明治九年二月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す西村朝日堂と稱し羅紗洋服商を營む家族は尙長女増枝(大六、三)二女笑子(同二、五)三男博(同三、一)三男同(同三、一)同加代(同二、五)同長女あり(大阪、南、安堂寺橋通三ノ三〇電船場二一〇六)

西村道彦

朝鮮興業(株)監査役 東京府在籍

妻 眞彦 明三五、八三

男 眞彦 明三六、一一、跡見女學校出身

女 愛子 明三六、一一、跡見女學校出身

君は西村家舊佐賀藩の世にあり君は奈良縣士族深井弘の弟にして明治六年七月を以て生れ先代しなの入夫となり同三十三年家督を相續す同三十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し第一銀行に入り東京本店名古屋支店大阪支店に勤務し爾來四日市京東各支店長に歴任し取締役に擧げらる現時朝鮮興業會社監査役たり家族は尙三男英彦(明四三、三)四男朝彦(大五、一〇)生あり長女仁子(明三三、九)生、跡見女學校出身(は福岡縣人柴碩文弟正人に嫁せり(東京、小石川、江戸川町一五電小石川二四六三)

西村彌吉

京都府多額納税者、刷子商 京都府在籍

妻 スエ 明一一、一一、京都、大釜彌三郎妹

男 彌一郎 明三四、五三

男 彌二 明三五、五三、長男彌一郎妻、京都、宮崎文造二女

男 吉治郎 明三六、一〇生

男 ハツ 明三六、九生、二男吉治郎妻、京都、片岡金七長女

男 彌助 明四一、九生

君は京都府人西村彌吉の長男にして明治八年一月を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十五年京都高等蠶業學校を卒業し爾來家業に携り刷子商を營む現に同府多額納税者なり家族は尙五男彌之助(明四三、一)生七男彌五郎(大三、八)八男春雄(同六、八)二女は

つ(同八、三生)三女キミ(同二〇、五生)孫美知子(同
一、六生、長男彌一郎長女)同(同三、六生、
同長男)同元彌(同二五、一五、一五)の兄弟姉妹之助
(明二三、一三)同妻カウ(同三〇、一五、一五)京都村田
友三郎(二女)との間に一男一女あり同安之助(同二八、
九生)は其子女を伴ひて分家し妹ヤエ(同二二、一三
生)は京都府人片岡金七に嫁せり(京都、下京、寺町
通佛光寺下ル電下二八〇)

西村與兵衛

西村商店、中外紡織各(株)社長、
琵琶湖鐵道汽船、永田メリヤス機
械、北日本産業、日本共立生命保
險、日本組織各(株)取締役
滋賀縣在籍

君は滋賀縣人先代與兵衛の二男にして明治十七年一月
を以て生れ大正六年家督を相續し前名淺治郎を改め襲
名す現時前記各會社の重役たり家族は尙二女ふき(大
三、九生)三女みよ(同二〇、九生)あり妹ふじ(明二
二、一三)は滋賀縣人小杉佐右衛門養子文五郎に同
じ(同二七、六生)は同縣人西山喜太郎に同定(同三
〇、一五)は同縣人西村健次郎に嫁し弟與助(同二四、
一三)は分家せり(東京、四谷、東信濃町二八電四
谷四三八)

西村來藏

大八洲電氣鐵道、松島遊園、朝鮮
船渠工業、濱名セメント、釜山鐵
道各(株)取締役、國際興業(株)
監査役、東京府士族
明一八、三生、宮城、永野勇吉二
女

君は宮城縣士族三瓶盤民の二男にして同勇佐の弟なり
明治九年四月を以て生れ同三十四年絶家西村氏を再興
す現時前記各會社の重役たり家族は尙三男喜男(明四
四、四生)二女信子(大三、一五)あり(東京、四谷、鹽

町三ノ四三電四谷六七〇三)
參照三瓶勇佐の項

西村理兵衛

大阪府多額納稅者、莫大小商
大阪府在籍

君は天保年間京都より大阪に移りたるに創まり累
代吳服雜貨商を營めり君は先代理兵衛の長男にして明
治四年十月を以て生れ同三十一年家督相續し共に襲名
して前名音次郎を改め遺業を承けて莫大小商を營み現
に大阪府多額納稅者たり家族は尙三男友一(大三、四
生)五男和郎(同二一、一五)の外弟嘉三郎(明二二、五
生)あり妹うた(明八、三生)同夫元吉(同八、二生、大
阪、村田孫兵衛長男)は分家し二女はな(同三三、九生、
樟蔭高等女學校專攻科出身)は東京府人鈴木光愛二男
光敬に三女りき(同三九、一五、出身校同上)は大阪府
人永井兵之助に嫁せり(大阪、東、本町一ノ一八電本
町一五五)

西村隆次

社銀行(株)頭取、小田銀行、關西
土木電氣興業、姫路水力電氣
鐵道各(株)取締役、兵庫縣在籍

君は兵庫縣人西村真太郎の弟にして明治四年九月を以
て生れ同二十三年分家して一家を創立す現時前記銀行
會社の重役にして兼に西脇商業銀行山陰銀行各重役たり
しこあり長女富美(明二四、一〇)は其夫讓(同
二七、七生、兵庫、大西むめ私生子)と共に子女を伴
ひ分家せり(兵庫、加東、下東條村)

西村禮作

藤田銀行、防長銀行、秋銀行各(株)
監査役、山口縣在籍
明二〇、一五、法學士、藤田組、
藤田鐵業會社各庶務課長

西村和平

大阪港土地、日本電線製造、朝日
製鐵各(株)取締役、大阪製鐵、別
府土地各(株)監査役
滋賀縣在籍

君は滋賀縣人西村有清の長男にして文久二年七月を以
て生れ明治十年家督を相續す現時大阪港土地會社取締
役たる外前記諸會社の重役たり家族は尙孫和代(大
一、五生、四男孫造長女)同章一(同三三、一五、同
二、四生)同章二(同三三、一五、同二、四生)同章三(同
三三、一五、同二、四生)あり一三男憲信(明二
二、一三)同章四(同三三、一五、同二、四生)は各分家し四女
みよ(同三四、一五)は大阪府士族金田辰蔵二男經二
郎に五女まき(同三七、九生)は滋賀縣人山本治に嫁し
孫啓子(大九、一五、三男憲信長女)は同縣人與野孝三
郎の養子となり(大阪、住吉、阿部野町一五九電天
下茶屋三四九)

男 眞 大一〇、七生
女 恒子 明四〇、一〇生、雙葉高等女學校
出身
女 敦子 明四四、七生
女 弘子 大二、五生

當家は元京都の出にして代々醫を業せしが先代虎四
郎に至りて東京に移り三井銀行の創設に關り故中上川
彦次郎等と共に同行の柱石と稱せられたり君は子爵北
小路三郎の兄にして明治十三年一月を以て生れ同三十
九年十二月の父を以て家督を相續す同年東京帝國
大學法科大學佛法科を卒業し日本興業銀行に勤務せし
も後辭して宮内省に入り皇后宮主事兼式部省を経て現
職に至る養弟孝信(明二八、二生、東京、萬里小路信
三郎)は分家せり(東京市外濠谷町青山北町七ノ二電青
山四五〇)

西銘新勝

沖繩縣多額納稅者
明三五、二生、沖繩、平眞龜姪
男 勝一 大九、九生

西銘福三

沖繩縣多額納稅者
明二七、一五生、沖繩、糸敷清三妹
男 福五 明二七、一五生
男 友勝 明二九、一〇生
男 友勝 明三六、一二生、二男友勝妻、沖
繩、内間シブ妹
男 友勝 明三六、一二生、二男友勝妻、沖
繩、内間シブ妹

君は沖繩縣人西銘福十の長男にして明治五年九月を以
て生れ同十九年家督を相續す縣下の資産家に於て現に
沖繩縣多額納稅者たり家族は尙孫カマ(大五、九生、
長男福五長女)同友一(同九、一〇)生、同長男)同友二
(同三一、一二)生、同二男)同友三(同三一、一〇)生、二
男友勝長男)同友弘(昭二、八生、同二男)及び姉ウタ

男 眞 大一〇、七生
女 恒子 明四〇、一〇生、雙葉高等女學校
出身
女 敦子 明四四、七生
女 弘子 大二、五生

當家は元京都の出にして代々醫を業せしが先代虎四
郎に至りて東京に移り三井銀行の創設に關り故中上川
彦次郎等と共に同行の柱石と稱せられたり君は子爵北
小路三郎の兄にして明治十三年一月を以て生れ同三十
九年十二月の父を以て家督を相續す同年東京帝國
大學法科大學佛法科を卒業し日本興業銀行に勤務せし
も後辭して宮内省に入り皇后宮主事兼式部省を経て現
職に至る養弟孝信(明二八、二生、東京、萬里小路信
三郎)は分家せり(東京市外濠谷町青山北町七ノ二電青
山四五〇)

西本健次郎

貴族院議員、和歌山縣多額納稅
者、和歌山縣、八千代生命保
險、和歌山縣在籍

君は和歌山縣人西本楠之助の長男にして慶應元年七月
を以て生れ後家督を相續す明治二十四年代官免許を得
て同三十三年列事に任じ爾來防長町區區長取置同地方
倉吉區令治區區長取置同地方各裁判所判
事に歷補し大正十五年現職に轉ず妹いそ(明四、五
生)は和歌山縣人津木靜に嫁せり(松江、松江區裁判所
官舎)

男 眞 大一〇、七生
女 恒子 明四〇、一〇生、雙葉高等女學校
出身
女 敦子 明四四、七生
女 弘子 大二、五生

當家は元京都の出にして代々醫を業せしが先代虎四
郎に至りて東京に移り三井銀行の創設に關り故中上川
彦次郎等と共に同行の柱石と稱せられたり君は子爵北
小路三郎の兄にして明治十三年一月を以て生れ同三十
九年十二月の父を以て家督を相續す同年東京帝國
大學法科大學佛法科を卒業し日本興業銀行に勤務せし
も後辭して宮内省に入り皇后宮主事兼式部省を経て現
職に至る養弟孝信(明二八、二生、東京、萬里小路信
三郎)は分家せり(東京市外濠谷町青山北町七ノ二電青
山四五〇)

西本幸三郎

和歌山縣多額納稅者、醸造業
和歌山縣在籍
明二〇、九生、和歌山、梶白長太
郎二女

君は和歌山縣人西本幸次郎の弟にして明治十四年九月
を以て生れ大正元年分れて一家を創立す醸造業を營み
和歌山縣多額納稅者たり家族は尙二男昌三(大二、三
生)三男幸之助(同四、二生)四男得四郎(同五、八生)あり
長女美佐代(同九、二生)二女千代(同二〇、八生)あり
五男俊作(同七、七生)は和歌山縣人後安又四郎の養子
となり妹ヤスエ(明二六、五生)は同縣人南洲一に嫁せ
り(和歌山、海草、雜賀村)

源次郎 明四〇、八生
君は兵庫縣人岡島文吉の弟にして慶應二年七月を以て生れ先代源兵衛の養子となり大正六年家督を相繼ぎ前名源次郎を改め源名す皮革商を營む家族は尙孫節子(大一一、三生、長男豊二(女)同(同七)一〇生、同長女)同英男(同六、一〇生、養子英一(長男)同後子(同八、一〇生、同長女)同富美子(同二〇、五生、同二女)同澄子(同三、四生、同三女)あり三女淺子(同三、七、一〇生)は大阪府人小林輕吉二男政一に嫁せり(大阪、浪速、西濱南通二ノ六七番櫻川二三五)
參照 荒木榮藏の項

西森 猷太郎

從五位勳五等、兩館稅關長
岡山縣在籍
母 禮 安政四、三生、岡山、服部房太郎
妻 藤 江 明二八、一〇生、靜岡、土屋敏夫
君は岡山縣人西森賴治の長男にして明治十四年六月を以て生れ大正十二年家督を相繼ぎ明治十四年三月東京帝國大學法科大學法科を卒業し大正四年以來司稅官稅務監督局事務官大藏事務官稅務監督官に歷任し其間島取龜戶神田橋各稅務署長仙臺東京各稅務監督局直稅部長を経て昭和三年兩館稅關長に任ぜられ今日に至る家族は尙長女高子(大八、八生)二女晶子(同二、一〇生)三女芳子(同四、八生)あり(東京市外高田町雜司ヶ谷六二五番牛込四〇七六)

西山 覺次

高知縣多額納稅者、吳服雜貨商
高知縣在籍
妻 澄 明二五、一〇生、高知、中澤好英
男 榮 一 大二、七生
君は高知縣人先代覺次の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正十二年家督を相繼ぎ共に慶名して前名啓吉を改む吳服雜貨商を營み現に高知縣多額納稅者たり曩に高知銀行土佐電氣鐵道會社取締役たり家族は尙二男吉久(大八、一〇生)長女晴子(同三、三)あり弟重三郎(明三〇、八生)同源吉(同三三、四生)は各分家し繼母與志(同二、一〇生、高知、南龜太郎妹)は分家し源吉の家籍に入り(高知市種崎町)

西山 龜太郎

新町軌道(株)代表取締役、郡山電機工業(株)事務取締役、東部電力(株)事務取締役、只見川水力電氣、伊勢萬興、伊勢、四倉電氣各(株)取締役、郡山製紙、郡山土地建物、名古屋紡績各(株)監査役
福島縣在籍
妻 芳 助 明九、二生、福島、西山勝之助姉
男 恒 吉 明三〇、二生
男 廣 吉 明三六、六生、二男恒吉妻、福島、鈴木榮次郎三女
男 菊 藏 明三五、一〇生
養子 菊 藏 明三三、一〇生、養子チヤウ夫、山崎熊吉姉
養子 チヤウ 明二二、二生、養子菊藏妻、福島、山崎熊吉姉

西山 喜久平

朝鮮銀行(株)大阪支店支配人
熊本縣在籍
母 エ ヅ 直藏長女
妻 サ ダ 明一七、一〇生、廣島、長谷川勝平長女
男 一郎 明四一、九生
女 美 代 明四三、八生
君は熊本縣人西山庄治郎の二男にして明治九年九月を以て生れ大正十年家督を相繼ぎ越後屋と稱し乾物商を營み淺草區會議議員に推される家族は尙四女久(大四、九生)五女光子(同四、一〇生)叔母てつ(明元、六生)あり(東京、淺草、村木町二二番淺草二六四六)
參照 齋藤久之丞の項

西山 教充

同志社監事兼評議員、專門部講師
京都府七條
妻 てる 明九、九生、靜岡、香取吉萬姉
君は大阪府人西山明教の長男にして明治四年六月を以て生れ同二十三年家督を相繼ぎ現時同志社監事に就き評議員を兼ね長女靜江(明三四、四生)は廣島縣人法學士浦田種一に二女充(同三五、九生)は岡山縣人法學士古武福輔に三女策(同三九、三)は大阪府人法學士植田高三に嫁せり(東京、上京、鞍馬口通寺町西入ル新御堂口町二八五ノ三二)

西山 左内

正五位勳五等、關東廳財務部長
宮城縣十族
妻 博 夫 大二、五生
君は群馬縣人狩野清八の四男にして明治十五年三月を以て生れ先代省吾の養子となり大正七年家督を相繼ぎ明治四十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し同年文官高等試驗に合格大正二年司稅官となり稅務事務官關東廳事務官同參事官等に歷任し現時關東廳財務部長たり家族は尙二女町子(大五、六)三女加枝子(同七、五)二男幹夫(同四、八)養見隆興(明一一、七)生、養父省吾長男)あり養妹トモ(同二六、一〇生、同二女)は兵庫縣人山本厚藏に嫁せり(旅順、高崎町六官舎)
參照 山本厚藏の項

西山 茂

從五位勳五等、關東廳事務官兼關東廳警視、警務局勤務
福岡縣在籍
妻 マ サ 明一八、一〇生、福岡、土、田尻
男 華 子 明四二、一〇生
女 華 子 明四二、一〇生
君は福岡縣人西山其作の長男にして明治十二年七月を以て生れ大正九年家督を相繼ぎ明治十四年文官高等試驗に合格翌年京都帝國大學法科大學選科を修了し高等學校卒業學力檢定試驗に合格京都帝國大學法科大學に入り次で同大學を卒業す爾來關東廳警務局同警視同事務官旅順民政署長關東廳警視に歷任し現に關東廳警務局勤務にして奉天警察署長を兼ね現時視察の爲め海外出張中なり家族は尙二女常子(大八、六)二男敏哉(同二〇、七)あり(關東廳警務局内)
參照 田尻生五(關東廳警務局)の項

西山 實彌

大洲銀行(株)取締役、白瀧製絲(株)代表社員、蠶絲業
愛媛縣在籍
妻 トミヨ 明一四、二生、愛媛、上田誠一郎
養子 美 矩 明三二、八生、愛媛、上田謙吉五男、經濟學士
女 梅 子 明三四、一〇生、養子美矩妻
君は愛媛縣人曾田和敬の弟にして慶應三年二月を以て生れ後先代キクヨの養子となり明治二十八年家督を相繼ぎ現に蠶絲業を營み現時大洲銀行取締役外前記會社取締役たり家族は尙孫友枝(大一一、四)生、養子美矩の重役たり家族は尙孫友枝(大一一、四)生、養子美矩、長女)同榮枝(昭二、九)生、同二女)あり(愛媛、喜多、大洲村)
參照 上田謙吉の項

西山 庄太郎

淺草區會議員、越後屋、乾物商
東京府在籍
妻 ぶ き 嘉永三、八生、西山庄吉長女
男 俊 夫 明一五、九生、埼玉、豐庭新三郎長女
女 喜 代 明三五、二生

西山 勉

橫濱正金銀行(株)爲替課長
高知縣在籍
父 秀 二 文久二、一〇生、現戶主
母 茂 猪 明元、四生、高知、土、吉村嘉久馬姉
妻 澄 明三三、一〇生、山形、寺島成信二女
君は高知縣人西山秀二の長男にして明治十八年四月を以て生れ同四十年東京高等商業學校を卒業し橫濱正金銀行に入り香港支店長廣東出張所主任等を経て現時爲替課長たり家族は尙長女道子(大九、一)二女義子(同二〇、三)弟昇(同二八、一〇)生、同妻キミ(同三九、七)生、香川、多田武妹)及其一男妹綾子(同三八、六)あり(東京、牛込、市谷山伏町一九番牛込五六二六)
參照 ※田中政明の項

西山 德太郎

内外興業(株)取締役
東京府十族
妻 ぞ ね 明二一、九生、愛知、山中季直二女
男 篤 德 明四五、四生
君は東京府十族西山之徳の長男にして明治十三年七月を以て生れ大正五年家督を相繼ぎ同三十五年東京外國語學校佛語科を卒業し現に内外興業會社取締役たり家族は尙二女壽子(大四、一)三男宏徳(同六、七)生あり姉テウ(明一一、二)生(福島縣人里見恭次郎に嫁せり(東京、芝、白金全里町八九))
參照 里見恭次郎の項

西山 直平

熊本縣多額納稅者、農業
熊本縣在籍
妻 エ イ 嘉永四、四生、養父孫八長女
男 直 平 明二五、九生、現戶主
女 士 邊 修 一 明三三、三)生、長男直妻、熊本、士邊修一妹

西山 文雄

從五位勳四等、陸軍技師、陸軍造兵廠火工廠々員、東京府在籍
妻 靜 枝 明二九、一〇生、東京、西郷棟三女
男 博文 大一一、四生
君は熊本縣人福原其吾の二男にして嘉永元年六月を以て生れ同縣人西山孫八の養子となり家督を相繼ぎ大正十五年退隱し農業に従事し縣下の多額納稅者たり家族は尙孫勝子(大七、九)生、長男直長女)同榮一(同九、五)生、同長男)同童子(同一一、二)生、同二女)同友章(同四、一)生、同二男)あり(熊本、宇土、郡浦村)

西山 政猪

正五位勳六等、文部省專門學務局長、高知縣在籍
妻 三 八 明三二、三生、福岡、上野端彦從妹
君は高知縣人西山正弘の長男にして明治十六年一月を以て生れ大正十年家督を相繼ぎ明治十四年東京帝國大學法科大學法科を卒業し同年文官高等試驗に合格し長崎高等商業學校教授となり大正九年英獨米に留學し歸朝後東京帝國大學書記官文部省書記官文部大臣官房會計課長等に歷任し昭和二年四月文部省專門學務局長に任ぜられ今日に及ぶ家族は尙長女和子(大三、八)生(弟爲太郎(明二八、一)生)同政年(同三〇、七)生、同妻都(同三六、三)生、高知、田村武平孫)妹千重子(同三八、一)生)あり(東京市外戸塚町下戸塚荒井山五三二番牛込六六一八)

西山 和三郎

岡山縣多額納稅者、請負業
岡山縣在籍
妻 ヤ ヲ 明一六、一〇生、大阪、土井勝吉妹
女 清 美 明三七、一〇生
養子 逸 平 明三四、一二)生、二女滿江大、香川、三井豐吉弟

女 滿江 明四〇、八生、養子逸平妻
君は岡山縣人城木秀四郎の長男にして慶應元年六月を以て生れ明治三十五年入りて先代繼父鹿蔵の跡を繼ぎ家督を相続す請負業を營み岡山縣多額納税者たり家族は高四女和美(大三、一一生)五女榮(同五、三三)庶子正治郎(同五、三三)生母、北海道、杉野(ハル)同美鶴(同九、七生)生母同上、同孝(同二、四)生母、北海道、戸田(ひさ)あり弟磯八(明六、五生)は岡山縣人西山佐五郎の養子とされり(岡山、久米、大井西村)

西四辻公堯

妻 數子 明一七、九生、東京、士、蘭廣憲
女 壽榮子 明四〇、七生
女 綱榮子 明四四、一〇生
當家は藤原鎌足の支裔權大納言四辻公亨の男左近衛權中將公頼の後なり公頼別一家を立て西四辻と稱すそれより二代を経て先代公業に至り王事に勤勞し明治十七年子爵を授けらる君實は子爵小倉英季の弟にして同十三年家督を継ぎ襲爵仰けける陸軍士官學校を卒業し同三十三年陸軍歩兵少尉に任じ大正十三年大佐に累進す其間本郷聯隊司令部員歩兵第七十六聯隊長等に歴補し現に朝鮮軍司令部附たり家族は尙二男公順(大三、三三)三男公敬(同五、七生)四男公裕(同八、四生)五男公敏(同二、一一生)六男公雄(同二、一一生)あり(朝鮮、京城、大和町二、二〇〇)

西羅光造

母 安政五、一一生、東京、野村銀三
君は東京府人先代光造の長男にして明治二十一年六月を以て生れ大正十二年家督を相続し前名敏一を改め襲名すモーター商を營む家族は尙弟卓二(明二四、九生)同妻のぶ(同二六、一一生)千葉、和田敷一妹及其二女同俊三(同二六、八生)同妻あや(同三三、三三)生、栃

西脇信次

妻 信次 明一二、九生
君は岐阜縣人西脇岩次郎の長男にして嘉永五年三月を以て生れ明治二十年家督を相続し農を營み現に岐阜縣多額納税者なり三男保三(明一六、四生)は分家せり(岐阜、養老、廣幡村)

西脇新次郎

妻 トミ 明三〇、一一生
君は新潟縣人先代新次郎の長男にして明治二年七月を以て生れ同四十二年家督を相続し襲名して前名文三郎を改む現に西脇商店取締役の外前記諸會社の重役たり家族は尙孫基三郎(大一一、一一生)長男亮三郎(長男)叔母タイ(文久三、六生)あり長女頼(明三三、六生)は東京府人吉野源治郎に妹ナミ(同二一、一一生)は新潟縣人清水門吉に同ヅツ(同二七、一一生)は同縣人春川誠一郎弟泰助に嫁し弟勝三郎(同三、一〇生)は同縣人井口ツツの養子とされり(新潟、北魚沼、小千谷町)

西脇晋

妻 富貴 慶應三、二生、愛媛、松浦サチ長女
君は東京府人先代晋の長男にして明治二十一年六月を以て生れ大正十二年家督を相続し前名敏一を改め襲名すモーター商を營む家族は尙弟卓二(明二四、九生)同妻のぶ(同二六、一一生)千葉、和田敷一妹及其二女同俊三(同二六、八生)同妻あや(同三三、三三)生、栃

木、金子由蔵長女)及び其一男一女あり(東京市外寺島町須崎三二二番地田一三三)

西和田久學

妻 久一 明三六、五生
君は高知縣人西和田久吉の長男にして明治六年三月を以て生れ同二十三年分れて一家を創立す同二十七年帝國大學理學科大學地質學選科を卒業し朝鮮政府鑛山局顧問に聘せられ同三十年歸朝三菱合資會社技師を経て製鐵所技師鑛山監督署技師農商務技師等に歷任し在官中支那及其他外國に出張すること數回に及ぶ後實業界に轉じ現時前記各會社の重役たり家族は尙二男稔(六一〇、三三)あり(東京、麻布、泉町六七番地山三七二)

西脇健治

妻 淑子 明二三、一一生、伯爵酒井忠貞再從
君は新潟縣人西脇濟三郎の弟にして明治十五年八月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す現時生氣糖精土石炭會社事務取締役にして前記銀行會社の重役を兼ねる家族は尙二男敬二郎(大七、三三)三男三郎(同八、九生)二女澄子(同三、五生)三女史子(同五、八生)あり長女嘉代子(同九、一一生)は子爵稻葉順通の養子とされり(東京、牛込、若松町七六番地三〇三三)

西脇濟三郎

妻 昌治 明四、一一生
君は新潟縣人西脇濟三郎の弟にして明治十五年八月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す現時生氣糖精土石炭會社事務取締役にして前記銀行會社の重役を兼ねる家族は尙二男敬二郎(大七、三三)三男三郎(同八、九生)二女澄子(同三、五生)三女史子(同五、八生)あり長女嘉代子(同九、一一生)は子爵稻葉順通の養子とされり(東京、牛込、若松町七六番地三〇三三)

西脇哲次

妻 信次 明三三、一一生、現戶主
君は岐阜縣人西脇信次の二男にして明治十二年九月を以て生れる同三十九年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し農を營み現に前記銀行の重役にして岐阜縣多額納税者たり家族は尙三女幸子(大六、一一生)四女公子(同二〇、一一生)あり(岐阜、養老、廣幡村)

西脇安吉

妻 與兵衛 弘化三、五生、現戶主
君は五位勳五等、大阪高等工業學校教授、醸造科長、大阪醸造學會々長、大阪工業俱樂部理事、和歌山縣在籍

西脇安子

妻 安子 明四三、八生
君は東京府人先代安子の長男にして明治五年四月を以て生れ大正十一年家督を相続す現に西脇商店取締役たり

西脇吉久

妻 ツネ 明一四、一〇生、東京、川口市太
君は東京府人先代吉久の長男にして明治五年四月を以て生れ大正十一年家督を相続す現に西脇商店取締役たり

西脇由兵衛

妻 精一 明四四、九生
君は愛知縣人先代由兵衛の長男にして明治二十一年八月を以て生れ同二十八年家督を相続し前名由太郎を改め襲名す三河屋と稱し紗商を營み愛知縣多額納税者たり家族は尙二男博吉(大一一、一〇生)三男芳美(同二〇、二生)四男圭之助(同二一、一〇生)五男安次郎(同二八、九生)同妻ツネ(同二一、一〇生)同妻三治(同二九、九生)あり姉しやう(同二五、四生)は其夫安三治(同二一、一〇生)あり、愛知、瀬尾武四郎(二男)と共に分家せり(名古屋、中、末廣町二、七番地本局六五二)

西脇吉久

妻 ツネ 明一四、一〇生、東京、川口市太
君は東京府人先代吉久の長男にして明治五年四月を以て生れ大正十一年家督を相続す現に西脇商店取締役たり

西脇由兵衛

妻 精一 明四四、九生
君は愛知縣人先代由兵衛の長男にして明治二十一年八月を以て生れ同二十八年家督を相続し前名由太郎を改め襲名す三河屋と稱し紗商を營み愛知縣多額納税者たり家族は尙二男博吉(大一一、一〇生)三男芳美(同二〇、二生)四男圭之助(同二一、一〇生)五男安次郎(同二八、九生)同妻ツネ(同二一、一〇生)同妻三治(同二九、九生)あり姉しやう(同二五、四生)は其夫安三治(同二一、一〇生)あり、愛知、瀬尾武四郎(二男)と共に分家せり(名古屋、中、末廣町二、七番地本局六五二)

西脇吉久

妻 ツネ 明一四、一〇生、東京、川口市太
君は東京府人先代吉久の長男にして明治五年四月を以て生れ大正十一年家督を相続す現に西脇商店取締役たり

西脇由兵衛

妻 精一 明四四、九生
君は愛知縣人先代由兵衛の長男にして明治二十一年八月を以て生れ同二十八年家督を相続し前名由太郎を改め襲名す三河屋と稱し紗商を營み愛知縣多額納税者たり家族は尙二男博吉(大一一、一〇生)三男芳美(同二〇、二生)四男圭之助(同二一、一〇生)五男安次郎(同二八、九生)同妻ツネ(同二一、一〇生)同妻三治(同二九、九生)あり姉しやう(同二五、四生)は其夫安三治(同二一、一〇生)あり、愛知、瀬尾武四郎(二男)と共に分家せり(名古屋、中、末廣町二、七番地本局六五二)

西脇吉久

妻 ツネ 明一四、一〇生、東京、川口市太
君は東京府人先代吉久の長男にして明治五年四月を以て生れ大正十一年家督を相続す現に西脇商店取締役たり

西脇由兵衛

妻 精一 明四四、九生
君は愛知縣人先代由兵衛の長男にして明治二十一年八月を以て生れ同二十八年家督を相続し前名由太郎を改め襲名す三河屋と稱し紗商を營み愛知縣多額納税者たり家族は尙二男博吉(大一一、一〇生)三男芳美(同二〇、二生)四男圭之助(同二一、一〇生)五男安次郎(同二八、九生)同妻ツネ(同二一、一〇生)同妻三治(同二九、九生)あり姉しやう(同二五、四生)は其夫安三治(同二一、一〇生)あり、愛知、瀬尾武四郎(二男)と共に分家せり(名古屋、中、末廣町二、七番地本局六五二)

以て生れ同十六年家督を相續す同三十一年東京帝國大學工學科大學電氣工學科を卒業し通信技術手東京郵便電信學校教授兼通信技術師兼通信管理技術師兼通信局技師臨時電信建設局技師兼通信局長に任ぜられ其間仙臺京都各郵便局工務課長神戸通信管理局工務課長東京中央電信局長九州通信局長名古屋通信局長工務課長を経て現に東京通信局長に任ぜられ電話事業研究の爲英米に留學し大正九年歐米に出張す又京都帝國大學九州帝國大學熊本高等工業學校等の講師を囑託せらるる家族は尙三男三樹雄(明四三、八生)四男正(大元、九生)二女隆(同三、九生)五男長(同六、一〇生)六男六郎(同八、一二生)三女愛(同二、九生)あり姉(明一三、一)は群馬縣人高橋辰彦に同せき(同二、一八、一二生)は山形縣人松田重隆長男貞治郎に嫁せり(東京、麻布、新町一七五番青山七〇一〇)

西脇 義雄

名古屋製粉(株)取締役 岐阜縣在籍

妻 養母 あい 明五、二生、岐阜、坪井重雄叔母

女 綾子 明二九、一、先々代捨次郎長女

男 國雄 大六、一、生

錦織 榮次郎

島根縣多額納税者、湖西銀行(株)取締役、農務、島根縣在籍

男 義教 明一五、九生、農務士、現戶主、

女 朝野 明二〇、一、生、長男義教妻、島根、寺本昌福姉

男 孝造 明二三、一、生

女 松野 明三〇、三、生、四男孝造妻、島根、石本倉市二女

蟻川 包

日本自動車(株)取締役、中央自動車(株)取締役、東京府在籍

妻 あい 明二二、一二生、東京、大橋進一

女 益代 大二、八生

蟻川 行道

正六位勳五等、仙臺商業學校長 富山縣在籍

妻 ねい 明一七、三、生、大阪、坂田佐吉妻

女 律 明四一、六、生

女 カチル 明四四、七、生

若王子 文健

從三位勳三等、男爵 舊公卿家

妻 錠子 明一四、八、生、東京、吉田重五郎

女 文俊 明三九、一〇、生、從五位

女 幸子 明四三、九、生

女 幸子 大元、九生

庭田 重行

從四位、伯爵、陸軍歩兵少尉、掌典、舊公卿家

妻 長子 明元、一、生、子爵綾小路護大叔母

女 公子 明三〇、九、生、子爵松平義爲妹

乳井 龍雄

三井銀行(株)文書課長 青森縣士族

妻 シン 明二一、三、生、栃木、加藤武男妹

男 建一 明四四、一、生

君は青森縣士族乳井文三郎の長男にして明治十二年三月を以て生れ大正七年家督を相續す先是明治三十七年慶應義塾大學理財科を卒業し後三井銀行に入り同銀行營業部次長を経て現時同行文書課長なり家族は尙二男龍二(大二、八生)長女キヨ(同五、三)三男雄三郎(同六、一〇生)四男芳四郎(同九、二)弟春雄(明三九、二)あり同春芳(同三五、二)は分家せり(東京市外大崎町上大崎四七一電高輪四一八八)

蟻川 龍夫

正五位勳五等、富山縣師範學校長 富山縣在籍

妻 キク井 明一四、一、生、富山、野田靜照

女 彰子 明四三、二、生

蟻川 龍子

正五位勳五等、富山縣師範學校長 富山縣在籍

妻 はつゑ 明一四、一、生、富山、野田靜照

女 賢子 明四三、二、生

蟻川 龍夫

正五位勳五等、富山縣師範學校長 富山縣在籍

妻 キク井 明一四、一、生、富山、野田靜照

同四女)同直子(同一四、八生、同五女)同浩(同一三、九生、四男孝造長男)同順子(同一五、九生、同長女)あり三男三郎(同一〇、一二生)は島根縣士族佐々田懋の養子となり(島根、鏡川、出東村) 參照 佐々田懋の項

錦織 重喜

高知縣多額納税者、農業 高知縣士族

妻 正尾 明二六、七、生、高知、錦織練次郎

女 美喜 明四四、一、生

君は高知縣士族錦織俊作の二男にして明治二十二年九月を以て生れ同十四年家督を相續す農業を營み縣下の多額納税者なり家族は尙二女美代(大六、三)三男重久(同二、七)あり弟重實(明二四、一)は其妻千鶴(同二八、九)宮崎進養母)及其二子を伴ひ分家し同重治(同三一、一)も亦分家し妹美雄(同二九、一〇生)は高知縣人野中常三郎に嫁せり(高知、長岡、介良村)

錦織 宗

醫師 島根縣在籍

妻 クラ 元治元、三、生、島根、須佐琴雄長女

女 信子 明二三、三、生、兵庫、直木政之介

男 透 大四、三、生

女 京子 明四四、六、生

錦織 保親

從五位、子爵 舊公卿家

妻 祖祖母 萬延元、三、生、子爵義篤篤母

當家は卜部家の支流秋原氏從の二男從久の後なり從久別れて一家を創立し錦織と稱すそれより五世を経て先

蟻川 龍夫

正五位勳五等、富山縣師範學校長 富山縣在籍

妻 キク井 明一四、一、生、富山、野田靜照

女 彰子 明四三、二、生

蟻川 龍子

正五位勳五等、富山縣師範學校長 富山縣在籍

妻 はつゑ 明一四、一、生、富山、野田靜照

女 賢子 明四三、二、生

蟻川 龍夫

正五位勳五等、富山縣師範學校長 富山縣在籍

妻 キク井 明一四、一、生、富山、野田靜照

女 彰子 明四三、二、生

蟻川 龍子

正五位勳五等、富山縣師範學校長 富山縣在籍

妻 はつゑ 明一四、一、生、富山、野田靜照

女 賢子 明四三、二、生

蟻川 龍夫

正五位勳五等、富山縣師範學校長 富山縣在籍

妻 キク井 明一四、一、生、富山、野田靜照

女 彰子 明四三、二、生

蟻川 龍子

正五位勳五等、富山縣師範學校長 富山縣在籍

妻 はつゑ 明一四、一、生、富山、野田靜照

女 賢子 明四三、二、生

蟻川 龍夫

正五位勳五等、富山縣師範學校長 富山縣在籍

妻 キク井 明一四、一、生、富山、野田靜照

女 彰子 明四三、二、生

蟻川 龍子

正五位勳五等、富山縣師範學校長 富山縣在籍

妻 はつゑ 明一四、一、生、富山、野田靜照

女 賢子 明四三、二、生

蟻川 龍夫

正五位勳五等、富山縣師範學校長 富山縣在籍

妻 キク井 明一四、一、生、富山、野田靜照

女 彰子 明四三、二、生

又之部

縫田榮四郎

從五位勳四等、總領事、マニラ駐在、栃木縣在籍

妻 雪江 明三、七生、故特命全權大使日置益二女

男 榮一 大五、七生

糠澤惟助

從五位、警備管財局技師、横濱出張所勤務、福島縣在籍

妻 テイ 明二、九生、福島、熊田修司二女

男 健次 大一二、二生

額賀寛

茨城縣多額納稅者、農業、茨城縣在籍

養子 潤次郎 明一七、一〇生、養子ちよ夫、茨城、大場久米之助二男

養子 千枝 明三、九生、養子潤次郎妻、茨城、飯島英吉三女

孫 千枝 明四二、一二生、養子潤次郎長女

孫 德江 明四四、一二生、養子潤次郎二女

君は茨城縣人額賀厚十の二男にして明治八年十二月を以て生れ同二十一年家督を相續す農業を營み茨城縣多額納稅者たり家族は尙孫久子(大五、八生、養子潤次郎四女)同榮子(同九、一生、同五女)あり(茨城、行方、武田村)

額田治郎

丸龜銀行、山陽銀行、中國銀行、岡本洋行、津山土地各(株)取締役、岡山縣農工銀行株監査役、岡山縣在籍

妻 ため 明一三、七生、岡山、赤堀徳治郎二女

貫井清憲

埼玉縣多額納稅者、鬼石製材(株)社長、鬼石銀行(株)取締役、農業、埼玉縣在籍

母 マサ 慶應二、五生、埼玉、西井好平孫

妻 マサ 明三七、一生、埼玉、富田新八郎四女

男 清英 大一一、一二生

女 豐乃 大元、一一生

布井良太郎

日本商工(株)相談役、大阪府在籍

妻 ひろ 明二三、一二生、兵庫、梶龜之助二女

男 長助 明四二、一生

布谷徳太郎

越後屋、洋酒商、大阪府在籍

妻 末 明一一、一〇生、大阪、毛馬野熊吉妹

男 徳造 大一一、一二生

布川興策

醫學博士、新潟港灣倉庫(株)監査役、布川病院長、醫師、新潟縣在籍

養父 長次郎 文久元、一生、現戸主

妻 イチ 明一六、七生、養父長次郎長女

男 潔 明四〇、八生

女 フミ 大元、一一生

布川長次郎

新潟縣多額納稅者、地主、新潟縣在籍

妻 マス 慶應元、五生、養父小平長女

養子 興策 明八、一〇生

女 マチ 明一九、二生

布谷徳太郎

越後屋、洋酒商、大阪府在籍

妻 末 明一一、一〇生、大阪、毛馬野熊吉妹

男 徳造 大一一、一二生

養子 康治 明二九、一〇生、長女君子夫、鳥取、小谷貞藏二男
 女 君子 明三六、一〇生、養子康治妻
 女 松子 大二、一〇生

君は大阪府人布谷彦七の二男にして明治七年二月を以て生れ同三十三年家督を相続す洋酒商を営み越後屋と稱して知らるる家族は尙三女とく子(大五、五生)四女春子(同九、二生)孫勝助(同三一、九生、養子康治長男)同壽子(同二五、三三、同長女あり)(大阪、東淀川、南濱町一九〇電四北三二)

布谷平兵衛 布谷商店、木綿商
 大阪府在籍
 母 ヤ 嘉永三、一〇生、祖父平右衛門長
 妻 タネ 明二八、一二生、大阪、小龜徳三
 男 重三郎 大五、二生

君は大阪府人先代平兵衛の三男にして明治二十四年一月を以て生れ同四十四年家督を相続し前名重治を改名す木綿商を営む家族は尙二男武治(大八、五生)長女敏子(同九、一〇生)二女節子(同八一、四生)あり姉とく(明一七、七生)は大阪府人川崎米太郎長男國三郎に嫁せり(大阪、南、長堀橋第二ノ七電南八八八)

布屋 徹吉 正路喜社(株)社長
 東京府在籍
 妻 はな 明二一、五生、和歌山、岡勝之助

君は和歌山縣人西岡猛之助の弟にして明治五年十二月を以て生れ同二十二年先代岸次郎の養子となり同二十二年家督を相続す現に廣告取次業を創設し正路喜社社長たり家族は尙長女泰子(大八、一〇生)あり(東京、麻布、新代町一電高橋四六八六)

沼平 助 和歌山縣多額納税者、農業
 和歌山縣在籍
 母 さみ 慶應元、一〇生、和歌山、中澤藤吉姪
 妻 ミツ子 明二七、四生、島根、堀島造長女
 男 誠 一 大六、七生

君は和歌山縣人先代平助の長男にして明治二十一年二月を以て生れ同十四年家督を相続し現に和歌山縣議員に當選す現に立憲民政黨に屬す現に大阪市會議員に當選す家族は尙四女民(大四、二生)六女嘉代(同二〇、八生)あり長女利(明三七、一〇生)は奈良縣人米田庄吉長男正一に嫁し二男正次(同四五、三三)は大阪府人成瀬亦次郎の養子となり(大阪、浪速、西濱南通三ノ一二六電櫻川一二八四)

月を以て生れ同三十四年家督を相続し前名俊一を改む農業を営み和歌山縣多額納税者たり家族は尙弟富次郎(明二五、一〇生、大阪高等工業學校出身)同妻喜久子(同三四、八生、和歌山、中井喜代補長女あり)妹静子(同三三、一〇生)は奈良縣人喜多長左衛門長男長右衛門に嫁せり(和歌山、海草、西和佐村)

沼 義雄 從五位勳五等、判事、東京控訴院部長、東京府在籍
 妻 まさ子 明二六、六生、東京、箕谷たか養子
 男 生三 明四五、三三
 女 敏子 明四四、五五

君は兵庫縣人沼義滿の男にして明治十六年三月を以て生れ大正十五年分家して一家を創立す明治四十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同四十五年判事に任じ東京地方同區各裁判所判事東京控訴院判事東京地方裁判所判事同部長等に歴補し大正十四年東京控訴院部長に任ぜらるる同十五年歐米各國へ出張を命ぜらるる家族は尙二男正也(大三、八生)二女弘子(同五、一〇生)三女由子(同八、七生)三男弘三(同二〇、九生)四女民子(同二四、三三)あり(東京、牛込、若松町一〇二電牛込三〇四五)

沼尻 權次郎 茨城縣多額納税者、五十銀行、茨城縣在籍
 妻 たみ 明一五、九生、長女しつ夫、栃木、伊澤毅一郎弟
 養子 文治 明一八、八生、養子文治妻
 女 恒子 大二、六生、養子文治三女

君は茨城縣人沼尻藤五郎の長男にして文久二年八月を以て生れ明治十四年家督を相続し運送業を營み現に五十銀行取締役たる外前記銀行會社の重役にして茨城縣多額納税者たり家族は尙孫實(大四、一〇生)養子文治(同二男)同辰次郎(同六、六生)同三男(同二男)同嶋夫(同九、一〇生)同四男(同清子)同五男(同四女)あり二女り(明二〇、八生)は栃木縣人菊地次郎に嫁せり(女ユキ(同三九、六生)は山形縣人島海直隆養子二郎に嫁せり(北海道、留萌、留萌町))

沼田 久兵衛 資産家
 兵庫縣在籍
 妻 みね 慶應元、三三、兵庫、北野孫兵衛
 女 美重子 明三三、三三、兵庫、岡田廣吉長女

當家は古より神戸に住し米穀商を營み代々久兵衛を襲名す君は先代久兵衛の長男にして明治二十七年三月を以て生れ大正十一年家督を相続し前名久男を改め襲名す祖業を廢し現時資産家を以て知らるる家族は尙弟實(明三六、六生)あり(神戸、山本通三ノ一〇六電基合四四五六)

沼田 七次郎 正六位、通信技師、工務局勤務
 富山縣在籍
 妻 敏子 明三一、一〇生、養父其作長女
 女 欽一郎 大六、四生

君は富山縣人辯護士沼田勇三郎の弟にして明治十九年八月を以て生れ先代みなせの八女となり家督を相続す大正三年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し通信技師に任じ工務局に勤務し今日に及ぶ大正十四年歐米留學を命ぜらるる家族は尙二女嘉子(大一、七生)三女智恵子(同三、五生)二男英夫(昭二、五生)あり妻叔父友茂(同二〇、一〇生)は同縣人矢作はるの八女となり同妻吉(同二三、一〇生)は分家せり(東京市外杉並町高圓寺五二七)

沼田 十郎 志方銀行(株)頭取
 兵庫縣在籍
 父 靜治 嘉永四、四生
 妻 静子 安政四、四生、兵庫、岡本保左衛門妹
 女 久 明四五、四生

君は兵庫縣人沼田靜治の二男にして明治十六年九月を以て生れ同十八年先代ミヨの養子となり後家督を相続す現に西濱土地建物會社事務取締役にして衆議院議員に當選す現に立憲民政黨に屬す現に大阪市會議員に當選す家族は尙四女民(大四、二生)六女嘉代(同二〇、八生)あり長女利(明三七、一〇生)は奈良縣人米田庄吉長男正一に嫁し二男正次(同四五、三三)は大阪府人成瀬亦次郎の養子となり(大阪、浪速、西濱南通三ノ一二六電櫻川一二八四)

(茨城、眞壁、下妻町)
 參照 菊地次郎の項

沼尻 善次郎 下妻銀行(株)取締役
 茨城縣在籍
 妻 竹三郎 明二〇、一〇生
 男 宗五郎 明一八、一〇生
 孫 宗五郎 明四二、三三、二男竹三郎長女

君は茨城縣人沼尻元次郎の長男にして安政元年五月を以て生れ明治七年家督を相続し現に下妻銀行取締役たり家族は尙孫あき(大三、一〇生)一男竹三郎(二女)同時次郎(同七、二生)同二男(同ミチ)同三男(同一〇、六生)同三女(同トモ子)同四女(同一三、五生)同五女(同一五、一〇生)あり二女とく(明一五、一〇生)は茨城縣人藤井太四郎二男親治郎に嫁し三男八太郎(同二五、一〇生)五男守四郎(同二六、二生)は各分家せり(茨城、眞壁、下妻町)

沼田市右衛門 茨城縣多額納税者、農業
 茨城縣在籍
 妻 俊平 明一七、一〇生
 男 明二一、五生、長男俊平妻、千葉、菅太郎二女

君は茨城縣人先代市右衛門の長男にして文久二年四月を以て生れ後家督を相続し前名市作を改め襲名す農業を營み茨城縣多額納税者たり家族は尙六女とく(昭二、五生)孫清子(大一一、一〇生)長男俊平(二女)あり弟大次郎(明八、一二生)は分家せり(茨城、鹿島、白鳥村)

沼田 嘉一郎 衆議院議員(大阪府選出)、西濱土地建物(株)事務取締役
 大阪府在籍
 妻 キエ 明一五、一〇生、大阪、清水喜十郎養子
 男 明四二、一〇生
 女 美彌子 明三八、一〇生
 女 加壽子 大二、三三

君は大阪府人沼田勇吉の長男にして明治十一年八月を以て生れ大正十五年家督を相続す現に志方銀行頭取たり家族は尙二男靜夫(大三、一〇生)あり(兵庫、印南、東志方村)

沼田 尚徳 從四位勳三等、製鐵所技師、製鐵所土木部長、茨城縣土族
 弘長三、三三、茨城、土、内藤久
 妻 やす 明二〇、一〇生、茨城、江橋貞雄
 男 長久 明四三、五生

君は茨城縣土族先代順臣の長男にして明治八年十一月を以て生れ大正十一年家督を相続し明治三十三年京都帝國大學理工科大學土木學科を卒業し製鐵所技師に任じ同三十五年技師に昇進大正四年英米に出張を命ぜられ同十二年臨時建築部長となり現時土木部長たり家族は尙二男武久(大八、九生)あり(八幡、高見町五一)

沼田 政二郎 復興建築助成(株)取締役
 東京府在籍
 妻 ヒサ子 明一四、一〇生、京都、井口徳本
 男 正義 明四一、三三
 女 直子 明三八、五生、東京女學館出身
 女 幸枝 明三九、九生、東京女學館出身

君は京都府人沼田榮次郎の三男にして明治六年四月を以て生れ同二十三年分家して一家を創立す同三十年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し臺灣銀行に入り庶務課長に進み同三十九年後藤新平爵の南滿洲鐵道會社總裁となるに及び其の秘書役兼調査役に拔擢せられ庶務課長を経て明治四十四年同社理事に擧げらるる大正三年之を辭して六十五銀行取締役に就任し東洋拓殖會社理事たりしも現時復興建築助成會社の取締役たり益裁音楽等に趣味を有す家族は尙二男(明四二、六生)あり二女素子(同三六、八生、東京女學館出身)は東京府人高平隆雄に嫁せり(東京市外千駄ヶ谷町原宿二一〇電青山七四六)

沼田 勇次郎 從五位勳五等、東京美術學校教授
 東京府在籍
 妻 セイ 明二七、四生、東京、内藤徳次郎

沼田 覺 熊本縣多額納税者、農業
 熊本縣在籍
 母 エジユ 安政五、一〇生、熊本、豊田茂十郎
 妻 キサ 明二二、一〇生、熊本、古四五一

君は熊本縣人沼田源吾の長男にして明治十七年一月を以て生れ大正四年家督を相続す農業を営み現に熊本縣多額納税者たり家族は尙三男清軒(大六、一〇生)四男美穂(同九、一〇生)五男重信(同一一、一〇生)の外妹エ(明二六、三三)及其の一子あり弟二(同二〇、三三)は其の妻ツガ(同二三、一〇生)熊本、中村直妹)と共に分家し同保(同二九、三三)も亦分家し妹リエ(同三二、二生)は熊本縣人平岡心輝に嫁し弟憲三(生年同同上)は分家兄二の養子となり(熊本、八代、吉野村)

沼田 久平 北海道多額納税者、吳服商
 北海道在籍
 妻 ハツ 明一五、一〇生、養父久平長女
 男 誠 一 明三六、一〇生

君は北海道人にして明治十年十二月を以て生れ後先代久平の養子となり同三十九年家督を相続し共に前名平治郎を改め襲名す吳服商を營み北海道多額納税者たり家族は尙三男勇藏(明四二、一〇生)四男信司(同四四、一〇生)五男正三(大三、七生)六男貞七(同六、三三)二女女子(同八、六生)三女富子(同一一、五生)四女敏子(同二四、九生)の外養妹エ(明二五、一一生)同夫竹藏(同二二、五生)兵庫、沼田藤吉弟及其三子あり長

君は東京府人沼田丈助の二男にして明治六年六月を以て生れ同二十七年家督を相續す同十二年彫刻術を修業し同二十四年岡崎雪聲に就て蠟型を修行し尋で竹内久一に就て彫刻術を修業し同二十九年美術學校教授に任ぜらる同三十六年佛國巴里アカデミー・ヂュリアン繪畫彫刻學校に入り彫刻畫學を研究し歸朝後東京美術學校教授に任じ現在に至る一推と號す(東京市外松澤町赤堤中丸六三〇)

沼野 九一 安田銀行(株)曾根崎支店長
岡山縣士族

妻 ミヨ子 明一七、七生、廣島、土居扇吉妹
女 松子 明四一、三生

君は岡山縣士族沼野義也の長男にして明治十一年七月を以て生れ同十六年家督を相續す同三十三年安田銀行に入り現時同行曾根崎支店長たり家族は尙弟三郎(明一五、七生)同妻千代(同二四、二生、岡山、土、村田冬次四女)及其子女あり姉竹(同八、六生)は岡山縣士族水谷巖に嫁し弟最一郎(同四、一生)は同縣士族杉村信成の養子とされり(大阪、豊能、豊中町)

沼間 敏朗 沼間商店、東京株式取引所取引員
東京府在籍

妻 ハナ 明一六、八生、東京、伊藤精一郎
妹 敏一 明三九、四生

君は東京府人永山美定の兄にして明治九年五月を以て生れ後先代イトの養子となり同四十五年家督を相續す沼間商店を經營し東京株式取引所一般取引員たり家族は尙二男富彦(明四二、三生)あり(東京、豊町、中六番町四六電九段二二八)

ネ之部

根尾宗四郎

勤七等、富山縣多額納稅者、庄下村長、中越銀行(株)頭取、富山合同貯蓄銀行、出町電燈各(株)取締役、富山縣在籍

妻 マツ 明一二、一生、富山、中山ミツ妹
男 行雄 大二、八生
養子 達雄 明三一、二生、長女漢子夫、石川
女 漢子 明三九、五生、養子達雄妻
梅子 明四四、二生

根木仲治郎

濱松委託(株)取締役、静岡縣在籍

妻 健一郎 明三三、六生、養父清吉長女
男 健一郎 明三七、一生、長男健一郎妻、靜岡、山下保治妹
女 たつ 明三三、六生

君は静岡縣人中村清太郎の二男にして万延元年三月を以て生れ先代清吉の養子となり明治二十九年家督を相續す現に濱松委託會社取締役に擧げられ曾て濱松商業銀行取締役を兼ねたり家族は尙孫周一郎(大一一、四生、長男健一郎長男)同妻之助(同四、二生、同二男)あり三女かつ(明二四、九生)は静岡縣人内山嘉吉に五女ぶ(同三五、八生)は愛知縣人加藤義一に嫁せり(静岡、濱名、新津村)

根岸吉之助

根岸商事(株)社長、根岸興行部主
東京府在籍

妻 千枝子 明二七、三生、東京、遠藤榮藏二女
男 濱吉 大一、九生

根岸吉松

小川市太郎鐵店(株)監査役、釘萬鐵商、東京府在籍

妻 梅 明一九、九生、東京、山彦安藏妻
男 重光 明三八、二生
女 音美 明四一、四生、大妻高等女學校出身

根岸家は武田家の臣根岸肥前守に創まる主家没落後歸農して代々府下八王子在籍に於て先々代萬吉に至る萬吉祖業を廢して金物商を營むに及び漸次發展して明治十四年十二月を以て生れ同四十年家督を相續して産を積み富家今日の礎を築く君は先代吉松の長男にして監査役たり家族は尙二男和一(明四四、六生)三女福子(大四、一〇生)四女富子(同八、五生)五女貴美子(同八、一〇生)三男清治(同二、五生)あり姉むめ(明八、一生)は東京府人小川市太郎に同ゆか(同二〇、三生)は同府人田中仁兵衛に同ま(同三一、三生)は同府人鈴木三郎に嫁し妹八重(同二、一〇生)は分家し叔父新三郎(同二、五生)同妻泰(同九、一〇生、東京、土、吉田せい孫)も亦其二男三女を伴ひ分家せり(東京、四谷、鹽町二ノ一七電四谷三三八三)

根岸耕一

東京商工會議所議員、日本印刷(株)社長、日本活動寫眞(株)取締役、炭礦、秋田鐵道、日本礦業、東京活動寫眞各(株)取締役、埼玉縣在籍

根岸信

正五位、東京商科大學教授、東京府上族

根岸伴七

埼玉縣多額納稅者、農業、埼玉縣在籍

君は埼玉縣人根岸武香の長男にして明治二年十一月を以て生れ同三十五年家督を相續す農業を營み縣下の多額納稅者たり家族は尙孫信輔(大四、二生、養子憲助長男)同武郎(同五、一生、同二男)同喜夫(同九、七生、同四男)同登(同二、五生、同五男)あり弟有義(明七、一生)は分家し妹ふみ(同九、七生)は東京府

人兩宮豐次郎に嫁せり(埼玉、大里、吉見村)
參照 兩宮豐次郎、横川重次遠藤柳作の項

根岸 福彌

正五位勳四等、千葉縣師範學校校長
群馬縣在籍
妻 あい 明六、四生、群馬、川島庄右衛門
男 明三九、一一生
女 明三九、一一生
男 明三九、一一生
女 明三九、一一生
男 明三九、一一生
女 明三九、一一生

根岸 横太郎

群馬縣多額納稅者、上毛實業銀行
前橋織物各(株)取締役、農業
群馬縣在籍
妻 たけ 嘉永二、一一生、根岸倉吉長女
男 明一八、四生、群馬、渡邊利八郎
女 明一八、四生、群馬、渡邊利八郎
妻 すい 明一八、四生、群馬、渡邊利八郎
女 明一八、四生、群馬、渡邊利八郎

根岸 鍊次郎

千代田鐵工、東京動産火災保險、
東神火災保險、日佛シトロエン自
動車各(株)社長、石城炭礦(株)取
締役、掛斐川電氣、中華取引市場、
神流川水力電氣各(株)監査役
東京府土族
妻 てる 明三、六生
男 明三、六生
女 明三、六生

根岸 啓吉

山梨縣多額納稅者、有信銀行、山
梨銀行、桂川電氣、山梨縣在籍
各(株)監査役、農業、山梨縣在籍
妻 たか 明一、四生、養父一秀長女
男 明一、四生、養父一秀長女
女 明一、四生、養父一秀長女

根津 清太郎

九福商會、日東印刷、根津清商店
各(株)取締役、大阪府在籍
妻 ツネ 萬延元、五生、大阪、楠田由兵衛
男 明三六、八生、大阪、森田安松二
女 明三六、八生、大阪、森田安松二

根津 直次郎

神戸商工會議所議員、肥料商
兵庫縣在籍
妻 清 治 大、一四、一一生
男 清 治 大、一四、一一生

婦 靜 枝 明三三、三生、三男其介妻、海軍
少將志津田定一郎長女
君は東京府土族根岸勝平の二男にして安政三年七月を以て生れ明治十三年家督を相続す以て東京大學豫備門を出て現時千代田鐵工東京動産火災保險東神火災保險日佛シトロエン自動車各社長たる外前記諸會社の重役にして兼に東京鐵道會社社長日本郵船會社取締役たり家族は尚孫花香(大一一、一一生、三男其介長女)同輩(同一四、一一生、同長男)同輩(同一三、一一生、二男其介長男)同輩(同一四、一一生、同二男)の外姉妹乃(嘉永三、四生)あり(東京、赤坂、臺町五一電膏山六〇七五)
參照 森四郎の項

根來 簡二

正五位勳五等、陸軍歩兵少尉、山梨
高等工業學校教授、校長事務取扱
大阪府在籍
妻 靜 枝 大、一〇、二生
男 田鶴子 大、一〇、二生
女 田鶴子 大、一〇、二生

根來 與助

砂糖商
大阪府在籍
妻 エン 明二六、六生、京都、上田甚五郎
男 淳一郎 大五、四生
女 明二六、六生、京都、上田甚五郎

根津 理森

日本麥酒釀造(株)大阪支店長
東京府在籍
妻 けい 明一八、三生、東京、薄井龍之三
男 榮太郎 明四三、一〇生
女 喜久乃 大、二、八生

根津 啓吉

山梨縣人根津清の五男にして明治十一年十一月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す現時日本麥酒釀造會社大阪支店長たり家族は尚四女喜代(大、一〇、一〇生)五男茂雄(同一三、五生)あり(大阪、天王寺、眞法院町八四電膏南五八八九)
參照 小田切純純渡邊次郎の項

根橋 禎二

南滿洲電氣(株)取締役、南滿洲鐵
道(株)鐵道部長、青森縣土族
妻 ふさ 嘉永六、一一生、福島、渡邊與助
男 恒子 明二八、一〇生、石川、山田豐策
女 雄太郎 大、四、一一生

根本 茂每

千葉縣多額納稅者、農業
千葉縣在籍
妻 ひで 明元、五生、千葉、相川小太郎長
女 明元、五生、千葉、相川小太郎長

根本 清左衛門

千葉縣人竹内石蔵の二男にして明治十五年六月を以て生れ同四十四年先代元次郎の養子となり家督を相続す業を業とし千葉縣多額納稅者たり家族は尚長女せい子(大、六、九生)二女房子(同九、二生)三男祐仁郎(同一二、二生)三女美江子(同一三、一一生)あり(千葉、市原、東海村)

弘(明三六、一一生)あり同隆三(同一五、一〇生)は其妻ヨネ(同一三、一一生、大阪、福田増次郎三女)を伴ひ分家し同隆三(同一八、二生)は大阪府人中西秀三郎の妻となり同隆三(同一三、〇七生)は大阪府人西川甚三郎の同千代(同一三、〇三、三生)は大阪府人牧藤吉孫榮一に同秀子(同一三、九、一一生)は同府人村瀬傳兵衛長男俊郎に嫁せり(大阪、南、鏡谷西ノ町三電膏南二二五)

根立松之助

柏崎銀行(株)取締役
新潟縣在籍
妻 信 助 明四〇、八生
男 明四〇、八生
女 明四〇、八生

根津 嘉一郎

勳三等、貴族院議員、東京府多額
納稅者、日本麥酒釀造、東武鐵道
大社青島鐵道各(株)社長、富國鐵
道(五)社長、日本化學工業、
兵衛鐵道、横濱土地、西武鐵道、
南海鐵道、松屋製菓、東武鐵道、
セメント、中央開關、富士身延鐵
道、秩父鐵道、足利紡績、東北電
力、金福鐵道各(株)取締役、
株父セメント、帝國劇場各(株)監
査役、根津(名)代表社員、根津
會理事長、鐵道會社、根津
鐵道會社各社長、東京府在籍
慶應二、一一生、東京、土、村上
知充妹

根本 貫吉

日本テレシグ商會(株)事務取扱
役、東洋無線電氣電話(株)取締役
東京府在籍
妻 ツル 明二一、三生、山口、河内才三妹
男 彌生 大、二、三生

根本 眞吉

日本テレシグ商會(株)事務取扱
役、東洋無線電氣電話(株)取締役
東京府在籍
妻 ツル 明二一、三生、山口、河内才三妹
男 彌生 大、二、三生

根本 眞吉

日本テレシグ商會(株)事務取扱
役、東洋無線電氣電話(株)取締役
東京府在籍
妻 ツル 明二一、三生、山口、河内才三妹
男 彌生 大、二、三生

根本 眞吉

日本テレシグ商會(株)事務取扱
役、東洋無線電氣電話(株)取締役
東京府在籍
妻 ツル 明二一、三生、山口、河内才三妹
男 彌生 大、二、三生

根本 眞吉

日本テレシグ商會(株)事務取扱
役、東洋無線電氣電話(株)取締役
東京府在籍
妻 ツル 明二一、三生、山口、河内才三妹
男 彌生 大、二、三生

を以て生れ同四十年家督を相續し前名清吉を改め慶名才醬油醸造業を營み福島縣多額納税者にして現時前記銀行會社の重役たり兼に縣會議員郡會議員たりしこあり(福島、安達、小濱町電一)

根本仙三郎

正五位勳四等、典獄、市谷刑務所長、東京府士族
妻 登世 明一八、五生、福井、草間秀雄妹、宮城縣立高等女學校出身
養子 四郎 明三六、一生、東京、八木親民四男
女 松枝 明四三、八生

君は福井縣士族前野菊城の三男にして明治十一年十月を以て生れ同二十四年先代忠清の養子となり大正五年家督を相續す同三十年東京法學院を卒業し辯護士試験に合格し同三十五年判事に任じ古川仙臺各區裁判所判事盛岡地方裁判所判事を経て同三十八年檢事に任じ福島縣仙臺東京浦和各區裁判所兼同地方裁判所檢事に任じ同三十九年長崎島各別務所長たりしが昭和三年現職に轉ず家族は尙二女清江(大七、一生)あり(東京、牛込、市谷刑務所長官舎)
參照：草間秀雄の項

根本正

勳三等、日本鐵工(株)相談役
妻 慶應元、四生、關直女
養子 仙太郎 明一九、三生、長女伊與子夫、培玉、關根喜太郎弟
女 伊與子 明三〇、二生、養子仙太郎妻、東洋英和女學校出身

君は茨城縣人根本德孝の二男にして嘉永四年十月を以て生れ明治四十二年分れて一家を創立す夙に米國に渡りホルマント州立大學を卒業し外務省農商務省の命に依り移民地探險及商工業視察として墨國南米及印度等に渡航せしこ四回並に水戸瓦斯會社監査役旭貿易商會顧問たりしこあり又推されて衆議院議員に當選するこ三十一回に及び現時前記會社重役たり家族は尙孫正治(大七、一生)、養子仙太郎長男(同九、一生)、同長女(同順、同一、七生、同二男)同正廣(同一、五、六生、同三男)あり二女園(明三三、八生)は東京府人角谷輔清に嫁せり(東京、芝、三田四町一五)

電高輪八九〇

參照：角谷輔清の項

根本保

三菱内燃機(株)總務課主任
父 長野縣士族
妻 弘化四、五生、現戶主
繼母 てつ 明元、四生、長野、士、眞木則徳長女
妻 泰 明三〇、二生、東京、仙波二郎妹
男 勳太郎 大一一、一生

君は長野縣士族根本靜の二男にして明治二十四年二月を以て生る大正四年東京高等商業學校を卒業し現に三菱内燃機會社總務課主任たり家族は尙二女壽美子(大一一、三、九生)三女達子(同一、一〇生)弟勝三郎(明四〇、八生)あり(東京市外入新井町新井宿一三九六)

根本忠一

五十銀行(株)營業部長
妻 つう 明三〇、一生、茨城、保田圭一
養子 隆藏 明四四、四生、茨城、根本德次郎六男

君は茨城縣人根本喜太郎の二男にして明治十八年四月を以て生れ後家督を相續し前名金太郎を改む年少より五十銀行に入り現職同營業部長たり家族は尙長女茂子(大一一、二生)二女つや子(同一、一五、八生)あり姉きよ(明一四、一生)は茨城縣人荒井德次郎に嫁しよ(同一、二、三生)は同縣人橋本忠成二男忠次郎に嫁しよ(文久二、九生)は埼玉縣人小山福太郎に嫁せり(茨城、新治、上浦町)

根本富重

茨城縣多額納税者、粉商
妻 かね 明四、二生、茨城、杉森四郎介二女
男 安 明三一、七生
婦 エイ 明三一、一生、二男安妻、茨城小泉源四郎長女
男 徳 明四一、五生
女 さよ 明四四、六生

君は茨城縣人先代富重の弟にして明治三年一月を以て生れ大正九年家督を相續し前名竹松を改め慶名才醬油の重役にして千葉縣多額納税者たり家族は尙孫一郎(大一一、四生、二男安長男)同光枝(同一、三生、同二女)同京子(昭二、九生、同三女)叔父麻次郎(弘化四、二生)亡兄富重妻たま(安政五、一生、茨城、根本深衛門姪甥不可止(明一九、一生、亡兄誠敏長男)同妻ツル(同二五、五生、栃木、長谷川靖壽妹)及其子女あり長女きよ(同二七、九生)は同夫武四郎(同二六、一生、茨城、上、檜山秀三弟)と共に其一子を伴ひ分家し三女ふみ(同三六、一生)は茨城縣人根本七郎に嫁し(同二二、一生)は埼玉縣人藤宮亮に同む(同二七、九生)は神奈川縣人曾重郎二男強哉に嫁せり(茨城、久慈、河内村)

根本無外

日立銀行、清水製作所、日立電氣各株)取締役、茨城縣在籍
妻 かめ 明五、一生、茨城、土、大内均三男
養子 英夫 明二三、九生、茨城、佐藤仙三郎五男
婦 節 明三七、三生、養子英夫妻、茨城大内英雄姪

根本八兵衛

千葉縣多額納税者、神崎商會市場(株)代表取締役、農業
妻 さく 安政二、二生、千葉、澤田長右衛門長女
養子 翠 明一四、一〇生、長女さく夫、千葉、後藤辰之助二男
女 ささ 明一四、八生、養子翠妻
孫 仲 明三四、八生、養子翠長男
孫 昌 明三八、二生、養子翠二男
孫 昌彦 明四一、一生、養子翠三男
孫 さき 明四四、六生、養子翠長女

君は千葉縣人根本長八の長男にして嘉永五年八月を以て生れ明治三年家督を相續す農業を營み現時前記會社の重役にして千葉縣多額納税者たり家族は尙孫作五郎

(大三、六生、養子翠四男)あり(千葉、香取、東大戸村)

根箭治三郎

中西吳服店(株)監査役、金融業
父 治助 弘化二、八生
妻 シマ 明一四、一生、大阪、根箭捨吉二女

君は大阪府人根箭治助の長男にして明治十年十二月を以て生れ大正十四年家督を相續す金融業を營み傍ら中西吳服店監査役たり家族は尙二男重男(明四二、一〇生)三男三郎(大二、八生)あり長女花子(明三五、四生)は分家せり(大阪、天王寺、茶臼山町二九電戎五四一四)

猫田慶次郎

福岡縣多額納税者、八屋銀行(株)監査役、福岡縣在籍
妻 ヲナ 明一、一生、大分、乙部文三郎長女

君は福岡縣人猫田武平の長男にして文久元年十月を以て生れ明治二十二年家督を相續す現時八屋銀行監査役にして福岡縣多額納税者たり(福岡、築上、三毛門村)

ノ之部

乃木

元智 從四位勳六等、伯爵、陸軍騎兵中尉、東京府御族

妻

喜久子 明二、三、三、子爵野野忠萬

男

靖彦 明四三、三

女

淑子 大、六

當家は故伯爵陸軍大將乃木希典に依て家名を揚げて希典は故山口藩士にして維新の際國事に奔走して功あり明治四年陸軍少佐に任じ累進して同三十七年陸軍大將に陞る其間歩兵第十一第二第一各旅團長第二師團長臺灣總督第十一師團長等に歴補し後軍事參議官に補し學習院長を兼任す西南の役の功に依り勳四等に叙じ日清の役第一旅團長として出征し勳功あり功二級を賜はり華族に列し男爵を授けらる日露の役には第三軍司令官として旅順を攻陥し偉功を奏し勳一等功一級に叙じ同四十年伯爵に陞る大正元年九月十三日明治天皇御大葬當日靜子夫人と共に自刃して殉死す君は故子爵毛利元敏の二男にして子爵毛利元雄の弟男爵福原邦樹の兄なり明治十三年一月を以て生れ大正四年九月乃木氏を稱へ一家を創立し特旨を以て伯爵を授けらる一年志願兵となり同二年陸軍騎兵中尉に任ぜらる家族は高二男正彦(大、二、一、生)三女郁子(同、一、五、九、生)あり(山口、豊浦、長府町)

野井 横太郎

日州新聞社長兼主筆 宮崎縣在籍

養母

エツ 明二七、一〇、生、養父唯吉長女

妻

エツ 明二七、一〇、生、養父唯吉長女

君は宮崎縣人佐藤東三郎の三男にして明治十六年四月を以て生れ先代唯吉の養子となり大正四年家督を相續

す明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時日州新聞社長兼主筆たり妹キタ(明三、一、一、生)は三重縣人尾崎行雄四男行輝に嫁せり(宮崎市旭通日州新聞社内)

野内 四郎七

大分縣多額納稅者、二十三銀行(株)監査役、大分縣在籍

妻

久子 明四三、一、生、大分、堀七衛妹

男

一郎 昭二、四、生

君は大分縣人野内寛六の長男にして明治三十七年九月を以て生れ大正十五年祖父四郎七の後を襲ひ家督相續し共に前名光治を改め襲名す現に二十三銀行監査役にして大分縣多額納稅者たり家族は尙妹サ(大、三、五、生)あり叔母ロク(明一、二、三、生)は同夫惣助(同、七、五、生)、大分、河野郡太郎(同、一、一、七、三、生)は同夫諱(同、一、三、四、生)、大分、田原庸平(同、二、九、七、生)、大分、山口於菟彦妹(其子女を伴ひ同、二、三、三、二、六、二、生)は同妻幾久(同、三、三、一、二、生)、大分、南精(一、七、七、二、生)共に各分家し叔母ヤス(同、一、四、一、生)は大分縣人橋本勲に嫁せり(大分市京町)

野上 源造

從五位勳五等、福岡縣師範學校校長 岡山縣在籍

妻

周 明一〇、三、生、岡山、小山一徳叔

女

文子 明四、一、生

女

郁子 明四、一、生

君は岡山縣人野上喜多治の弟にして明治七年九月を以て生れ大正三年分家して一家を創立す現に東京高等師範學校を卒業し爾來廣島高等師範學校教授新潟縣長岡女子師範本縣第二師範各學校長等に歴任し現時福岡縣師範學校長たり(福岡市荒戸町)

野上 初太郎

茨城縣多額納稅者、煙草元賣擲業 茨城縣在籍

母

つ き 嘉永六、一、生、茨城、植田多三郎

妻 常一 明一七、一、生、茨城、栗田彌兵衛

女

せい 明四〇、一、一、生

君は茨城縣人野上榮介の長男にして明治八年十月を以て生れ同四十二年家督を相續し現時煙草元賣擲業を營つ茨城縣多額納稅者たり家族は尙二男金次郎(明四二、九、生)三男榮(同四四、一、一、生)四男林三(大、四、一、〇、生)二女ひさ(同、七、一、一、生)三女やぶ(同、一、〇、四、生)五男良介(同、一、一、七、生)あり第五郎平(明二四、五、生)は茨城縣人本間輪吉に嫁は五(同、三、七、六、生)、弟利三郎(同、三、七、六、生)は同縣人山田氏の養子となり妹ひろ(同、二、一、三、生)は同縣人白土宗次郎に嫁し弟利三郎(同、一、五、六、生)は分家せり(水戸市)

野上 八重治

野上機械工業(株)取締役 愛知縣在籍

妻

豐 明一六、三、生、岡山、山縣武三郎

女

芳子 明四一、七、生

君は岡山縣人野上七五郎の弟にして明治四年八月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す現に野上機械工業會社取締役たり家族は尙二男道夫(明四三、一、生)あり長女多美子(同、三、六、八、生)は岡山縣人岡萬龜雄に嫁せり(名古屋、中、御器所町荒知電二三八六)

野木 和一郎

大連油肥工業(株)専務取締役 宮崎縣在籍

妻

ヒロ 明二二、六、生、宮崎、神殿勇策五

女

光 大元、一、一、生

(※印は姻族關係)

ノ之部 乃、野(井、内、上、木)

野口卯之助 莫大小商 大阪府在籍
 母 明四、八生、兵庫、山田小平四女
 妻 明二、八、六生、大阪、草野金之助
 三女

君は大阪府人野口卯之助の長男にして明治二十七年四月を以て生れ大正十四年家督を相続す莫大小商を営む家族は尚長女貞子(大、一五、九生)弟英三(同三、三三)あり弟信次郎(明二九、一〇生)は同妻ユキ(同三三、一〇生)大阪、佐々木藤兵衛姉)及び其一男一女を伴ひ分家せり(大阪、東、瓦町四ノ四五電本局一八八四) 参照 浪石井勝次郎の項

野口榮三郎 三菱銀行(株)本店庶務 東京府土族
 妻 八重 明三、二生、日本酒造會社取締役
 役水上浩躬二女

君は高知縣土族野口榮三郎の長男にして明治十八年十二月を以て生れ同四十年家督を相続す同四十四年京都帝國大學法科大學政治學科を卒業し直に三菱銀行に入る爾來累進して小樽支店長となり現に同行本店庶務に當りける家族は尚長女倭文子(大八、六生)二男俊次(同九、八生)三男浩作(同二、九生)あり姉榮吉(明一四、一〇生)は宮城縣人菅原憲亮に妹(同二二、一〇生)は静岡縣土族秋鹿見橋四郎に嫁し弟雄(同二六、八生)は分家せり(東京、牛込、南町三〇〇電車三三〇五〇) 参照 菅原憲亮の項

野口勘三郎 ボルネオ護謨(株)取締役 佐賀縣土族
 妻 ミツ 明二、七、一一生、佐賀、土、市川
 光之助妹

君は佐賀縣土族野口勘三郎の長男にして明治二十二年十二月を以て生れ同三十四年家督を相続す同三十九年東京專門學校邦語政治科を卒業し現時ボルネオ護謨會社取締役たり家族は尚二男剛次郎(大、三、一〇生)二女早苗(同五、一〇生)あり弟次郎(明一五、一〇生)同妻キサ(同二四、五生、佐賀、川谷三三三女)は其五子を伴ひ同喜六(同二八、四生)同妻ラン(同二二、七生、佐賀、土、喜六(同二八、四生)同妻ラン(同二二、七生、佐賀、土、

古賀文一郎三女)は其五子を伴ひ夫々分家し姪昌子(大六、九生)は佐賀縣人川谷啓作の養子となり(佐賀、佐賀、高木瀬村) 参照 古賀文一郎宗田亮次の項

野口喜一郎 北海道多額納稅者、北海道釀造用器、小樽各器各(株)代表取締役、野口知恵(株)取締役、共同運輸會社、ヤマト種苗農具、北海道製糖、小樽製糖、共成各(株)監査役 北海道在籍
 父 吉次郎 明三、七生、現戸主
 妻 リウ 明二、六、七生、北海道、西館純一
 三女

君は北海道人野口吉次郎の二男にして明治二十一年九月を以て生れ現時北海道釀造用器會社代表取締役たる外前記各會社の重役を兼ね北海道多額納稅者たり家族は尚二男正二郎(大、二、一〇生)長女喜美子(同五、四生)二女知恵子(同八、四生)三男雄三郎(同二、一〇生)四男信夫(同二、一〇生)あり(小樽市) 参照 野口吉次郎の項

野口貴平 野口汽船(株)事務取締役 兵庫縣在籍
 妻 トヨ 明二、九、三三、秋田、福田松之助
 三女

君は秋田縣人野口直平の長男にして明治二十四年九月を以て生れ大正五年家督を相続す現時野口汽船會社事務取締役たり家族は尚長女フク(大五、八生)妹ヨコ(明四、八生)あり弟兼郎(同二、七、八生)は同妻ヨコ(同三、一〇生)は同妻節(同三、五、二生)秋田、照井治郎(三、一〇生)は同妻節(同三、五、二生)秋田、照井治郎(三、一〇生)を伴ひ同陽吉(同三、一〇生)は同妻テツ(同三、七、一〇生)秋田、丹波源一(一、一〇生)を伴ひ各分家し妹ヨウ(同三、五、五生)は秋田縣人栗盛吉藏に嫁せり(兵庫、武庫、本山村北畑町二八八電御影一七八四) 参照 栗盛吉藏の項

野口義三郎 野口パト、割烹業 新潟縣在籍
 妻 きよ 明二、五、五生、東京、佃平吉妹

君は新潟縣人野口佐忠治の四男にして明治二十二年四月を以て生れ同三十四年家督を相続す野口パトと稱し割烹業を営む(東京、淺草、淺草公園地六區二ノ一五號電淺草二九二五) 参照 近藤義太郎の項

野口吉次郎 北海道多額納稅者、酒造業 北海道在籍
 妻 ノイ 安政六、一〇生、石川、松田喜八
 三女

君は石川縣人西川善兵衛の四男にして西尾長次郎の兄なり安政三年七月を以て生れ先代ツルの養子となり明治十六年家督を相続す酒造業を営み北海道多額納稅者たり長女キク(明三一、一〇生)は北海道入根谷知治に嫁し三男吉三郎(同三、三三)同妻おさき(同二九、三三)北海道、西尾長次郎(四女)は分家せり(小樽市) 参照 西尾長次郎、野口喜一郎宗田亮次の項

野口銀平 秋田縣多額納稅者、秋田銀行、野口汽船各(株)取締役、金融業 秋田縣在籍
 妻 ハツ 明二、四生、秋田、外山雄八郎妹
 明二、六、一〇生、長男徳太郎妻、秋田、北島善吉長女

君は秋田縣人先代銀平の長男にして慶應元年八月を以て生れ明治二十六年家督を相続す共に慶應元年前名熊吉を改む金融業を営み現時銀行會社の重役を兼ね秋田縣多額納稅者たり家族は尚孫慶一(大、一三、一〇生)養子四郎治長男(同二、一〇生)同妻(同二、一〇生)あり(秋田、南秋田、土崎港町) 参照 野口源次郎の項

野口源次郎 埼玉縣多額納稅者、農業 埼玉縣在籍

(同三二、六生)は同縣人内藤勝に嫁せり(兵庫、武庫、打出村宮塚二二電若屋一七八) 参照 萩原菊太郎の項

妻 は ま 明八、一一生、埼玉、渡邊ト二女
 男 八郎左衛門 明三二、七生
 婦 かい 明三五、七生、長男八郎左衛門妻
 埼玉、齋藤忠三長女

君は茨城縣人島田源之助の二男にして明治二年一月を以て生れ同二十五年先代源之助の養子となり家督を相続す農業を営み現に埼玉縣多額納稅者たり長女ふく(明二五、一〇生)は茨城縣人島田治平長男喜三郎に二女静(同二九、一〇生)は東京府人山崎武兵衛弟由比に二女千枝(同三四、一〇生)は同府人鈴木徳太郎に嫁せり(埼玉、南埼玉、出羽村) 参照 山崎武兵衛の項

野口弘毅 第一銀行(株)取締役、東京貯蓄銀行、逓信會館各(株)監査役 埼玉縣在籍
 妻 はな 明一四、一〇生、東京、竹井淡如
 六女

君は埼玉縣人野口勝右衛門の長男にして明治五年八月を以て生れ大正七年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し第一銀行に入り各地支店長を歴任し其間職米の銀行業を視察し歸朝後京都横濱各支店支配人を歴任し現時同行取締役にして傍ら前記銀行會社の重役を兼ね(東京市外入新井町新井宿八景坂二二七〇電大森二八六〇)

野口幸之助 野口商店(株)社長 鹿兒島縣在籍
 妻 クラ 明六、九生、鹿兒島、兒玉登喜伯
 母 明二〇、五生

君は鹿兒島縣人野口幸太郎の二男にして嘉永六年十二月を以て生れ後分れて一家を創立し現時野口商店社長たり家族は尚孫謙治(大六、一〇生)長男幸太郎長男(同九、八生)同長女同廣子(同二一、六生)同二女同幸五郎(同二一、五生)同三男同陽子(略二、二二、二生)は徳島縣人太田正司に同芳子

野口三郎 鴻池銀行(株)南支店長 徳島縣土族
 妻 芳三郎 文久三、三三、徳島、土、賀島幾太郎弟
 母 カス 文久二、二生、祖父邦次郎長女
 妻 カタル 明二、三、九生、徳島、田村秀次郎三女

君は徳島縣土族野口邦次郎の孫にして明治十五年七月を以て生れ大正五年家督を相続す明治三十九年東京高等商業學校を卒業し大阪電燈會社に入り累進して支配人に擧げらるる後鴻池銀行に轉じ現に同行南支店長たり家族は尚二男義孝(明四四、七生)あり養妹邦春(同二八、二生)は徳島縣人太田正司に同芳子

野(口)

妻 は ま 明八、一一生、埼玉、渡邊ト二女
 男 八郎左衛門 明三二、七生
 婦 かい 明三五、七生、長男八郎左衛門妻
 埼玉、齋藤忠三長女

君は大阪府人野口卯之助の長男にして明治二十七年四月を以て生れ大正十四年家督を相続す莫大小商を営む家族は尚長女貞子(大、一五、九生)弟英三(同三、三三)あり弟信次郎(明二九、一〇生)は同妻ユキ(同三三、一〇生)大阪、佐々木藤兵衛姉)及び其一男一女を伴ひ分家せり(大阪、東、瓦町四ノ四五電本局一八八四) 参照 浪石井勝次郎の項

野口榮三郎 三菱銀行(株)本店庶務 東京府土族
 妻 八重 明三、二生、日本酒造會社取締役
 役水上浩躬二女

君は高知縣土族野口榮三郎の長男にして明治十八年十二月を以て生れ同四十年家督を相続す同四十四年京都帝國大學法科大學政治學科を卒業し直に三菱銀行に入る爾來累進して小樽支店長となり現に同行本店庶務に當りける家族は尚長女倭文子(大八、六生)二男俊次(同九、八生)三男浩作(同二、九生)あり姉榮吉(明一四、一〇生)は宮城縣人菅原憲亮に妹(同二二、一〇生)は静岡縣土族秋鹿見橋四郎に嫁し弟雄(同二六、八生)は分家せり(東京、牛込、南町三〇〇電車三三〇五〇) 参照 菅原憲亮の項

野口勘三郎 ボルネオ護謨(株)取締役 佐賀縣土族
 妻 ミツ 明二、七、一一生、佐賀、土、市川
 光之助妹

君は佐賀縣土族野口勘三郎の長男にして明治二十二年十二月を以て生れ同三十四年家督を相続す同三十九年東京專門學校邦語政治科を卒業し現時ボルネオ護謨會社取締役たり家族は尚二男剛次郎(大、三、一〇生)二女早苗(同五、一〇生)あり弟次郎(明一五、一〇生)同妻キサ(同二四、五生、佐賀、川谷三三三女)は其五子を伴ひ同喜六(同二八、四生)同妻ラン(同二二、七生、佐賀、土、喜六(同二八、四生)同妻ラン(同二二、七生、佐賀、土、

古賀文一郎三女)は其五子を伴ひ夫々分家し姪昌子(大六、九生)は佐賀縣人川谷啓作の養子となり(佐賀、佐賀、高木瀬村) 参照 古賀文一郎宗田亮次の項

野口喜一郎 北海道多額納稅者、北海道釀造用器、小樽各器各(株)代表取締役、野口知恵(株)取締役、共同運輸會社、ヤマト種苗農具、北海道製糖、小樽製糖、共成各(株)監査役 北海道在籍
 父 吉次郎 明三、七生、現戸主
 妻 リウ 明二、六、七生、北海道、西館純一
 三女

君は北海道人野口吉次郎の二男にして明治二十一年九月を以て生れ現時北海道釀造用器會社代表取締役たる外前記各會社の重役を兼ね北海道多額納稅者たり家族は尚二男正二郎(大、二、一〇生)長女喜美子(同五、四生)二女知恵子(同八、四生)三男雄三郎(同二、一〇生)四男信夫(同二、一〇生)あり(小樽市) 参照 野口吉次郎の項

野口貴平 野口汽船(株)事務取締役 兵庫縣在籍
 妻 トヨ 明二、九、三三、秋田、福田松之助
 三女

君は秋田縣人野口直平の長男にして明治二十四年九月を以て生れ大正五年家督を相続す現時野口汽船會社事務取締役たり家族は尚長女フク(大五、八生)妹ヨコ(明四、八生)あり弟兼郎(同二、七、八生)は同妻ヨコ(同三、一〇生)は同妻節(同三、五、二生)秋田、照井治郎(三、一〇生)は同妻節(同三、五、二生)秋田、照井治郎(三、一〇生)を伴ひ同陽吉(同三、一〇生)は同妻テツ(同三、七、一〇生)秋田、丹波源一(一、一〇生)を伴ひ各分家し妹ヨウ(同三、五、五生)は秋田縣人栗盛吉藏に嫁せり(兵庫、武庫、本山村北畑町二八八電御影一七八四) 参照 栗盛吉藏の項

野口義三郎 野口パト、割烹業 新潟縣在籍
 妻 きよ 明二、五、五生、東京、佃平吉妹

君は新潟縣人野口佐忠治の四男にして明治二十二年四月を以て生れ同三十四年家督を相続す野口パトと稱し割烹業を営む(東京、淺草、淺草公園地六區二ノ一五號電淺草二九二五) 参照 近藤義太郎の項

野口吉次郎 北海道多額納稅者、酒造業 北海道在籍
 妻 ノイ 安政六、一〇生、石川、松田喜八
 三女

君は石川縣人西川善兵衛の四男にして西尾長次郎の兄なり安政三年七月を以て生れ先代ツルの養子となり明治十六年家督を相続す酒造業を営み北海道多額納稅者たり長女キク(明三一、一〇生)は北海道入根谷知治に嫁し三男吉三郎(同三、三三)同妻おさき(同二九、三三)北海道、西尾長次郎(四女)は分家せり(小樽市) 参照 西尾長次郎、野口喜一郎宗田亮次の項

野口銀平 秋田縣多額納稅者、秋田銀行、野口汽船各(株)取締役、金融業 秋田縣在籍
 妻 ハツ 明二、四生、秋田、外山雄八郎妹
 明二、六、一〇生、長男徳太郎妻、秋田、北島善吉長女

君は秋田縣人先代銀平の長男にして慶應元年八月を以て生れ明治二十六年家督を相続す共に慶應元年前名熊吉を改む金融業を営み現時銀行會社の重役を兼ね秋田縣多額納稅者たり家族は尚孫慶一(大、一三、一〇生)養子四郎治長男(同二、一〇生)同妻(同二、一〇生)あり(秋田、南秋田、土崎港町) 参照 野口源次郎の項

野口源次郎 埼玉縣多額納稅者、農業 埼玉縣在籍

(同三二、六生)は同縣人内藤勝に嫁せり(兵庫、武庫、打出村宮塚二二電若屋一七八) 参照 萩原菊太郎の項

妻 は ま 明八、一一生、埼玉、渡邊ト二女
 男 八郎左衛門 明三二、七生
 婦 かい 明三五、七生、長男八郎左衛門妻
 埼玉、齋藤忠三長女

君は茨城縣人島田源之助の二男にして明治二年一月を以て生れ同二十五年先代源之助の養子となり家督を相続す農業を営み現に埼玉縣多額納稅者たり長女ふく(明二五、一〇生)は茨城縣人島田治平長男喜三郎に二女静(同二九、一〇生)は東京府人山崎武兵衛弟由比に二女千枝(同三四、一〇生)は同府人鈴木徳太郎に嫁せり(埼玉、南埼玉、出羽村) 参照 山崎武兵衛の項

野口弘毅 第一銀行(株)取締役、東京貯蓄銀行、逓信會館各(株)監査役 埼玉縣在籍
 妻 はな 明一四、一〇生、東京、竹井淡如
 六女

君は埼玉縣人野口勝右衛門の長男にして明治五年八月を以て生れ大正七年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し第一銀行に入り各地支店長を歴任し其間職米の銀行業を視察し歸朝後京都横濱各支店支配人を歴任し現時同行取締役にして傍ら前記銀行會社の重役を兼ね(東京市外入新井町新井宿八景坂二二七〇電大森二八六〇)

野口幸之助 野口商店(株)社長 鹿兒島縣在籍
 妻 クラ 明六、九生、鹿兒島、兒玉登喜伯
 母 明二〇、五生

君は鹿兒島縣人野口幸太郎の二男にして嘉永六年十二月を以て生れ後分れて一家を創立し現時野口商店社長たり家族は尚孫謙治(大六、一〇生)長男幸太郎長男(同九、八生)同長女同廣子(同二一、六生)同二女同幸五郎(同二一、五生)同三男同陽子(略二、二二、二生)は徳島縣人太田正司に同芳子

野口三郎 鴻池銀行(株)南支店長 徳島縣土族
 妻 芳三郎 文久三、三三、徳島、土、賀島幾太郎弟
 母 カス 文久二、二生、祖父邦次郎長女
 妻 カタル 明二、三、九生、徳島、田村秀次郎三女

君は徳島縣土族野口邦次郎の孫にして明治十五年七月を以て生れ大正五年家督を相続す明治三十九年東京高等商業學校を卒業し大阪電燈會社に入り累進して支配人に擧げらるる後鴻池銀行に轉じ現に同行南支店長たり家族は尚二男義孝(明四四、七生)あり養妹邦春(同二八、二生)は徳島縣人太田正司に同芳子

野(口)

野口 遵

山陽中央水電、大嶺無煙炭礦、朝野水電、日本水電、匹見川水力工業各社社長、日本窒素肥料(株)専務取締役、鮮南銀行、五ヶ瀬川電力、海外拓殖、旭硝子、出雲電氣、宇治川電氣各(株)取締役、日本鑛山(株)監査役、廣島縣士族長女、嘉永三、一、二生、石川、伊藤富喜

君は廣島縣士族野口之布の長男にして明治六年七月を以て生れ同三十一年家督を相続す同二十九年帝國大學工科大学を卒業し實業界に入り現に山陽中央水電會社々長たる外前記諸會社の重役たり家族は尙二男清(大六、四生)弟餘波(明一七、二生)同妻あき(同三二、九生、神奈川、山野繁助妹)及其間に二子あり(廣島市八丁堀二八ノ二)

額納稅者たり家族は尙姉光(明一四、二生)及其一女妹(同二二、二生)弟第實(同二四、七生)同實通(同二八、一一生)同妻圭美(同三四、八生)高知、門田馨一(同三九、一一生)及其子女あり妹丑(同一七、一一生)は高知縣人葛目銘次に同婚於(同二〇、一一生)は同縣人加賀野井久壽彦に同婚於(同二七、五生)は同縣人百田梅太郎長男に嫁せり(高知、長岡、岡野村) 參照 森澤松太郎(廣島縣士族) 廣榮製藥(株)取締役兼支配人 滋賀縣在籍

野口 庄一郎

材木商 長野縣在籍 妻 靜代 明二六、三三、長野、上原雄一郎 男 雅一郎 大四、一五、高知、濱田善義四 女 菊子 明二四、一〇、生、高知、森澤松太郎長女

君は長野縣人野口莊三郎の長男にして明治七年十月を以て生れ同三十四年家督を相続す家業を繼承して材木商を營む家族は尙三男陽一(大五、一一生)長女糸子(同七、一〇生)四男彰夫(同九、一一生)五男潤(同一一、九生)二女宏子(同一一、一一生)叔母しげ(安政五、六生)あり妹すま(明二六、四生)は長野縣人藤牧又次郎長男直樹に嫁せり(東京、深川、西平野町一五電本所四一三)

君は山陽縣人野口權植の長男にして明治二十一年六月を以て生れ同四十二年家督を相続す中學卒業後舊韓國政府官吏朝鮮總督府屬官を経て大正十年朝鮮殖産銀行に入り東京事務所主任たりしが昭和二年日本勸業銀行に轉じ現時同行秘書役たり家族は尙長女京子(大一一、一一生)あり(東京、麻布、森元町一ノ二七電青山五九〇)

野口 丈馬

高知縣多額納稅者、農業 高知縣在籍 妻 範 高延元、四生、高知、濱田善義四 女 菊子 明二四、一〇、生、高知、森澤松太郎長女

君は山陽縣人野口權植の長男にして明治二十一年六月を以て生れ同四十二年家督を相続す中學卒業後舊韓國政府官吏朝鮮總督府屬官を経て大正十年朝鮮殖産銀行に入り東京事務所主任たりしが昭和二年日本勸業銀行に轉じ現時同行秘書役たり家族は尙長女京子(大一一、一一生)あり(東京、麻布、森元町一ノ二七電青山五九〇)

君は富山縣士族野口忠五郎の長男にして明治三十一年十一月を以て生れ大正十年家督を相続す同二十三年第四高等中學校醫學部を卒業し同二十四年陸軍三等軍醫に任じ大正六年陸軍軍醫監に昇進す其間舞鶴鶴江各衛戍病院長關東都府陸軍軍醫部員廣島衛戍病院院長第十三第六各師團軍醫部長關東都府陸軍軍醫部長等に歴補じ大正八年豫備役仰付られ現時兩宮同生病院顧問たり日露戰役の功に依り功四級金雞勳章を授けらる弟清吉(明一三、一一生)は其妻を伴ひて分家し同勝文(同二八、四生)は富山縣人堀田善右衛門の養子なり長女鶴子(同三五、八生)は福島縣人小山知一に妹(同二二、三三)は神奈川縣士族市川定盛に嫁せり(西宮、大瀨)

野口 新兵衛

勸町區會議員、伊勢新、吳服商 東京府在籍 妻 美津 明三三、八生、長男幸吉妻、東京 男 幸吉 明三四、一一生 女 美津 內藤三守養子

君は東京府人野口音次郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ大正九年家督を相続す明治四十年大倉高等商業學校を卒業し玉川水道會社に入り支配人を經て現時同社事務取締役たり家族は尙養子菊枝(大三、九生)東京、原重三郎二女あり(東京、四谷、新宿二ノ八一電四谷二三四)

君は東京府人野口音次郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ大正九年家督を相続す明治四十年大倉高等商業學校を卒業し玉川水道會社に入り支配人を經て現時同社事務取締役たり家族は尙養子菊枝(大三、九生)東京、原重三郎二女あり(東京、四谷、新宿二ノ八一電四谷二三四)

野口 泰次

大阪三品商學(株)代表取締役、上海油脂工業(株)取締役、大阪府在籍 妻 カツ 明二〇、六生、大阪、鶴見豐次郎 女 知惠 明四一、二生

君は奈良縣人飯岡竹五郎の弟にして明治十一年四月を以て生れ同二十七年先代ツネの養子となり家督を相続し前名其作を改む現時大阪三品取引所第一部第二部取引員にして前記各會社の重役を兼ねる家族は尙二男泰三(大八、八生)あり(大阪、東、北久寶寺町四ノ七電船場二四三三)

君は茨城縣人野口常藏の長男にして明治四年十二月を以て生れ大正五年家督を相続し前名貞三郎を改め貞三と來數商を營み茨城縣多額納稅者たり二女きよ(明三二、四生)は千葉縣人山本謙一に妹はな(同一九、三三)は茨城縣人武田伊兵衛に嫁せり(茨城、北相馬、守谷町) 參照 武田伊兵衛の項

野口 忠藏

滋賀縣多額納稅者、酒造業 滋賀縣在籍 妻 正寛 安政二、一一生 女 千代 明三二、六生、滋賀、橋本市市長 男 正雄 大一一、六生

君は滋賀縣人先代忠藏の長男にして明治二十四年二月を以て生れ大正九年家督を相続し共に襲名して前名福藏を改む酒造業を營み滋賀縣多額納稅者たり家族は尙長女綾子(大一一、〇三)庶子淑子(同八、二生)、生母、滋賀、大塚(あり)滋賀、蒲生、櫻川村) 參照 野口正寛の項

君は滋賀縣人先代忠藏の長男にして明治二十四年二月を以て生れ大正九年家督を相続し共に襲名して前名福藏を改む酒造業を營み滋賀縣多額納稅者たり家族は尙長女綾子(大一一、〇三)庶子淑子(同八、二生)、生母、滋賀、大塚(あり)滋賀、蒲生、櫻川村) 參照 野口正寛の項

野口 忠太郎

三池銀行、三池貯蓄銀行、東邦電力各(株)監査役、福岡縣在籍 妻 進一 明一四、八生、福岡、松尾喜久藏 女 千代 明二〇、一一生、養子進一妻、福岡 孫 マツエ 横田敬妹

君は福岡縣人野口忠七の長男にして慶應元年八月を以て生れ明治十六年家督を相続す現に大牟田町會議員福岡縣會議員大牟田市會議員同委員會等に擧げられ亦衆議院議員に當選せし事あり現に前記銀行會社の重役

君は舊前橋藩士野口七之平の長男にして慶應元年十一月を以て生れ明治十六年家督を相続す幼にして上海に航しセント・セピアス・カレッジに入学を修め更に慶應義塾に轉じ同二十二年科を卒業して時事新報に擔保係長となり三井工業部管理の三重製絲工場長に擧げられ同三十年機業界視察の爲歐米に渡航せり同三十五年三井家を辭し獨立して絹絲紡績商を大阪に創め結核經營よく今日に至る運動を好み嘗て慶應義塾在學中運動會開催を主唱して同校運動會の嚆矢たりし家

野口 長六

大館銀行、東北酒造各(株)代表取締役、秋田縣在籍 妻 民治郎 明二四、一一生、長男民治郎妻、秋 女 サト 明三〇、一一生、長男民治郎妻、秋 男 彌之助 明三六、二生 女 サタコ 明四二、一一生、二男彌之助妻、秋 孫 キヌメ 明四一、一〇生

君は秋田縣人先代長六の長男にして明治三年五月を以て生れ同四十二年家督を相続し前名忠助を改む現時大館銀行東北酒造會社各代表取締役たり家族は尙孫富實(大四、三三)長男民治郎(同六、七生)同妻(同九、一一生)同三女(同八、三三)同二男(同フサ(同九、一一生)同三女)同妻(同一四、一一生)同四男(同哲平(昭二、二生)同五男)同智子(同二、九生)二男彌之助(長女)妹モト(明八、七生)及其一男一女同キヨ(同二八、一〇生)及其養子あり二女キヨ(同二八、一〇生)は秋田縣人竹内平太郎に四女タキ(同三四、二生)は同縣人金澤貞治に姪シケ(同三二、九生)妹モト長女(同縣人松下五助長男秀太郎に嫁せり(秋田、北秋田、大館町)

君は舊前橋藩士野口七之平の長男にして慶應元年十一月を以て生れ明治十六年家督を相続す幼にして上海に航しセント・セピアス・カレッジに入学を修め更に慶應義塾に轉じ同二十二年科を卒業して時事新報に擔保係長となり三井工業部管理の三重製絲工場長に擧げられ同三十年機業界視察の爲歐米に渡航せり同三十五年三井家を辭し獨立して絹絲紡績商を大阪に創め結核經營よく今日に至る運動を好み嘗て慶應義塾在學中運動會開催を主唱して同校運動會の嚆矢たりし家

は尚三男三太郎(大三、二生)孫洋一郎(昭二、四生、二男大吉長男)あり(東京、牛込、市谷砂土原町三ノ三電牛込七五三)東京出張所、東京、京橋、鹽町二電東京橋二九一、九五八)

野口寅之助 正五位勳四等、工業試験所技師兼特許局技師、東京工業試験所第四部長、長野縣在籍

野口寅之助 正五位勳五等、通信技師兼通信局技師、電氣局勤務、東京府七族

野口寅之助 正五位勳五等、通信技師兼通信局技師、電氣局勤務、東京府七族

野口尚一 從五位、東京帝國大學助教、工學部勤務、福島縣在籍

君は故陸軍中將野口坤之の長男にして明治二十一年十一月を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學工學部機械工學科を卒業し同年鐵道院技手となり大正六年東京帝國大學工學部助教に轉じ今日及ぶに英獨米各國に留學す家族は尙長女富美子(大六、九生)弟誠(昭三、四生)同母三(昭三、一七生)あり妹芳野(昭三五、九生)は東京府人福山善次郎に嫁せり(東京、芝、白金今里町九六電高橋四五七七)

野口正寛 浦生銀行株取締役、滋賀縣在籍

野口彌三 第一銀行(株)常務取締役兼大阪支店支配人、長崎縣七族

野口彌三 第一銀行(株)常務取締役兼大阪支店支配人、長崎縣七族

野口彌太雄 西村同族、日本皮革各(株)取締役、大阪府七族

野口安左衛門 京都府多額納稅者、京都商工會議所議員、榮興服商、京都府在籍

野口能毅 從六位勳四等、佐賀市長、佐賀縣七族

野口能毅 橫濱正金銀行(株)桑港支店支配人、佐賀縣七族

野坂吉五郎 中國興業(株)常務取締役、中國貯蓄銀行(株)取締役、鳥取縣在籍

野坂共之 紅葉屋商會(株)取締役、鳥取縣在籍

野崎市太郎 洋服商、東京府在籍

野崎市太郎 洋服商、東京府在籍

野崎衛七 靜岡縣多額納稅者、靜岡銀行、平尾平商店各株、監査役、藥種商

野崎貞義 從四位勳六等、男爵、豫備陸軍騎兵中尉、東京府華族

野崎小三郎 旭川商工會議所會頭、北海道多額納稅者、酒造業、北海道在籍

野崎貞利 野崎商店(株)社長、神奈川縣七族

野崎貞義 從四位勳六等、男爵、豫備陸軍騎兵中尉、東京府華族

野崎貞義 從四位勳六等、男爵、豫備陸軍騎兵中尉、東京府華族

野田 次郎 紙類商
大阪府在籍
母 野田 八、二生、大阪、科野重助三女
君は大阪府人野田嘉七の庶子にして明治四十二年七月を以て生れ大正十三年家を相續し紙類商を營む(大阪、西、新町通三ノ一三二電新町三六一五)

野田 眞一
宮城縣多額納税者、仙臺信託、松島電氣、宮城送電興業各株、取締役、金融業、宮城縣在籍
妻 明六、九生、宮城、齋藤慶七郎長女
男 明三六、一一生
女 明四〇、六生、長男謙妻、宮城、齋藤雄策孫

野田 眞三郎 資産家
兵庫縣在籍
母 野田 眞吉、兵衛衛姉
君は兵庫縣人野田眞吉の長男にして野田吉兵衛同族三郎の甥同清三の従弟なり明治四十二年四月を以て生れ大正十一年家を相續し甲南高等學校在學中にして資産家として知らるる家族は向嶽アサ(大三、二生)弟眞五郎(同五、二生)妹トク(同七、一〇生)弟眞七郎(同二、一〇生)あり姉眞三六、九生、は廣島縣人宮崎眞一(同三、九生)は京都府人梅谷香洲に嫁せり(兵庫、武庫、六甲村)

野田 俊作 衆議院議員(福岡縣選出)
福岡縣在籍
妻 明二八、一一生、男爵古市公成二女
男 平太郎 大一、六生
君は福岡縣人故野田明太郎の長男にして明治二十一年五月を以て生る父明太郎は政界に投じ明治三十一年以來衆議院議員に當選する事十回政友會副總裁に擧げられ又通信大臣商工大臣に親任せらるる君其後を承け昭和二年家を相續し大正二年東京帝國大學法科大學經濟科を卒業し南滿洲鐵道會社員内閣通運會社取締役たりしが後之を辭し大正十三年干葉縣より推されて衆議院議員に當選し昭和三年更に福岡縣より選出さるる家族は尙弟秀助(明三三、一〇生)同妻美知子(同三八、五生)福岡、安川清三郎長女、聖心女子學院出身及其一子あり姉タキ(同二一、一〇生)は熊本縣人松野福平に嫁せり(東京、麻布、村木町二九電青山八九)

野田 眞三郎 資産家
兵庫縣在籍
母 野田 眞吉、兵衛衛姉
君は兵庫縣人野田眞吉の長男にして野田吉兵衛同族三郎の甥同清三の従弟なり明治四十二年四月を以て生れ大正十一年家を相續し甲南高等學校在學中にして資産家として知らるる家族は向嶽アサ(大三、二生)弟眞五郎(同五、二生)妹トク(同七、一〇生)弟眞七郎(同二、一〇生)あり姉眞三六、九生、は廣島縣人宮崎眞一(同三、九生)は京都府人梅谷香洲に嫁せり(兵庫、武庫、六甲村)

野田 清三 野田同族會(株)取締役
兵庫縣在籍
母 明六、四生、大阪、野田吉兵衛姉、現戶主
妻 ツネ 明三七、一一生、兵庫、岡幸次郎三女、神戸女學院出身
君は大阪府人野田直藏の三男にして同廣三郎の甥同眞三郎の従兄なり明治三十三年五月を以て生る大正十五年京都帝國大學工學部建築科を卒業し現時附會社三郎の重役たり姉ヤス(明三三、一〇生)は山形縣人宮城卯三郎に嫁せり(京都、上京、中長者町通室町西入電西陣三八二三)

野田 正一 株式會社(株)社長、機械商
東京府在籍
妻 明一九、四生、東京、山田義方二女
男 精一 明四一、七生
女 明四二、一〇生
君は東京府人野田正三の長男にして明治八年九月を以て生る父正三は舊幕代官の手代にして高島嘉右衛門に就き學校鐵道及瓦斯の經營に従ふ君明治三十六年に株式會社を創立し諸機械販賣業を創め本店を東京に支店出張所を大阪札幌小倉並横須賀等に置く大正六年商店を株式會社に改め現に其の社長となり又同十三年選ばれて東京機械金物商會組合長となり昭和二年之を辭

野田 眞三郎 資産家
兵庫縣在籍
母 野田 眞吉、兵衛衛姉
君は兵庫縣人野田眞吉の長男にして野田吉兵衛同族三郎の甥同清三の従弟なり明治四十二年四月を以て生れ大正十一年家を相續し甲南高等學校在學中にして資産家として知らるる家族は向嶽アサ(大三、二生)弟眞五郎(同五、二生)妹トク(同七、一〇生)弟眞七郎(同二、一〇生)あり姉眞三六、九生、は廣島縣人宮崎眞一(同三、九生)は京都府人梅谷香洲に嫁せり(兵庫、武庫、六甲村)

野田 友三 大阪府在籍
妻 明二七、四生、大阪、武藤彌七妹
男 明四七、四生
君は大阪府人野田小七の四男にして同源治郎の弟なり明治二十一年二月を以て生れ同二十八年家を相續し割産業を營み同府多額納税者たり家族は尙二男二郎(大、一〇生)長女壽子(同二〇、四生)二女弘子(同三、三三)あり(大阪、東、京橋二ノ二八)

野田 勢次郎 從五位、麻生商店(株)常務取締役、嘉穂電機(株)取締役、和歌山縣在籍
妻 八重子 明二四、八生、子爵加納久則妹
男 健三郎 明三四、五生、和歌山、那須藤十郎三男、九州帝國大學工學部助教
君は和歌山縣人野田利七の長男にして明治十五年四月を以て生れ同十五年家を相續し同十九年東京帝國大學理學部地質學科を卒業し農商務技師に任ぜられ礦山局地質調査所に勤務し後久原礦業會社調査課長となり東京帝國大學工學部講師を兼ね現に礦生商店常務取締役たる外前記各會社の重役として知らるる傍筑紫鐵山學校講師たり姉榮(明二二、七生)は和歌山縣人那須藤十郎に嫁せり(福岡、嘉穂、飯塚町)

野田 眞三郎 資産家
兵庫縣在籍
母 野田 眞吉、兵衛衛姉
君は兵庫縣人野田眞吉の長男にして野田吉兵衛同族三郎の甥同清三の従弟なり明治四十二年四月を以て生れ大正十一年家を相續し甲南高等學校在學中にして資産家として知らるる家族は向嶽アサ(大三、二生)弟眞五郎(同五、二生)妹トク(同七、一〇生)弟眞七郎(同二、一〇生)あり姉眞三六、九生、は廣島縣人宮崎眞一(同三、九生)は京都府人梅谷香洲に嫁せり(兵庫、武庫、六甲村)

野田 友三 大阪府在籍
妻 明二七、四生、大阪、武藤彌七妹
男 明四七、四生
君は大阪府人野田小七の四男にして同源治郎の弟なり明治二十一年二月を以て生れ同二十八年家を相續し割産業を營み同府多額納税者たり家族は尙二男二郎(大、一〇生)長女壽子(同二〇、四生)二女弘子(同三、三三)あり(大阪、東、京橋二ノ二八)

野田 五郎 野田鑛務所、野田鑛五郎商店、土木建築請負業、鐵機商
妻 弘化二、一一生、野田伊右衛門長女
君は長崎縣土族野田四郎の弟にして明治二十二年八月を以て生る鑛に三井物産支店鐵材機機部主任たりしが大正六年之を辭し野田鑛五郎商店及野田鑛工務所を創設し専ら之を經營し今日に至る家族は尙長女豐子(大七、一一生)兄鑛四郎(明一三、一一生、現戶主)同妻ユキ(同二五、二生、北海道、山村忠藏二女)あり(神戸、京町六九電三宮六三三)

野田 眞三郎 資産家
兵庫縣在籍
母 野田 眞吉、兵衛衛姉
君は兵庫縣人野田眞吉の長男にして野田吉兵衛同族三郎の甥同清三の従弟なり明治四十二年四月を以て生れ大正十一年家を相續し甲南高等學校在學中にして資産家として知らるる家族は向嶽アサ(大三、二生)弟眞五郎(同五、二生)妹トク(同七、一〇生)弟眞七郎(同二、一〇生)あり姉眞三六、九生、は廣島縣人宮崎眞一(同三、九生)は京都府人梅谷香洲に嫁せり(兵庫、武庫、六甲村)

野田 友三 大阪府在籍
妻 明二七、四生、大阪、武藤彌七妹
男 明四七、四生
君は大阪府人野田小七の四男にして同源治郎の弟なり明治二十一年二月を以て生れ同二十八年家を相續し割産業を營み同府多額納税者たり家族は尙二男二郎(大、一〇生)長女壽子(同二〇、四生)二女弘子(同三、三三)あり(大阪、東、京橋二ノ二八)

野田 忠治郎 奧尼崎商會(株)社長、山陽炭礦、長陽酒造各(株)取締役
妻 明一九、一一生、山口、上、小川敬次郎妹、香川女學校出身
男 吉 大三、八生
女 三八重 明四五、二生
君は山口縣人先代忠治郎の二男にして明治十四年九月

野田 眞三郎 資産家
兵庫縣在籍
母 野田 眞吉、兵衛衛姉
君は兵庫縣人野田眞吉の長男にして野田吉兵衛同族三郎の甥同清三の従弟なり明治四十二年四月を以て生れ大正十一年家を相續し甲南高等學校在學中にして資産家として知らるる家族は向嶽アサ(大三、二生)弟眞五郎(同五、二生)妹トク(同七、一〇生)弟眞七郎(同二、一〇生)あり姉眞三六、九生、は廣島縣人宮崎眞一(同三、九生)は京都府人梅谷香洲に嫁せり(兵庫、武庫、六甲村)

野田 友三 大阪府在籍
妻 明二七、四生、大阪、武藤彌七妹
男 明四七、四生
君は大阪府人野田小七の四男にして同源治郎の弟なり明治二十一年二月を以て生れ同二十八年家を相續し割産業を營み同府多額納税者たり家族は尙二男二郎(大、一〇生)長女壽子(同二〇、四生)二女弘子(同三、三三)あり(大阪、東、京橋二ノ二八)

野田 鶴松 福岡縣多額納税者、酒造業
妻 明元、八生、養父徳太郎長女
養子 熊三郎 明三三、三三、福岡、佐田喜代次三男
君は福岡縣人小代利助の二男にして文久三年四月を以て生れ先代徳三郎の養子なり明治十九年家を相續し酒造業を營み福岡縣多額納税者たり(福岡、山門、瀬高町)

野田 眞三郎 資産家
兵庫縣在籍
母 野田 眞吉、兵衛衛姉
君は兵庫縣人野田眞吉の長男にして野田吉兵衛同族三郎の甥同清三の従弟なり明治四十二年四月を以て生れ大正十一年家を相續し甲南高等學校在學中にして資産家として知らるる家族は向嶽アサ(大三、二生)弟眞五郎(同五、二生)妹トク(同七、一〇生)弟眞七郎(同二、一〇生)あり姉眞三六、九生、は廣島縣人宮崎眞一(同三、九生)は京都府人梅谷香洲に嫁せり(兵庫、武庫、六甲村)

野田 友三 大阪府在籍
妻 明二七、四生、大阪、武藤彌七妹
男 明四七、四生
君は大阪府人野田小七の四男にして同源治郎の弟なり明治二十一年二月を以て生れ同二十八年家を相續し割産業を營み同府多額納税者たり家族は尙二男二郎(大、一〇生)長女壽子(同二〇、四生)二女弘子(同三、三三)あり(大阪、東、京橋二ノ二八)

野田 虎男 從五位勳五等、警務局長、熊本警務局長、岡山縣土族
妻 明一四、八生、養父精一長女
男 益 明三六、一一生
男 武雄 明三八、三三
女 芳子 明四〇、三三
君は岡山縣人河中當臣の二男にして明治七年十月を以て生れ同三十二年野田家の養子となる同年第三高等學

野田 眞三郎 資産家
兵庫縣在籍
母 野田 眞吉、兵衛衛姉
君は兵庫縣人野田眞吉の長男にして野田吉兵衛同族三郎の甥同清三の従弟なり明治四十二年四月を以て生れ大正十一年家を相續し甲南高等學校在學中にして資産家として知らるる家族は向嶽アサ(大三、二生)弟眞五郎(同五、二生)妹トク(同七、一〇生)弟眞七郎(同二、一〇生)あり姉眞三六、九生、は廣島縣人宮崎眞一(同三、九生)は京都府人梅谷香洲に嫁せり(兵庫、武庫、六甲村)

野田 友三 大阪府在籍
妻 明二七、四生、大阪、武藤彌七妹
男 明四七、四生
君は大阪府人野田小七の四男にして同源治郎の弟なり明治二十一年二月を以て生れ同二十八年家を相續し割産業を營み同府多額納税者たり家族は尙二男二郎(大、一〇生)長女壽子(同二〇、四生)二女弘子(同三、三三)あり(大阪、東、京橋二ノ二八)

野田 忠治郎 奧尼崎商會(株)社長、山陽炭礦、長陽酒造各(株)取締役
妻 明一九、一一生、山口、上、小川敬次郎妹、香川女學校出身
男 吉 大三、八生
女 三八重 明四五、二生
君は山口縣人先代忠治郎の二男にして明治十四年九月

野田 眞三郎 資産家
兵庫縣在籍
母 野田 眞吉、兵衛衛姉
君は兵庫縣人野田眞吉の長男にして野田吉兵衛同族三郎の甥同清三の従弟なり明治四十二年四月を以て生れ大正十一年家を相續し甲南高等學校在學中にして資産家として知らるる家族は向嶽アサ(大三、二生)弟眞五郎(同五、二生)妹トク(同七、一〇生)弟眞七郎(同二、一〇生)あり姉眞三六、九生、は廣島縣人宮崎眞一(同三、九生)は京都府人梅谷香洲に嫁せり(兵庫、武庫、六甲村)

野田 友三 大阪府在籍
妻 明二七、四生、大阪、武藤彌七妹
男 明四七、四生
君は大阪府人野田小七の四男にして同源治郎の弟なり明治二十一年二月を以て生れ同二十八年家を相續し割産業を營み同府多額納税者たり家族は尙二男二郎(大、一〇生)長女壽子(同二〇、四生)二女弘子(同三、三三)あり(大阪、東、京橋二ノ二八)

野々村吉松

印材商 東京府在籍 嘉永元、一一生、大阪、西澤市左衛門長女

野々村金五郎

開發社々長 東京府在籍 明九、三三、故貴族院議員秋月新太郎二女、學習院女學部出身

野々村佐一郎

岐阜縣多額納稅者、岐阜商工會議所顧問、岐阜縣在籍 肥後、萬延元、一一生、愛知、槽谷雄右衛門

野原七雄

岐阜縣多額納稅者、農業 岐阜縣在籍 慶應元、九生、岐阜、窪田松太郎

野原種次郎

妙見鋼索鐵道(株)社長、農業 兵庫縣在籍 嘉永四、八生、大阪、水越定右衛門

野原文四郎

長野縣多額納稅者、飯田商工會議所顧問、飯田土地建物(株)社長、伊那銀行、伊那郡酒造組合、伊那郡酒造組合、伊那郡酒造組合、伊那郡酒造組合

傍ら前記會社の重役にして岐阜縣多額納稅者たり又選ばれて岐阜商工會議所會頭に推される家族は尙弟東一郎(明三、一一生)同妻や(同三八、二生、愛知、土佐野市市姓)との間に一女の外弟堅一郎(同二九、八生)同隆一郎(同三四、一一生)あり妹(同二四、五生)は岐阜縣人田中善兵衛三男喜太郎に同(同二六、八生)は愛知縣人田島道治に嫁し庶子眞太郎(同二五、五生)は分家し同孝太郎(同三九、四生)は其兄野々村眞太郎の養子となり(岐阜市茶屋町)

野々村太三郎

牛肉商 京都府在籍 明一五、八生、徳島、安堵友吉三養子 弟 明三九、一一生、岐阜、小森松太郎 弟 明四三、四生、高知、速水幾太三

野々村亨

從五位、内閣統計局書記官、労働課長、東京府在籍 慶應三、五生、現戶主 跡見女學校出身

野々村政也

鴻池銀行、大阪貯蓄銀行、鴻池信託各(株)監査役、鴻池(名)理事兼支那人、東京府在籍 明一八、一一生、愛知、佐野治明二

君は舊島取藩士野々村伊一郎の長男にして安政二年六月を以て生れ祖父父平の後に相續り明治十一年大阪師範學校を卒業し滋賀兵庫各縣諸學校の教職並に文部吏員に歴任し同二十三年日本銀行に入り漸次昇進して同行調査局調査役局長に擧げらるる後之を辭し現時鴻池合名會社理事兼支那人にして前掲銀行會社の重役たり漢文學書道に造詣深く梅堂の雅號を以て知らる長女シズ子(明一五、四生)は法學士産業組合中央金庫理事兼見義隆に二女雅子(同二〇、二生)は工學士浦賀船渠會社重役竹内正三に三女紅枝(同二三、一一生)は法學士平安北道警察部長富永一二に四女幾重(同二七、二生)は工學士豊浦製作所技師野邊一郎に嫁せり(大阪、東、十二軒町一二電二八五五)

野橋作兵衛

日本織物加工(株)監査役、野橋(名)代表社員、京都府在籍 慶應二、九生、現戶主 明二八、一一生、大阪、浦野澄夫

野橋作太郎

京都府多額納稅者、丸竹醬油、峰山組運送、高田商店各(株)取締役野橋(名)代表社員、八作、納布縮細商、京都府在籍 明四、一〇生、養父作兵衛長女

野橋作兵衛

京都府多額納稅者、丸竹醬油、峰山組運送、高田商店各(株)取締役野橋(名)代表社員、八作、納布縮細商、京都府在籍 明四、一〇生、養父作兵衛長女

野原半三郎

長野縣多額納稅者、金物商 長野縣在籍 安政三、九生、長野、吉川芳太郎

野原三郎

長野縣人先代半三郎の長男にして明治九年七月を以て生れ同二十三年家督を相續り前名正夫を改む屋敷を綿屋と稱して數代前迄は本綿屋を商ひし後金物商に轉ず君は實業界に投じ伊那郡綿織紡績及び飯田倉庫各會社の重役たりしが現時是を辭して祖業に勤み長野縣多額納稅者たり家族は尙は二女菊(大七、一一生)三女華(同二〇、一一生)三男由也(同二三、六生)弟弘一(明一八、九生)同妻直枝(同二二、九生、長野、上松彦太郎長女)及其一男二女並に姪二子(同四四、四生、亡弟徹輔長女)あり弟大輔(同五一、二生、法政、亡弟徹輔長女)あり弟大輔(同五一、二生、法政、横濱正金銀行ロンドン支店支配人)は同妻(同三〇、三生、東京、澤藤之丞四女、お茶水高等女學校出身)を伴ひ同俊助(同二二、一〇生、法學士)は同妻(同三四、一一生、群馬、關根作三郎四女)を伴ひ夫々分家し妹イツ(同二〇、八生、飯田高等女學校出身)は長野縣人熊谷半七郎長男貞雄に同(同二七、二生、出身校同上)は同縣人池上伴吾に同(同三一、七生、出身校同上)は同縣人吉江達郎に嫁せり(長野、下伊那、飯田町)

野原林之助

大阪府多額納稅者、銃砲火藥商 大阪府在籍 明三一、一一生、神奈川、小川徳五郎長女

野淵龜吉

京都府在籍 明三一、一一生、神奈川、小川徳五郎長女

リ(東京市外淀橋町柏木九五二電四谷九七三)
參照 子爵小幡、高谷豐之助、吉田銀三郎、上
林敬太郎の項

野村 一郎
建築技師、山口縣土族
取捨役、
母 キサ 嘉永三、六生、山口、土、服部其
妻 フサコ 明一四、八生、山口、谷藤介長女
男 宏 明三九、九生
女 多 明四二、一二生
庶子 秀夫 明三四、九生、生母、河村ヤス

野村 市夫
共同野村銀行(株)取締役
大分縣在籍
養父 禮治郎 嘉永元、一一生、現戸主
妻 トメ 明二八、一二生、福岡、渡邊久次
長女
男 元 大七、一二生
君は大分縣人野村力藏の長男にして明治二十一年六月
を以て生れ同四十四年現戸主禮治郎の養子となる現時
共同野村銀行取締役たり家族は尚二男功(大一一、六
生)一女累美(同一三、七生)三男信(同一五、三三)あ
り(大分、西國東、高田町)
參照 野村力藏、野村禮治郎の項

野村 榮二
從五位勳五等、營林局技師、青森
營林局利用課長、愛知縣在籍
父 榮吉 安政四、正生、現戸主
君は愛知縣人野村榮吉の長男にして明治十七年十一月

野村悦太郎
埼玉縣多額納税者、農業
埼玉縣在籍
妻 みね 安政元、七生、埼玉、中山嘉右衛
門長女
男 善之佐 明三二、五生、現戸主
妻 しのぶ 明二二、五生、長男善之佐妻、埼
玉、野村小次郎二女
孫 理典子 明四二、一一生、長男善之佐庶子
君は埼玉縣人野村善之佐の長男にして嘉永二年四月を以
て生れ大正十四年退隱す農業を營ふ埼玉縣多額納税者
たり家族は尚孫善政(大元、八生、長男善之佐長男)同
悅保(同四、四生、同一生、同正保、長男善之佐長男)同
男 同喜美子(同七、一一生、同二女同猛(同一二、
六生)同六男 同文子(同一五、一一生、同四女あり同
清(同九、一〇生、同五男)は東京府人石塚喜代の養子
となれり(埼玉、北葛飾、櫻田村)

野村 嘉六
正五位勳三等、衆議院議員(富山
縣選出)、辯護士、富山縣在籍
妻 愛 明一四、二生、富山、前田則邦四
女
男 敬 六三、五生、九生
君は富山縣人野村政次郎の弟にして明治六年八月を以
て生れ同二十八年分れて一家を創立す同二十六年東京
法學院を卒業し判事に任ぜられしが後官を辭し辯護士
を開設し今日に及ぶ同四十五年以來衆議院議員に當選
する事六回現に立憲民政黨所屬たり富山縣會議員
富山辯護士會長等に擧げられ又商工參事官に任ぜらる
(東京、赤坂、新坂町六四電青山五七九〇)

野村 勘左衛門
福井縣多額納税者、農業
福井縣在籍

野村 喜代太
機械製作業
福井縣在籍
妻 タネ 明一、一〇生、德島、米津藤治
郎長女
男 千種 明四一、一一生
女 喜多子 大、九生
君は福井縣人野村喜三郎の長男にして明治十一年二月
を以て生れ同二十三年父喜三郎を相繼ぎ機械製作業を營む
家族は尚二男喜久夫(大元、一一生、弟爲次(明一三、
一一生)同妻豐惠(同一七、一一生、福井、袋田實現
妹)及子女あり父喜三郎(安政五、四生、弟才太(明一
五、九生)は各分家し同健吉(同二四、六生)は福井縣
人石川幸治郎妹とく養子となり伯母た(慶應三、
一〇生)は同縣人小寺門右衛門長男力松に嫁せり(大
阪、港、泉尾町中一ノ三五電櫻川二〇六)

野村 吉三郎
從四位勳二等功五級、海軍中將、
軍令部次長、和歌山縣土族
妻 秀子 明二一、九生、奈良、士、山岸哲
夫妹
男 忠 大三、一一生
君は和歌山縣土族増田喜三郎の三男にして明治十年十
二月を以て生れ先代正胤の養子となり同四十五年家督
を相繼ぎ同三十一年海軍兵學校を卒業し同三十五年海
軍少尉に任じ大正十五年海軍中將に擧進す其間海軍駐
在獨逸駐在音羽副長海軍軍務局長海軍省副官兼海軍
大臣秘書官米國大使館附八雲艦長巴里講和會議員海

野村 金之輔
地主
東京府在籍
妻 こけ 明一三、一一生、東京、富澤豐吉妹
女 八重 明三九、四生
女 ゆき 明四一、一〇生、京華高等女學校
出身
男 秀子 明四三、一二生、上野高等女學校
在籍
君は東京府人野村與七の三男にして明治十二年二月を
以て生れ同三十八年家督を相繼ぎ先代與七は初め指物
業を營み轉じて興業界に入り巨利を占め其後土地建物
への投資を以て業せり其の後の後継ぎとして今日に及
ぶ諸曲及長眼の趣味あり二女む(明三三、六生)は
同夫長太郎(同二七、三三、愛媛、伊達兼藏二男)及
同其女を伴ひ分家し姉たけ(同四、九生)は東京府人
田中伊之助に嫁せり(東京、淺草、馬道町六ノ七電淺
草七一〇)

野村 吉六
石川縣多額納税者、金澤商工會議
所議員、野村商事(名)代表者、北
都無盡(株)取締役、雜貨商
石川縣土族
妻 ト 嘉永六、七生、石川、淺野伊平長女
母 八重 明一五、二生、石川、横井常尾姉
養子 吉宣 大一一、三三、弟喜作二男
君は石川縣土族先代吉六の長男にして明治十三年三月
を以て生れ大正十二年家督を相繼ぎ前名吉二を改め慶
名す雜貨化粧品卸商を營み傍ら前記各會社の重役を兼
ね縣下の多額納税者にして推されて金澤商工會議所議
員たり(金澤、高岡町九二)

野村 久次
福井縣多額納税者、野村商店(株)
社長、茶屋、實商、福井縣在籍
妻 久二 明二六、一一生、野村商店(株)監査
役
男 久二 明三四、六生、二男久二妻、福岡、
高田宗次郎四女
君は福井縣人野村久壽の五男にして安政四年六月を以
て生れ明治十六年家督を相繼ぎ前名久二郎を改む茶屋
と稱し實商を營み傍ら野村商店を創設し現に其社長に
して同縣多額納税者にして知らるる家族は尚孫傳藏(大
八、一二生、二男久二長男)同コシ(同一、一一生、同長
女)同トモ(同一三、三三、同二女)同安衛門(同一四、
一一生、同三男)あり二女タネ(明一八、一一生)は同夫
久二郎(同一七、六生、福岡、野村久七五男)と共に
其二男を伴ひ三女カメ(同一三、一一生)は同夫久七(同
二、二生、福岡、野村久兵衛二男)と共に三男久十
郎(同一八、一一生)は同妻キヨ(同三三、二生、福岡、
野村久七郎長女)及其一男二女を伴ひ四男久二郎次(同三
〇、八生)は同妻シヅエ(同三七、一一生、福岡、桑
野芳輔二女)と共に妹タマ(慶應元、一一生)は同夫久
八(元治元、一一生、福岡、光安喜三三男)と共に其二女
を伴ひ各分家し五男久三次(明三三、六生)六男久二松

野村 久太郎
繪具染料商
愛知縣在籍
妻 ひで 明三〇、三三
男 久一郎 明三〇、三三
女 しのぶ 明三一、四生、長男久一郎妻、愛
知、川合廣太郎妹
女 ふみ子 明三二、八生
女 そめ子 明三七、八生
君は愛知縣人野村久左衛門の長男にして明治五年六月
を以て生れ同十五年家督を相繼ぎ繪具染料と稱し繪具染料
商を營む家族は尚孫英一(大一一、七生、長男久一郎
長男)同喜久子(昭二、一〇生、同長女あり二男二郎
(明三四、一二生)は分家し姉せい(文久三、六生)も亦
其子女を伴ひ分家し同さう(明三、二生)は愛知縣人岡
瀬芳太郎に嫁せり(名古屋、西、堀詰町一六二電西一
〇〇八)

野村 慶二
共新運輸(株)監査役、中井新右門
酒店支配人、東京府在籍
妻 い 明一四、九生、東京、村田善吉二
女
男 誠 明三四、一二生
女 淑子 明三七、一一生
男 泰 明四〇、一一生
女 愛子 明四三、一〇生
女 喜以子 明四五、七生
君は東京府人小野源七の二男にして明治八年九月を以
て生れ先代なみの養子となり後家督を相繼ぎ現時中井
新右門酒店の支配人にして傍ら共新運輸會社監査役た
り家族は尚四女慶子(大四、一一生)三男順(同六、二生)あ

通三條下ル電下四一八六

野村清右衛門

野村清右衛門 靜岡縣多額納稅者、清水銀行(株) 取締役、靜岡縣在籍

妻 ひさ 明八、四生、養父清右衛門長女 養子 清 明二五、二生、長女さく夫、靜岡、菊地淺吉四男

野村清藏

野村清藏 野村(名)代表社員 東京府在籍

妻 うの 明五、二生、大阪、大村才助長女 養子 五 明二六、三三、長女愛子夫、靜岡、木内七兵衛五男

野村鶴治郎

野村鶴治郎 組組長 愛知縣在籍

妻 あい 長女 明二二、二生、愛知、大野元右衛門 養子 清 明三八、三三、明四〇、一一生

野村徳次郎

野村徳次郎 山口縣多額納稅者 山口縣在籍

妻 セイ 明九、五生、廣島、龜尾秀吉長女 養子 健太郎 明四一、一一生、明三三、一一生、福岡、加治房太郎

野村徳七

野村徳七 貴族院議員、ホルネオ護謨工業(株)社長、野村銀行、泉尾土地、編島紡績、大阪瓦斯、大阪運河、海外興業各(株)取締役、京都商事、日華紡績、王子製紙、杉村倉庫、野村證券各(株)監査役、野村(名)社長、大阪府在籍

五男正五郎(同三七、七生)は前記二男市太郎の選定相續人となり孫雪子(大元、二生、七男誠助長女)は更に其選定相續人となり(東京市外品川町藤師町一三三電高輪九四三)

野村千治郎

野村千治郎 山田商店(株)取締役代表 兵庫縣在籍

妻 むの 明二〇、一〇生、兵庫、川角みつ 養子 茂 明四三、九生、兵庫、山本文次郎

野村専次

野村専次 ソース及食料品製造販賣業 大阪府在籍

妻 カウ 明二八、七生、大阪、厚見義太郎 養子 早苗 大七、六生

野村外吉

野村外吉 都の花、マスト石鹸本舗、化粧品 雜貨貿易商、大阪府在籍

妻 きく 衛妹 明一八、一〇生、大阪、山田治兵衛 養子 義太郎 明三八、九生

野村半三郎

野村半三郎 野村(株)代表社員、絲商 大阪府在籍

妻 俊子 明二一、一一生、京都、朝尾春直 養子 浩一郎 大八、一一生

野村彦藏

野村彦藏 宮崎縣多額納稅者、西諸貯蓄銀行(株)取締役、農業、宮崎縣在籍

妻 ヤナキ 明一三、六生、宮崎、西山伊之助 養子 綱男 明三〇、一一生、長女キク夫、宮崎、鬼塚棟五三男

野村尚

野村益三

野村益三 從三位勳三等、子爵、貴族院議員 東京府華族

妻 美利 明一八、一〇生、鹿兒島、士、毛 親共 明三七、一一生、從五位 親寛 明四〇、一一生、女子學習院出身 親雄 明四一、四生

君は茨城縣人野村太三郎の長男にして明治十一年四月を以て生れ同二十二年家督を相續し後襲名して前名錦之助を改む現時常磐銀行取締役の外前記會社の重役に於て砂糖商を營む兼に土浦農商銀行重役たりし事あり

野村大藏

野村大藏 撫順炭販賣(株)取締役、三菱商事(株)營業部副社長、東京府在籍

妻 千代 明二九、一一生、岡山、則武富次郎 養子 啓一 大五、三三

野村辰太郎

野村辰太郎 越中絹織物(株)監査役 富山縣在籍

妻 しげ 明九、三三、富山、八谷五郎兵衛 養子 外代雄 明三四、一一生

野村爲吉

野村爲吉 岡橋(株)常務取締役 大阪府在籍

妻 高子 明一五、一一生、京都、土、岩橋 養子 元長 明四〇、一〇生、長男惠一郎妻、東京、初見嘉四郎五女

野村秀吉

野村秀吉 上總銀行(株)取締役 千葉縣在籍

妻 ひさ 明二、四生、千葉、平野伊之吉二 養子 惠一郎 明三〇、四生

野村益三

野村益三 從三位勳三等、子爵、貴族院議員 東京府華族

妻 美利 明一八、一〇生、鹿兒島、士、毛 親共 明三七、一一生、從五位 親寛 明四〇、一一生、女子學習院出身 親雄 明四一、四生

(※印は姻族關係)

(※印は姻族關係)

當家は先代靖より顯る靖は舊山口藩士にして維新の際王事に盡瘁し明治四年宮内權大丞に任じ爾來神奈川縣令縣選監選信次官等に歴任し同二十年華族に列じ子爵を授けらる後駐佛特命全權公使内務大臣選信大臣樞密院顧問官等に歴任せり君は其長男にして入江貫一野村省吾の兄なり明治八年三月を以て生れ同四十二年農務司同十四年以來貴族院議員に當選するこ三回現に其任に在り家族は尙三男親正(大元、九生)四女代枝(同六、一生)五女美枝子(同七、一生)六女淑枝(同八、一生)あり姉久子(明元、九生)は子爵本野盛一先代一郎に妹冬子(同二、一生)は山口縣士族妻木栗造に同初子(同二、一生)は海軍大佐松岡靜雄に嫁せり(東京、四谷、東信濃町一〇電四谷四四〇一)參照 子爵本野盛一、入江貫一、妻木栗造、野村省吾の項

野村又兵衛

和歌山縣多額納稅者、農業
和歌山縣在籍
弘化四、九生、和歌山、辻村宗兵衛二女
妻 よね 明二六、一一生
正一郎 明三二、一〇生、長男正一郎妻、なを 和歌山、野村芳藏長女
女 すみ江 明四〇、五生
りつ 大二、三生

君は和歌山縣人野村八郎の二男にして慶應二年六月を以て生れ明治三十年家督を相繼ぎ前名岩吉を改む農業を營み和歌山縣多額納稅者たり家族は尙孫佐吉郎(大元、三生、長男正一郎長男)同佳三(同五、五生)同三男あり二男哲治郎(明二九、四生)は和歌山縣人野村シに三男修三郎(同三三、一生)及弟常藏(同二〇、二生)は同縣人久保田三郎の養子となり同芳藏(同二、四生)は同妻たき(同二、七生)と和歌山、野村太兵衛妹及其一男を伴ひ分家し長女喜代(同三五、一〇生)は前記弟芳藏長男長太郎に嫁せり(和歌山、日高、御坊町)參照 岩瀬戸健三(山本且三郎)の項

野村元五郎

野村銀行、勝山野村銀行各(株)頭取、野村證券各(株)取締役
兵庫縣在籍
妻 夏 明二七、七生、大阪、加賀正太郎
男 博 大六、一一生

野村素一

從四位勳四等功五級、男爵、陸軍歩兵中佐、山口縣華族
妻 スミ 嘉永二、正生、山口、土、伊藤市右衛門二女
明二六、九生、東京、山田桂太郎
母 錫 二女
男 晋 城 明四五、一一生

野村盛康

正五位勳四等、廣島稅務監督局長
山口縣士族
妻 陸 雄 明二九、九生、東京帝國大學農學部出身、南米伯利西爾國駐在
男 隆 明三〇、一〇生、二男駿吉妻、東京、松方正作長女
明三〇、一〇生、二男駿吉妻、東京、松方正作長女

野村龍太郎

正三位勳二等、工學博士、錦鷺閣祇園、南武鐵道各(株)社長、湘南電氣鐵道(株)取締役會長
東京府士族
妻 龜 久 明八、八生、東京、山田喜彦養母
男 隆 明二九、九生、東京帝國大學農學部出身、南米伯利西爾國駐在
男 隆 明三〇、一〇生、二男駿吉妻、東京、松方正作長女

野村禮治郎

大分縣多額納稅者、共同野村銀行(株)頭取、農業、大分縣在籍
妻 彌 養 始 明一八、一〇生、高知、土、田中亨二女
男 繁 太郎 明四一、三生

野村六助

土佐高知縣、佐川醸造各(株)取締役、高知縣在籍
妻 狐 養 始 明一八、一〇生、高知、土、田中亨二女
男 繁 太郎 明四一、三生

野村吉兵衛

愛媛縣多額納稅者
妻 コシエ 明一〇、九生、愛媛、佐田都太司妹
男 定 敏 明三一、六生
明三三、二生、長男定敏妻、東京、淺井記博妹
女 コユキ 明三三、二生、長男定敏妻、東京、淺井記博妹

野村禮治郎

大分縣多額納稅者、共同野村銀行(株)頭取、農業、大分縣在籍
妻 彌 養 始 明一八、一〇生、高知、土、田中亨二女
男 繁 太郎 明四一、三生

野村六助

土佐高知縣、佐川醸造各(株)取締役、高知縣在籍
妻 狐 養 始 明一八、一〇生、高知、土、田中亨二女
男 繁 太郎 明四一、三生

野村吉兵衛

愛媛縣多額納稅者
妻 コシエ 明一〇、九生、愛媛、佐田都太司妹
男 定 敏 明三一、六生
明三三、二生、長男定敏妻、東京、淺井記博妹
女 コユキ 明三三、二生、長男定敏妻、東京、淺井記博妹

野村洋三

横濱商會議所議員、南和公司、ホテルニューグランド各(株)取締役、大木美術(資)代表社員、サムライ商會、美術并家具商
岐阜縣在籍
妻 ミチ 明八、八生、神奈川、川邊儀三郎妹
男 洋 一郎 明三四、六生
富美子 明四三、五生

野村力藏

大分縣多額納稅者、共同野村銀行(株)常務取締役、大分縣農工銀行大分銀行、豐中製糸各(株)取締役、大分證券(株)監査役、大分縣在籍
妻 ミチ 明二、一〇生、大分、野村禮治郎姉
男 金 司 明三三、一一生
男 勇 明三八、一一生
女 サコ 明四〇、五生
女 ヤエ 明四三、五生

君は東京府人野村嘉七の長男にして文久二年二月を以て生れ明治十年家督を相繼ぎ洋酒食品輸入商を營み勝前記會社の重役たり家族は尙養子ヒデ子(大元、一〇生、東京、清水儀三郎長女)あり(東京、本郷、元町二ノ六〇)

君は大分縣人野村健藏の二男にして明治三年八月を以て生れ先代ステの養子となり同三十四年家督を相繼ぎ現時前記各會社重役にして縣下の多額納稅者たり長男市夫(明二一、六生)は大分縣人野村禮治郎の養子となり二男菊治(同二六、三三)は分家し三女ミズ(同三一、

二生)は岐阜縣人星野信夫に嫁せり(大分、西國東、高田町)參照 野村市夫、野村禮治郎の項
君は舊大垣藩上野村機長の長男にして安政六年一月を以て生れ明治三十二年家督を相繼ぎ先是同十四年東京大學理學部土木工學科を卒業し東京府御用掛鐵道一等技師を経て同二十九年鐵道事業視察の爲歐米各國に派遣され同三十一年歸朝し同三十九年臨時鐵道局有準備局長の職に就き同四十四年再び歐米に派遣せられ英國に於て開闢の西伯利亞經由國際旅客交通會議に參列しつて歐米の鐵道事業を視察し大正二年鐵道院副總裁に任ぜられ同年南滿洲鐵道會社總裁に轉じ同三年退職後大湊鐵業會社社長となり同八年再び南滿洲鐵道會社社長に推され同十年辭職す其他土木學會、長帝國鐵道協會、長にも當選し現時錦鷺閣祇園鐵道會社社長にして傍ら前記各會社重役たり家族は尙孫美智子(大元、二生、二男駿吉長女)同正吉(同二、一生、同長男)同達次(同二、一生、同二男)同亮三(同二、一生、同三男)あり三女美惠子(同三三、六生、女子學習院出身)は東京府人五代龍作長男友邦に四女壽惠子(同三六、八生、出身校同上)は同府士族赤星鐵馬弟喜介に亡弟次郎長女愛子(同二七、五生)は男爵大森鐘一長男住一に妹ひる(文久二、六生)は岐阜縣士族戸田鏡之助に嫁じ亡弟次郎長男得(明三〇、四生)は分家せり(東京、赤坂、新坂町三五電青山五四七〇)參照 赤星鐵馬、大森佳一、五代龍作、戸田鏡之助、松方正作の項

君は山口縣士族野村恒造の長男にして明治十六年七月を以て生れ大正九年家督を相繼ぎ明治四十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し同四十二年稅務監督官補に任ぜられ現時廣島稅務監督局長たり家族は尙二男義茂(大元、一生)長女純子(同七、三三)二女悦子(同二〇、一生)あり叔父虎雄(元治元、四生)は同妻トモ(明一五、四生、山口、世良德壽二女)及其八男二女を伴ひ同華造(同二五、四生)同妻さし(同二〇、三三、東京、宇梶利近三女)は其一男三女を伴ひ各分家し從政官三三、一生、叔父虎雄長女)は山口縣人吉田修三二男文熊に叔母ケフ(同七、九生、京都高等女學校出身)は東京府人武和三郎に嫁せり(廣島市稅務監督局官舎)參照 武和三郎の項

野村保之輔

日本加工織布(株)事務取締役
妻 周 助 文久三、一一生、現戶主
母 ムメ 明元、四生、埼玉、鎌田卯三郎姪
妻 シゲ 明一八、二生、埼玉、野本三之助
女 周 三 大三、四生
男 國 子 明四一、一一生
明四三、八生

野村與七郎

マンロー商會(株)取締役、洋酒食料品輸入商、東京府在籍
妻 周 助 文久三、一一生、現戶主
母 ムメ 明元、四生、埼玉、鎌田卯三郎姪
妻 シゲ 明一八、二生、埼玉、野本三之助
女 周 三 大三、四生
男 國 子 明四一、一一生
明四三、八生

野本三之助

野本家は古くより武州加須町に在り代々地主として...

野本清一

君は新潟縣人野本清平の長男にして明治四年二月を以て...

野本善三郎

君は東京府人野本傳七の二男にして明治九年四月を以て...

野守廣

君は福岡縣人平山源吾の三男にして明治九年四月を以て...

野依次郎

君は福岡縣人現戸主野依辰治の弟にして川合三治の甥...

野依辰治

君は福岡縣人野依範治の長男同次郎の兄河谷三治の甥...

同三十八年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し三井物産會社に入り...

野依秀一

君は大分縣人野依幸藏の二男にして明治十八年七月を以て...

野依克藏

君は和歌山縣人野呂鏡藏の弟にして文久三年十一月を以て...

野依廣吉

君は和歌山縣人野呂鏡藏の弟にして文久三年十一月を以て...

君は三重縣人野呂伊兵衛の弟にして明治十二年三月を以て...

野呂伊藏

君は三重縣人野呂伊兵衛の弟にして明治十二年三月を以て...

野呂克藏

君は和歌山縣人野呂鏡藏の弟にして文久三年十一月を以て...

野呂廣吉

君は和歌山縣人野呂鏡藏の弟にして文久三年十一月を以て...

君は岐阜縣人野呂助の長男にして慶應元年二月を以て生れ明治三十六年家督を相続す...

野呂勇之助

母 まさ 父 久元、四生、神奈川、平本峰松

妻 敬 父 久元、四生、神奈川、平本峰松

妻 敬 父 久元、四生、神奈川、平本峰松

妻 敬 父 久元、四生、神奈川、平本峰松

妻 敬 父 久元、四生、神奈川、平本峰松

妻 敬 父 久元、四生、神奈川、平本峰松

妻 敬 父 久元、四生、神奈川、平本峰松

妻 敬 父 久元、四生、神奈川、平本峰松

妻 敬 父 久元、四生、神奈川、平本峰松

妻 敬 父 久元、四生、神奈川、平本峰松

妻 敬 父 久元、四生、神奈川、平本峰松

妻 敬 父 久元、四生、神奈川、平本峰松

妻 敬 父 久元、四生、神奈川、平本峰松

君は岐阜縣人能島達三の長男にして明治十三年五月を以て生れ同三十八年祖父平左衛門の後を襲ひ家督を相続す...

能島進

母 サイ 父 安政四、九生、廣島、光谷森蔵

妻 敬 父 安政四、九生、廣島、光谷森蔵

妻 敬 父 安政四、九生、廣島、光谷森蔵

妻 敬 父 安政四、九生、廣島、光谷森蔵

妻 敬 父 安政四、九生、廣島、光谷森蔵

妻 敬 父 安政四、九生、廣島、光谷森蔵

妻 敬 父 安政四、九生、廣島、光谷森蔵

妻 敬 父 安政四、九生、廣島、光谷森蔵

妻 敬 父 安政四、九生、廣島、光谷森蔵

妻 敬 父 安政四、九生、廣島、光谷森蔵

妻 敬 父 安政四、九生、廣島、光谷森蔵

妻 敬 父 安政四、九生、廣島、光谷森蔵

妻 敬 父 安政四、九生、廣島、光谷森蔵

君は高知縣人山本鹿太郎の弟にして明治十年九月を以て生れ後先代縫之助の養子となり大正四年家督を相続す...

能勢縫之助

妻 春 父 明一五、三生、養父縫之助長女

妻 春 父 明一五、三生、養父縫之助長女

妻 春 父 明一五、三生、養父縫之助長女

妻 春 父 明一五、三生、養父縫之助長女

妻 春 父 明一五、三生、養父縫之助長女

妻 春 父 明一五、三生、養父縫之助長女

妻 春 父 明一五、三生、養父縫之助長女

妻 春 父 明一五、三生、養父縫之助長女

妻 春 父 明一五、三生、養父縫之助長女

妻 春 父 明一五、三生、養父縫之助長女

妻 春 父 明一五、三生、養父縫之助長女

妻 春 父 明一五、三生、養父縫之助長女

君は北海道人能戸キヨの私生子にして慶應三年十月を以て生れ明治十七年家督を相続す...

能戸清五郎

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

妻 清 父 明二二、一生、長男清吉妻、北海

君は兵庫縣人能見三郎兵衛の庶子にして明治十年九月を以て生れ同二十二年分家して一家を創立す...

能見愛太郎

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 キク 父 明一七、七生、山口、土、河内山

君は石川縣人納富一郎の長男にして慶應元年九月を以て生れ明治三十二年家督を相続す...

納富一

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 次郎 父 明一七、七生、山口、土、河内山

君は山形縣人登坂右膳の長男にして明治四年六月を以て生れ同十二年家督を相続す...

登坂秀興

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

妻 貞 父 明一七、七生、山口、土、河内山

て知らる(神戸、上筒井町五ノ四四電番合二七九)

則武龜太郎

金藏業 兵庫縣在籍 妻 あさの 女 明一九、二生、岡山、河原萬助長

則武仁平

板硝子商 兵庫縣在籍 妻 養子 櫻 明四一、四生、兵庫、則武林次郎

則元由庸

勤四等、衆議院議員(長崎縣選出) 妻 勝 明七、三生、千原政氏長女

乘杉嘉壽

正五位勳四等、東京音楽學校校長 妻 玲 明二〇、一生、東京、櫻木谷讓遜

乘松彌平

二役銀行(株)事務取締役、遠江合 妻 幸子 明三九、一生、府立第二高等女學

長崎日々新聞社(株)社長、九州鐵道(株)監査役、辯護士

則元由庸

君は熊本縣士族則元可貞の弟にして文久二年二月を以て生れ明治四十四年分家して一家を創立す

乘杉嘉壽

君は富山縣人乘杉嘉壽の二男にして明治十一年十一月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す

乘松彌平

君は富山縣人乘松彌平の二男にして明治十一年十一月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す

ハ之部

士師盛貞

從五位、朝鮮總督府通信事務官、審判所長、鹿兒島縣士族 妻 シマ 明一五、四生、東京、郷田兼安妹

土生信一

和歌山染工、和歌山紡織各(株)取締役、納定染工、和歌山綿布、津川船渠、和歌山商各(株)監査役、和歌山縣在籍

羽生龜太郎

千葉縣多額納稅者、吳服商 妻 眞津 明三一、一生、和歌山、由比政子姉

羽尾勘七

群馬縣多額納稅者、羽尾商店(株)取締役、吳服商、群馬縣在籍 妻 みな 明一八、三生、養父勘七長女

羽島金三郎

從五位勳五等、鐵道局技師、札幌鐵道局工作課長、山形縣在籍 妻 賀 明四〇、九生

羽田伊之助

羽田調草(株)社長 妻 たき 明六、二生、三重、石原敬園養子

羽田義八

殖産銀行(株)取締役 妻 ナカ 明八、九生、長崎、土、岡崎柳之助長女

羽田謙治郎

廣島縣多額納稅者、割烹業、廣島縣在籍。妻、明一三、二生、廣島、西村秋作妹。女、好子、明四三、八生。養子、綾子、明三六、三生、廣島、高島盛夫庶子。

君は廣島縣人羽田政二郎の長男にして明治九年一月を以て生れ大正六年家督を相続す割烹業を營み廣島縣多額納稅者たり(廣島市船入町二二)

羽田如雲

日本食料(株)取締役、菊屋、食料品商、東京府在籍。妻、三緒、弘化四、三生、島根、土、石河正。男、八十子、明九、二生、子爵綾小路護叔母。女、謙一郎、明三三、二生。男、るり子、明四〇、四生、長男謙一郎妻、東京小野房若二女、山脇高等女學校出身。

君は東京府土族羽田均の長男にして明治五年七月を以て生れ同二十四年家督を相続す菊屋と稱し食料品商を營み傍ら日本食料會社取締役たり義理長男謙一郎長男を推さる家族は尚孫修也(大五、二生、長男謙一郎長男)あり長女絢子(明三四、八生)は埼玉縣人辯護士法學士川島憲三に養妹子也(同八、一生、島根、土、今井達雄妹)は東京府土族長谷川道典に嫁し養弟福太郎(同七、五生、島根、土、上田勘藏長男)は分家妹種の入夫とされり(東京、赤坂、一ツ木町八一、電青山三三四〇)

參照：子爵綾小路護叔母田重行養子爵綾小路正。參照：子爵綾小路護叔母田重行養子爵綾小路正。參照：子爵綾小路護叔母田重行養子爵綾小路正。

羽田忠兵衛

大阪府在籍。妻、輝、長女、明三三、二生、大阪、井上市次郎。男、博、大一二、一生。

君は大阪府人先代忠兵衛の二男にして明治三十年十月を以て生れ幼名を善次郎と稱し大正九年家督を相続す共に養子先代忠兵衛は兵庫縣藤田町の出生にして明治

治二十五年以來現住所に於て貴金屬商を營む後營業を合名組織となす君更に大正十四年株式會社に現に其の社長たり家族は尚叔母フク(明八、六生)あり(大阪、南、瓦屋町三番丁七四電南六)

羽田亨

正五位勳四等、文學博士、京都帝國大學教授、文學部勤務。妻、道代、明四三、三生。女、幸子、大二、八生。

君は京都府人吉村和の四男にして明治十五年五月を以て生れ先代信明の養子となり大正七年家督を相続す明治四十年東京帝國大學文學部文學科を卒業し大學院に入り大正二十二年京都帝國大學文學部助教授となり同三年露國に出張し同十一年文學博士の學位を受け現に同大學教授文學部勤務たり家族は尚二女綾子(大五、八生)二男卓(同八、二生)三男重(同二、一生)あり(京都、上京、丸太町三本西入新屋敷)

羽鳥顯一郎

東京株式取引所一般取引員。妻、フク、明一八、一生、神奈川、原文次。男、太郎、明四四、五生。

君は群馬縣人羽鳥幸五郎の長男にして明治十二年一月を以て生れ大正三年家督を相続す東京株式取引所一般取引員たり家族は尚三男三郎(大四、八生)長女花枝(同六、〇生)二女文江(同九、八生)四男俊雄(同二、一生)あり(東京市外品川町北品川宿三四五)

羽鳥資

群馬縣在籍。妻、久雄、明三一、六生、群馬、清水岩次郎。男、雄、明三七、五生、群馬、清水岩次郎。

羽野友二

三妻(實)參典、秘書役。妻、久任、大四、一生。女、靜子、明四五、七生。

君は福岡縣土族羽野久平の二男にして明治五年六月を以て生れ先代知顯の養子となり大正七年家督を相続す明治三十二年京都帝國大學法政學科を卒業し後三妻合資會社に入り現時同社參典にして秘書役たり家族は尚二女蘭子(大六、五生)三女君子(同七、〇生)二男知夫(同九、七生)あり養妹恒(明二、一生)は石川縣土族田中千里に嫁し同約(同六、七生)は東京府土族故石川保馬の未亡人たり(東京、赤坂、青山南町六ノ一〇三電青山二二〇三)

羽端鹿助

紀北縣在籍。妻、寛一、明三八、二生。女、恒子、明四一、七生。

君は和歌山縣人羽端清三郎の長男にして明治十一年十一月を以て生れ同四十三年家督を相続す義に紀北縣絲織會社常務取締役に任ぜられ和歌山縣參事たりしが現時同會社代表取締役に任ぜられ家族は尚二男清二(大三、一生)あり長女幸子(明三四、〇生)は和歌山縣人小林伊之助長男三郎に嫁し同約(同二、八生)は同縣人山中盈勝養子勝之助に嫁し(和歌山、那賀、馬頭町)

羽原音次郎

岡山縣多額納稅者、土木建築請負。妻、秀代、明九、六生、兵庫、齋藤幾治姪。女、綾子、明三九、三生、養子嘉次妻。

君は岡山縣人羽原源四郎の三男にして明治七年十二月を以て生れ同三十年家督を相続す土木建築請負業を營み縣下の多額納稅者たり家族は尚孫薫(大五、二生、養子嘉次妻)あり(岡山市仁王町六〇)

羽根増治郎

羽根商店(株)代表取締役、吉野自動車、瀨川電氣索道各種取締役、奈良縣在籍。妻、イト、明九、八生、奈良、中田竹治郎妹。男、三郎、明二九、四生、羽根商店(株)取締役。女、シナ、明二九、五生、長男三郎妻、奈良辻村倉吉三女。

君は奈良縣人羽根忠次郎の長男にして明治六年九月を以て生れ同十四年家督を相続す現時羽根商店代表取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尚三男忠治郎(明四三、一生)孫豊(大八、一生)長男三郎長女(同四、六生、生母、奈良、福本トコ)は大阪府人濱田、この養子となり伯父萬治郎(安政二、三生)は分家し従弟駒太(明一九、二生、奈良、吉若藤吉弟)同妻タネ(同二、一、九生、窪佐太郎二女)も亦共に分家せり(奈良、吉野、黒瀨村)

羽仁吉一

婦人の友社長、自由學園主。妻、イコ、女、明六、九生、青森、土、松岡忠隆。養子、五郎、明三四、三生、長女説夫、東京、森宗作弟。女、惠、明四一、六生。

君は山口縣土族羽仁鶴助の長男にして明治十三年五月を以て生れ大正四年家督を相続す自由學園の友を創刊し其社長となり傍ら自由學園を創設して教育界に盡す所餘なからず妻もは婦人の友社長にして著作家として知らる家族は尚孫立(昭二、二生、養子五郎長女)あり(東京市外高田町雜司ヶ谷一四八電牛込三七二八)

正雄、明三七、八生。女、文雄、明四〇、一生。男、千代、明四三、一生。

君は群馬縣人森田四郎の二男にして明治二年十一月を以て生れ後先代久一の養子となり同十六年家督を相続す現に澁川銀行頭取たり家族は尚四男敏雄(明四五、六生)五男敏雄(大三、九生)あり長女テル(明二五、七生)は群馬縣人森田壽次郎三男清に二女ヨシ(同二八、一生)は同縣人原富八長男光壽に嫁し(群馬、群馬、澁川町)

羽鳥又次郎

正五位勳四等、北海道帝國大學豫科教授、埼玉縣在籍。妻、勝春、明三八、一生。女、さ、大二、四生。

君は埼玉縣人羽鳥辰蔵の弟にして明治五年一月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立し同年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し入附來第七高等學校造士館教授同生徒監南滿醫學堂教授に歴任し現時北海道帝國大學豫科教授たり家族は尚三男隆(明四四、四生)四女みほ(大五、四生)あり二女ふみ(明三六、三生)は新潟縣人伊藤謙藏弟正人に嫁し二男博(同四一、一生)は東京府人井原ヒサの家督を相続し四女博(大六、七生)は福岡縣人田村知學の養子とされり(札幌、北海道帝國大學豫科)

羽成卯兵衛

茨城縣多額納稅者、五十銀行、茨城縣在籍。妻、猪之助、明三四、六生。男、明三五、九生。

君は茨城縣人今宮牧之助の弟にして明治六年十一月を以て生れ羽成卯兵衛の養子となり同三十七年分れて一家を創立し前名平次を改む醬油醸造業を營み現に前記銀行會社の重役に任ぜられ茨城縣多額納稅者たり家族は尚三男正(大三、六生)あり長女はな(明三二、一生)は茨城縣人箕輪盛夫に二女與志(同三三、二生)は同縣人橋本龜吉長男一三女壽(同四〇、八生)跡見女學校出身は栃木縣人相良行一に嫁し(茨城、新治、高濱)

羽深清務

三井物産(株)社員。妻、スガ、明二四、一生、新潟、保坂祐吉。女、清一郎、明四四、六生。

君は新潟縣人羽深遼八の長男にして明治十八年九月を以て生る資産家にして現時三井物産會社社員たり家族は尚二男壽太郎(大六、三生)二女マサ子(同九、三生)三女サチ子(同一二、九生)三男泰雄(同二五、八生)叔父信四郎(明八、〇生、現戸主)及其一女あり弟退治(同二三、四生)は分家せり(東京、本郷、龍岡町三四電小石川七四四一)

羽間銀太郎

金礦業。妻、ノブ、明二四、四生、東京、河村鈴之介。女、艶子、明四四、二生、御茶の水高等女學校出身。

君は富山縣人羽間巳之助の弟にして明治六年六月を以て生れ同三十二年分れて一家を創立す風に上京し金礦業加藤主馬商店に勤務して重用せられしが後獨立して開業し傍ら土地賣買を兼りて今日に至る諸曲を娛し(東京、本郷、湯島一ノ〇電下谷三七七)

羽間庄太郎

大阪府在籍。妻、キク、嘉永元、一生、羽間左右衛門長。女、ヤク、明二二、一生、大阪、田中治助長女。男、庄右衛門、明四四、一生。

君は大阪府人羽間利右衛門の孫にして明治二十年九月を以て生れ同四十二年家督を相続す同三十八年大阪商業學校を卒業し家督にして資産家たり家族は尚二男庄次郎(大九、八生)三男利男(同二三、一生)あり(大阪、西淀川、海老江町二九三電土佐堀三〇九六)

羽室龜太郎

比叡山鐵道(株)社長、愛宕山鐵道取締役、京都府在籍。妻、ヤク、明二二、一生、大阪、海野源太郎長女。

君は大阪府人羽室龜太郎の長男にして明治六年九月を以て生れ同十四年家督を相続す現時羽室商店代表取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尚三男忠治郎(明四三、一生)孫豊(大八、一生)長男三郎長女(同四、六生、生母、奈良、福本トコ)は大阪府人濱田、この養子となり伯父萬治郎(安政二、三生)は分家し従弟駒太(明一九、二生、奈良、吉若藤吉弟)同妻タネ(同二、一、九生、窪佐太郎二女)も亦共に分家せり(奈良、吉野、黒瀨村)

女 喜代 明四二、二生
女 美枝 明四四、八生
君は山口縣土波多野義次の長男にして明治六年八月...

波多野林一 郡製絲、第三郡製絲各(株)取
養母 葉那 萬延元、二生、京都、波多野彌
妻 すゑ 衛門五女

君は京都府人山内久周の弟にして明治十九年十二月を
以て生れ先代鶴吉の養子となり大正七年家督を相続す...

芳我 數衛 内子銀行(株)頭取、喜多酒造(株)
妻 シヅエ 明三、六生、愛媛、久保清一姉
男 康衛 明三六、三生、二男康衛妻、愛媛、

(明九、九生)あり長女種子(同二八、二生)は同夫乾一
(同二三、四生、愛媛、黒田秀耕兄)及其子女と共に...

芳我吉右衛門 正八位勳六等功五級、陸軍歩兵中
尉、内子銀行(株)専務取締役、伊...

君は愛媛縣人芳我彌美の甥にして明治十四年七月を
以て生れ同十九年分家して一家を創立す現に前記銀行會...

芳賀榮次郎 從三位勳二等功四級、醫學博士、
福島縣在籍

君は福島縣人芳賀直政の弟にして元治元年八月を以て
生れ同二十四年分家して一家を創立す同二十年帝國大...

君は東京府人山内久周の弟にして明治九年八月を以て
生れ同三十六年分家して一家を創立す印刷機械商を...

芳賀朔一 印刷機械商
妻 ノア 明一一、一〇生、東京、中村介男
男 富二 明三九、六生

君は東京府人芳賀友太郎の弟にして明治九年八月を以て
生れ同三十六年分家して一家を創立す印刷機械商を...

芳賀七右衛門 山形縣多額納稅者、農業
妻 弘化元、三生、山形、天羽義照三
女 春子 明三九、一一生

君は山形縣人屋代榮太郎の弟にして明治十年四月を以て
生れ後先代七右衛門の養子となり大正八年家督を...

君は山形縣人屋代榮太郎の弟にして明治十年四月を以て
生れ後先代七右衛門の養子となり大正八年家督を...

近衛第一各師團軍醫部長陸軍醫學校長朝總督府醫
院長兼京城醫學專門學校校長に歴補し現時芳賀病院長に...

芳賀吉之助 木綿商
妻 清一郎 明一六、七生、東京、小林市松姉
女 ユキ 明四〇、一一生

君は東京府人先代吉之助の二男にして明治八年十二月
を以て生れ同三十七年家督を相続し前名公を改む木綿...

芳賀權四郎 從三位勳六等、生糸検査所技師、
妻 文久元、一一生、東京、士、成澤
女 秀雄 明三一、七生、慶大經濟學部出身

君は福島縣人芳賀忠三郎の四男にして明治二十五年一
月を以て生れ同四十四年家督を相続し農業を營み現に...

君は秋田縣人芳賀五郎の叔父にして明治五年十一月
を以て生れ後前名恒助を改む同二十五年東京專門學校...

芳賀恒介 横莊鐵道(株)取締役
妻 底子 明二五、一〇生、福島、登柳治郎
男 忠義 明四二、八生

君は秋田縣人芳賀五郎の叔父にして明治五年十一月
を以て生れ後前名恒助を改む同二十五年東京專門學校...

君は滋賀縣人齋藤源の兄に方り明治八年二月を以て
生れ先代岩吉の養子となり同四十一年家督を相続す...

君は滋賀縣人齋藤源の兄に方り明治八年二月を以て
生れ先代岩吉の養子となり同四十一年家督を相続す...

馬場惣左衛門
 君は千葉縣人先代善兵衛の二男にして明治二十年八月を以て生れ同四十五年家督を相續し前名長治郎を改む醸造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして千葉縣多額納稅者たり家族は尙妻妹ひて(明三六、一一生、千葉、宮崎芳之助)あり姉ひて(同一六、七生)は茨城縣士族大森市平長男誠太郎に嫁し(同一二六、七生)は同縣人茂在照に嫁し(同一九、九生)は其子を伴ひ其夫龜久壽(同七、三生、茨城、土、三好琢磨二男)の家籍に入れり(千葉、香取、佐原町)
 參照 大森市平、多田庄兵衛、松本徳太郎の項

馬場惣左衛門
 靜岡縣多額納稅者、靜岡銀行、靜岡貯蓄銀行、靜岡綿布各株、取締役、靜岡縣在籍
 妻 たい 明六、八生、靜岡、秋野橋太郎妹
 男 惣一 明二七、六生
 女 千二 明二八、一〇生
 男 照江 明三六、一〇生、二男千二妻、靜岡、湯山一長女
 男 平造 明三三、八生
 男 理平 明三三、八生
 女 ふみ 明三六、二生
 君は靜岡縣人馬場惣太郎の長男にして明治四年十一月を以て生れ同十七年家督を相續し同二十六年專修學校理財科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして靜岡縣多額納稅者たり家族は尙妻妹ひて(同一五、三生、二男千二長女)同母(同一七、七生、同二女)あり長女のふ(明三〇、六生)は滋賀縣人岡田信に嫁し(同一〇、二生)は靜岡縣人鈴木清七養子莊次郎に嫁し(靜岡市下石町)
 參照 橋本保平、宮崎通之助の項

馬場登士夫
 君は福岡縣人馬場彌吉の二男にして明治九年十一月を以て生れ同四十年家督を相續し現時大川鐵道會社取締役に就き福岡縣多額納稅者たり家族は尙妻妹ひて(大六、九生)あり二男重光(同四、七生)は外祖父菊地定治の家督を相續し(東京市外高田町學習院官舎電車込三〇二〇)
 參照 藤村倉次郎の項

馬場久
 君は岡山縣人馬場多喜次郎の四男にして明治三十五年十一月を以て生れ資産家にして現時大阪合同紡績會社員たり家族は尙妻妹ひて(明二三、一一生)兄龜次(同一二、二生、現戶志)同妻政子(同一三、七生、岡山、花岡銀治長女)の間に一男二女同久(同一三、二生)同妻綾子(同一三、八生、岡山、小川勇雄)の間に一男及妹満壽子(同一四、六生)同芳子(同一八、八生)あり(大阪、北、堂島濱通二大坂合同紡績會社内)
 參照 綿毛織物商、和歌山縣在籍
 妻 マツエ 明三三、六生、和歌山、山西定之進
 女 明三四、六生、和歌山、板橋八郎
 妹 明三一、一一生

馬場源政
 君は和歌山縣人馬場主計の長男にして明治二十九年十月を以て生れ大正十五年家督を相續し綿毛織物商を營む家族は尙妻妹ひて(同一五、二生)あり妹操子(明三八、二生)は大阪府人野中藤吉長男藤太郎に嫁し(和歌山市福町)
 大坂市會議員、富永被服(株)監査役、大阪府在籍
 妻 スエ 明七、一一生、大阪、野々村種藏
 女 明三五、一一生、大阪、吉川新七三女
 男 源汎 明三一、二生

馬場由雄
 君は大阪府人馬場源左衛門の長男にして明治二十六年十月を以て生れ大正十三年家督を相續し現時富永被服會社監査役に就き大阪府人野中藤吉長男藤太郎に嫁し(明三一、一一生)あり(大阪、東淀川、豊崎東通二ノ三電北二五四二)
 參照 寺尾喜太郎の項
 正五位勳六等、産業組合中央金庫參事兼秘書、東京府在籍
 妻 ケイ 明二三、七生、新潟、島田則正長
 男 一雄 大九、八生

馬場玲藏
 君は兵庫縣人馬場幸次郎の長男にして明治八年一月を以て生れ同三十九年家督を相續し同三十年東京高等商業學校を卒業し直に三井物産會社に入り爾來本店及在南洋諸國等の各支店に勤務し又關及シドニ支店支南亞諸國並に北米合衆國等に出張し其他馬場半島にゴム園設置の有利なる事を紹介し漆油トツプを初めて輸入し又南亞(肥料)の滿船輸出地より羊毛の大量輸入を開拓する等我南方貿易に貢献する處影ながらシドニ商業會議所議員及羊毛買付人組合員に選ばれる斯くて三井物産會社に勤務する事二十五年本店參事に擧げられしが大正十一年同社を辭し尋で三十八銀行常務取締役に就任し後同行常任監査役に推され今日に至る英佛馬來語に長じ茶道に通じ妻光子亦英佛語に通じ音樂を好み(姫路、徳町一電四一九)
 兵庫縣在籍
 妻 光 明二一、八生、工學博士吉田朋吉長女
 女 明二二、一一生、東京、吉田鏡作二養子秀明男
 大〇、一一生、東京、吉田鏡作二養子秀明男

馬場幹太郎
 君は佐賀縣人馬場崎光雄の叔父にして明治四年三月を以て生れ大正六年分れて一家を創立し現時小城銀行頭取たり家族は尙妻妹ひて(同一五、一〇生)同妻妙子(同一九、二生)あり長女敏子(明三三、二生)は佐賀縣人七田一郎に嫁し(同一五、二生)は東京府人宮崎猛に嫁し(佐賀、小城、小城町)
 三菱銀行(株)小樽支店副長、兵庫縣在籍
 妻 やす 明二四、一〇生、兵庫、武岡豐太長女
 男 一夫 明四四、八生

馬場義興
 當家は累世十代二百餘年間江戸に於て質商を營める舊家なり君は東京府人佐野義孝の弟にして安政六年十二月を以て生れ後ち先代はまの八入となり家督を相續し祖業を承けて龜屋と稱し質商を營む東京市府の名譽職に擧げられ兼に東京明治銀行東洋海上保險倉庫銀行東京五三協同印刷會社各社取締役富國銀行頭取人日本水産會社、長東京商業會議所議員たり家族は尙妻妹ひて(同一四、五生)養子輔明長女)あり三女輝(明三四、五生)は東京府人土田卯三郎長男誠一に嫁し(東京、本所、長崎町六電本所一五五)
 靜岡縣多額納稅者、日本絹絲(株)取締役、足袋商、靜岡縣在籍
 妻 きん 明九、二生、靜岡、鈴木甚五郎長女
 女 明四四、九生

馬場喜四郎
 君は兵庫縣人灰谷藤三郎の三男にして明治十五年十一月を以て生れ大正十三年家督を相續し明治三十四年神戸商業學校を卒業し三菱銀行に入り累進して現時同行小樽支店副長たり家族は尙妻妹ひて(同一五、七生)三男彬(同一五、一一生)あり姉ひて(同一三、二生)は兵庫縣人美田作兵衛に嫁し(小樽、入舟町八ノ三五電二二〇七)
 兵庫縣多額納稅者、材木商、兵庫縣在籍
 妻 ひて 明一〇、四生、養父莊治郎二女
 女 花子 明四五、三生
 女 幸子 明四五、三生

灰谷與助
 君は兵庫縣人五味周三郎の弟にして明治五年十一月を以て生れ灰谷莊治郎の養子となり大正十二年分れて一家を創む材木商を營み現に兵庫縣多額納稅者たり家族は尙妻妹ひて(同一三、八生)あり(神戸、入江町二ノ七電兵庫一六四八)
 兵庫縣多額納稅者、質商、東京府在籍
 妻 はま 明二七、八生、明治大學商科出身
 男 喜一郎 明二七、八生、明治大學商科出身
 養子 輔明 明三三、三生、長女せい、夫、埼玉、加藤孝太郎弟

萩尾開造
 君は福岡縣人萩尾政太郎の二男にして當主政太郎の從弟なり明治二十一年十二月を以て生れ同三十八年久留米商業學校を卒業し朝鮮銀行奉天支店支配人代理を経て現時同行鐵道支店支配人たり家族は尙妻妹ひて(同一八、四生)三女照子(同一二、三生)四女滿壽(同一五、四生)弟真藏(明二八、三生)同妻キミ(同三七六)

馬場崎
 小城銀行(株)頭取、佐賀縣在籍
 妻 たま 明一三、一一生、東京、土、嶺田孝四女

袴田喜四郎
 君は兵庫縣人袴田五右衛門の長男にして明治四年一月を以て生れ同十六年家督を相續し前名勲吉を改む足袋商を營み縣下の多額納稅者にして前記會社の重役たり二女(同一七、四生)は愛知縣人福井一二に三女(同一三〇、一一生)は靜岡縣人庄古善一に四女(同一三八、八生)は同縣人中津川忠平長男一郎に嫁し五女(同一四三、九生)は同縣人鈴木愛平の養子となり(靜岡、濱名、曳馬村)
 參照 中津川忠平の項
 朝鮮銀行(株)鐵道支店支配人、福岡縣在籍
 妻 カタ 明二一、二生、福岡、土、石田瑞穂二女
 女 護 明四三、三生

袴田五平
 君は靜岡縣人袴田五右衛門の長男にして明治四年一月を以て生れ同十六年家督を相續し前名勲吉を改む足袋商を營み縣下の多額納稅者にして前記會社の重役たり二女(同一七、四生)は愛知縣人福井一二に三女(同一三〇、一一生)は靜岡縣人庄古善一に四女(同一三八、八生)は同縣人中津川忠平長男一郎に嫁し五女(同一四三、九生)は同縣人鈴木愛平の養子となり(靜岡、濱名、曳馬村)
 參照 中津川忠平の項
 靜岡縣多額納稅者、日本絹絲(株)取締役、足袋商、靜岡縣在籍
 妻 きん 明九、二生、靜岡、鈴木甚五郎長女
 女 明四四、九生

生、大阪、森田龜吉(二女)及其一子從兄敬太郎(同一八、八生、現戶主)同妻光榮(同一二、九生、東京、磯村榮親二女)あり妹梅雄(同一二、六、一生)は福岡縣人渡邊杉丸に同末野(同一三〇、七生)は岡山縣人高木裕に從姉辰妻(同一二、二生)は佐賀縣土族朝長新平長男右一に嫁せり(鐵嶺、朝鮮銀行支店内)

萩尾善次郎

從五位勳四等、海軍技師、海軍燃料廠探炭部業務課長、福岡縣在籍

妻 マサ 明一〇、一〇生、福岡、久野龍雄長女

萩尾傳

住友製鋼、大阪製鐵、日本鐵鋼各(株)取締役、萩尾住宅經營所主、福岡縣土族

萩谷壽夫

朝鮮信託(株)取締役、茨城縣在籍

妻 きみ 明二二、一生、兵庫、藤井伊藏妹、庶子 光 五枝、一生、生母、新潟、高尾、以て生れ大正五年家督を相續す夙に同人社に學び下野新聞いばらき新聞等の編輯に從事し朝鮮新聞社長を経て現時朝鮮信託會社取締役たり家族は尙妹り(明七、二生)あり(仁川、宮町三三)

萩谷伴助

福島縣多額納稅者、酒造業、福島縣在籍

萩野末吉

從四位勳二等功三級、後備陸軍中將、東京府土族

萩野惣次郎

新潟縣多額納稅者、旅館業、新潟縣在籍

萩原榮次郎

大阪府商店(株)社長、洋紙商、大阪府在籍

萩原鑊三

總武銀行(株)取締役會長、上總銀行(株)副頭取、安房合同銀行(株)取締役、日本商事自動車(株)監査役、東京府土族

萩原幸平

藥種商、大阪府在籍

萩原作平

下妻銀行(株)取締役、茨城縣在籍

萩原定太郎

油屋、染料商、大阪府在籍

萩原甲太郎

千葉縣多額納稅者、三協銀行(株)專務取締役、千葉縣在籍

萩原菊之助

煙草元賣捌業、京都府在籍

萩原拳吉

東京電燈(株)取締役營業部長、東電證券、信越電力各(株)取締役、山梨縣在籍

月を以て生れ大正十一年家督を相續す旅館業を營み新潟縣多額納稅者たり家族は尙長女よれ子(大六、五生)二女茂登子(同一二、二生)三女やす子(同一五、五生)あり(新潟、中頸城、直江津町)

萩野武夫

兵庫縣在籍

萩原榮次郎

君は兵庫縣人萩野竹之助の長男にして明治三十二年十月を以て生れ大正十二年家督を相續す同十年東京商科大學を卒業し住友銀行に入りしが同十二年之を辭し現時地に在り家族は尙弟彌壽夫(明三六、八生、工學士、淺野セメント會社員)同勝夫(同三八、二生、京都帝國大學工學部在學)妹光子(同四三、八生、甲南高等女學校在學)同静子(大元、一〇生、同上校在學)弟義夫(同四、一〇生)同秀夫(同六、二生)妹千代子(同九、一〇生)あり弟夏夫(明四〇、一〇生、高知高等學校在學)は本家萩野家の養子となり(神戸、西須磨町四ツ辻東一七電須磨七五)

萩原榮次郎

君は大阪府人萩原多助の長男にして嘉永四年十一月を以て生れ明治九年家督を相續す洋紙商を營み現に萩原商店社長たり(大阪、東、南久寶寺町二ノ五八電船場二三五六)

萩原鑊三

君は東京府人福本久盛の三男にして明治十一年十一月を以て生れ先代フキの八夫となり同三十八年家督を相續す同三十六年東京高等商業學校を卒業し現に總武銀行會社の取締役に任じ住宅經營事業に從事す家族は尙四男(大三、九生)三女悦子(同六、二生)あり妹シカカ(同一五、三生)は東京府人平尾房吉に同ム(同一二、一〇生)は千葉縣人加藤榮に嫁せり(大阪、豐能、箕面村)參照 加藤榮、堤長連(茨城縣在籍)參照 加藤榮、堤長連(茨城縣在籍)

萩原幸平

君は德島縣土族中野政藏の二男にして明治十七年二月を以て生れ同三十六年先代げんの八夫となり家督を相續す藥種商を營む家族は尙二男秀雄(明四二、一〇生)四男清治(大三、八生)あり(大阪、東、淡路町四ノ一電本局五一七)

萩原作平

君は茨城縣人萩原忠三郎の長男にして嘉永二年二月を以て生る現時下妻銀行取締役に任じ尙姪き(明二五、一生、亡弟長藏長女、現戶主)及び其母さ(同二、九生、茨城、瀧澤治三郎二女)並に二女あり姪(同三九、一生、亡弟長藏四女)は栃木縣人高島一三郎に嫁し(同一七、八生)は同縣人飯岡徳治長男勝太郎に嫁し長男忠兵衛(同一二、三生)は同縣人高橋嘉吉の養子となり(茨城、眞壁、下妻町)

萩原定太郎

君は千葉縣人萩原登蔵の長男にして慶應二年十一月を以て生れ明治十二年家督を相續す現時三協銀行專務取締役に任じ千葉縣多額納稅者たり曾て東京米穀商品取引所仲買人たり(こ)あり家族は尙孫健太郎(大三、一〇生、長男小一郎長男)同藤(同七、七生、同二男)同理助(同一〇、六生、同三男)同清司(同一二、二生、同四男)同得司(同一五、三三、同五男)あり長女テイ(明三一、七生)は静岡縣人堀原原に二女雙子(同三五、九生)は東京府人藤田政之助に庶子トミ(同二八、八生、生母、東京、大隅で)は東京府人濱野茂

萩原菊之助

君は天兒屋根命の苗裔ト部兼從の後なり兼從實は吉田兼治の男にして別に萩原家を建つれより七代を経て從一位貞光に至り明治十七年子爵を授けらる長男貞種其後を享く君は貞種の子にして明治三十五年九月を以て生れ大正五年襲爵仰付けらる家族は妹納子(明三八、二生)同順子(同四〇、七生)弟貞崇(同四二、一〇生)あり姉助子(同二六、六生)は宮城縣人今村武志に同種子(同二九、二生)は東京府人山本好造に同敬子(同三二、八生)は福岡縣人菅野正雄に叔母照子(同六、九生)は子爵三室戸敬光に同爲子(萬延元、七生)は子爵河野實美父公爲に嫁し叔父貞拾(明一九、一生)は分家せり(京都、上京、吉田上大路町一)參照 子爵河野實美、子爵三室戸敬光、今村武志の項

萩原甲太郎

君は山梨縣人萩原登蔵の弟にして明治七年一月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す同年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し翌年陸軍砲工學校教官に任ぜらる同三十九年辭職しシムエンス、シユッケルト會社に入り同四十二年退社して東京電燈會社に轉じ現時同社取締役兼營業部長たる外前記各會社の重役たり家族は尙六女綾子(明三三、九生)は兵庫縣人法學士山崎高晴に二女芳江(同三七、一〇生)は東京府人經濟學士矢深秀之に嫁せり(東京、四谷、須賀町三五電四谷三八三)

萩原菊之助

君は京都府人萩原テルの私生子にして慶應三年七月を以て生れ明治三十年家督を相續す煙草元賣捌業を營む家族は尙養叔母ト(明一〇、一生)及其私生子カコ(同三五、二生)あり從弟茂三郎(同三三、四生)は京都府人村田勝兵衛に庶子房子(大五、二生、生母、京都、竹村千代)は同縣人水口イマに各養子となり(京都、下京、東木屋町通四條上ル電下八四)

萩原拳吉

君は東京府人萩原テルの私生子にして慶應三年七月を以て生れ明治三十年家督を相續す煙草元賣捌業を營む家族は尙養叔母ト(明一〇、一生)及其私生子カコ(同三五、二生)あり從弟茂三郎(同三三、四生)は京都府人村田勝兵衛に庶子房子(大五、二生、生母、京都、竹村千代)は同縣人水口イマに各養子となり(京都、下京、東木屋町通四條上ル電下八四)

萩原七五郎 萩原商店(株)取締役
大阪府在籍
養父 榮次郎 嘉永四、一、一生、現戸主
妻 種 明二五、一、一生、大阪、前田金治郎長女
男 一 男 明四、二、生
女 英子 明四、二、生
文子 大元、八、生

君は香川縣人西山松治の甥にして明治九年五月を以て生れ同三十六年萩原榮次郎の養子となる現に萩原商店取締役たり家族は尚ほ三男光三(大七、一、一生)四男芳三(同二〇、一、一生)四女榮子(同二五、一、一生)あり(大阪、東、南久寶寺町二ノ五八電燈場二二五六)

參照 萩原榮次郎の項

萩原松韻 從五位勳六等、東京盲學校教諭
東京府在籍
妻 屋 明四、七、生、東京、中村一之助妹
男 信通 明二六、八、生
女 正子 明三八、一、生、長男信通妻、東京、明三、九、生

君は東京府土族萩原兵藏の二男にして元治元年二月を以て生れ明治二十六年亡兄傳次郎の後を襲ひ家督を相續す夙に山勢松韻家塾に琴曲を修業し同十四年東京盲學校訓導となり同年教諭を兼任し大正十三年專任教諭に任じ今日に至る尚自宅に於て琴曲教授をなす音楽界に知らるる家族は前記の外孫重雄(大一二、一、一生、長男信通長男)同道子(同四、一、一生、同長女)あり長女貞(同二八、八、生)は秋田縣人高村倫治弟經徳に嫁せり(東京、本郷、春木町三ノ二五電小石川七七〇)

萩原清彦 從四位勳三等、工學博士
東京府在籍
父 汎 愛 嘉永元、二、生、現戸主
母 志 宇 安政二、七、生、高知、土、乾末哀長女
妻 照子 明四、四、生、故錦鶏間候折田市市長女
男 芳子 明四、四、生

君は東京府人萩原右衛門の長男にして明治四年七月を以て生れ同二十一年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尚孫武(大四、三、生、養子巨長男)同眞生子(同六、二、生、同長女)同秀男(同八、一、一生、同二男)同三榮子(同二〇、三、生、同二女)あり(東京、牛込、神樂町一ノ三電牛込一八八)

參照 萩原右衛門の項

萩原清五郎 長崎縣多額納稅者、材木商
長崎縣在籍
母 ハツエ 女 明六、四、生、長崎、山本忠治郎長女

君は長崎縣人先代清五郎の長男にして明治二十八年一月を以て生れ大正十三年家督を相續し襲名して前名時一郎を改む材木商を營み長崎縣多額納稅者たり家族は尚養妹ミユキ(明三二、二、生、山口、萩原清太郎三女)あり(佐世保、鹽濱町)

萩原太郎次郎 靜岡縣多額納稅者、地主
靜岡縣在籍
母 せん 弘化二、一、二、生、靜岡、牧田新平長女
妻 すすみ 女 明二、五、生、靜岡、野崎重兵衛長女

君は靜岡縣人萩原次郎の長男にして文久三年十一月を以て生れ明治十五年家督を相續す地主にして靜岡縣多額納稅者たり家族は尚孫麗子(大一〇、三、生、二男鶴次郎長女)同毅一(同二五、八、生、同長男)弟虎夫(同三三、明二、三、八、生)は靜岡縣人福島富藏に弟虎夫(同二七、一、二、生)は同縣人飯塚よきに同餘七郎(同二〇、一、生)は同縣人萩原錦三に各養子となり四男與輔(同二八、三、生)は同妻とく(同三三、一、一生、靜岡、黒田)

萩原半藏 鶴八醬油(株)監査役、地主
東京府在籍
妻 七キ 女 文久三、一〇、生、東京、鈴木真孝長女
男 方 隆 明一三、七、生、慶應義塾理財科出身
女 卓 明二〇、六、生、長男方隆妻、神奈川、原清兵衛二女
男 秀 雄 明二四、二、生、早稻田大學理工科出身
孫 登美子 明二九、一、生、四男秀雄妻、神奈川、加藤八郎右衛門妹
孫 豐子 明四二、三、生、長男方隆長女、東京女學館出身
孫 智恵子 見女學校出身
大、四、生、長男方隆二女、東京女學館在籍

君は東京府人萩原敬隆の長男にして萬延元年四月を以て生れ明治六年家督を相續す地主にして現に鶴八醬油會社監査役たり家族は尚孫麗子(大四、四、生、長男方隆長男)同毅子(同六、一、一生、同四女)同惟央(同九、一、一生、同二男)同毅克(同二一、一、一生、同三男)同攝夫(同二二、九、生、同四男)同一成(同二四、六、生、同五男)あり長女ワカ(明一五、八、生)は神奈川縣人加藤八郎右衛門四男雄八に二男常隆(同二八、一、一生)は同妻文(同二四、九、生、山口、土、吉村淵藏二女)及び其子女を伴ひ分家し弟右三郎(同元、四、生)は同妻テイ(同二一、一、〇、生、東京、内藤佐兵衛長女)を伴ひ東京府人鈴木フミの養子となり(東京、南多摩、堺村電機本三三)

參照 加藤八郎右衛門に嫁す藤原金子常太郎の項

萩原多兵衛 東京府多額納稅者、油商
東京府在籍
妻 倭 文 明二九、八、生、東京、大岡孝姉
女 米 明四四、二、生

君は東京府人先代多兵衛の長男にして同利右衛門の養弟なり明治十七年一月を以て生れ同四十五年家督を相續し前名源三を改む油商を營み東京府多額納稅者たり(東京、本郷、本郷二ノ四〇)

參照 萩原利右衛門の項

萩原民治 開宮堂、堺屋本店各(株)取締役
靜岡縣在籍
妻 あや 慶應三、一、生、靜岡、大川欣也妹
男 佐 大、一〇、七、生
女 佐 雅子 明四四、四、生
女 田 鶴子 大、二、生

君は靜岡縣人山梨寛重の三男にして明治二十一年七月を以て生れ先代正夫の養子となり大正六年家督を相續す明治四十五年早稻田大學商科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尚三女通代(大五、二、生)四女正子(同七、二、生)二男治夫(同二二、一〇、生)五女郁枝(同二五、二、生)あり養妹とて(明三一、八、生)は靜岡縣人永井保に嫁せり(靜岡、田方、川西村)

參照 萩原田五郎の項

萩原長吉 三協銀行、古満金商店、萩長商店各(株)取締役、大北産業(株)監査役、東京府在籍
妻 コマ 明八、一、二、生、東京、土、吉田信明妹

君は東京府人萩原友吉の長男にして明治三十二年十一月を以て生れ大正九年先代彌吉の養子となり家督を相續し後前名一頁を改む先代彌吉は夙に金庫製造業を營み大倉屋と稱し本邦新業の濫觴たり君は大正五年慶應義塾普通部を卒業し家業を營む家族は尚弟三良(明四二、四、生)あり姉喜代(同二七、二、生)は埼玉縣人倉橋佐吉弟隆一郎に嫁す(東京、日本橋、日本橋三、六、生)は東京府人吉田千蔵に嫁せり(東京、日本橋、本町四ノ一電日本橋八三三)

萩原俊一 從五位、内務技師、土木局勤務
東京府在籍
妻 ハル 明三一、一、二、生、奈良、廣瀬勇長女、奈良女子高等師範學校附屬高等女學校出身
男 伊 壽夫 大九、五、生

君は東京府人萩原安五郎の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正七年家督を相續す同四年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し奈良縣土木技師に任ぜられ次で奈良縣技師内務技師臨時震災救護事務局事務官等に歴任し現時内務技師にして土木局勤務たり家族は尚長女理和(大八、二、生)二男興吉(同二一、二、生)あり(東京市外杉並町阿佐ヶ谷八七二)

萩原初太郎 度量衡器商
東京府在籍
妻 シマ 明一九、二、生、神奈川、内田清藏長女
男 權一郎 明三四、一、二、生
女 じけ 明三八、七、生、長男權一郎妻、東京、大野熊太郎長女

君は東京府人萩原權三郎の長男にして明治七年八月を以て生れ同三十七年家督を相續す度量衡器商を營む家族は尚三男誠一(明四五、七、生)五男三良(大五、八、生)六男四津雄(同八、一〇、生)七男信廣(同二二、一〇、生)あり長女さだ(明三三、五、生)は東京府人板橋彌之助の養子となり弟銀次郎(同二一、五、生)同清八(同二八、六、生)同長太郎(同二二、六、生)は各分家し妹さく(同九、一、一生)は東京府人中村善八に嫁せり(東京市外澁谷町下通三ノ二七電高輪七〇五五)

萩原平光 山梨縣多額納稅者、質商
山梨縣在籍
妻 文久元、九、生、山梨、大村所右衛門妹
男 正 典 大四、一、一生

君は山梨縣人萩原平左衛門の三男にして明治十七年一月を以て生れ先代源助の養子となり大正二年家督を相

萩原芳明 金澤紡績、日東電氣工業各(株)取締役、東京府在籍
男 芳 雄 明三四、八、生

君は東京府土族萩原芳信の長男にして文久三年十一月を以て生れ明治十五年家督を相續す現に前記各會社の重役たり長女ハナ(明二二、七、生)は石川縣人小原喜三郎に二女ユキ(同二四、一、一生)は鹿兒島縣人松元勢藏に嫁し庶子芳三(大、一、四、一、二、生、生母、石川、井村マ

萩原保太郎 横濱取引所取引員、有價證券買賣業、山梨縣在籍
妻 フサ 明九、二、生、神奈川、横山房吉女
男 安政元、七、生、山梨、保坂茂吉叔母

君は山梨縣人萩原藤兵衛の長男にして明治元年三月を以て生れ大正六年家督を相續す有價證券買賣業を營み横濱取引所取引員たり家族は尚弟末松(明二六、一、一生)同妻豐子(同三六、七、生、山梨、萩原佳一長女)及其一男養弟弘文(同三七、四、生、神奈川、上田弘作二男)あり(横濱、中、南太田町一四六六電長者町二四三〇)

君は石川縣人橋安二郎の長男にして明治十七年十月を以て生れ大正九年家督を相続す農業を營み現に同縣多額納税者たり家族は尙二男安信(明四四、一、二生)三男安正(大三、四生)四男安恒(同八、一、一生)六男安重(同四、六生)あり(石川、河北、津幡町)

橋口 徳次 長崎縣多額納税者、吳服商

妻 子エ 明二五、一〇生、長崎、高崎長次郎二女

君は熊本縣人橋口徳市の二男にして明治十七年一月を以て生れ同四十五年分家して一家を創立す吳服商を營み長崎縣多額納税者たり家族は尙二男靖之助(大六、一、二生)三男又造(同九、九生)二女夫妻子(同二、三、三、生)四男裕(同四、八生)あり(長崎市東濱町)

橋田 銀四郎 金礦業

妻 長女 明一六、一〇生、埼玉、齋藤勝之助

君は群馬縣人先代銀四郎の孫にして大正元年十二月を以て生れ昭和二年家督を相続し前名都太郎を改め農業者金礦業を營む家族は尙姉静子(明四二、一、一生)弟敏次郎(大四、二生)妹こう(同五、一、一生)同棲子(同七、一〇生)弟公作(同三、三、生)叔父光三郎(明二七、八、生)叔母ちよ(同三、三、生)同夫武司(同三、一、二生)埼玉、高橋八郎衛門及其二女あり伯母しげ(同九、四、生)は埼玉縣人秋森由藏に大叔母ちよ(明二七、九、生)は栃木縣人青山孫太郎に嫁し叔父欽七郎(明一七、九、生)は群馬縣人橋田東次郎の養子となり(群馬、邑樂、館林町)

橋田 早苗 高知縣多額納税者、高陽銀行(株)事務取締役

妻 明一九、九生、高知、上田紫朗姉

君は北海道人佐々木サワの養子にして明治五年十月を以て生れ同三十七年先代其右衛門の養子となり同四十五年家督を相続し農業者として前名初太郎を改め米穀問屋業を營み北海道多額納税者たり(函館、駒止町一)

橋谷 甚右衛門 北海道多額納税者、米穀問屋業

妻 明一五、二生、北海道、橋谷サワ

君は佐賀縣人佐賀島内一郎の二男にして明治十三年二月を以て生れ同四十四年先代シケコの入夫となり家督を相続す現時肥前電氣鐵道會社取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙三男繁(大七、一〇生)四男四郎(同二〇、七、生)五男修(同二二、一、二生)あり(佐賀市白川町一五)

橋爪 源吾 横濱正金銀行(株)上海支店支配人

妻 明二八、一〇生、東京、橋本善三郎

君は東京府人橋爪源三の弟にして明治十四年二月を以て生れ同三十一年分家して一家を創立す同三十八年東京帝國大學理學部農學科を卒業し現時東京天文堂技師たり家族は尙三男周三郎(大四、一〇生)あり姉いつ(明一、一、三、生)は理學博士石原純に嫁せり(東京、北多摩、三鷹村東京天文堂官舎)

橋爪 拾三郎 鐘淵紡績(株)事務取締役

妻 明一、三、生、東京、石原田銀藏三女

現時同行上海支店支配人たり家族は尙 男正敏(大八、一、一生)及妹孝子(明三二、八、生)弟長雄(同三七、二、生)あり同安造(同二七、三、生)は分家し妹富貴子(同二四、四、生)は東京府人近藤真顯に同秀(同二九、六、生)は愛知縣人坂野新太郎に嫁せり(上海、橫濱正金銀行上海支店内)

橋爪 源助 和歌山縣多額納税者、朝鮮土地(株)社長、和歌山銀行、第一織物(株)取締役、綿糸商

妻 明五、八、生、和歌山、柳廣藏姉

君は和歌山縣人先代源助の長男にして明治六年六月を以て生れ同三十年家督を相続し舊名市太郎を改め農業者綿糸商を營み朝鮮土地會社社長たる外前記銀行會社の重役にして和歌山縣多額納税者たり家族は尙弟修吉(明二、四、生)同妻富子(同三、一、〇、生)京都、小田原丈太郎長女及其一男一女あり同榮次郎(同二、〇、二、生)同慶三(同二、四、七、生)は各分家し同太四郎(同二、九、生)同妻エツ(同二、一、〇、生)愛媛、平山源次郎(同二、九、生)和歌山、西浦左馬之助(同二、一、〇、生)同夫留藏(同二、一、〇、生)和歌山、西浦左馬之助(同二、一、〇、生)は同妻三(同二、四、九、生)大阪、土、中尾清秀五女及其子女も亦分家し妹すみ(同八、一、生)は和歌山縣人柳廣藏に嫁せり(和歌山市北休賀町三)

橋本 郁太郎 朝倉部製絲(株)社長、福壽銀行(株)取締役、福壽銀行

妻 明五、一、生、福壽、森進三女

君は東京府人橋本茂七郎の長男にして明治元年十一月を以て生れ同十六年家督を相続す同三十六年より多年立石村長勤務現時朝倉部製絲會社社長たる外前記銀行の重役たり家族は尙三男公平(明四四、五、生)孫惟和(昭二、四、生)長男銚一(長男)あり長女ワカ(明二〇、四、生)は福壽縣人奥村次平に三女フキヨ(同三〇、三、生)は同縣人三原廣三男博三に三女フキヨ(同三〇、三、生)は同縣人調友吉長男湯輔に四女壽子(同三八、一、二、生)は同縣人荒木鹿次郎長男正人に嫁し弟賢次郎(同五、二、生)は福壽縣人内田藤右衛門の養子となり(福壽、朝倉、立石村)

橋本市太郎 龜山製絲(株)社長、三重縣農工銀行(株)取締役、第五銀行(株)監査役、三重縣士族

妻 明六、一、生、三重、土、柏木秀茂姉

(東京市外戸塚町諏訪一五〇電話牛込一五九七)

橋爪 竹次郎 富岩鐵道(株)事務取締役、岩瀨銀行(株)監査役、富山縣在籍

妻 明二二、三、生、富山、佐渡傳二妹

君は富山縣人橋爪竹次郎の二男にして明治二十二年三月を以て生れ同三十四年家督を相続し前名竹次を改む現に富岩鐵道會社事務取締役たる外前記銀行の重役たり長女静(明三九、三、生)は富山縣人松崎善二に嫁し姉ツネ(同二七、一、生)同夫秀治(同二四、一、生)富山、長崎庄一郎弟(其子)共に弟竹之助(同二八、四、生)は同妻てる(同三三、七、生)富山、本郷重長女と共ニ各分家せり(富山、上野川、東岩瀨町)

橋詰 又三郎 福岡縣多額納税者、吉井銀行(株)事務取締役、福岡縣在籍

妻 明七、一、生、福岡、士、吉谷五郎

君は福岡縣人橋詰又三郎の長男にして慶應元年十二月を以て生れ明治二十二年家督を相続す農業を營み傍ら吉井銀行事務取締役の外前記會社の重役にして福岡縣多額納税者たり家族は尙孫正隆(大二、二、四、生)長男一郎(昭二、一、生、同二男)あり長女喜代(明二七、九、生)は福岡縣人原慧徳に二女孝(同三五、五、生)は同縣人山本憲吉に嫁し妹マコ(同七、五、生)は分家し養子新一郎(同四、五、生)福岡、栗林眞佐二男も亦其妻イワタ(同六、五、生)叔父末次長女及其二女と共に分家し姉キサ(弘化二、三、生)は福岡縣人貝島又二郎の祖母たり(福岡、浮羽、吉井町)

橋戸 義雄 梁瀬商會(株)事務取締役、梁瀬自動車(株)取締役、東京府在籍

妻 明三、七、生、吉村理一郎の項

君は東京府人橋元久吉の長男にして文久元年十月を以て生れ明治二十六年家督を相続し仲立業を營む家族は尙庶子文子(大一〇、八、生)生母、大分、平松タキ(あり(神戸、矢部町五一電元町一四〇六))

橋元 久吉 仲立業

妻 明四、五、生、兵庫、田中吉五郎二

(東京市外野町千光前二九九八電中野九六六)

橋元 正明 正三位勳二等功三級、男爵、海軍中將、東京府華族

妻 明二、三、生、大分、士、佐久間仲三等主計

君は舊鹿兒島藩士橋元喜左衛門の長男にして嘉永六年十二月を以て生れる海軍兵學寮に入り明治十年海軍少尉補に任じ累進して同三十八年海軍中將に陞る其間摩耶赤城八重山浪速鎮遠朝日各艦長佐世保鎮守府參謀長海軍省人事課長同局長心得舞臺鎮守府艦政部長同海軍港務部長同海軍工廠長海軍省人事局長馬公要港部司令官旅順鎮守府司令官等に歴補し日露戰役の功に依り功三級金鷲勳章を賜ひ同四十年華族に列し男爵を授けらるる家族は尙孫正一(大一一、一、二、生)正輝長男(同嘉子(同二五、四、生)同二女)あり長女フサ(明一五、一、〇、生)は千葉縣人木間潤三に二女爲子(同二二、四、生)は西武鐵道會社事務取締役工學士脇田貞三に嫁せり(東京市外野町千光前二九九八電中野九六六)

橋元 昌矣 正五位勳五等、東京天文堂技師

妻 明三、七、生、木間潤三、脇田貞三の項

君は福壽縣人橋本茂七郎の長男にして明治元年十一月を以て生れ同十六年家督を相続す同三十六年より多年立石村長勤務現時朝倉部製絲會社社長たる外前記銀行の重役たり家族は尙三男公平(明四四、五、生)孫惟和(昭二、四、生)長男銚一(長男)あり長女ワカ(明二〇、四、生)は福壽縣人奥村次平に三女フキヨ(同三〇、三、生)は同縣人三原廣三男博三に三女フキヨ(同三〇、三、生)は同縣人調友吉長男湯輔に四女壽子(同三八、一、二、生)は同縣人荒木鹿次郎長男正人に嫁し弟賢次郎(同五、二、生)は福壽縣人内田藤右衛門の養子となり(福壽、朝倉、立石村)

橋本市太郎 龜山製絲(株)社長、三重縣農工銀行(株)取締役、第五銀行(株)監査役、三重縣士族

妻 明六、一、生、三重、土、柏木秀茂姉

君は三重縣人橋本市太郎の長男にして慶應三年十二月を以て生れ明治十六年家督を相続す現時龜山製絲會社

橋本市太郎 龜山製絲(株)社長、三重縣農工銀行(株)取締役、第五銀行(株)監査役、三重縣士族

妻 明六、一、生、三重、土、柏木秀茂姉

々長たる前記各銀行の重役たり家族は尚二男寛(明四二、四生)あり長女はつ(同二七、二生)は三重縣人伊藤止に嫁せり(三重、鈴鹿、龜山町)

橋本卯太郎

大日本麥酒(株)常務取締役 東京府在籍 妻 マツ 明九、三生、陸軍中將石光胤臣妹 助教授、獨逸留學 男 宇一 明三〇、七生、東京高等工藝學校 助教授、獨逸留學 男 龍三 明三四、一〇生、長男宇一妻、靜 岡、石原宗三郎長女、津田英學塾 出身 男 宙二 明三二、一〇生、海軍大尉、東北帝 國大學工學部在學 男 乾三 明三四、五生、法學士、司法官試 補 男 龍三 明三九、六生、慶應義塾大學在學 女 光枝 明四二、一〇生、御茶の水高等女學 校出身

橋本卯太郎

製紙原料商 大阪府在籍 妻 しづ 明二二、七生、先々代政次郎長女 男 靜男 明四五、四生 君は大阪府人松村補太郎の弟にして明治十三年七月を以て生れ先代しづの夫となり同四十四年三月を以て製紙原料商を營む妻妹あり(明二五、七生)は大阪府人澤井與一郎二男三郎に嫁せり(大阪、南、瓦屋町一番丁六四電南一四七四)

橋本勝太郎

從三位勳二等功三級、後備陸軍中 將、財團法人日本少年指導會會長 東京府在籍 妻 い 明元、九生、東京、土、北原松太 郎姉 君は岐阜縣人橋本光太郎の兄にして文久二年五月を以て生れ明治二十九年分家して一家を創立す同十九年陸軍歩兵少尉に任じ大正四年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し陸軍士官學校教官監軍部副官同參謀大本營附參謀總督府各參謀陸軍大學校教官近衛團參謀留守近衛團參謀長東京衛戍總督參謀後備第一師團參謀長近衛步兵第三聯隊長步兵第二十四旅團長獨立守備隊司令官陸軍士官學校長憲兵司令官第九師團長等に歴補し大正九年豫備に入り現時後備役に於て日本少年指導會會長たり日清日露の戦役に功を樹て功三級金鷲勳章を賜はる明治四十三年軍制調査の爲め歐洲諸國を漫遊し經濟的軍備の改造の著あり尙不其少年の感化教育及び育英事業に専念す諸曲を嗜む(東京市外和田堀町和田八三七電中野三六五)

橋本兼次郎

大阪府在籍 妻 ソノ 安政五、一〇生、大阪、住井兼吉 君は大阪府人橋本兼次郎の十一男にして明治三十四年十二月を以て生れ大正四年兄兼次郎の後を承けて家督を相続し舊名として前名兼十郎を改む皮革商を營む家族は尙兄兼一(明二七、三生)同妻カネ(同二九、二二生、大阪、住井宗三郎妹)との間に一子あり同兼芳(同二四、一〇生)は同妻カネ(同二六、一〇生、靜岡、若荷佐市郎妹)と共に一子を伴ひ分家し姉コキク(同二一、八生)も亦分家せり(大阪、浪速、榮町一ノ一〇八三電櫻川九四〇)

橋本梅太郎

淺野物産(株)専務取締役、東洋汽 船、神奈川、小倉鐵道各(株)取締役 内務省(株)理事、福岡縣土族 淺野同族(株)理事、福岡縣土族 妻 トメ 明六、六生、福岡、島津權四郎二 女 夏雄 大三、三生

君は舊福岡藩士橋本往來の長男にして明治七年十二月を以て福岡市善巴町に生れ同十七年家督を相続す夙に福岡中學校を卒業し同二十六年北米に航しサンノゼ中學校に學び研鑽大に努め成績優等遂にスカラシップを受く次でジョージタウン大學に入り法律經濟を専攻し同三十四年其業を卒へて法學士の稱號を得爾後歐洲を漫遊し彼地の經濟事情及商況を視察す歸朝後城東電軌會社を創立し常務取締役となり又日本書院銀行を起して事務取締役となる後淺野造船所東洋汽船會社各重役に擧げられ米國に之を代表し大正九年伊太利セノアに開催の海員労働會議に我資本家代表の顧問として派遣せらるる之より先き偶々船機交換の議あり君推されて日本船主の代表者となり米國ワシントン政廳に交渉して我海運界の爲めに有利なる解決を齎らし大に實務を全うす大正九年末歸朝し現に前記諸會社の重役として實業界に名あり家族は尙二女ハル(大五、二生)あり(東京、赤坂、表町四ノ一電青山六五九九)

橋本英一

岡山縣多額納稅者、農業 岡山市在籍 妻 芳野 明一三、九生、養父源五郎長女 男 達雄 明四一、四生 女 美和子 明三三、八生 女 千鶴子 明三八、一〇生 君は岡山縣人橋本嘉一郎の二男にして明治七年八月を以て生れ先代源五郎の養子となり大正十二年家督を相続す農を業とし岡山縣多額納稅者たり家族は尙三男一長(明四四、五生)四男淳(大六、六生)あり(岡山、苦田、西宮田村)

橋本榮作

茨城縣多額納稅者、農業 茨城縣在籍 妻 芳野 明一三、九生、養父源五郎長女 男 達雄 明四一、四生 女 美和子 明三三、八生 女 千鶴子 明三八、一〇生

橋本龜吉

茨城縣多額納稅者、米穀商 茨城縣在籍 妻 いね 明一〇、七生、茨城、小野市三郎 女 二女 明三三、一〇生 男 統一 明三七、一〇生 男 與志 明三三、一〇生 男 寅次郎 明三五、一〇生 男 豐三郎 明三七、一〇生 女 ちよ 明四〇、三生 君は茨城縣人橋本廣之助の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十八年家督を相続す米穀商を營み茨城縣多額納稅者たり家族は尙五男信(明四四、八生)二女きみ(大三、九生)三女は子(同六、四生)孫昭吉(昭二、一〇生、長男統一長女)第三子千帆(明一六、一〇生)同妻と(同二二、一〇生、茨城、楡山儀八郎孫)との間に子女あり(茨城、那珂、佐野村)

橋本寬

正四位勳四等、朝鮮總督府判事、 釜山地方法院長、東京府在籍 妻 いづ 明七、三生、埼玉、小菅朝吉三女 男 三之助 明三〇、一〇生 女 登喜子 明四二、一〇生 君は東京府人橋本堅の二男にして明治五年五月を以て生れ同十一年分れて一家を創立す同三十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し判事に任じ水戸浦和東京各裁判所判事を經て韓國平壤理事廳副理事官に轉じ爾來統監府判事朝鮮總督府判事として釜山地方裁判所京城控訴院光州地方法院群山支廳等の各判事に歴補し次で海州地方法院長平壤地方法院長を経て現に釜山地方法院長の職にあり(朝鮮、釜山地方法院官舎)

橋本關一

帝國美術院美術展覽會委員、畫家 兵庫縣土族 妻 小六 嘉永五、七生 繼母 ちよ 明八、三生、兵庫、阪裏太右衛門 七女 明一四、一〇生、京都、岩見重太郎長女

橋本榮作

酒造業 大阪府在籍 妻 和惠 明一六、三生、大阪、細川庄兵衛 妹 浩一 大二、二生 男 浩一 大二、二生 女 ヒサエ 明四四、一〇生 君は大阪府人橋本榮三郎の長男にして明治十六年二月を以て生れ同三十五年家督を相続す酒造業を營む家族は尙二男隆夫(大五、四生)三男淳(同八、三生)あり弟繁次郎(明一九、七生)は分家し同昌三郎(同二八、三生)も亦同妻メイエ(同三三、九生、大阪、森和三郎長女)及其一子を伴ひ分家せり(大阪、三島、富田町)

橋本榮作

酒造業 大阪府在籍 妻 和惠 明一六、三生、大阪、細川庄兵衛 妹 浩一 大二、二生 男 浩一 大二、二生 女 ヒサエ 明四四、一〇生 君は大阪府人橋本榮三郎の長男にして明治十六年二月を以て生れ同三十五年家督を相続す酒造業を營む家族は尙二男隆夫(大五、四生)三男淳(同八、三生)あり弟繁次郎(明一九、七生)は分家し同昌三郎(同二八、三生)も亦同妻メイエ(同三三、九生、大阪、森和三郎長女)及其一子を伴ひ分家せり(大阪、三島、富田町)

橋本一男

熊本縣多額納稅者、吉野製絲(株) 取締役、熊本縣在籍 妻 ユリ 慶應元、八生、熊本、田川兼次二 女 明二一、七生、熊本、岩坂徳山二

橋本喜左衛門

橋本商店(株)取締役、木綿商 東京府在籍 妻 登與 明一六、一〇生、埼玉、瀧田繁太 郎長女 男 得三郎 明四一、四生 女 嵩子 明四三、一〇生 君は兵庫縣土族橋本小六の長男にして明治十六年十一月を以て生れ同二十四年家督を相続す關雪と號し本邦日本畫界有数の大家として知られ現に帝國美術院美術展覽會委員たり家族は尙二男正躬(明四二、一〇生)庶子申一(大九、九生、生母同上)同かつ子(昭二、二生、生母同上)及び妹千賀(明三八、六生)同ユキ(同四〇、七生)あり同ユキの(同三二、一〇生)は岡山縣人重近健次に同ツテ(同三五、一〇生)は愛媛縣人宮下志朗に同ツツユ(同二八、六生)は京都府人原田隆に嫁せり(京都、上京、東山銀閣寺前電上四六〇)

橋本喜作

濱寺土地(株)社長、阪和電氣鐵道 大阪港土地各(株)監査役、加島信 託(株)相談役、大阪府土族 妻 雪 弘化四、一〇生、岡山、河本藤次 郎三女 男 チカ 明二〇、一〇生、奈良、細川大治孫 女 育子 明四一、一〇生、東京、江崎清三 君は大阪府土族橋本繁治の長男にして明治六年二月を以て生れ大正八年家督を相続す夙に京都同志社を卒業

大阪府立商品陳列所に入り工業試験部長となる後原
敏に擡られて大阪毎日新聞社に入り自ら清國に渡航
して同地の棉業を視察し歸朝後清國の棉業を著すは明
治四十年野村徳七と交を結び同氏經營の株式業務銀行
業務證券業務等を補佐擔任す大正四年米國に遊び専ら
同地の經濟事情就中信託事業に就き調査研究を遂げ歸
朝後自ら其社長たる野村商店の經營に任ず昭和元年病
を以て同店を辭し現時前記諸社の重役たり(大阪、
泉北、高石村羽衣電氣高瀬寺二)

橋本 喜助

母 裕太 正五位勳四等、鐵道技師、建設局
妻 富路子 明二七、二生、男爵近藤滋彌妹

君は岩手縣人先代喜助の二男にして明治二十八年二月
を以て生れ大正七年家督を相続し前名英之助を改む現
時前記銀行會社の重役にして岩手縣多額納税者たり家
族は尙長女慶(大七、二生)二女タニ(同九、二生)二
男亮造(同四、一)三男祥助(同五、一)一〇生(弟文
男亮造(同四、一)一〇生(弟文男亮造(同四、一)一〇生(弟文

橋本 喜助

君は岩手縣人先代喜助の二男にして明治二十八年二月
を以て生れ大正七年家督を相続し前名英之助を改む現
時前記銀行會社の重役にして岩手縣多額納税者たり家
族は尙長女慶(大七、二生)二女タニ(同九、二生)二
男亮造(同四、一)三男祥助(同五、一)一〇生(弟文
男亮造(同四、一)一〇生(弟文男亮造(同四、一)一〇生(弟文

橋本 圭三郎

君は新潟縣土族橋本彌十郎の長男にして慶應元年九月
を以て生れ同二十四年家督を相続し先是同二十三年帝
國大學法科大學政治科を卒業し官界に入り樞密院書記
官法制局參事官大藏省臨時國債整理局長主計局長大藏
次官農商務次官等に歴任し大正元年貴族院議員に勅選
せらるる後實業界に入り現時日本石油會社社長にして傍ら
前記諸會社の重役たり家族は尙孫寛正(大一〇、二)生、
長男寛一(長男)同久枝(同二、一)生、同長女あり(長
女ミチ(明二九、一)生)は子爵松友光(二)女正子(同
三、二、四)生)は東京府人山口哲次郎に嫁せり(東京市
外大久保町西大久保三五三電四谷一一〇)
參照 子爵松友光、男爵川崎寛名、山口哲次郎の
項

橋本 敬之

君は德島縣土族故業議院議員橋本久太郎の長男にして
明治十四年二月を以て生れ大正十五年家督を相続し明
治三十九年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し
同四十二年鐵道院技師となり大正七年歐米及南亞聯邦
に留學す同十年歸朝して鐵道技師となり東京建設事務
所長兼同建設事務所所長を経て現時建設局工務課長た
り家族は尙弟文武(明三三、四)生)あり同能保利(同二

次郎(明三三、一)生)妹ヒサ(同三〇、二)生)同夫源吉(同
二五、四)生、岩手、佐藤庄助(五男)及其二男三女あり
(岩手、神賀、花巻川口町)
參照 佐藤秀平の項

橋本 喜造

君は大分縣人橋本半平の二男にして明治五年十月を以
て生れ後貴族院議員橋本雄造の養子となり同三十一年
分家して一家を創立す夙に長崎商業學校及外國語學校
を卒業し後海外に遊學するに數年船業を營む偶々
歐洲戰亂の勃發に際し所有船隻の暴騰により忽ち巨
萬の富を収む現時前記各會社の重役たり議に衆議院議
員佐世保市會議員長崎縣會議員に選ばれる家族は尙三男
喜雄(明四四、九)生)三女絹(大三、一)生)孫昭一(昭
二、一)生、長男喜久雄(長男)あり長女キミ(明三三、六
生)は東京府人法學士西正次郎に嫁せり(佐世保、島
瀬町三五)
參照 西正次郎の項

橋本 吉次郎

君は廣島縣人先代吉次郎の長男にして明治十五年十一
月を以て生れ同四十二年家督を相続し前名繁太郎を
改む肥料商を營ふ現に廣島縣多額納税者たり家族は尙
二男浩藏(明四四、三)生)長女婦子(大三、二)生)あり妹
ラク(明一九、九)生)は鳥取縣土族近藤喜兵衛長男壽一
郎に嫁し弟邦三(同二四、二)生)は同妻アサコ(同三一、
二)生、愛媛、木村由松(四女)及其二子とに分家せり
(尾道、久保町)
參照 近藤喜兵衛、橋本龍一(※石井源次郎※大西行
禮※橋本陽三郎※古川新作の項

橋本 幸吉

君は東京府人橋本勘助の長男にして明治十九年三月を
以て生る古久屋と稱し吳服商を營ふ東京府多額納税者
たり家族は尙養子久子(大四、八)生、東京、鈴木吉五
郎(五女)の弟長造(明二二、二)生)妹壽美(同二六、
四、三)生)は同妻豐子(同三四、九)生)愛知、小川
權三郎(四女)及其一男一女を伴ひ分家し姉ヤスエ(同
六、一)生)は德島縣人花谷榮太郎に同キタメ(同九、
五)生)は北海道人瀧本知夫に妹操(同二〇、七)生)は德
島縣人中谷谷吉に嫁せり(東京市外代々木町代々木山
谷一六九電四谷三九一)
參照 男爵近藤滋彌、伯爵上杉憲章、大久保利武、
近藤廉治、濱口清の項

橋本 倅次

君は佐賀縣土族橋本榮八の二男にして明治九年四月を
以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を
卒業し現時十五銀行福岡支店長たり家族は尙長女文子
(大一一、一)生、甥榮治(明二七、四)生、現戶主)同妻千
年(同二七、一)生、佐賀、飛松安之助(長女)及其子女
は(同武、同四、一)生)あり姪フチ(同二九、四)生)は
佐賀縣人太田義彦に同アキ(同三三、三)生)は福岡縣人
内田玄英に嫁し甥寛二(同三一、九)生)は同妻シモ(同三
二、一)生、佐賀、坂本源六(長女)及其一子とに分
家し同勇(同四一、二)生)は外祖父西藤理平太に同實
(同四二、一〇)生)は佐賀縣人太本九郎に各養子となれ
り(福岡市藥院中庄一五一電三〇八一)
參照 池田見辰次郎の項

橋本 幸吉

君は東京府多額納税者、古久屋、吳服
商、東京府在籍
父 勘助 萬延元、二生、現戶主
母 文久三、三三、東京、橋本甚兵衛
妻 フク 明二七、一、東京、大澤忠七三

君は兵庫縣人橋本傳之助の長男にして萬延元年二月を
以て生れ明治二十三年家督を相続し夙に實業界に入り
現時實業銀行頭取たる外新宮銀行監査役として知らる
家族は尙孫次郎(大二、五)生、亡長男節治(二男)あり
長女ソウ(明二九、二)生)は大分縣人清水寅次に妹
こま(同九、九)生)は兵庫縣人志水市郎二男秀吉に叔
母(同九、七)生)は同縣人岡田其吉に嫁し弟政之
助(元治元、一〇)生)は同縣人鎌尾萬齡の養子となり同
辰治(明元、六)生)は同縣人島津吉太夫の絶家を再興し
同杉太郎(同二、二)生)は同妻こはる(同三、一〇)生、兵
庫、鎌尾萬齡(二女)及び其一子を伴ひ分家し二男五一
(同二五、一)生)も亦同妻より(同二六、三)生、兵庫、
士、稻岡平次郎(二女)を伴ひ分家せり(兵庫、安樂、初
野村)
參照 鎌尾政之助の項

橋本 久次郎

君は埼玉縣人橋本善助の長男にして明治二十一年九月
を以て生れ同三十一年家督を相続し後前名智太郎を改
む材木商を營ふ縣下の多額納税者にして現時實業銀行
取締役たり家族は尙長女フサ子(大八、一)生、二女ミ
(同九、七)生)三女輝子(同二二、五)生、四女佳子(昭二、
五)生)の外亡伯父和吉妻ムメ(明九、四)生、東京、土
榮井ミノ(三女)及其一男あり叔父健吉(同六一、一〇
生)は茨城縣人青木才次郎に弟喜久治(同二四、五)生
は埼玉縣人橋本利助に同康雄(同三三、一)生)は茨城縣
人野口まらに各養子となり叔母まつ(同一九、一〇)生
は栃木縣人森田一郎に妹てる(同二九、五)生)は東京

橋本 幸治郎

君は北海道多額納税者、土木建築請負
業、北海道在籍
妻 ヒサ 明一七、三、石川、中村サト妹
養子 博介 住宮藤市弟
孫 リツ 明二五、八、養子博介長女
道、兵藤福太郎(二女)

橋本 貞夫

君は廣島縣人尾川康の長男にして明治三年三月を以て
生れ先代勝五郎の養子となり同二十一年家督を相続す
現に前記諸會社の重役たり(東京、牛込、市谷仲之町
三五電牛込四二二〇)

橋本 實額

君は藤原鎌足の支裔太政大臣今出川公勝の四男參議
實後(後)なり世々家職として樂座を掌る十五代を経て
先代實榮に至り戊辰の役東海道を先鋒總督鎮撫として
桑名城を攻め後地方官元老院議員に歴任し明治十七年

橋本 實額

君は藤原鎌足の支裔太政大臣今出川公勝の四男參議
實後(後)なり世々家職として樂座を掌る十五代を経て
先代實榮に至り戊辰の役東海道を先鋒總督鎮撫として
桑名城を攻め後地方官元老院議員に歴任し明治十七年

伯爵を授けらる君は其二男にして慶應三年十月を以て生れ明治十八年慶應御付けらる家族は尙妹竹子(明二、九生)あり姉な(慶應三、二生)は京都府人桑原長太郎に妹秀子(明八、四生)は伯爵清水谷實英に同敷子(同三、五生)は東京府華族藤澤萬二に嫁せり(東京、牛込、市谷砂土原町三ノ一九電牛込二八二九)
 ※子爵清水谷實英、子爵六條有直、藤澤萬二、※子爵戸功男爵阿蘇惟孝男爵藤藤大路親美※鍋島桂次郎の項

橋本 三郎 家主
 大阪府在籍
 慶應二、五生、大阪、和田ツル長

君は大阪府人橋本半兵衛の三男にして明治三十九年十二月を以て生れ大正八年家督を相続す家主に於て資産家たり家族は尙第一郎(明四、一、五生)あり(大阪、南鍛冶屋町五〇電南四八七六)

橋本 二郎 大阪府在籍
 慶應一、一、一生、東京、小柳善四郎

君は福岡縣土族橋本卯之吉の弟にして明治三年二月を以て生れ大正二年分家して一家を創立す明治二十三年明治法律學校を卒業し文官高等試験に合格司法官となり長崎に韓國政府領事監獄檢察等に歴任し現時辯護士たり養子スマ(明三五、一、一生、福岡、北島敬人二女)は長崎縣人井福大策に嫁せり(朝鮮、全羅北道、全州面大正町)

橋本 重幸 日本相互貯蓄銀行、安田信託、住友生命保險各(株)取締役
 長崎縣土族

君は長崎縣土族橋本嘉平の長男にして明治三年八月を以て生れ大正三年家督を相続し前名幸一郎を改め明治

橋本 重雄 明三〇、二生、法學士、住友銀行
 長女 明四、一、一生、長崎、上、山口新一

君は大阪府人橋本忠兵衛の弟にして明治十二年十一月を以て生れ先代誠太郎の養子となり大正十四年家督相続と共に前名淳助を改め眞名橋本重雄と稱し菓子商を営む養妹サダ(明一六、八生)は分家し養甥政雄(大元、一、一生)は大阪府人中澤保吉に養父誠三郎(萬延元、一、一生)は同府人小島くすに各養子となれり(大阪、南、小島誠三郎の項)

橋本 新藏 橋本輪業社、自轉車商
 大阪府在籍
 明二七、二生、大阪、竹葉市兵衛

君は大阪府人橋本八兵衛同己之助の弟にして明治十七年十二月を以て生れ同十四年分家して一家を創立す現に橋本輪業社と稱し自轉車商を営む(大阪、南、内安堂寺町三ノ二五電東三一八〇)

橋本 清助 三重縣多額納稅者、下津醬油(株)監査役、味噌醬油醸造業
 三重縣在籍
 元治元、一、一生、三重、吉澤嘉市

君は滋賀縣人岡崎新太郎の二男にして明治二十一年二月を以て生れ先代清助の養子となり大正十三年家督相続と共に眞名として前名直治郎を改め味噌醬油醸造業を営み傍ら下津醬油會社監査役にして三重縣多額納稅者として知らる家族は尙二男恭二郎(大七、九生)長女敏子(同九、二生)二女東子(同二二、二生)三女亮子(昭二、一、一生)あり養妹温子(明二三、四生、三重縣立高等女學校出身)は三重縣 徳力嘉蔵二男嘉三郎に同敷子(同二七、九生、出身校同上)は大阪府人原彌太其弟彌五郎に同敷子(同三一、四生、出身校同上)は同府人瀬戸永三に同敷子(同三四、一、二生、出身校同上)は三重縣人磯矢三郎に嫁せり(津、上濱町一〇三)

橋本 誠太郎 橋本醬水、菓子商
 大阪府在籍
 弘化三、二生

君は島根縣人松本運兵衛の六男にして明治十九年五月を以て生れ同二十五年先代々々の養子となり家督を相続す現に三菱商事社に入り上海支店長を経て現に同社理事にして傍ら日本生絲會社常務取締役兼組育支店長たり家族は尙二男幸(大五、一、一生)あり(米國、組育、ウエストエンドアグエニユー四四一)

橋本 重兵衛 島根縣多額納稅者、石見製紙(株)監査役、酒造業、島根縣在籍
 君は島根縣人橋本重平の長男にして安政五年四月を以て生れ明治二十一年分れて一家を創立す酒造業を営み傍ら石見製紙會社監査役にして亦島根縣多額納稅者たり

橋本 節齋 從五位勳五等、小石川病院長、醫師
 東京府在籍
 明一五、七、七生、新潟、上、高田貞綱、女子高等師範學校出身

君は舊津藩士橋本一齋の長男にして明治元年十二月を以て生れ後家督を相続す同二十九年帝國大學醫學科大學を卒業し後同大學附屬第一醫院副手となり尋で同大學助手に任じ同三十二年副達病院長を命ぜられ後東京帝國大學醫學科大學助教授となり東京養育院院長を命ぜられ又内閣恩給局常務顧問たりしが後辭して獨立開業し小石川病院長となり専ら内科診療に従事し尙耳鼻咽喉科産婦人科を添設し各専門醫をして之に當らせしめ一般の診療に従事す其他内科學に關する著書あり新内科全書近世診斷學近世内科全書獨英和醫學大學字典是なり家族は尙三女雪枝(大三、一、一生)あり長女三重子(明三〇、一、一生)は東京府人醫學博士高田時に嫁せり(東京市外東鴨町平松一五三八電大塚三三四)

二十八年帝國大學法科大學英法科を卒業し直ちに日本生命保險會社に入り後獨逸に留學して保險學を研究するこ三年歸來主事に任じ更に取締役に擧げらる大正九年之を退き關西大學講師となり現時前掲諸會社の重役たり家族は尙弟猪六(明二〇、一、一生)同妻松乃(同二八、一、一生、廣島、坂村善三女)及其二男あり長女登和(同三七、二生、神戸女學院出身)は京都府人三宮萬幸に嫁せり(兵庫、武庫、住吉村一五八〇電御影二二九)
 ※山口力磨の項

橋本 繁太郎 繁高家、第一朝日劇場主、興行主
 大阪府在籍
 明二六、一、一生、養子鶴子夫、京都、久富健之助弟

君は大阪府人橋本久太郎の長男にして慶應三年六月を以て生れ明治二十四年先代母トラの後を相続す繁高家と稱し興行主にして第一朝日劇場主たり家族は尙庶子とこ子(大五、六生)孫久子(同九、一、一生)養子正之助長女(同四、一、一生)同二男あり(大阪、浪速、惠美須町一ノ一電戎四五三六)

橋本 十五郎 日本生絲(株)常務取締役兼組育支店長、三菱商事(株)理事
 島根縣在籍

君は島根縣人橋本重平の長男にして安政五年四月を以て生れ明治二十一年分れて一家を創立す酒造業を営み傍ら石見製紙會社監査役にして亦島根縣多額納稅者たり

橋本 善吉 新橋館、番書、旅館兼刺業
 東京府在籍
 明七、四生、長女みち夫、埼玉、飯塚勇八三男

君は東京府人橋本彦太郎の長男にして天保十四年二月を以て生れ明治五年家督を相続し前名宗治郎を改む現に新橋館と稱し旅館業を兼營す長男作太郎(明九、一、一生)は東京府人宮尾榮助の養子となれり(東京、芝、芝口一ノ一電銀座二七〇〇)

橋本 信次郎 東京商工會議所常議員、橋本本店、岩手電力各(株)社長、肥後清精、極東煉乳、華海拓殖製茶、九曜商會、中央別府溫泉土地、益隈炭礦各(株)取締役、相模紡績(株)監査役、宮城縣在籍
 萬延元、二生、宮城、渡邊重綱二

君は熊本縣人橋本忠次郎の長男にして明治十二年四月を以て生れ大正五年家督を相続す現に實業界に入り現時橋本本店及岩手電力會社の社長にして前掲諸會社の重役を兼り東京商工會議所常議員たり家族は尙二女啓(大四、九生)二男武忠(同六、八生)三男達平(同

橋本 庄吉 石川縣多額納稅者、酒造業
 石川縣在籍
 明一二、一〇生、石川、手塚菊松

君は石川縣人尾崎庄平の甥にして明治二十二年十月を以て生れ大正五年先代敏子の入夫となり家督を相続す酒造業を營み現に石川縣多額納稅者たり家族は尙二男外喜三(大一一、四生)妻妹綾子(明三七、一、一生)あり同敷子(同四〇、三生)は石川縣人永井外吉に嫁せり(石川、江沼、動橋村)

橋本 庄藏 野村證券(株)取締役
 滋賀縣在籍
 明二五、九生、京都、岡本まつ養

君は滋賀縣人橋本庄次郎の弟にして明治十八年二月を以て生れ大正二年分家して一家を創立す現時野村證券會社取締役たり家族は尙二男昌大(大九、五生)長女三代子(同二、一、一生)二女佳子(同三、五生)三女節子(同二五、七生)あり(大阪、豊能、豐中町)

橋本 善吉 新橋館、番書、旅館兼刺業
 東京府在籍
 明七、四生、長女みち夫、埼玉、飯塚勇八三男

君は東京府人橋本彦太郎の長男にして天保十四年二月を以て生れ明治五年家督を相続し前名宗治郎を改む現に新橋館と稱し旅館業を兼營す長男作太郎(明九、一、一生)は東京府人宮尾榮助の養子となれり(東京、芝、芝口一ノ一電銀座二七〇〇)

橋本 惣五郎 家主
 大阪府在籍
 安政元、四生、奈良、松村市郎兵衛長女

君は大阪府人先代惣五郎の二男にして明治十一年十一月を以て生れ大正四年家督を相続し前名宗治郎を改む現に於ける資産家にして家主たり家族は尙二男宗次(明四三、一、一生)四女テル(大三、三、三)五女シツ(同八、四生)六女ヌエ(同二、一、一生)妹たつ(明二五、一、一生)及其一女あり弟惣七(同二二、一、一生)は分家せり(大阪、南、大寶寺町東之丁一〇電南二九六〇)

橋本 惣七 大阪製粉(株)取締役、小麦粉商
 大阪府在籍
 明二六、九生、大阪、梶尾榮次郎

君は大阪府人橋本惣五郎の弟にして明治二十三年一月を以て生れ大正七年兄惣五郎より分れて一家を創立す小麦粉商を營み傍ら大阪製粉會社取締役たり家族は尙三男三佐夫(大九、四生)長女民(同二、一、一生)二女孝子(同四三、二、二生)あり(大阪、南、瓦屋町三番丁八〇電南九四四)

橋本 惣七 大阪製粉(株)取締役、小麦粉商
 大阪府在籍
 明二六、九生、大阪、梶尾榮次郎

君は大阪府人橋本惣五郎の弟にして明治二十三年一月を以て生れ大正七年兄惣五郎より分れて一家を創立す小麦粉商を營み傍ら大阪製粉會社取締役たり家族は尙三男三佐夫(大九、四生)長女民(同二、一、一生)二女孝子(同四三、二、二生)あり(大阪、南、瓦屋町三番丁八〇電南九四四)

橋本 惣七 大阪製粉(株)取締役、小麦粉商
 大阪府在籍
 明二六、九生、大阪、梶尾榮次郎

君は大阪府人橋本惣五郎の弟にして明治二十三年一月を以て生れ大正七年兄惣五郎より分れて一家を創立す小麦粉商を營み傍ら大阪製粉會社取締役たり家族は尙三男三佐夫(大九、四生)長女民(同二、一、一生)二女孝子(同四三、二、二生)あり(大阪、南、瓦屋町三番丁八〇電南九四四)

橋本 惣七 大阪製粉(株)取締役、小麦粉商
 大阪府在籍
 明二六、九生、大阪、梶尾榮次郎

橋本 太吉

勤四等、尾道鐵道、尾道造船、南洋農産各株、社長、日本製鋼製造、大君製業、利根川砂利各株、取締役、廣島縣在籍

橋本 太次

和歌山縣多額納稅者、四十三銀行(株)取締役、農業、和歌山縣在籍

橋本 太次兵衛

和歌山縣人先代太次兵衛の長男にして明治二十三年十一月を以て生れ同三十九年家督を相続し農業を營み縣下の多額納稅者にして現時四十三銀行取締役に家族は尙二男次郎(大四、九生)三男衛三(同七、三生)あり(和歌山、日高、湯川村)

橋本 泰治

濃明銀行(株)頭取、農飛農工銀行(株)監査役、岐阜縣在籍

橋本 辰雄

酒類商、愛知縣在籍

橋本 辰二

長崎縣多額納稅者、福洋汽船、沙河汽船各株、社長、日東製水、東邦電力各株、取締役、東京橋本(名)代表社員、長崎縣在籍

橋本 長兵衛

三河屋、蕨炭商、東京府在籍

橋本 虎男

産科婦人科醫、大阪府在籍

橋本 虎吉

橋本會代表社員、金物商、大阪府在籍

橋本 直一

東京市會議員、日本橋區會議員、日本商工會々長、帽子商、東京府在籍

橋本 暢

農業、岡山縣在籍

橋本 徹雄

市立札幌病院醫長、栃木縣在籍

橋本 鐵吉

郡山橋本銀行(株)常務取締役、日安紡績(株)監査役、福島縣在籍

橋本 直正

明二、四生、長男直正妻、東京

橋本 直也

北海道煉乳(株)専務取締役、北海道在籍

橋本 長俊

正四位勳六等、子爵、陸軍騎兵中尉、帝國桐葉(株)社長、東京府華族

橋本 藤七

近江倉庫土地(株)取締役、滋賀縣在籍

橋本 德次郎

橋本製業(株)社長、廣瀬商店(株)取締役、濟生堂、製菓業、東京府在籍

橋本 豐次郎

小倉商工會議所副會頭、大阪府在籍

橋本 豐太郎

橋本組工業(資)無限責任社員、群馬縣在籍

橋本 太吉

勤四等、尾道鐵道、尾道造船、南洋農産各株、社長、日本製鋼製造、大君製業、利根川砂利各株、取締役、廣島縣在籍

橋本 太次

和歌山縣多額納稅者、四十三銀行(株)取締役、農業、和歌山縣在籍

橋本 太次兵衛

和歌山縣人先代太次兵衛の長男にして明治二十三年十一月を以て生れ同三十九年家督を相続し農業を營み縣下の多額納稅者にして現時四十三銀行取締役に家族は尙二男次郎(大四、九生)三男衛三(同七、三生)あり(和歌山、日高、湯川村)

橋本 泰治

濃明銀行(株)頭取、農飛農工銀行(株)監査役、岐阜縣在籍

橋本 辰雄

酒類商、愛知縣在籍

橋本 辰二

長崎縣多額納稅者、福洋汽船、沙河汽船各株、社長、日東製水、東邦電力各株、取締役、東京橋本(名)代表社員、長崎縣在籍

橋本 長兵衛

三河屋、蕨炭商、東京府在籍

橋本 虎男

産科婦人科醫、大阪府在籍

橋本 虎吉

橋本會代表社員、金物商、大阪府在籍

橋本 直一

東京市會議員、日本橋區會議員、日本商工會々長、帽子商、東京府在籍

橋本 暢

農業、岡山縣在籍

橋本 徹雄

市立札幌病院醫長、栃木縣在籍

橋本 鐵吉

郡山橋本銀行(株)常務取締役、日安紡績(株)監査役、福島縣在籍

橋本 直正

明二、四生、長男直正妻、東京

橋本 直也

北海道煉乳(株)専務取締役、北海道在籍

橋本 長俊

正四位勳六等、子爵、陸軍騎兵中尉、帝國桐葉(株)社長、東京府華族

母 謙 嘉永四、七生、福井、士、瀨田三郎助長女

妻 ツム 明二六、六生、東京、後藤惣作二女、東京女學館高等科出身

母 謙 嘉永四、七生、福井、士、瀨田三郎助長女

橋本八右衛門

母 謙 嘉永四、七生、福井、士、瀨田三郎助長女

妻 謙 嘉永四、七生、福井、士、瀨田三郎助長女

浦泉八二男)は其子女を伴ひ養妹キヨ(同三六、一、二生)は其夫英雄(同三二、六生、青森、名久井重藏四男)と共に大叔父寅吉(天保四、八生、曾祖父八右衛門)を養子、青森、今泉三平二男)は其妻かつ(同九、二生、青森、福澤太藏二女)及一子を伴ひ同友吉(同六、二生、同養子、青森、池田丑松二男)は其妻ふく(嘉永五、二生、青森、中村寅吉三女)及子女を伴ひ従妹ま(同二六、一〇生、叔父武八長女)は同夫源三郎(同二五、九生、青森、高橋福次郎二男)及一子を共に再従姉ま(嘉永三、五生、大叔母うめ長女)は同夫源藏(天保七、一、二生、青森、橋本久治郎二男)及子女と共に各分家せり(青森、三戸、八戸町)

橋本八兵衛

母 謙 嘉永四、七生、福井、士、瀨田三郎助長女

妻 謙 嘉永四、七生、福井、士、瀨田三郎助長女

橋本初次郎

妻 謙 嘉永四、七生、福井、士、瀨田三郎助長女

校機關科を卒業し日本郵船社に入り現に同社安藝丸機關長たり、北清事變及日露戦役の際に輸送に従事し功あり勲六等旭日章を賜はり海軍豫備員令の發布と共に正七位海軍豫備機關大尉に任ぜらるる家族は尙亡弟久雄妻す(明一九、四生、愛知、三宅惣左衛門四女)及其二男あり(東京市外大井町七四九)

橋本秀雄

父 長三郎 明元、五生、現戸主

橋本福藏

妻 ミツル 明二六、一、二生、愛媛、穂積積降

橋本文六

妻 ヒナコ 明三二、八生、山口、村谷吉藏二

橋本戊子郎

南滿洲、鞍山不動産信託、滿洲日日新聞社(株)監査役、南滿洲鐵道(株)經理課長、三重縣在籍

橋本正治

妻 キヨ 明三一、一〇生、北海道、田中滋

男 俊彦 明三九、一〇生、弘前高等學校在

君は福井縣土族吉田傳七の二男にして小池堅治の兄なり明治六年五月を以て生れ後先代久の夫となり同二十四年家督を相繼ぎ同三十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試験に合格し青森縣參事官熊本縣事務官佐賀縣島津島津各縣警務部長北海道廳勸業部長同土本部長同内務部長等を歴任し大正六年勸業局長に任ぜられ今日に至る乘馬及棒球に趣味を有す家族は尙二男靖彦(明四三、一、一〇生)三女英子(大七、四生)三男信彦(同一一、六生)四女壽子(同三三、三三)あり(吳市々々長公舎)

橋本萬右衛門

妻 モト 明二五、六生

橋本萬之介

妻 貞 明二三、二生、兵庫、松島泰夫妹

君は貴族院議員橋本萬右衛門の弟同鐵吉の叔父にして明治十三年十月を以て生れ先代萬助の養子となり同三十六年家督を相繼ぎ後前名榮治を改む同三十七年東京高等商業學校を卒業し朝鮮銀行に入り大連上海組育大阪東京各支店支配人等に歴任し大正十三年同行理事に擧げられ昭和二年を以て辭し東部電力會社社長に推され現在に至る家族は尙二男健次郎(大五、三三)一女朝(同六、五生)三男康三郎(同八、一〇生)あり(東京、麻布、筈町一七六番青山四五〇五)

橋本巳之助

妻 ムメ 明二五、七生、大阪、古市清兵衛

君は大阪府人橋本八兵衛の弟にして同新藏の兄なり明治十三年七月を以て生れ四同十一年分家して一家を創立す自轉車販賣業を營む(大阪、南、南炭屋町三七電南七四〇)

橋本安平

妻 安兵衛 萬延元、六生、香川、橋本島三郎

橋本保平

妻 忠次郎 明一一、八生

大崎嶺山(株)取締役、地主

妻 カツミ 明一四、八生、愛媛、菊池平治長
 男 虎三 明三三、六生、二男虎三妻、大
 婦 和子 明三七、一三、二男虎三妻、大
 君は山口縣人吉賀忠吉の四男にして明治六年四月を以て生れ後先代イコの養子となり同二十六年家督を相続す地主にして現に前記會社の重役なり家族は尙孫輩一(大)一、七生、二男虎三妻(同)一四、三三、二男(同)同美代子(昭二、二生、同長女)あり三男晃明三六、一(生)は分家し五男義男(同四〇、九生)は繼母カツミ生家の養子となり(大阪、此花、春日出町一三電土佐堀三七六)

橋本與三吉 京都大内銀行(株)監査役
 京都府在籍
 妻 嘉永五、九生、京都、木村宗兵衛
 母 三女
 女 與一郎 明四〇、二生
 女 ミサチ 明三七、一三
 女 千賀 明四三、一〇生

橋本陽三郎 藝備銀行、尾道諸品各(株)監査役
 尾道縣在籍
 妻 ヒテ 萬延元、三三、養父恒二郎長女
 男 榮之助 明一四、八生、長男榮之助妻、
 婦 サヲ 廣島、橋本太吉妹
 孫 研吉 明三八、二生、長男榮之助長男
 孫 糸子 明四三、三三、長男榮之助二女
 君は岡山縣人井上昌作の弟にして安政六年九月を以て生れ先々代恒二郎の養子となり明治十七年亡養父房の助の跡を承けて家督を相続す現時前記銀行會社の監査役なり家族は尙孫輩吉(大元、一〇生、長男榮之助二

橋本六之助 紀州員録(株)代表取締役
 和歌山縣在籍
 妻 コトメ 明二六、二生、宮崎、中芝由郎二
 男 豐太郎 明四一、三三
 君は和歌山縣人橋本佐藏の四男にして明治十二年十月を以て生れ同四十一年分家して一家を創立す現時紀州

橋本龍一 廣島縣多額納稅者、尾道鐵道(株)代表取締役、藝備銀行(株)取締役、尾道銀行、廣島縣農工銀行各(株)監査役、廣島縣在籍
 妻 ケイ 慶應二、八生、廣島、尼子英次郎
 母 節 明三六、一〇生、香川、七、大西
 女 行禮三女
 君は廣島縣人橋本吉兵衛の長男にして明治二十六年三月を以て生れ大正十三年家督を相続す同六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現に前記銀行會社の重役にして廣島縣多額納稅者なり家族は尙長女佐紀子(大一一、一(生)二女)あり姉トヨ(明一八、七生)は廣島縣人橋本吉次郎長男榮太郎に同ト(同二三、四生)は同縣人尼子忠長長男勝吉に同ト(同二八、二生)は同縣人橋本陽三郎二男虎三郎に同順子(同三五、二生)は岡山縣人石井源次郎長男連一郎に叔母トツ(同四、五生)は香川縣土族大西行禮に嫁し弟祥吉(同三二、一〇生)は分家せり(尾道、久保町) 參照 石井源次郎、大西行禮、橋本吉次郎、橋本陽三郎、伊藤長次郎、鈴木十郎の項

蓮沼友次郎 富山縣多額納稅者
 富山縣在籍
 妻 なみ 明一五、九生、富山、中田宗助四
 養子 長三郎 明三六、九生、富山、蓮沼安太郎二男
 君は富山縣人蓮沼長三郎の二男にして同安太郎の弟なり明治六年一月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す(富山、現に富山縣多額納稅者なり(富山市東三番町一五) 參照 蓮沼安太郎の項

蓮沼安太郎 富山縣多額納稅者、富山電氣(株)監査役、倉庫業、富山縣在籍
 妻 マサ 明四、一三、富山、金子庄之助妹
 男 長 明三三、七生
 婦 治 明三九、三三、長男長藏妻、富山、森隆吉長女
 男 孝吉 明四〇、一三
 君は東京府人蓮沼長三郎の長男にして明治四年一月を以て生れ後家督を相続す倉庫業を營み傍ら富山電氣會社監査役にして富山縣多額納稅者なり家族は尙孫輩子(大)一三、三三、長男長藏(長女)あり長女キキ(明二九、五生)は其夫善之助(同二六、二生、富山、東善助三男)及其子女と共に分家し弟友次郎(同六、一(生)も亦分家し二男長三郎(同三六、九生)は其養子となり(富山市榎木町七七) 參照 蓮沼友次郎の項

蓮見義隆 正四位勳三等、產業組合中央金庫理事、東京府土族
 妻 じづ子 明一五、四生、東京、土、野々村政也長女
 繼母 リカ 慶應元、二生、埼玉、早川熊七妻
 君は東京府人蓮見輝之助の長男にして明治九年四月を以て生れ大正十三年家督を相続す先是明治三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格大藏省書記官稅務官事務官官廳局長廣島縣本札帳九島名古屋各稅務監督局長に歴任し現時產業組合

長谷新 東北館製糸場(株)社長、仙北倉庫、東北館製糸場、株、監査役
 宮城縣在籍
 妻 ふぢを 明一七、五生、永瀬千富二女
 男 隆雄 明三六、八生
 男 邦雄 明三八、二生
 男 繁雄 明四一、一三
 君は宮城縣人長谷新一郎の二男にして明治十年三月を以て生れ同四十年分家して一家を創立す現に東北館製糸場社長たる外前記各會社の重役なり(宮城、遠田、涌谷町) 參照 永瀬千富三郎の項

長谷六兵衛 和歌山縣多額納稅者、釀造業、和歌山縣在籍
 妻 小榮 明元、一三、和歌山、長谷啓藏姉
 男 勝四郎 明三七、三三
 婦 フク 明三一、六生、亡二男信三妻、大坂、義本一妹
 君は和歌山縣人井關助左衛門の弟にして安政三年五月を以て生れ後長谷家に入り明治二十五年鶴子ゆき江の死跡を相続す釀造業を營み現に和歌山縣多額納稅者なり長女政江(明二二、二生)は同夫善之助(同二二、一〇生、和歌山、山本梅吉甥)と共に分家し三男新次(同三〇、一(生)も亦分家し二女みつみ(同二三、一(生)は和歌山縣人前島十太郎に嫁せり(和歌山市雜賀町) 參照 前田種家寺田松三郎の項

長谷井市松 朝鮮銀行(株)京城總裁、前總裁、長谷井市松、心傳、東京府在籍
 妻 千代松 明四、一三、現戶主
 養母 比天 明六、一〇生、岡山、長尾遠志妹

長谷川伊藏 長谷川毛織(株)社長、愛知縣在籍
 妻 あさの 明一五、一三、愛知、富永新吾
 男 敏治 明三五、一〇生
 婦 信子 明三九、八生、二男敏治妻、愛知小原陽太郎長女
 君は愛知縣人先代伊藏の長男にして明治三年十月を以て生れ同三十六年家督を相続し後襲名して前名龜三郎を改む現時長谷川毛織會社社長たり日本毛織會社取締役にして蘇東電氣軌道會社監査役なり家族は尙四男壹四郎(明四二、八生)長女ミツ子(大)三、七生、孫智恵子(昭二、一(生)二男敏治長女)あり庶子しやう(明三二、三(生)生母、愛知、山田たけ)は愛知縣人小川ちやうの養子となり弟伊三郎(同四、七(生)は分家し同末太郎(同二七、三(生)も亦同妻しけ(同二二、六(生)愛知、春日淺十郎妹)及び其一女を伴ひ分家せり(愛知、中島、起町)

長谷川猪三郎 從三位勳三等功四級、伯爵、豫備陸軍少將、東京府華族
 妻 ト 明一五、三三、男爵佐藤達次郎從
 男 東吉 明二八、一三、從五位、第一銀行員
 婦 福子 明三七、四生、長男東吉妻、靜岡野崎左衛門長女、靜岡高等女學校出身

長谷川乙彦 從四位勳四等、東京府青山師範學校校長、東京高等師範學校教授、國學院大學教授、文政審議會委員、愛知縣土族
 妻 せい 明一七、九生、愛知、土、竹居豐實長女
 男 輝彦 明三六、一(生)
 男 英夫 大七、四生、現戶主
 女 須磨子 明四二、一(生)
 女 靜枝 大七、五生
 君は愛知縣土族長谷川米吉の弟にして明治三年四月を以て生れ同二十八年東京高等師範學校を卒業し同三十八年廣島高等師範學校教授兼同附屬中學校主事に歴任し大正三年教育學研究のため英米獨各國に留學し尋で東京高等師範學校教授に轉じ現時青山師範學校長にし

て東京高等師範學校教授國學院大學教授を兼り文政審議委員仰せ付らるる家族は尙先代米吉妻(か)(明九、一〇)生、愛知、高麗常一(三女)あり(東京、赤坂、新坂町三二)

長谷川佳平

長谷川洋行主 東京府在籍 母 萬延元、九生、愛知、永田清一郎 長女 明三六、一、生、東京、大橋幸三郎 妻 満枝 明三六、一、生、東京、大橋幸三郎 男 佳道 大一一、五、六生

君は山形縣人長谷川吉郎治の男にして明治二十四年十月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す明治四十四年東京高等商業學校を卒業し内外綿株式會社に入り同社上海支店詰となりし後辭して長谷川洋行を創立し今日に至る曩に歐米に漫遊し又漢口取引所外敷會社の重役たりし(兵庫、武庫、精道村)

長谷川嘉兵衛

山梨證券(株)常務取締役、鼓川水力電氣(株)取締役、市川商事(株)監査役、山梨縣在籍 母 弘化二、五生、山梨、五味行藏叔 繼母 明二四、六生、山梨、五味行藏叔 妻 多喜 明三二、一、生 男 泰雄 明四三、一、生 女 英 明四四、一〇生

君は山梨縣人長谷川嘉兵衛の長男にして明治六年六月を以て生れ同三十二年家督を相続し大正五年前爲市を改む現時山梨證券會社常務取締役に於て前記諸會社の重役たり家族は尙二男明夫(大四、一、生)三男裕夫(同六、四、生)四男眞平(同八、一、生)五女剛子(同一、八、生)叔父庄三郎(弘化四、二、生)あり長女俊子(明三五、一、二生)は山梨縣人廣瀬和音の養子となれり(山梨、中巨摩、西條村)

長谷川勝助

大阪府在籍 大坂府在籍 妻 みち 明一三、一、二生、和歌山、坂田敬太郎妹

君は岐阜縣人長谷川金左衛門の叔父にして同鏡次の兄なり久二一年一月を以て生れ明治十年分家して一家を創立す本家長谷川家は代々材木商を營み君は本家より分家するに際し三重縣桑名町に店舗を開きしも後之れを廢し當地に移住し最初は本籍地方面より移入する木材を販賣せしが漸次近畿地方の産出に係るものを取り扱ひ和歌山縣新宮町に支店を置き又製材所を經營し漸次其の地盤を固めて今日に至る家族は尙孫安佐子(大一一、九、生、長男龍作長女)同美恵子(同一四、一〇生、同二女)あり長女靜(明二一、一〇生)は東京府人前川榮三に三女婿子(同三六、八、生)は愛知縣人佐々木幸治郎長男一に嫁し二女香代(同二二、四、生)は岐阜縣人早川周造の養子となれり(大坂、西、幸町通四ノ五四電樓川四六一)

長谷川龜樂

神奈川縣多額納稅者、東洋製菓(株)社長、神奈川製材(株)取締役 妻 喜樂、葉子商、神奈川縣在籍 母 明二九、三、生、神奈川、友田きん 妹 久夫 大三、三、生 男 龜久夫 大三、三、生 女 年枝 明四二、一、二、生

君は神奈川縣人先代龜樂の長男にして明治十年二月を以て生れ大正七年家督を相続し前名龜三郎を改む菓子商並製菓會社を経営し喜樂と稱し老舖として知られ現に南洋製菓會社社長たる外前記會社の重役に於て同縣多額納稅者たり弟守吾(明一九、二、生)は其妻ハツ(同二〇、八、生、神奈川、橋本盛江長女)及其一男二女を伴ひ分家せり(横濱、中、伊勢佐木町二ノ一七電長者町一〇四九)

長谷川義市郎

地主主 大阪府在籍 妻 マサ 明三三、一、二、生、大坂、行後藤三郎三女、梅田高等女學校出身 男 明三六、五、生、早稻田大學法科出身

君は愛知縣人長谷川桂藏の長男にして安政三年十一月を以て生れ明治八年家督を相続し洋品商を營み糸藤と號して知らるる家族は尙六男善次郎(明四四、二、生)八女おとめ(大四、六、生)孫博三(同一二、一、二、生)三男泰助(明三三、七、生)は愛知縣人日比まき養子(錦三に六女信子(同三六、一、生)は同縣人水谷茂一に嫁し四男勇次郎(同三七、五、生)五男勝三(同三九、六、生)は共に同縣人加藤治吉の養子となり弟禮太郎(萬延元、六、生)は分家せり(名古屋、西、下長者町三ノ二電東一〇〇〇〇) 參照 平田佐次郎(木藤兵衛)の項

長谷川家は約百年來大阪府木野町に土著し往時より苗字帯刀を許され又眞眞大師の遺物を代々傳へ來れる家柄にして屈指の素封家なり君は先代博次郎の長男にして明治十年十一月を以て生れ同十六年家督を相続す同四十二年關西大學專門部法科を卒業し爾來祖業を承けて土地家屋の經營に従事す曩に永年鶴橋町助役及びその他名譽職を勤めたることあり諸曲を趣味す家族は尙六男洋(大一一、〇、六、生)二女一子(同一、七、生)あり母イサ(文久二、七、生、祖父市郎兵衛長女)は其三子を伴ひ分家し長男義次(明三四、八、生)弟義次郎(同一五、五、生)も亦各分家し長女笑子(同三八、一、生、清水谷高等女學校出身)は大坂府人和田高彦に妹モト(同一三、六、生)は同府人杉本林造に嫁せり(大坂、東成、鶴橋木野町二六五電池田二五三) 參照 和田高彦の項

長谷川儀作

立川水力電氣、盛中電氣軌道各(株)取締役、北陸汽船(株)監査役 富山縣在籍 妻 ヲノ 明二三、三、生、富山、高桑安次郎 長女 明二二、三、生、富山、高桑安次郎 男 義光 明四四、二、生

君は富山縣人長谷川儀作の三男にして明治十五年二月を以て生れ同縣人長谷川伊三郎の養子となり昭和二年家督を相続す夙に實業界に入り曩に別荘川電氣會社城端電氣會社其他諸會社の重役に於て活躍し富山縣會議員富山商業會議所常議員富山縣消防協會幹事富山市聯合青年團長等幾多の名譽職に擧げらるる現に立川水力電氣越中電氣軌道各會社の取締役に於て家族は尙三男誠三(大三一、二、生)二女サト(同七、二、生)三女貞子(同九、三、生)あり養父伊三郎(弘化三、三、生)は養母ヒテ(文久元、一、二、生、富山、高桑三郎妹)と共に分家し姉ツッキ(明一三、一、生)も亦分家し養妹光(同三五、六、生、富山、長谷川良造二女)は父長谷川儀平に嫁せり(富山市越前町二)

長谷川菊太郎

從四位勳三等、判事、福岡地方裁判所長、愛知縣士族 妻 高堂三郎(赤松父牛松)田中清文の項

君は山形縣人長谷川吉四郎の長男にして安政五年二月を以て生れ明治十六年弟吉三郎の後を承けて家督を相続し襲名す九谷と稱し免服商を營み縣下の多額納稅者たり弟吉三郎(慶應三、三、生)は山形縣人長谷川直則の養子となれり(山形市十日町五三三) 參照 長谷川吉三郎、長谷川吉四郎の項

君は愛知縣士族長谷川篤信の長男にして明治四年九月を以て生れ同十八年家督を相続す同三十一年東京帝國大學法科大學を卒業し辯護士となり同三十四年判事に任じ爾來横濱區同地方裁判所判事横濱地方裁判所部長東京控訴院判事徳島水戸各地方裁判所長大審院判事新潟地方裁判所長等に歴補し大正十四年現職福岡地方裁判所長に補せらるる家族は尙二女光子(大一一、一、二、生)三女久子(同一二、四、生)の外弟眞(明一三、一〇生)同妻ま(同一七、一〇生、山梨、遠藤幹貞二女)との間に子女あり弟眞(同七、一、生)は京都府人吉兼隆善に同室同一一、一、生)は愛知縣士族高田たけに各養子となれり(福岡、地方裁判所官舎)

長谷川吉三郎

山形縣多額納稅者、山形鹽元賣捌(株)社長、兩羽銀行(株)社長、山形貯蓄銀行(株)社長、兩羽銀行(株)監査役、山形縣在籍 妻 ユウ 慶應三、五、生、東京、長谷川清太郎長女 郎二二、四、生、山形、長谷川吉五郎二女 郎二二、八、六、生、養子吉彌妻、山形權久右衛門七女 郎二二、八、六、生、養子吉彌妻、山形權久右衛門七女

君は山形縣人長谷川吉四郎の弟にして同吉四郎の養叔父なり慶應元年三月を以て生れ後先代直則の養子となり明治二十九年家督を相続す現に前記銀行會社の重役にして山形縣多額納稅者なり曩に山形商業會議所特別議員に擧げらるる家族は尙孫吉正(大六、四、生、養子吉彌二男)同ハナ(同一〇、一、二、生、同長女)同吉保(同一四、三、生、同三男)あり弟吉次(明一四、三、生)同妻コウ(同一九、八、生、山形、長谷川吉五郎三女)は共に分家せり(山形市三日町五一)

長谷川吉三郎

系顯、洋品商 妻 八、一、一、生、愛知、吉田新太郎 男 泰助 明三四、八、生

長谷川吉三郎

系顯、洋品商 妻 八、一、一、生、愛知、吉田新太郎 男 泰助 明三四、八、生

君は愛知縣人長谷川桂藏の長男にして安政三年十一月を以て生れ明治八年家督を相続し洋品商を營み糸藤と號して知らるる家族は尙六男善次郎(明四四、二、生)八女おとめ(大四、六、生)孫博三(同一二、一、二、生)三男泰助(明三三、七、生)は愛知縣人日比まき養子(錦三に六女信子(同三六、一、生)は同縣人水谷茂一に嫁し四男勇次郎(同三七、五、生)五男勝三(同三九、六、生)は共に同縣人加藤治吉の養子となり弟禮太郎(萬延元、六、生)は分家せり(名古屋、西、下長者町三ノ二電東一〇〇〇〇) 參照 平田佐次郎(木藤兵衛)の項

長谷川吉四郎

山形商業銀行(株)頭取、山形電氣(株)監査役、山形縣在籍 妻 吉内 安政五、二、生、現戶主 養子 明三、九、生、養祖父吉内三女 孫 明三、八、生、亡長男吉三長男 男 吉壽 明四三、五、生 養子 明二四、六、生、三女エイ夫、山形、海老名千歳弟 女 エイ 明三七、四、生、養子謙六妻、山形明二八、四、生、亡長男吉三妻、山形庄司信吾妹

君は山形縣人喜早四郎治の弟にして明治三年四月を以て生れ長谷川吉四郎の養子となり同吉三郎の養甥に當る現時山形商業銀行頭取たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙孫マヌ(大五、一、二、生、亡長男吉三長女)同イチ(同五、四、生、養子謙六長女)同キミ(同八、五、生、同二女)同政子(同一四、一、一、生、同三女)あり(山形市十日町五三三) 參照 庄司信吾、長谷川吉内、長谷川吉三郎の項

長谷川吉内

山形縣多額納稅者、九谷、吳服太物商、山形縣在籍 妻 コト 文久二、二、生、山形、渡邊久右衛門長女 養子 吉四郎 明三、四、生、山形、喜早四郎治弟

長谷川吉内

山形縣多額納稅者、九谷、吳服太物商、山形縣在籍 妻 コト 文久二、二、生、山形、渡邊久右衛門長女 養子 吉四郎 明三、四、生、山形、喜早四郎治弟

意斯業の發展を圖れり傍ら現時前記各會社の重役たり家族は高孫昌三(明四三、七生、亡養子高三長男)あり(名古屋、中、正木町六七)

參照 長谷川勝助長谷川鏡次の項

長谷川鏡次

東京商工會議所議員、大湊木材、東京木材倉庫各(株)社長、朝日海陸運輸、東田製油各(株)取締役、東京木材市場、林監督、東京木材問題組合長、東京實業組合聯合會理事、木材問題、東京府在籍

妻 慰子 明一六、九生、岐阜、奥田平八長女
男 寅之助 大三、四生
女 市子 明四一、二生、府立第一高等女學校出身
女 壽美子 明四三、一、一生

君は岐阜縣人長谷川金左衛門の叔父にして同勝助の弟なり明治五年十月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同二十七年東京高等商業學校主計課を卒業し爾來木材問屋業を經營し市内一流の店舗たり現に東京商工會議所議員にして前掲諸會社の重役を兼ね尙二三の名譽職に在りて實業界に重きをなす(東京、深川、吉永町四電本所七四四)

長谷川九一郎

岐阜縣多額納稅者、岩村銀行(株)頭取、矢作榮道(株)取締役、岐阜縣在籍

妻 かぞゑ 明二三、九生、岐阜、川島伊三妹
君は岐阜縣人先代長次郎の長男にして明治十三年三月を以て生れ大正七年家を相續す現時岩村銀行頭取にして岐阜縣多額納稅者たり家族は尙三女あり(大五、一〇生)弟丈夫(明三六、一〇生)あり(岐阜、惠那、岩村町)

長谷川國三

旭硝子(株)總務課長、東京府在籍

父 清三郎 文久元、八生、東京、櫻本喜兵衛三男
母 イク 慶應元、一生、東京、志村三郎長女

妻 いく 明二四、八生、茨城、川崎力雄妹
男 正三 大八、八生
女 琴江 大八、二生

長谷川熊彦

從五位、旅順工科大学教授、福岡縣在籍

妻 ツル 明二二、四生、大分、七、末貞友
男 太郎 大八、一〇生
女 年四女

君は福岡縣人植木九吉郎の二男にして明治十七年三月を以て生れ後先代熊二の養子となり大正九年家を相續す明治四十二年東京帝國大學工科大学探検冶金科を卒業し製鐵所技手となり爾來明治專門學校教授製鐵所技師通信技師を経て昭和二年旅順工科大学教授に任ぜられ現時に至る家族は尙長女壽美子(大四、九生)二女安佐子(同六、一一生)二男秋彦(同二〇、八生)あり(旅順工科大学在籍)

長谷川公平

肥前電氣鐵道(株)專務取締役、福岡縣在籍

妻 こさ 明二五、六生、島根、室谷勤七妹
男 正平 大二、一生
女 保子 明四一、五生

長谷川公平

君は石川縣人長谷川六藏の五男にして明治八年八月を以て生れ同二十五年叔父省三方より分れて一家を創立す同三十六年東京高等師範學校理科を卒業し爾來千葉縣成東中學校教諭、大韓醫院醫學教授、東京府在籍

長谷川作次

三井物産(株)門司支店長、石川縣在籍

妻 トミ 萬延元、五生、石川、串田彌兵衛
女 清子 大二、二生

長谷川重太郎

四日市米穀取引所(株)專務理事、三重縣在籍

妻 つた 明二二、一生、三重、中上庄次郎
男 俊一 明四三、八生
女 久子 明四一、五生
女 敏子 明四五、六生
女 郁子 大二、一一生

長谷川鹿治

長谷川商店、大正商事信託各(株)取締役、兵庫縣在籍

妻 きみ 明二〇、一一生、兵庫、河部きみ私生子

長谷川治郎兵衛

三重縣多額納稅者、長谷川商店三重縣在籍

妻 れぬ 明二、七生、長谷川二雪長女
男 雅清 大二三、一一生
女 ミツ子 明三〇、三生、滋賀、塚本清三妹

長谷川重太郎

四日市米穀取引所(株)專務理事、三重縣在籍

妻 つた 明二二、一生、三重、中上庄次郎
男 俊一 明四三、八生
女 久子 明四一、五生
女 敏子 明四五、六生
女 郁子 大二、一一生

れり(東京、小石川、八千代町三四電小石川三三三三)

參照 長谷川勝助長谷川鏡次の項

長谷川鉅五郎

上肥金山、長慶商會各(株)社長、朝鮮煙草興業、泉尾土地各(株)取締役、山口縣在籍

妻 ふみ 明一〇、五生、東京、七、三阪邦
男 庚一 明三三、一生、慶應義塾大學經濟學科出身
明三九、九生、東京帝國大學文學部在籍

君は舊唐津藩士長谷川久誠の六男にして慶應三年十一月を以て生れ明治二十九年兄熊治方より分れて一家を創立す夙に實業界に入り三井物産會社に勤務し累進して門司支店長となる後自ら運送業を經營して名を成し推されて神戸商業會議所特別議員たりし事あり現に前掲諸會社の重役として知らる俳句に興味を有す家族は尙四男あり(明四三、一〇生)五男五郎(大二、二生)六男六郎(同六、七生)あり二女富久(明三五、八生、神戸女學院出身)は千葉縣人横濱正金銀行員元吉光大に三女豐子(同三七、一〇生、神戸聖心女子學院出身)は東京府人山本晴次に嫁せり(兵庫、武庫、精道村、舊屋一〇三)

長谷川梨

黒部銀行(株)頭取、小摺戸村長、富山縣在籍

妻 つた 明元、八生、富山、長谷川理五右衛門長女
男 小屋 明三一、三生
女 綾子 明三八、一〇生、三男小屋妻、富山、新田惠教長女

長谷川治郎兵衛

三重縣多額納稅者、長谷川商店三重縣在籍

妻 れぬ 明二、七生、長谷川二雪長女
男 雅清 大二三、一一生
女 ミツ子 明三〇、三生、滋賀、塚本清三妹

長谷川治郎兵衛

三重縣多額納稅者、長谷川商店三重縣在籍

妻 れぬ 明二、七生、長谷川二雪長女
男 雅清 大二三、一一生
女 ミツ子 明三〇、三生、滋賀、塚本清三妹

長谷川重太郎

四日市米穀取引所(株)專務理事、三重縣在籍

妻 つた 明二二、一生、三重、中上庄次郎
男 俊一 明四三、八生
女 久子 明四一、五生
女 敏子 明四五、六生
女 郁子 大二、一一生

長谷川鹿治

長谷川商店、大正商事信託各(株)取締役、兵庫縣在籍

妻 きみ 明二〇、一一生、兵庫、河部きみ私生子

長谷川重太郎

四日市米穀取引所(株)專務理事、三重縣在籍

妻 つた 明二二、一生、三重、中上庄次郎
男 俊一 明四三、八生
女 久子 明四一、五生
女 敏子 明四五、六生
女 郁子 大二、一一生

長谷川重太郎

四日市米穀取引所(株)專務理事、三重縣在籍

妻 つた 明二二、一生、三重、中上庄次郎
男 俊一 明四三、八生
女 久子 明四一、五生
女 敏子 明四五、六生
女 郁子 大二、一一生

三(同五、九生)四女静子(同九、一生)五女澄子(同...

長谷川正五

從七位勳五等功五級、陸軍歩兵中尉、工學博士、大阪商工會議所議...

長谷川正次

君は三重縣人長谷川駒吉の五男にして明治十五年八月...

長谷川仁

の重役に就任し茨城縣多額納稅者なり家族は尙孫喜...

長谷川清治

大阪市參事會會員、長谷川病院長、醫師、大阪府在籍...

長谷川宗一 青森縣多額納稅者、國產(株)取締...

長谷川昌藏

布引鐵道(株)監査役、長野縣土族...

長谷川信太郎

青森縣多額納稅者、青森商業銀行、國產、金城、旭東商事(株)取締...

長谷川眞之助

君は愛知縣人長谷川太兵衛の二男にして明治十九年十一月...

長谷川精二郎

君は青森縣人長谷川勝太郎の二男にして文久元年二月...

長谷川誠也

君は新潟縣土族長谷川周虎の長男にして明治九年十二月...

長谷川宗一

青森縣多額納稅者、國產(株)取締、海軍銀行、農林、青森縣在籍...

長谷川進次郎

天津新田養魚(株)社長、丸八運輸(株)事務取締役、愛知工業、帝國...

長谷川新平

君は愛知縣人長谷川其四郎の二男にして明治六年七月...

長谷川新兵衛

正七位勳七等、茨城縣多額納稅者、水濱電車、日立電氣、常北電氣各...

長谷川藻次郎

君は青森縣人長谷川傳兵衛の長男にして明治二十七年...

長谷川太郎

廣海商事(株)取締役、福岡縣在籍、安政六、一生、福岡、村上次助長...

君は福岡縣人長谷川繁松の二男にして明治十九年十一月を以て生る現時廣海商會社取締役たり家族は尙兄庄七(明一、四、一、生、現戸主)同妻トヨ(同一五、一、生、福岡、二宮宅兵衛姉)及其一子弟次郎(同一四、一、生)同妻トヒ(同一三、五、生、福岡、古野美茂妹)及其二男一女同繁(同一三、九、生)姉フネ(同一三、一、生)あり妹ウメ(同一八、三、生)は福岡縣人鹽川久雄に同ミヌ(同一九、一、〇、生)は同縣人渡邊準市に嫁せり(大阪、西成、玉出新町通り一ノ一電天下茶屋二四四)

長谷川太郎吉

君は新潟縣人加藤寅太郎の三男にして明治六年一月同孫村上町に生れ同十七年長谷川三藏の養子となり同年五月家督を相続す同二十二年十七歳にして志を立て、單身郷里を出て東京市銀座二丁目機械輸入商田島爲助商店に入り同二十四年支配人に昇進せるも徴兵検査の爲退店歸郷し同年再び上京して獨立機械商を營む同三十六年大川平三郎氏と共に資本金八拾二萬圓を以て九州製紙株式會社を興し爾來事務取締役に任じ當り次で壹千萬圓に増資して社業の發展を計り大正十五年四月豐大工業株式會社に合併資本金七千萬圓に増資し續いて同社事務取締役に擧げらる尙前記諸會社の重役を兼ぬ書畫骨董に興味を有す(東京、小石川、江戸川町一八電小石川三三〇〇)

長谷川高藏

君は新潟縣人加藤寅太郎の三男にして明治六年一月同孫村上町に生れ同十七年長谷川三藏の養子となり同年五月家督を相続す同二十二年十七歳にして志を立て、單身郷里を出て東京市銀座二丁目機械輸入商田島爲助商店に入り同二十四年支配人に昇進せるも徴兵検査の爲退店歸郷し同年再び上京して獨立機械商を營む同三十六年大川平三郎氏と共に資本金八拾二萬圓を以て九州製紙株式會社を興し爾來事務取締役に任じ當り次で壹千萬圓に増資して社業の發展を計り大正十五年四月豐大工業株式會社に合併資本金七千萬圓に増資し續いて同社事務取締役に擧げらる尙前記諸會社の重役を兼ぬ書畫骨董に興味を有す(東京、小石川、江戸川町一八電小石川三三〇〇)

長谷川高藏

君は新潟縣人加藤寅太郎の三男にして明治六年一月同孫村上町に生れ同十七年長谷川三藏の養子となり同年五月家督を相続す同二十二年十七歳にして志を立て、單身郷里を出て東京市銀座二丁目機械輸入商田島爲助商店に入り同二十四年支配人に昇進せるも徴兵検査の爲退店歸郷し同年再び上京して獨立機械商を營む同三十六年大川平三郎氏と共に資本金八拾二萬圓を以て九州製紙株式會社を興し爾來事務取締役に任じ當り次で壹千萬圓に増資して社業の發展を計り大正十五年四月豐大工業株式會社に合併資本金七千萬圓に増資し續いて同社事務取締役に擧げらる尙前記諸會社の重役を兼ぬ書畫骨董に興味を有す(東京、小石川、江戸川町一八電小石川三三〇〇)

長谷川常太郎

君は東京府士族長谷川福平の弟にして明治十七年五月を以て生る同十四年京都帝國大學法科大學を卒業し大正二年檢察事に任じ爾來岡山山岡地方廣島同地方千葉區佐原區千葉地方東京區同地方八王子區甲府府同地方各裁判所檢察事に歴補し大正十三年東京控訴院檢察事に轉じ現に其職に在り家族は尙長女道子(大五、四、生)二女貞子(同七、七、生)三女信子(同一二、五、生)四女治子(同一四、三、生)の外兄弟福平(明九、一、生、現戸主)同妻あり(同一八、九、生、京都、土、永井次郎三女)との間に一女あり姪てる(同三七、六、生、兄弟平長女)は東京府人高節三に嫁せり(東京、赤坂、青山南町六ノ三三電青山七二二五)

長谷川鐵雄

君は新潟縣多額納稅者、辨天島土地、福長飛行機製作所各(株)取締役に任じ現に其職に在り(東京、赤坂、青山南町六ノ三三電青山七二二五)

長谷川鐵次郎

正五位勳三等功五級、陸軍砲兵大佐、陸軍造兵廠技術部長、石川縣在籍

君は新潟縣人長谷川常太郎の三男にして明治六年一月同孫村上町に生れ同十七年長谷川三藏の養子となり同年五月家督を相続す同二十二年十七歳にして志を立て、單身郷里を出て東京市銀座二丁目機械輸入商田島爲助商店に入り同二十四年支配人に昇進せるも徴兵検査の爲退店歸郷し同年再び上京して獨立機械商を營む同三十六年大川平三郎氏と共に資本金八拾二萬圓を以て九州製紙株式會社を興し爾來事務取締役に任じ當り次で壹千萬圓に増資して社業の發展を計り大正十五年四月豐大工業株式會社に合併資本金七千萬圓に増資し續いて同社事務取締役に擧げらる尙前記諸會社の重役を兼ぬ書畫骨董に興味を有す(東京、小石川、江戸川町一八電小石川三三〇〇)

長谷川竹次郎

君は愛知縣人長谷川宗七の長男にして明治四年五月を以て生れ後分家して一家を創立す長宜堂と稱し書畫骨董商を營み現時愛知縣多額納稅者たり(名古屋、中、住吉町一ノ二七電本局一九五九)

長谷川越夫

君は新潟縣人長谷川市郎左衛門の長男にして明治十九年十月を以て生れ同二十年九月家督を相続し前名龜一郎を改む大正二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來貴族院試補書記官速記課長長業議院書記官に歴任し現時内閣書記官にして内閣官房總務課長の職に在り傍ら法制局參事官を兼ね尙郷家は新潟縣下に於ける資産家たり家族は尙外長女靜(大六、一、生)二男秀夫(同九、一、生)三男實(同一〇、一、〇、生)二女昭(昭二、一、生)あり(東京、麹町、永田町二ノ一四官舎電銀座三〇〇八)

長谷川唯一郎

君は新潟縣人長谷川市郎左衛門の長男にして明治十九年十月を以て生れ同二十年九月家督を相続し前名龜一郎を改む大正二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來貴族院試補書記官速記課長長業議院書記官に歴任し現時内閣書記官にして内閣官房總務課長の職に在り傍ら法制局參事官を兼ね尙郷家は新潟縣下に於ける資産家たり家族は尙外長女靜(大六、一、生)二男秀夫(同九、一、生)三男實(同一〇、一、〇、生)二女昭(昭二、一、生)あり(東京、麹町、永田町二ノ一四官舎電銀座三〇〇八)

長谷川鐵太郎

君は石川縣人長谷川鐵作の弟にして明治十二年四月を以て生れ同十四年分家して一家を創立す風に陸軍士官學校を卒業し同三十六年陸軍砲兵少尉に任じ大正十三年陸軍砲兵大佐に累進す其間陸軍造兵廠火工廠廠長火藥製造所長陸軍省御用掛陸軍造兵廠技師長兼造兵廠總務部長陸軍技術本部御用掛等に歴補し現時陸軍造兵廠技術部長たり家族は尙四女英子(大五、九、生)あり(東京、北豊島、下練馬村出崎三六二九電大塚七〇六)

長谷川鐵太郎

君は石川縣人長谷川鐵作の弟にして明治十二年四月を以て生れ同十四年分家して一家を創立す風に陸軍士官學校を卒業し同三十六年陸軍砲兵少尉に任じ大正十三年陸軍砲兵大佐に累進す其間陸軍造兵廠火工廠廠長火藥製造所長陸軍省御用掛陸軍造兵廠技師長兼造兵廠總務部長陸軍技術本部御用掛等に歴補し現時陸軍造兵廠技術部長たり家族は尙四女英子(大五、九、生)あり(東京、北豊島、下練馬村出崎三六二九電大塚七〇六)

長谷川傳左衛門

兩羽肥料(株)取締役に任じ現に其職に在り(東京、赤坂、青山南町六ノ一八電青山一四四一)

君は新潟縣人長谷川常太郎の三男にして明治六年一月同孫村上町に生れ同十七年長谷川三藏の養子となり同年五月家督を相続す同二十二年十七歳にして志を立て、單身郷里を出て東京市銀座二丁目機械輸入商田島爲助商店に入り同二十四年支配人に昇進せるも徴兵検査の爲退店歸郷し同年再び上京して獨立機械商を營む同三十六年大川平三郎氏と共に資本金八拾二萬圓を以て九州製紙株式會社を興し爾來事務取締役に任じ當り次で壹千萬圓に増資して社業の發展を計り大正十五年四月豐大工業株式會社に合併資本金七千萬圓に増資し續いて同社事務取締役に擧げらる尙前記諸會社の重役を兼ぬ書畫骨董に興味を有す(東京、小石川、江戸川町一八電小石川三三〇〇)

長谷川爲治

君は山口縣人長谷川爲伸の長男にして嘉永元年八月を以て生れ明治五年家督を相続す風に造幣寮に出仕し累進して大阪造幣局長に任ぜられしが後之を辭し現に錦鷄間祇候たり(京都、上京、吉田下上大路町五八電上三四五二)

長谷川爲藏

君は福井縣人内田彌左衛門の二男にして明治二十三年五月を以て生れ兵庫縣人長谷川かつの養子となり大正八年分れて一家を創立す風に實業界に入り現時前記各會社の重役たり(神戸、龍池通七ノ一八電番台七一)

長谷川爲之助

君は大阪府人長谷川半兵衛の長男にして慶應三年三月を以て生れ明治二十八年家督を相続す現時前記諸會社の重役たり家族は尙二男猛(明四二、七、生)三男正(大元、一、生)長女康(同五、三、生)二女禮(同九、六、生)あり(東京、小石川、竹早町一二二)

長谷川藤三郎

君は山形縣人先代傳左衛門の孫にして明治十年一月を以て生れ同三十二年家督を相続し前名眞吉を改め眞名一〇、六、生)あり弟之七(明一四、八、生)は山形縣人楢山積藏の養子となり妹鶴(同三、一、生)は同縣人菅井順吉從兄鶴吉に同ミの(同二六、二、生)は同縣人原正男に同芳惠(同二八、五、生)は同縣人齋藤章太郎に同つれよ(同三一、一、生)は同縣人野間金七に嫁せり(山形、西田川、大山町)

長谷川富藏

君は新潟縣人長谷川長七の弟にして明治九年一月を以て生れ先代藤三郎の養子となり同二十八年家督を相続し前名長松を改む現に長谷川合名會社社員たり曾て海國汽船商會各會社重役に就任せり(函館、西川町六六)

長谷川苗實

君は新潟縣人清水孫四郎の弟にして同靜吉の甥なり明治二十三年六月を以て生れ後先代富藏の養子となり大正三年家督を相続し共に前名眞治を改む現に清水商會社事務取締役たり家族は尙二男重男(大六、一、生)三男行男(同八、六、生)二女綾子(同一一、五、生)あり(小樽、住ノ江町)

長谷川直藏 日本高級染料(株)社長、高砂工業、高砂煉瓦工場、山陽無煙炭礦、京濱土地、東京タタシ、自動車各(株)取締役、東京倉庫、高砂ゴム工業、高松鐵工各(株)監査役、日本ペイント製造(株)相談役、東京府在籍

妻 明一三、一〇生、東京、松澤吉五

女 美枝子 明四〇、二生

女 喜代子 明四一、九生、聖心女子學院出身

女 治子 明四二、二生

君は兵庫縣人水野友吉の弟にして明治四年八月を以て生れ先代彌三郎の養子となり同十八年家督を相続す現時日本高級染料會社社長たる外前掲各會社の重役を兼ね家族は尙四女秀子(大六、七生)五女梅子(同九、六生)四男五十雄(同二〇、九生)あり妻明安藏(明三六、一五九)は分家せり(東京市外大井町元芝九六六電高輪一五九)

長谷川直敏 正四位勳二等功四級、陸軍中將、近衛師團長、京都府在籍

妻 明一四、二生、茨城、八木下純長

女 達子 明四五、二生

君は京都府人西村八右衛門の二男にして明治六年四月を以て生れ先代直敏の養子となり同十一年家督を相続す同二十八年陸軍歩兵少尉に任じ大正十三年陸軍中將に昇進す其間歩兵第七旅團副官參謀本部々員第十師團參謀歩兵第六十五聯隊附仙臺聯隊區司令官歩兵第二十聯隊長第十師團參謀長陸軍中央幼年學校長陸軍士官學校校長及本部長陸軍省人事局長第十師團長等に歴補し現時近衛師團長たり家族は尙三男照敏(大三、一四生)四男典敏(同五、九生)五男季敏(同九、二生)四女照子(同二、一〇生)あり長女敏子(明三三、一〇生)は京都府人府人藤塚義男に二女光子(同三五、一〇生)は京都府人四手井彦四郎長男綱正に嫁せり(近衛師團長官舎) 參照 山中安射の項

長谷川日傳 山丸商會(株)取締役、東京株式取引所一般取引員、東京府在籍

妻 明一九、九生、東京、土、堀井政次

女 美吉 明四三、一〇生

女 美代 大二、一〇生

君は東京府人長谷川直七の長男にして明治十二年二月を以て生れ同四十五年家督を相続す東京株式取引所一般取引員にして山丸商會取締役たり家族は尙は姉濱路(明九、六生)及其子女三孫の妹鶴尾(同二七、一〇生)同末子(同一九、六生)あり弟美治(同二七、二生)は東京府人長谷川きみの死跡を繼ぎ妹鶴尾(同二七、二生)は京都府人松下末吉に嫁せり(東京、麻布、我善坊町五電青山六七三〇)

長谷川武七 愛知縣在籍、材木商

妻 萬延元、六生、愛知、吉田源七長

男 秀和 明四四、八生、亡長男鐵太郎長男

男 武治 明三〇、五生

男 雅子 明一六、六生、亡長男鐵太郎妻、愛知、佐藤源三郎長女

孫 辰子 明三五、一〇生、亡長男鐵太郎長孫

孫 辰子 明三七、七生、亡長男鐵太郎二女

君は愛知縣人尾關利藏の弟にして安政元年十一月を以て生れ先代武平の養子となり明治十七年家督を相続す材木商を營み傍ら前記會社の社長たり三女あや(明二八、七生)は愛知縣人佐藤乙三郎に嫁せり(名古屋、東、小市場町一七三電東一四三三)

長谷川直義 北海道銀行(株)事務取締役、小樽集鱈(株)取締役、富岡火災海上保險(株)監査役、栗正組(實)代表社員、北海道土族

妻 明四、一〇生、北海道、金鬼一姉

男 昇 明一九、五生

女 信 明二八、二生、長男昇妻、東京、中村岡次郎三女

女 美 明二七、四生、二男信妻、北海道渡邊兵四郎六女

君は福島縣土族長谷川勝平の長男にして慶應元年三月を以て生れ明治十三年家督を相続す現時北海道銀行事務取締役たる外前記會社の重役にして小樽商會會議所特別議員たり家族は尙孫平治(大一一、三三、長男昇長男)同直(同四、三三、同二男)同義(同四、四生、二男信長女)同仁(同六、三三、同長男)同ヒナ(同九、三三、同二女)同啓(同一一、九生、同二男)同泰(同三、一〇生、同三男)同昭(昭元、一〇生、同四男)あり長女ヨシ(明二五、一〇生)は北海道土族大沼惟隆に二女喜代(同三〇、一〇生)は茨城縣人田寺重松二

長谷川百太郎 名古屋株式取引所一般取引員、愛知縣在籍

妻 明元、八生、愛知、眞野鉦次郎長

女 永治 明三二、一〇生

女 美子 明二八、五生

女 美子 明三四、五生

君は愛知縣人長谷川永澄の長男にして明治元年四月を以て生れ同十七年家督を相続す現時名古屋取引所一般取引員たり家族は尙庶子信子(大一一、一〇生)叔父金亮(安政二、九生)あり母たれ(安政元、二生、長谷川伊左衛門長女)は分家せり二男龍三(明三七、四生)は愛知縣土族長谷川豊吉の家督を繼げり(名古屋、中、榮

長谷川平五郎 長谷川(名)社長、山形縣在籍

妻 嘉永六、九生、現戸主

養父 五三郎 慶應元、四生

妻 明二、一〇生、山形、鈴木清助長

女 まつ 明四〇、一〇生

女 よし 明四三、二生

女 けい 明四三、二生

君は山形縣人長谷川平内の子にして同仁の弟なり明治十四年九月を以て生れ同三十四年養父五三郎の養子となる現に長谷川合名會社社長たり(山形、東置賜、屋代村)

長谷川松兵衛 千葉縣多額納税者、總武銀行(株)監査役、煙草元賣業、砂糖雜貨商、千葉縣在籍

妻 弘化三、一〇生、千葉、神山金兵衛長女

男 英吉 明三〇、一〇生

女 文 明三二、一〇生、長男英吉妻、千葉、櫻井直藏孫

君は千葉縣人長谷川松兵衛の長男にして明治元年十月を以て生れ同四十四年家督を相続し前名文吉を改め號名す煙草元賣業砂糖雜貨商を營み傍ら總武銀行監査役に於て千葉縣多額納税者たり家族は尙孫妙(大一一、四生、長男英吉長女)あり(千葉、印旛、成田町)

長谷川彌五八 長崎縣多額納税者、金融業

妻 慶應二、七生、長崎、眞方好松二女

男 彌造 明二八、二〇生

男 眞雄 明二八、一〇生、長男彌造妻、長崎、崎玉城妹

男 千代 明三九、四生、二男眞雄妻、長崎、筑田和平養子

男 正雄 明四一、七生

君は長崎縣人平山彌藏の二男にして文久三年五月を以て生れ先代伊三郎の養子となり明治十六年家督を相続す金融業を營み現に縣下の多額納税者たり家族は尙四女峰子(大一一、五三、三生)孫玉子(昭二、三三、二男眞雄長女)あり長女ツヨ(明二九、一〇生)は長崎縣人松島音次郎に三女ナナ(同三八、八生)は同縣人田中長助に嫁せり(長崎市松ヶ枝町三八)

長谷川平内 山形縣多額納税者、兩羽銀行(株)頭取、日本勸業銀行(株)山形縣顧問、山形縣在籍

妻 富江 明一八、七生、山形、白畑喜藏長女

養子 五三郎 慶應元、四生

孫 平五郎 明一四、九生、養子五三郎養子

長谷川三重 日本建物(株)取締役、東京府在籍

妻 明一五、一〇生、養父福十郎二女

養子 雄藏 明二四、二〇生、養子壽夫、千葉、田中英吉弟

養子 壽 明二六、六生、養子雄藏妻、養父福十郎三女

孫 多美子 大二、一〇生、養子雄藏長女

君は埼玉縣人田中三郎左衛門の二男にして同四一郎の弟同彌兵衛の甥なり明治十一年一月を以て生れ先代福十郎の養子となり同三十七年家督を相続す同三十二年日本大學法律科を卒業し現に日本建物會社取締役たり(東京、新富町六ノ一電京橋二六九九)

長谷川要之助 京濱石村、長谷川水室各(株)社長、關東製氷(株)取締役、日本製氷(株)監査役、水商、東京府在籍

養子 寅吉 男 明二、四生、東京、深谷金八長
 婦 明三七、一、生、養子寅吉妻、東京、
 浅井幸三郎二女

君は東京府人岡村龜次郎の弟にして安政元年九月を以て生れ先代由兵衛の養子となり明治十五年家督を相續す水商を營み現に京濱石村長谷川水室各會社社長たる外前記諸會社の重役たり(東京市外品川町北品川宿九六電高橋九二)

長谷川義郎 長谷川商店(株)社長、貿易商
 大阪府在籍

妻 明一〇、五生、三重、渥美源藏二女

男 好邦 大元、一、生

女 文子 明三七、一、生

女 麗子 明四一、四、生

君は三重縣土族青木準平の三男にして明治八年八月を以て生れ後先代嘉平の養子となり同三十一年家督を相續す貿易商を營み現に長谷川商店を主宰す(兵庫、武庫、御影町但馬四一電御影四三七)

男 信彦 大二、一〇生

女 淑君 明四四、七生

君は東京府人長谷部仲彦の長男にして明治十五年六月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十九年東京帝國大學醫學科大學を卒業し京都帝國大學醫學科大學助教授新潟醫學專門學校教授を経て大正五年東北帝國大學醫學科大學教授に任じ現に同教授たり(清津南洋マシヤル群島カロン群島マリアナ諸島に出張せし)あり同三年醫學博士の學位を授けらるる人類學概論先史學研究等の著あり家族は尚二女貞君(大五、六生)二男富彦(同七、二生)三女温君(同九、二生)四女真君(同二二、九生)三男禮爾(同二五、三三)妹實年(明二〇、一二生)あり(仙臺、北六番丁一二三)

秦 銀兵衛 櫛寸製造業
 兵庫縣在籍

妻 明一、三、生、大阪、田中助左衛門長女

君は兵庫縣人清水萬助の孫に當り明治八年一月を以て生れ同二十五年先代銀兵衛の養子となり家督を相續す共に襲名して前名重藏を改む櫛寸製造業を營む養子(文久三、一〇生)養弟紀(明二五、五生)は各分家せり(神戸、下山手通五ノ二八電元町二〇一)

參照 養野健三の項

長谷川利三郎 長谷川商店、白米商
 大阪府在籍

父 利兵衛 嘉永五、七生

母 安政元、八生、大阪、野上常次郎三女

妻 明一八、六生、大阪、柏谷多吉妹

男 利一 明三九、五生

君は大阪府人長谷川利兵衛の長男にして明治十四年四月を以て生れ大正十五年家督を相續す長谷川商店を稱し白米商を營む現に大阪米穀會社社長大阪天王寺精米會々長等に擧げらるる家族は尚二男重利(大五、八生)長女利子(同一〇、二生)二女千代子(同四、五生)あり(大阪、天王寺、勝山通一ノ四三〇六電南四〇七二)

長谷部仁作 資産家
 大阪府在籍

妻 安政六、一〇生、福井、山内駒吉長女

男 金藏 明一九、一二生

女 麗子 明二一、一、生、大阪、樋口嘉平長女

孫 正雄 明四一、三、生

君は福井縣人長谷部孫右衛門の二男にして安政元年十月を以て生れ明治十三年分家して一家を創立す資産家として知らるる家族は尚孫義夫(明四四、八生)同隆(大一一、〇生)同美代子(同四、六生)あり(大阪、西成、松原通三丁目)

秦 佐八郎 從五位勳五等、醫學博士、應慶義塾大學醫學部教授、中央衛生會委員、北里研究所理事、島根縣在籍

妻 安政三、一〇生、養父宗叔長女

養母 明一、一、生、養父徳太長女

女 美代 明四五、三、生

君は島根縣人山根道徳の弟にして明治六年三月を以て生れ先代徳太の養子となり同二十五年家督を相續す同二十八年岡山醫學專門學校を卒業し同四十五年醫學博士の學位を授けらるる現時慶應義塾大學醫學部教授にして傍ら前記の公職に在り家族は尚三女八千代(大三、一二生)四女さち(同二〇、一〇生)あり長女きよ(明三六、九生)は東京府人近藤忠雄に嫁せり(東京市外品川町中目黒七四五電高橋五二〇六)

長谷部言人 正五位勳四等、醫學博士、東北帝國大學教授、醫學部勤務
 東京府在籍

母 亥子 嘉永五、一、生、福井、中村好遊三女

妻 明二七、一、生、鹿兒島、嵯山晋二女

長谷部光雄 從五位勳六等、朝鮮總督府判事、大邱審判部部長、茨城縣土族

養母 文久三、四生、茨城、弦卷清介六女

男 輝雄 明四二、五生

君は福島縣土族緒引親光の三男にして明治二十年二月を以て生れ後先代緒引の養子となり同四十三年家督を相續す同四十五年東京帝國大學法科大學獨逸法律科を卒業し司法官試補となり大正三年判事に任じ岡山地方裁判所判事に補せられ同五年朝鮮總督府判事に轉じ爾來平壤地方法院同審判部京城地方法院同審判部判事に任じ現に同縣多額納稅者たり(岐阜市小幡町八ノ七七ノ四)

秦 眞次 正五位勳三等功五級、陸軍少將、關東軍司令部附、福岡縣土族

妻 明二一、六、生、和歌山、土、野村内藏輔三女

女 眞 明四二、九、生

君は福岡縣土族秦眞吾の長男にして明治十二年四月を以て生れ同二十二年家督を相續す現に陸軍歩兵少尉に任じ大正十五年陸軍少將に累進す其間陸軍大學校を卒業し大隊副官中隊長第一軍兵站副官參謀本部附隊長大使館附武官關東大使館附武官陸軍省新聞班長歩兵第二十一聯隊長第三師團參謀長東京警備參謀長歩兵

第十五旅團長陸軍大學教官等に歷補し現時關東軍司令部附たり姉ハル(明一〇、一〇生)は福岡縣人秦久吉の相續人となり妹シモ(同八一、五生)は姉ハルの相續人となり同アキ(同八一、五生)は福岡縣人長田孫次郎の養子加一に嫁せり(滿洲、奉天、陽田町)

端山象次郎 岐阜縣多額納稅者
 岐阜縣在籍

妻 正男 大二、一、生

君は山口縣土族端山嘉門の長男にして明治二年八月を以て生れ同十五年先代誠一郎の後を襲ひ家督を相續す現時日本高級塗料會社取締役たる外東京三菱會出資社員たり甥婿一(明二六、一〇生)山口、河野仁五郎(四男)は同妻千代(同三六、四生)山口、淺谷長輔(妹)高輪二八

幡谷辨吉 茨城縣多額納稅者、米穀商
 茨城縣在籍

妻 明二〇、一、生、茨城、小河原文三女

男 庄右衛門 明四四、一、生

女 あき 明四二、一、生

君は茨城縣人先代辨吉の長男にして明治十三年七月を以て生れ同四十三年家督を相續す現に前名庄藏を改む米穀商を營み同縣多額納稅者たり家族は尚二男助次郎(大三、八生)三男龍三(同五、七生)二女は(同八一、八生)あり弟庄次郎(明一四、九生)は同妻あい(同八一、八生)茨城、齋藤妻養子と共により分家し妹せひ(同二二、三三)は茨城縣人堀末半右衛門弟莊造に同ふ(同二八、一一生)は同縣人弓削徳充に同ふ(同三三、九九)は同縣人片見松郎に嫁し同せき(同二三、一一)生(同夫寛(同二二、八生)茨城、堀末半右衛門弟)と共により分家せり(茨城、東茨城、小川町)

參照 齋藤妻の項

秦 專章 正五位勳五等、京都高等工業學校教授、生徒監、福島縣在籍

妻 明一六、一〇生、茨城、土、清宮彬養姉

男 從親 明四一、一、生

女 壯子 明四二、一、生

君は福島縣人秦元次郎の三男にして明治十五年十二月を以て生れ同二十九年分家して一家を創立し現前名直三を改む同四一年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し工業講習所技師を経て大正三年京都高等工業學校教授に任じられ同七年文部省研究員として歐米諸國に留學し同十年歸朝し現在に至る家族は尚二男將親(明四四、三三)三女祥子(大七、八生)四女眞津子(同四一、四生)あり(京都、上京、大將軍坂田町京都高等工業學校第三官舎西陣四)

幡生彈治郎 日本高級塗料(株)取締役、東京三菱會社社員、東京府土族

妻 明一〇、六、生、静岡、土、中川喜重長女

君は山口縣土族幡生嘉門の長男にして明治二年八月を以て生れ同十五年先代誠一郎の後を襲ひ家督を相續す現時日本高級塗料會社取締役たる外東京三菱會出資社員たり甥婿一(明二六、一〇生)山口、河野仁五郎(四男)は同妻千代(同三六、四生)山口、淺谷長輔(妹)高輪二八

幡谷直之 福岡縣多額納稅者、三池銀行(株)取締役、農業、福岡縣土族

妻 明一六、一、生、福岡、田尻生五妹

男 哲郎 明三三、七、生

女 ヌミ 明三七、一、生

男 大二郎 明四〇、三、生

君は福岡縣土族幡谷直治の長男にして明治十年四月を以て生れ同三十九年家督を相續す農を業とし現に三池銀行の重役にして福岡縣多額納稅者たり家族は尚三男憲作(明四二、二生)四男徳之(同四四、七生)五男覺平(大三、一)七男誠助(同七、一)二女良子(同八一、二)五生あり六男賢吉(同五、六生)は福岡縣人永江敬之の養子となり妹トモ(明一七、三三)は同縣人平田竹三郎に嫁せり(福岡、三池、岩田村)

參照 田尻生五郎各部左衛門西山茂の項

秦 豐助 從四位勳三等、衆議院議員(埼玉縣選出)、立憲政友會幹事長
 東京府在籍

妻 明一三、一〇生、東京、土、阪田孝厚二女

君は東京府人秦源祐の長男にして明治五年八月を以て生れ大正三年家督を相續す明治二十九年帝國大學法科大學政治科を卒業し内務省に任じられ同三十六年福井縣參事官となり爾來愛媛千葉神奈川各縣參事官長崎縣知事となり同四年二月官を辭して野に下り同年三月推されて衆議院議員となり爾來當選する事五回同十三年海軍政務次官に任じられ同十四年四月商工事務次官に轉じ立憲政友會に屬し現に幹事長たり(東京、四谷、内藤町一電四谷八)

幡谷仙三郎 茨城縣多額納稅者、常陽運輸倉庫(株)監査役、茨城縣在籍

妻 安政元、八、生、茨城、寛助二郎二女

男 祐一 大一一、一〇生

君は茨城縣人幡谷仙之介の三男にして明治二十六年一月を以て生れ大正八年家督を相續す同三年早稻田大學法律學科を卒業し後常陽運輸倉庫會社監査役に擧げられ今日に及ぶ又茨城縣多額納稅者たり(茨城、東茨城、小川町)

秦 英造 廣島縣多額納稅者、廣島株式取引所取引員、廣島縣在籍

秦野 英造 廣島縣多額納稅者、廣島株式取引所取引員、廣島縣在籍

幡谷仙三郎 茨城縣多額納稅者、常陽運輸倉庫(株)監査役、茨城縣在籍

幡谷直之 福岡縣多額納稅者、三池銀行(株)取締役、農業、福岡縣土族

分家し三男卓助(明三六、一)生は高知縣人島中繁に四男勝四郎(同三九、五)生は父六郎の養子となり二女富美(同二八、一〇)生は同縣人三浦鶴次郎に嫁せり(高知、安藝、土居村)

島中徳治郎

機械商 大阪府在籍 父 徳兵衛 弘化二、九生 妻 のぶ 女 明七、三生、大阪、近藤清兵衛二男 萬夫 明二九、六生 女 以久子 明四二、九生 信子 大元、一〇生

島山一清

在原製作所(株)専務取締役 東京府上野区 妻 明二〇、二生、石川、辰村米吉養子 外 美子 明四三、七生 男 不器 明四三、七生 女 睦 大二、一〇生

島山小兵衛

富山縣多額納税者、伏木銀行、中越電氣工業各(株)取締役、大正製糖(株)監査役、富山縣在籍 妻 クニ 再従妹 明一、一〇生、富山、宮城彦次郎 養子 昌造 明二七、一〇生、長女御代夫、富山、細野定次郎二男 御代 明二七、七生、養子昌造妻

島山敏行

從四位勳三等、通信省電務局長 奈良縣上野 妻 敦 滋六女 明三三、九生、故貴族院議員古澤 敏 夫 明四四、三生 男 敬 夫 明四四、三生

八田三喜

從四位勳三等、新潟高等學校校長兼教授、石川縣在籍 妻 さし 姉 明一七、一〇生、山梨、齋藤正巳 男 元 夫 明三六、一〇生 女 梨 明四〇、一〇生

八田三郎

正四位勳三等、理學博士、北海道帝國大學教授、農務部勤務 東京府上野 妻 ムネ 明六、一〇生、鹿兒島、上妻 知 健 明三六、一〇生 男 和 明三九、一〇生、東洋英和女學校出身

八田宗吉

正五位勳三等、陸軍歩兵大尉、陸軍少將、衆議院議員(福島縣選出)、福島縣多額納税者 福島縣在籍 妻 七 行藏長女 明一五、一〇生、福島、上、渡邊 敬 子 明四一、七生、長男武妻、福島、政子 明四四、一〇生

八田善之進

從五位勳五等、醫學博士、侍醫 福島縣在籍 妻 信 孝之助二女 明二五、一〇生、海軍、醫中將鈴木 善 夫 大五一、一〇生

八田善之進

國を歴遊し同四十二年理學博士の學位を授與され大正元年動物學研究の爲英佛獨各國に留學し更に歐洲各國及米國に派遣さる二女ひさ(明三一、三生)、府立第三高等女學校出身)は大阪府人勝本忠兵衛長男鼎一に嫁せり(札幌、遊園地) 參照 勝本忠兵衛の項

八田宗吉

君は福島縣人八田吉多の長男同吉平の兄にして明治七年十月を以て生れ前名吉之丞を改め大正六年家督を相続す以て陸軍に入り歩兵大尉に任ぜらる現時縣下の多額納税者にして又大正六年以來衆議院議員に當選する事四回昭和三年陸軍參事官に任ぜらる福島縣會議員同參事官馬政調査委員等に擧げられ福島農工銀行外敷種の會社重役に就任す家族は尙二男貞義(明四

を以て生れ大正元年家督を相続し前名小四郎を改む現時前記銀行會社の重役に就任す富山縣多額納税者たり家族は尙孫司(大三、二)生、養子昌造長女)同小一郎(同九、一)生、同二男(同二、八)生、同二女(同四、一)生)あり妹千代(同九、五)生は富山縣人宮城彦次郎の母たり(富山、上新川、東岩瀬町) 參照 宮城彦次郎の項

島山耕三

千代田土地(株)取締役 秋田縣在籍 妻 きん 女 明三一、五生、東京、仲西梅吉二男 力 大五、一〇生

島山敏行

從四位勳三等、通信省電務局長 奈良縣上野 妻 敦 滋六女 明三三、九生、故貴族院議員古澤 敏 夫 明四四、三生 男 敬 夫 明四四、三生

八田善之進

國を歴遊し同四十二年理學博士の學位を授與され大正元年動物學研究の爲英佛獨各國に留學し更に歐洲各國及米國に派遣さる二女ひさ(明三一、三生)、府立第三高等女學校出身)は大阪府人勝本忠兵衛長男鼎一に嫁せり(札幌、遊園地) 參照 勝本忠兵衛の項

八田宗吉

君は福島縣人八田吉多の長男同吉平の兄にして明治七年十月を以て生れ前名吉之丞を改め大正六年家督を相続す以て陸軍に入り歩兵大尉に任ぜらる現時縣下の多額納税者にして又大正六年以來衆議院議員に當選する事四回昭和三年陸軍參事官に任ぜらる福島縣會議員同參事官馬政調査委員等に擧げられ福島農工銀行外敷種の會社重役に就任す家族は尙二男貞義(明四

八田善之進

君は滋賀縣人志村莊治郎の三男にして明治十二年二月を以て生れ同三十六年先代キワの入夫となり家督を相続す雜貨商を營む家族は尙三男巳之助(明四二、四)生、四男春雄(大六、一〇)生あり三男辰次郎(明三九、五)生は大阪府人八田卯兵衛の養子となり(大阪、北、天神橋筋一三電北三一一)

八田春吉

雜貨商 大阪府在籍 妻 キワ 長女 明三八、一〇生、大阪、矢倉虎吉 卯之助 明三六、一〇生

八田彦次郎

長野縣多額納税者、長野縣農工銀行(株)取締役、農服商 長野縣上野 妻 のぶ 姉 明一五、八生、長野、山田莊左衛門 恭平 明三三、一〇生 男 信吉 明三三、一〇生 女 中田亮二女 明三三、一〇生

八田兵次郎

永田商店(株)取締役、岩屋商店(株)監査役、大阪株式取引所取引員、兵庫縣在籍 參照 藤井安治、山田莊左衛門、安田善兵衛の項

一、九生、東京、上、松波秀實三女)及其三子あり姉恒(同二、七)生は東京府人柴田榮吉の未亡人たり(東京市外大久保町百人町二五一電四谷三〇) 參照 柴田四郎、山下八郎の項

八條隆正

正四位勳三等、子爵、貴族院議員 日本興業銀行(株)監査役 舊公卿家 妻 隆子 安政六、三生、伯爵坊城後良大叔母 隆 萬 明一七、一〇生、養祖父隆吉四女 隆 孟 明三三、一〇生、從五位、法學士 女 鳳子 明四〇、三生、女子學醫院出身

八田吉平

正五位勳四等、朝鮮總督府水原高等農林學校教授、兼朝鮮總督府勸業模範場技師、福島縣在籍 妻 トキ 藏二女 明一八、七生、福島、上、渡邊行 龍太郎 明四五、五生 女 邦子 明四五、五生

八田吉平

君は滋賀縣人志村莊治郎の三男にして明治十二年二月を以て生れ同三十六年先代キワの入夫となり家督を相続す雜貨商を營む家族は尙三男巳之助(明四二、四)生、四男春雄(大六、一〇)生あり三男辰次郎(明三九、五)生は大阪府人八田卯兵衛の養子となり(大阪、北、天神橋筋一三電北三一一)

八田春吉

雜貨商 大阪府在籍 妻 キワ 長女 明三八、一〇生、大阪、矢倉虎吉 卯之助 明三六、一〇生

八田彦次郎

長野縣多額納税者、長野縣農工銀行(株)取締役、農服商 長野縣上野 妻 のぶ 姉 明一五、八生、長野、山田莊左衛門 恭平 明三三、一〇生 男 信吉 明三三、一〇生 女 中田亮二女 明三三、一〇生

八田兵次郎

永田商店(株)取締役、岩屋商店(株)監査役、大阪株式取引所取引員、兵庫縣在籍 參照 藤井安治、山田莊左衛門、安田善兵衛の項

八田 照
 君は大阪府人佐藤寅之助の長男にして明治元年八月を以て生れ同二十八年八月末次次郎の養子となる大阪株式取引所一般債取引員にして永田達商店岩尾商店の重役たり家族は尙孫當子(大六、一、生、繼子朝次長女あり養妹の(明一六、四生)は兵庫縣人岩尾慶一に嫁せり(大阪、東、内平野町二ノ五三電東一〇四〇)
 參照 岩尾慶一の項

八田 福雄
 大阪株式取引所取引員
 大阪府在籍
 妻 大正元、一、生、大阪、河内太助長女
 母 大正元、一、生、大阪、河内太助長女
 父 大正元、一、生、大阪、河内太助長女

八田 裕二郎
 正六位勳四等、退役海軍大佐、元衆議院議員、東京府在籍
 妻 慶應元、七、生、東京、百瀬彌十郎長女
 母 慶應元、七、生、東京、百瀬彌十郎長女
 父 慶應元、七、生、東京、百瀬彌十郎長女

八田 量一
 鳥取縣多額納税者、關西醬油(株)取締役、中國貯蓄銀行(株)監査役
 妻 昌明 明元、一〇、生、祖父昇三郎長女
 母 昌明 明元、一〇、生、祖父昇三郎長女
 父 昌明 明元、一〇、生、祖父昇三郎長女

八田 政恕
 山梨銀行(株)常務取締役
 妻 千代 慶應三、一、二、生、山梨、志村勤兵衛長女
 母 慶應三、一、二、生、山梨、志村勤兵衛長女
 父 慶應三、一、二、生、山梨、志村勤兵衛長女

八田 裕二郎
 正六位勳四等、退役海軍大佐、元衆議院議員、東京府在籍
 妻 慶應元、七、生、東京、百瀬彌十郎長女
 母 慶應元、七、生、東京、百瀬彌十郎長女
 父 慶應元、七、生、東京、百瀬彌十郎長女

八田 量一
 鳥取縣多額納税者、關西醬油(株)取締役、中國貯蓄銀行(株)監査役
 妻 昌明 明元、一〇、生、祖父昇三郎長女
 母 昌明 明元、一〇、生、祖父昇三郎長女
 父 昌明 明元、一〇、生、祖父昇三郎長女

八田 春太郎
 正六位勳六等、臺灣總督府地方理事官、臺北州宜蘭郡守
 妻 安政六、一、生、現戸主
 母 安政六、一、生、現戸主
 父 安政六、一、生、現戸主

八田 嘉明
 從四位勳三等、鐵道次官
 妻 ツル 明二、一、九、生、山口、菅恒男妹
 母 ツル 明二、一、九、生、山口、菅恒男妹
 父 ツル 明二、一、九、生、山口、菅恒男妹

八田 量一
 鳥取縣多額納税者、關西醬油(株)取締役、中國貯蓄銀行(株)監査役
 妻 昌明 明元、一〇、生、祖父昇三郎長女
 母 昌明 明元、一〇、生、祖父昇三郎長女
 父 昌明 明元、一〇、生、祖父昇三郎長女

八田 量一
 鳥取縣多額納税者、關西醬油(株)取締役、中國貯蓄銀行(株)監査役
 妻 昌明 明元、一〇、生、祖父昇三郎長女
 母 昌明 明元、一〇、生、祖父昇三郎長女
 父 昌明 明元、一〇、生、祖父昇三郎長女

八丁春太郎
 正六位勳六等、臺灣總督府地方理事官、臺北州宜蘭郡守
 妻 安政六、一、生、現戸主
 母 安政六、一、生、現戸主
 父 安政六、一、生、現戸主

八馬 兼介
 貴族院議員、兵庫縣多額納税者、武庫銀行、西宮銀行各(株)頭取、八馬汽船(株)社長、神戸海上運送火災保險、朝日海上火災保險、桐花興業、阪神銀行電氣各(株)監査役、兵庫縣在籍
 妻 弘化四、九、生、兵庫、藤井萬兵衛長女
 母 弘化四、九、生、兵庫、藤井萬兵衛長女
 父 弘化四、九、生、兵庫、藤井萬兵衛長女

八馬 安二良
 多額納税者、八馬汽船各(株)取締役、増田増太郎の項
 妻 廣 明三四、三、生、奈良、土倉鶴松二女
 母 廣 明三四、三、生、奈良、土倉鶴松二女
 父 廣 明三四、三、生、奈良、土倉鶴松二女

八馬 善亮
 從五位、山梨縣書記官、學務部長
 妻 ヒデ 文久二、九、生、神奈川、佐藤純重長女
 母 ヒデ 文久二、九、生、神奈川、佐藤純重長女
 父 ヒデ 文久二、九、生、神奈川、佐藤純重長女

八馬 喜七郎
 太物商
 妻 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 母 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 父 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主

八馬 善亮
 從五位、山梨縣書記官、學務部長
 妻 ヒデ 文久二、九、生、神奈川、佐藤純重長女
 母 ヒデ 文久二、九、生、神奈川、佐藤純重長女
 父 ヒデ 文久二、九、生、神奈川、佐藤純重長女

八馬 喜七郎
 太物商
 妻 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 母 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 父 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主

八馬 喜七郎
 太物商
 妻 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 母 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 父 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主

八馬 喜七郎
 太物商
 妻 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 母 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 父 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主

八馬 喜七郎
 太物商
 妻 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 母 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 父 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主

八馬 喜七郎
 太物商
 妻 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 母 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 父 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主

八馬 喜七郎
 太物商
 妻 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 母 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 父 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主

八馬 喜七郎
 太物商
 妻 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 母 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主
 父 喜三郎 萬延元、四、生、現戸主

學校長を経て同三十六年陸軍歩兵少尉に任じ日露戦役に出征し功五級を授けられ中尉に進む同三十九年花菱検査所技手に任じ次で同技師となり大正二年同所長に任ぜらるる現時工業試験所技師を兼任す家族は尙二男(明四三、一〇生)三男洋三(大三、一〇生)四男昭夫(同五、一〇生)五男正巳(同八、六生)六男和久(同十一、一〇生)あり長女勝子(明三七、九生)は岐阜縣人各務重義に妹春(同四、三生)は神奈川縣人坪田元福に嫁せり(兵庫、武庫、西灘村花菱検査所内)

初井 奈良吉

八銀行(株)代表取締役、三十八銀行(株)代表取締役、日出版(株)代表取締役、初井(實)代表社員、兵庫縣在籍

妻 明一、九生、兵庫、長谷川善藏

男 明三三、一〇生、長男佐一妻、兵衛、井上又次三女

男 重雄 明三三、一〇生

男 啓三郎 明三六、一〇生

君は兵庫縣人永尾水三郎の長男にして明治五年十一月を以て生れ先代佐七郎の養子となり同四十二年家督を相続す現時姫路莫大小會社代表取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙孫純(大一一、三生、長男佐一長男)あり長女ふみ(明三四、五生)は兵庫縣人山崎初太郎に嫁せり(姫路、龍野町一丁目)

初田 勝治

森田製作所、アラオン製水道各(株)監査役、京都府在籍

妻 明治一九、一〇生、大阪、福田喜

男 駿一 大八、一〇生

君は京都府人初田初藏の弟にして明治十四年九月を以て生れ明治四十二年分家して一家を創立す現時森田製作所アラオン製水道會社監査役たり家族は尙長女茂子(大三、一〇生)二女久子(同五、一〇生)三女美智子(同十一、一〇生)四女静子(同四、五生)あり(京都、上京、下立賣通堀川東入電西陣二六九四)

參照 岡島千代造の項

初見 謙助

茨城縣多額納税者、五十銀行(株)監査役、茨城縣在籍

妻 嘉永五、六生、茨城、大澤理右衛門二女

母 嘉永五、六生、茨城、大澤理右衛門二女

養母 チヤウ 明九、一〇生、栃木、板倉重平妹

妻 ヤエ 明二八、四生、栃木、菊地次郎妹

男 宗一 大三、三生

君は故阪東銀行頭取初見敬二郎の四男にして同五郎の弟なり明治十八年五月を以て生れ實兄新太郎の養子となり大正十四年家督を相続す先是明治四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現に前記銀行の重役にして縣下の多額納税者たり家族は尙長女サク(大四五、七生)二女ツル(同七、三生)三女クニ(同八、九生)四女フサ(同九、一〇生)五女タネ(同一二、七生)二男吉之助(同四、一〇生)三男菊三郎(昭二、九生)あり姉ひさ(明六、一〇生)は茨城縣人小松原莊太郎に同婚(同十一、九生)は東京府人鈴木茂助養弟孝三に同婚(同八、九生)は埼玉縣人山口嘉三の養子となり叔父三郎之助(安政三、七生)は同妻セイ(明二、四生、栃木、尾形右衛門養子)と共に分家せり(茨城、猿島、八俣村)

初見 五郎

正五位勳四等、通信技師、工務局通信課長、茨城縣在籍

妻 美代 大二、一〇生、書家小野桐之助(鶯堂)二女

女 美代 大二、一〇生

君は故阪東銀行頭取初見敬二郎の三男現戸主謙助の兄にして明治十三年八月を以て生れる同四十年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し通信技師通信局技師兼通信技師臨時電信建設局技師兼任通信局技師等に歴任し大正十年電話事業研究の爲め英米佛各國に留學を命ぜらるる歸朝後同十三年通信技師に任じ現に工務局電信課長の職に在り家族は尙二男辰二(大五、一〇生)五女美智子(昭二、六生)あり(東京、牛込、北山伏町一四電牛込三三三)

服部 宇之吉

正三位勳二等、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授、東京府在籍

妻 繁子 明五、五生、東京、島田鈞一妹

男 續 明三一、一〇生、法學士、石川縣事務官、商工水産課長

女 貴美子 明三六、六生、二男續妻、熊本、澁谷唯雄妹

男 武 明四一、二生

女 順子 明四三、七生

君は舊二本松藩士服部藤八の三男にして慶應三年四月を以て生れ先代喜平の養子となり明治十六年家督を相続す同二十三年帝國大學文學部哲學科を卒業し第三高等中學校教授高等師範學校教授を経て同三十年文部大臣秘書官兼文部省參事官となり次で文部省視學官に任じ同三十二年東京帝國大學文學部大學助教授となり漢學研究の爲清國へ同三十五年歸朝して東京帝國大學文學部大學教授となり文學博士の學位を受く同年清國北京大學堂師範館主任教授に聘せられ同四十二年歸朝して再び文科大學教授に任じ東京高等師範學校教授を兼

れ次で大正五年米國ハーバート大學正教授に聘せられ同國に出張し更に同九年歐洲に出張を命ぜらるる同十三年對支文化事業の用務を以て支那に出張し歸朝後東京帝國大學文學部長に任じ同十五年京城帝國大學總長を兼任し宮内省御用掛被仰付昭和三年官を辭し東京帝國大學名譽教授に擧げらるる現に帝國學士院會員被仰付家族は尙孫周一(大一一、八生、二男續長男)あり長女淑子(明二九、二生)は熊本縣人馬場勝三男田喜太一衛に二女節子(同三四、六生)は岐阜縣人立田喜太郎弟清辰に嫁じ三男佐(同三六、九生)は福島縣人服部久の後を繼げり(東京市外戸塚町諏訪一八二電牛込二二六〇)

參照 島田鈞一、立田清辰の項

服部 於菟三郎 千葉貯蓄銀行(株)取締役、千葉縣農工銀行(株)監査役、千葉縣在籍

妻 文久三、八生、千葉、馬立ふみ長女

女 貞徳二女

男 眞太郎 明一八、一〇生

女 眞子 明四〇、二生、長野、上條韓治長

服部 金太郎

從五位、貴族院議員、服部時計店(株)社長、第一生命保險(五)取締役、東京府在籍

妻 文久三、一〇生、群馬、山本兼十郎長女

男 正三 明二一、四生

男 武三郎 明三三、五生、慶應義塾大學經濟學部出身、服部時計店社長

女 秀子 明四〇、六生、府立第三高等女學校出身

君は千葉縣人山越永太郎の二男にして萬延元年一月を以て生れ後先代永太郎の養子となり明治二十一年家督を相続す現に前掲各銀行の重役たり二男爲次郎(明一五、三生)は千葉縣人山越秀太郎に三男順三郎(同二〇、一〇生)は同縣人馬立ふみに四男正之(同二四、八生)は東京府人富田定七に六男久雄(同三〇、一〇生)は千葉縣人太田文平に各養子となり二女ふみ(同二二、七生)は同縣人玉井光胤長男八十彦に嫁せり(千葉、市原、海上村)

參照 服部眞太郎、山越秀太郎、下村知道の項

服部 教一 北海道拓殖(株)社長、奈良縣在籍

妻 ツネ 明一六、七生、熊本、上、八重野

男 連太郎 明三七、五生

君は奈良縣人服部吉雄の叔父にして明治五年七月を以

參照 牛塚虎太郎、河田源三、清水賢一郎、杉村米次郎、中原繁之助、服部玄三、松山陸郎の項

服部 倉治郎 服部中村養蠶場(株)取締役、東京府在籍

妻 しげ 女 明二〇、四生、東京、山崎茂作二女

君は東京府人服部福太郎の長男にして明治四十年九月を以て生れ大正九年先代祖父倉治郎の後を承けて家督を相続し襲名して前名寅吉を改む現時服部中村養蠶場取締役たり家族は尙妹つる(明四三、三生、三輪田高等女學校出身)弟芳男(大四、三生)あり叔母菊子(明三八、三生)は分家せり(東京、深川、石島町二四八電本所一〇七七)

君は新潟縣人山越永太郎の二男にして明治五年二月を以て生れ同八年先代父の養子となり家督を相続す現に操縦界に入り現時山形自由新聞社取締役兼支配人に任じ山形新聞社の編輯長を兼ねる現に山形市會議員に擧げらるる長女貞子(明三五、九生)は若手縣人經濟學士石川三太に嫁せり(山形市旅籠町三島通六五三二電六九六)

服部 玄三 服部時計店、服部貿易、東京横濱電鐵各(株)取締役、東京府在籍

妻 金太郎 萬延元、一〇生、現戸主

男 謙太郎 大八、四生

君は貴族院議員服部金太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れる同四十二年東京高等商業學校を卒業し現時前掲各會社の取締役たり家族は尙二男禮次郎(大一一、一〇生)三男成三郎(同一一、五生)あり(東京、芝、白金三光町四九八電高輪三三四)

參照 上野季三郎、服部金太郎、後藤佐佐木行忠

伯爵加藤厚太郎... 水賢一郎...

服部小十郎

君は愛知縣人... 養母 久二...

服部治三郎

君は三重縣人... 養子 慎吾...

服部鹿次郎

君は三重縣人... 妻 網彦...

服部實太郎

君は愛知縣人... 妻 邦之助...

服部重右衛門

君は三重縣人... 妻 貞二...

服部宗次郎

君は福島縣人... 妻 ユキ...

服部太郎吉

君は愛知縣人... 妻 ヨシ...

服部泰藏

君は岐阜縣人... 妻 ヨシ...

服部節二

君は岡山縣人... 妻 小篠...

服部清太郎

君は宮崎縣人... 妻 芳太郎...

服部信猷

君は愛知縣人... 妻 武彦...

服部新兵衛

君は愛知縣人... 妻 新次...

君は福岡縣人... 妻 政太郎...

服部七兵衛

君は京都府人... 妻 政太郎...

服部重右衛門

君は三重縣人... 妻 貞二...

服部宗次郎

君は福島縣人... 妻 ユキ...

服部太郎吉

君は愛知縣人... 妻 ヨシ...

服部泰藏

君は岐阜縣人... 妻 ヨシ...

服部節二

君は岡山縣人... 妻 小篠...

服部清太郎

君は宮崎縣人... 妻 芳太郎...

服部信猷

君は愛知縣人... 妻 武彦...

服部新兵衛

君は愛知縣人... 妻 新次...

服部新兵衛

君は愛知縣人... 妻 新次...

参照 河相三郎、服部第二の項

鳩山 一郎

從四位勳三等、内閣書記官長、衆議院議員(東京府選出)、都市計畫中央委員、東京府士族

鳩山 秀夫

正四位勳三等、法學博士、新潟製糖株式會社監査役、辯護士

花井 善吉

正五位勳三等、陸軍二等軍醫正、朝鮮總督府進德醫院院長、全羅南道小島島慈惠醫院院長

花井 卓藏

勳一等、法學博士、貴族院議員、中央大學教授兼理事、臨時法制審議會副總裁、辯護士

花岡 俊夫

信濃毎日新聞社、長野電燈、長野瓦斯、梓川電力各(株)取締役、長野縣在籍

花岡 敏夫

法學博士、長野電燈(株)取締役兼支那人、梓川電力(株)取締役、信州電力(株)監査役、辯護士

花岡 政市

勳七等功六級、南洋産業、日本鐵道事業各(株)取締役、和歌山縣在籍

花城 永渡

衆議院議員、沖繩縣選出、沖繩産業(株)取締役、辯護士

花咲 乙松

廣島縣多額納税者、米穀商

に出席の帝國代表者議員及び大正十一年セノア經濟會議に參列の全權委員議員を命ぜらる(東京、小石川、小日向、三ノ丸、八電、八電、事務所、東京、麴町、丸ノ内ビルディング六階電九ノ内三八五八)

花井 善吉

正五位勳三等、陸軍二等軍醫正、朝鮮總督府進德醫院院長、全羅南道小島島慈惠醫院院長

花井 卓藏

勳一等、法學博士、貴族院議員、中央大學教授兼理事、臨時法制審議會副總裁、辯護士

花井 卓藏

勳一等、法學博士、貴族院議員、中央大學教授兼理事、臨時法制審議會副總裁、辯護士

花岡 俊夫

信濃毎日新聞社、長野電燈、長野瓦斯、梓川電力各(株)取締役、長野縣在籍

花岡 敏夫

法學博士、長野電燈(株)取締役兼支那人、梓川電力(株)取締役、信州電力(株)監査役、辯護士

花岡 政市

勳七等功六級、南洋産業、日本鐵道事業各(株)取締役、和歌山縣在籍

花城 永渡

衆議院議員、沖繩縣選出、沖繩産業(株)取締役、辯護士

花咲 乙松

廣島縣多額納税者、米穀商

常議員同議長同會長法律取調委員教育調查會教育行政調査會委員臨時法制審議會委員となり次で副總裁なる其他陸海軍軍法會議法附審議委員の審査委員となり立法の功績から大正十二年貴族院議員に勲遷せられ現に中央大學教授理事たり家族は尙養子明子(大七、一、廣島、宇都宮常松孫)あり男元夫(大二、一、一)は分家し女美代(明三六、一二生)は三重縣人宮田正太郎長男正雄に嫁せり(東京、麴町、中六番町三六電九段一〇六二)

花井 虎吉

高砂銀行(株)取締役、兵庫縣在籍

花井 卓藏

勳一等、法學博士、貴族院議員、中央大學教授兼理事、臨時法制審議會副總裁、辯護士

花井 卓藏

勳一等、法學博士、貴族院議員、中央大學教授兼理事、臨時法制審議會副總裁、辯護士

花岡 俊夫

信濃毎日新聞社、長野電燈、長野瓦斯、梓川電力各(株)取締役、長野縣在籍

花岡 敏夫

法學博士、長野電燈(株)取締役兼支那人、梓川電力(株)取締役、信州電力(株)監査役、辯護士

花岡 政市

勳七等功六級、南洋産業、日本鐵道事業各(株)取締役、和歌山縣在籍

花城 永渡

衆議院議員、沖繩縣選出、沖繩産業(株)取締役、辯護士

花咲 乙松

廣島縣多額納税者、米穀商

男 宜輔 大六、一生
君は茨城縣人花ヶ崎榮六の長男にして明治二十三年六月を以て生れ大正十二年家督を相続す農業とし縣下の多額納税者たり家族は尙二男哲也(大九、四生)四男真樹(同三、一生)の外弟塚(明二九、七生)妹綾(同四一、五生)同節(同四四、一生)同春江(大三、二生)弟正吾(同五、一生)妹千枝(同七、三生)同香(同二〇、二生)あり同みち(明三八、一生)は千葉縣人平岡力之助に嫁し弟榮(同三三、四生)は茨城縣人保立鶴松の養子となり(茨城、鹿島、輕野村)

花島兵右衛門

靜岡縣多額納税者、三島銀行(株)頭取、極東煉乳(株)取締役
靜岡縣在籍
安政五、三三、工學博士小田川全之婦
妻 三よ
婦 明二五、三三、亡二男信一妻、靜岡、河島新兵衛五女

花園公榮

從五位、子爵
舊公卿家
母 明八、二生、茨城、本多治三郎長女

當家は藤原鎌足の支流内大臣正親町三條公兄の第二子實教の後なり實教別一家を立て花園と稱すそれより十一代を経て實延に至り長男公季明治十七年子爵を授けらる君は先代公季の長男にして明治三十五年六月を以て生れ大正十五年十一月襲爵仰付けらる家族は尙弟實昌(明三七、二生)妹静子(同四〇、八生)あり(東京市外目黒町三田一五五)

花塚仁兵衛

茨城縣多額納税者、鹿島參宮、石岡電氣各(株)取締役、北浦電氣(株)監査役、砂糖商、茨城縣在籍
妻 明一〇、三三、茨城、家田大兵衛二女
男 勝太郎 明三一、一生
婦 明三二、五五、長男勝太郎妻、茨城、矢口彌之助姉

花房太郎

正四位勳三等功五級、子爵、海軍少將、貴族院議員、帝國水難救濟會副會長、岡山縣華族
妻 静子 明四〇、一一生
男 孝太郎 明四〇、一一生、伯爵香川櫻男妹

し男爵を授けられ同四十年子爵に陞る君は其長男にして明治六年四月を以て生れ大正六年襲爵被仰付られ海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ累進して海軍少將に陞り豫備役に編入せらる其間若宮艦長皇族兩武官兼軍事參議官副官等に歷補す大正十四年貴族院議員に擧げられ現に其任に在り家族は尙二男福次郎(明四三、四生)三男義夫(大六、九生)あり長女斐子(明三九、五生)は侯爵佐木行忠弟高信に妹斐子(同二九、一〇生)は男爵殿島具重に嫁せり(東京市外大崎町上大崎二九一電高輪五八)

華園眞淳

從四位、男爵、眞宗眞正派管長
重孫子爵山井兼武岩村俊武の項

華山儀一郎

正五位勳五等、專賣局參事、廣島地方專賣局長、山形縣士族

妻 明二二、一〇生、山形、西野慎一
男 維明 大五一、一生
女 もと 明四三、二一生
養子 親義 明三三、九生、山形、士、江口親君は山形縣士族華山元亨の二男にして明治十三年四月を以て生れ大正十一年家督を相続す明治四十年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文官高等試験に合格す職務局大藏廳專賣局主事專賣局副參事同參事に歷任し大正十一年歐米各國に出張す歸朝後仙臺宇都宮各地方專賣局長を経て現時廣島地方專賣局長たり家族は尙二女あや(大三、六生)三女悦(同七、三生)四女隆(同一一、二生)あり叔父亮直(嘉永三、五生)は分家せり(廣島、地方專賣局官舎)
參照 茨大藤唯男の項

英 義 彦

衆議院議員(鹿兒島縣選出)、日本大學教授、鹿兒島縣在籍
君は明治二十四年を以て生れ大正四年日本大學法科を卒業し歐米に留學し現時日本大學教授たり昭和三年衆議院議員に當選し立憲政友會所屬たり(東京市外練馬村高荷荷公園前)

埴 嘉一郎

笠間印刷(株)社長
茨城縣士族
繼母 しま 明四、四生、東京、竹内たき妹
妻 さし 明一四、四生、水戸、住谷毅長女
男 瑞比古 明三五、一生
男 豐比古 明三九、八生
女 信子 明四二、一生
女 嘉枝 明四四、五生

君は茨城縣士族埴豐樹の長男にして明治八年八月を以て生れ大正十年家督を相続す現に笠間印刷會社社長たり家族は尙三男毅比(大三、二生)四男紫朗(同五、一〇生)五男五郎(同七、六生)あり長女綾子(明三六、一一生)は佐賀縣人坂本義鑑に嫁せり(茨城、西茨城、笠間町)

殖 生 忠一

小松電氣(株)取締役
石川縣在籍
妻 明六、四生、石川、關戸幸次郎姉

養子 保 明二二、三三、兄徳太郎二男
婦 文 明二六、一一生、養子保妻、石川片桐源右衛門妹
君は石川縣人埴生徳太郎の弟にして慶應二年九月を以て生れ明治二十三年分家して一家を創立す現時小松電氣會社取締役たり家族は尙孫忠保(明四三、一生、養子保長男)あり(石川、能美、小松町)

埴 原 正 直

正三位勳一等、特命全權大使
山梨縣在籍
妻 山 安政六、二生、埴原治郎吉長女
母 もん 明二四、四生、東京、士、飯田龍一養叔母

祝 部 鼎 二

京都府引所取引員
京都府在籍
妻 ハナ 明一四、一生、安井孫太郎長女
男 和雄 明四一、一一生

君は香川縣人祝部靜太郎の長男にして明治十四年四月を以て生れ大正二年家督を相続す京都府引所取引員たり家族は尙二男博雄(明四四、一生)三男義雄(大三、一〇生)四男義雄(同九、二生)あり(京都、上京、御池通間ノ町東入電中五八〇〇)

濱 恒 次 郎

大阪商工會議所議員、大阪木村市場(株)社長、櫻川セルテック(株)取締役、濱恒、村木商
大阪府在籍

妻 明二〇、一〇生、和歌山、濱保太
男 恒 雄 明三六、一〇生
女 好子 大二、三三
君は和歌山縣人濱清七の二男にして同竹松の弟なり明治六年五月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す夙に大阪に出て義兄中川半平經營に係る中川材木店に入り實務を修得し後獨立して材木商を營み濱恒と稱す傍ら大阪商工會議所議員たり家族は尙二男清七郎(明四二、一〇生)三男敏三(大四、二生)五女貞子(同六、九生)あり長女勝子(明三八、六生)夕陽丘高等女學校出身(は大阪府人山内敏雄に嫁し三女鶴子(同四四、一生)は兄竹松の養子となり(大阪、浪速、木津川町一ノ電機櫻川五六)

濱 平 右 衛 門

貴族院議員、茨城縣多額納税者、石岡電氣、鹿島參宮鐵道各(株)社長、常盤銀行、北浦電氣各(株)取締役、醬油醸造業、茨城縣在籍
妻 明一六、一生、千葉、木内喜右衛門妹
男 彌太郎 明三八、六生
女 美知 明三六、三三

君は茨城縣人先代平右衛門の長男にして明治十五年七月を以て生れ同三十一年家督を相続す醬油醸造業を營み傍ら石岡電氣會社社長たり外前記銀行會社の重役を兼ね縣下の多額納税者にして貴族院議員に互選せらる家族は尙三女志津子(大五、五生)あり二女きみ子(明四〇、五生)三輪田高等女學校出身(は法學博士山崎覺次郎長男和一至に嫁し叔母八重(同四、一生)は其子女を伴ひ分家せり(茨城、新治、石岡町)
參照 木内喜右衛門、山崎覺次郎、濱田芳藏、濱茂木七郎右衛門の項

濱 元 藏

長野縣多額納税者、製絲業
長野縣士族
妻 明一七、一生、長野、金原彦一
男 泉 大一二、二生

以て生れ叔父浩蔵の養子となり明治七年家督を相続す...

濱八百彦

正五位勲五等、女子學習院教授、東京府在籍...

濱生隆一

築港病院長、醫師、福岡縣在籍...

濱尾四郎

正五位、子爵、検事、東京區裁判所検事兼東京地方裁判所検事...

君は福岡縣人濱生伊八郎の長男にして明治二十二年五月...

操 明三四、五生、理學博士渡瀬庄三郎長女...

濱岡五雄 勲六等、日本銀行(株)理事、京都府士族...

濱岡光哲 從五位勲四等、京都商工會議所會頭、京都火災保險(株)社長...

濱岡源助 北海道多額納稅者、材木商、讀賣業、北海道在籍...

濱岡光哲

從五位勲四等、京都商工會議所會頭、京都火災保險(株)社長...

君は北海道人濱岡文太郎の長男にして明治二十四年九月...

濱口儀兵衛

貴族院議員、千葉縣多額納稅者、貴族院議員、千葉縣士族...

濱口卯三吉

濱口汽船(株)取締役、建築材料商、大阪府在籍...

濱口龜太郎

(株)監督役、大阪府在籍、五十一年銀行(株)取締役、和泉紡績...

濱口吉右衛門

濱口商會、東京府在籍、濱口商會、東京府在籍...

米觀察の途に上り特に各國商業會議所の制度を調査し...

君は高知縣人濱口三郎の三男にして同次郎の弟なり...

君は七百有餘年の舊家にして代々禁裏御内書官の...

濱田 國松
正五位勳三等、司法政務次官、衆議院議員(三重縣選出)
濱田 國松
妻 かね
男 明二、七生、三重、山木代造二女
女 明三、七生、鹿兒島、黒岩巖石

濱田 金之助

濱田 金之助
妻 かね
男 明二、七生、鹿兒島、黒岩巖石
女 明三、七生、鹿兒島、黒岩巖石

濱田 國松

濱田 國松
正五位勳三等、司法政務次官、衆議院議員(三重縣選出)
濱田 國松
妻 かね
男 明二、七生、三重、山木代造二女
女 明三、七生、鹿兒島、黒岩巖石

濱田 治兵衛

濱田 治兵衛
古着商
大阪府在籍
妻 かね
男 明二、七、九生、大阪、山口市三妹
女 明三、七、九生、大阪、山口市三妹

濱田 治郎兵衛

濱田 治郎兵衛
千葉縣多額納税者、千葉銀行
妻 かね
男 明二、五、八生、茨城、鈴木次右衛門
女 明三、七、九生、茨城、鈴木次右衛門

濱田 熊次郎
埼玉縣多額納税者
妻 かね
男 明二、七、九生、埼玉、岸百太郎三
女 明三、七、九生、埼玉、岸百太郎三

濱田 顯吉郎

濱田 顯吉郎
三菱鐵業(株)營業部用度係主任
妻 かね
男 明二、七、九生、現戸主
女 明三、七、九生、現戸主

濱田 好平

濱田 好平
油雜貨商
妻 かね
男 明二、七、九生、鹿兒島、富永鐵太
女 明三、七、九生、鹿兒島、富永鐵太

濱田 甚兵衛

濱田 甚兵衛
大阪府多額納税者、住吉土地(賣)
妻 かね
男 明二、七、九生、大阪、高井徳平長
女 明三、七、九生、大阪、高井徳平長

濱田 種三

濱田 種三
赤福、餅製造業
妻 かね
男 明二、七、九生、愛知、加藤彦吉二
女 明三、七、九生、愛知、加藤彦吉二

濱田 三郎
福井紡績(株)取締役
妻 かね
男 明二、五、八生、福井、本木修爾長
女 明三、七、九生、福井、本木修爾長

濱田 四郎

濱田 四郎
三越(株)取締役
妻 かね
男 明二、五、八生、福井、本木修爾長
女 明三、七、九生、福井、本木修爾長

濱田 治兵衛

濱田 治兵衛
廣島縣多額納税者、廣島製紙(株)
妻 かね
男 明二、五、八生、廣島、井東俊二長
女 明三、七、九生、廣島、井東俊二長

濱田 忠之助

濱田 忠之助
島根縣多額納税者、農業
妻 かね
男 明二、五、八生、島根、濱田治兵衛
女 明三、七、九生、島根、濱田治兵衛

濱田 東稻

濱田 東稻
和賀水力電氣、室蘭土地埋立、北
妻 かね
男 明二、五、八生、東京府土族
女 明三、七、九生、東京府土族

濱田 光三 濱田別途(資代表社員、第一銀行員、大阪府在籍)

濱田 靖夫 衣類商、大阪府在籍

濱田 彦藏 高知縣多額納稅者、吳服商

濱田 彪 三菱造船(株)取締役會長、三菱内長崎縣在籍

濱田 平兵衛 名倉屋本店、旅館業

濱田 道之助 産業組合中央會(社法)主事

濱田 眞名二 從七位、美濃部製本所(株)取締役

濱田 正夫 印刷業

濱田 道之助 産業組合中央會(社法)主事

濱田 光三 濱田別途(資代表社員、第一銀行員、大阪府在籍)

濱田 靖夫 衣類商、大阪府在籍

濱田 彦藏 高知縣多額納稅者、吳服商

濱田 元次 從五位勳六等、陸軍歩兵少尉

濱田 勇三 安田銀行(株)取締役兼大阪支店長

濱田 藤太郎 濱田耳鼻咽喉科病院院長、大阪府土橋

濱田 音雄 石川縣多額納稅者、米谷銀行、共

濱田 中憲之介 濱吉旅館、旅館業

濱田 道之助 産業組合中央會(社法)主事

島金藏長女)と其子女孫雪子(同三七、一〇)生あり弟...

濱中 二平

志業銀行(株)頭取、淡路貯蓄銀行、攝陽商船各(株)取締役...

濱中 與助

羽田銀行(株)取締役、菓子商、東京府在籍...

濱根岸 太郎

向島船渠(株)代表取締役、濱根商店(株)取締役、北海道在籍...

記諸會社の重役たり家族は尚孫初江(大七、九生、養子忠藏長女)同全子(同二〇、三三、同二女)あり(函館、谷地頭町八六)

濱野 延藏

朝來銀行(株)頭取、兵庫縣在籍...

濱野 三郎

從五位、司法技師、大臣官房會計課勤務、東京府在籍...

濱野 茂

濱野商會(株)社長、濱野商會(資)代表社員、東京府在籍...

濱野 直義

從五位勳五等、北海道技師、室蘭土木派出所長、廣島縣土族...

濱野 平次郎

埼玉縣多額納税者、忍商業銀行(株)取締役、農業、埼玉縣在籍...

濱野 門三郎

日瑞貿易(株)常務取締役、東京府土族...

君は東京府人先代茂の長男にして明治二十二年七月を以て生れ大正三年家督相繼ぎ共に襲名して前名一郎を改む...

濱野 太吉

濱野病院、濟生病院各院長、醫師、千葉縣土族...

濱野 三郎

米谷銀行、根利満工業、丸三織物各(株)取締役、石川縣在籍...

濱野 壽太郎

臺灣銀行(株)スーラバヤ支店支配人、群馬縣在籍...

濱邊 喜兵衛

三重縣多額納税者、伊賀鐵道(株)取締役、中外醫業、伊賀瓦斯朝三重縣在籍...

濱松 與八郎

富山縣多額納税者、養生銀行、濱石田縣在籍...

濱本 勘三郎

建築請負業、大阪府在籍...

君は大阪府人濱本勲次郎の弟にして明治二十二年三月を以て生れ大正四年分家して一家を創立す建築請負業を營む家族は尙二男重義(大三、八生三男幸三(同四、九生)四男兼義(同七、一一生)五男潔(同二〇、八生)長女富子(同二、一一生)六男福藏(同三、一一生)あり(大阪、西、阿波郡通五ノ四電新町一七七七)

濱本八治郎

君は兵庫縣人先代八治郎の長男にして文久二年四月を以て生れ明治十四年家督相續と共に前名久八郎を改め襲名す夙に實業界に入り兼に姫路煉瓦會社福島紡織會社取締役山陽實業會社代表取締役を就せり現に前記銀行會社の重役たり家族は尙孫昌子(大、四、九生、長男八二郎長女)あり長女さき(明二〇、四生)は其一子と共に分家し二女さた(同二六、四生)も同夫友藏(同二三、八生、兵庫、濱本久四郎養父)と共に其一子を作ひ分家せり(姫路、福中町四五)

濱本正衛

君は徳島縣土族濱本盛行の弟にして明治二十一年三月を以て生れる材木商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙兄盛行(明一六、五生、現戶主)同妻シマ(同二〇、二生、徳島、三好淺三三女)及其子女弟弘治(同二三、一〇生)同妻サチ(同三三、一一生、徳島、宮本卷太郎二女)及其子女同力(同二八、三生)同妻スエ(同三六、九生、徳島、河野芳太郎三女)同妻六(同三〇、六生)同妻ミワ(同三八、一一生、徳島、多田文平二女)及其子女妹千代野(同三三、一一生)及其子女あり姪タマノ(同四〇、六生、兄盛行長女)は徳島縣人安廣頼一弟奥吉に嫁せり(東京、深川、西水町一電本所一三二二)

濱本義賢

君は徳島縣人木下清次郎の弟にして明治三年九月を以て生れ先代眞亮の養子となり同三十二年家督を相續す酒齋油商を營み傍ら房州白土株式會社監査役たり現時千葉縣多額納税者たり家族は尙孫淺子(大、一、一一生、三男光雄長女)同喜久惠(同二五、一一生、同二女あり(千葉、安房、北條町)

早川内藏造

君は岐阜縣人早川彌生治の長男にして文久二年三月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時七十六銀行取締役たり家族は尙孫武一郎(大、一、一一生、四男武男長男)同浩(同二、二生、同二男)同美那子(昭二、三生、同長女)あり二女ゆき(明二二、一一生)は岐阜縣人加藤春三に三女さき(同三四、二生)は同縣人藤澤一に嫁り(同九、一一生)は同縣人藤村吉に嫁し弟捨次郎(同二、二生)は同縣人淺井六三に五男啓次郎(同三〇、九生)は同縣人加藤春三の養子となり(岐阜、海津、今尾町) 參照一加藤春三の項

早川慶之助

君は愛知縣人早川小三郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ大正五年家督を相續す夙に有價證券賣買業を營みしが現時之を廢す資産家にして愛知縣多額納税者たり家族は尙二男徳助(大、一、一一生)三男禮助(昭二、四生)あり(名古屋、東、鶴重町二ノ九電東三三二八)

早川兼揚

君は愛知縣人早川小三郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ大正五年家督を相續す夙に有價證券賣買業を營みしが現時之を廢す資産家にして愛知縣多額納税者たり家族は尙二男徳助(大、一、一一生)三男禮助(昭二、四生)あり(名古屋、東、鶴重町二ノ九電東三三二八)

早川三郎

君は神奈川縣人早川茂一の弟にして明治二十一年四月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す同三年文官高等試験に合格し同四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年宮崎縣屬となり次で同縣警視東諸縣郡長

早川金助

君は山口縣人早川之進の長男にして明治二年八月を以て生れ同二十九年分家して一家を創立す煙草元賣業を營み山口縣多額納税者たり(下關、東南部町)

君は東京府人早川太吉の四男にして明治二十一年七月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す早川亭と稱す

早川右一郎

君は千葉縣人木下清次郎の弟にして明治三年九月を以て生れ先代眞亮の養子となり同三十二年家督を相續す酒齋油商を營み傍ら房州白土株式會社監査役たり現時千葉縣多額納税者たり家族は尙孫淺子(大、一、一一生、三男光雄長女)同喜久惠(同二五、一一生、同二女あり(千葉、安房、北條町)

早川淺次郎

君は東京府人早川太吉の四男にして明治二十一年七月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す早川亭と稱す

早川兼三郎

君は東京府人早川太吉の四男にして明治二十一年七月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す早川亭と稱す

早川佐七

君は東京府人早川太吉の四男にして明治二十一年七月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す早川亭と稱す

早川三郎

君は神奈川縣人早川茂一の弟にして明治二十一年四月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す同三年文官高等試験に合格し同四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年宮崎縣屬となり次で同縣警視東諸縣郡長

早川兼揚

君は愛知縣人早川小三郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ大正五年家督を相續す夙に有價證券賣買業を營みしが現時之を廢す資産家にして愛知縣多額納税者たり家族は尙二男徳助(大、一、一一生)三男禮助(昭二、四生)あり(名古屋、東、鶴重町二ノ九電東三三二八)

早川兼揚

君は愛知縣人早川小三郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ大正五年家督を相續す夙に有價證券賣買業を營みしが現時之を廢す資産家にして愛知縣多額納税者たり家族は尙二男徳助(大、一、一一生)三男禮助(昭二、四生)あり(名古屋、東、鶴重町二ノ九電東三三二八)

早川兼揚

君は愛知縣人早川小三郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ大正五年家督を相續す夙に有價證券賣買業を營みしが現時之を廢す資産家にして愛知縣多額納税者たり家族は尙二男徳助(大、一、一一生)三男禮助(昭二、四生)あり(名古屋、東、鶴重町二ノ九電東三三二八)

業技師となり現時地方技師に任じ東京府勤務たり家族は尚二男武夫(明四二、三)あり(東京市外大久保町西大久保二一四電四谷六三〇七)

早崎 勸 從五位勳五等、松山高等學校教授 高知縣土族 妻 玉 眞 明一五、八生、高知、濱田正之長 男 明三四、三三

君は高知縣土族早崎誠造の長男にして明治八年三月を以て生れ同十一年家督を相続す同三十一年第三高等學校工學部機械科を卒業し同三十四年一年志願兵となり陸軍歩兵少尉に任じ同年第五高等學校教授に任ぜられ日露役に乃木軍に參加し陸軍歩兵中尉に進み大正八年松山高等學校教授に轉じ現時に至る長女清(明三八、八生)は高知縣人浦利雄に嫁せり(松山、一萬町)

早瀬榮之助 (株)監査役、漆料商、大阪府在籍 妻 マツ 明九、六生、養父榮之助長女 養子 清 明二七、一、長女ミコ、夫、大阪 長谷川泰次郎二男 明三四、五、養子清

君は大阪府人深澤宗吉の二男にして明治九年四月を以て生れ同二十八年先代榮之助の養子となり家督を相続し先代の名を襲ひ同年大阪高等商業學校を卒業し漆料一式卸販賣業を営み傍ら前記諸會社の重役たり家族は尚孫慶夫(大一一、四)同康夫(同一五、四)あり(大阪、西、北堀江御池通一ノ四電新町二五四五) 參照 深澤早瀬太郎三郎の項

早瀬完二 右近商事(株)常務取締役、大原海上火災保險、日本海上保險各(株) 妻 花 江 明二一、一、福井、宮永學而妹 男 道 雄 大二、一、二、生 女 多喜子 明四二、七、生 朝子 明四四、七、生

君は福井縣土族藤田直太郎の弟にして明治七年四月を以て生れ先代正二の養子となり大正三年家督を相続す先是明治三十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時右近商事會社常務取締役たる前記各會社の重役たり

役たり家族は尚二男伸(大五、七)三女松子(同七、一)あり(兵庫、武庫、御影町電二八)

早瀬太郎三郎 大阪府多額納稅者、大神中央土地 妻 喜 美 明二五、一、生、兵庫、八馬兼介姉 女 惠 美 大元、一、二、生

君は大阪府人先代太郎三郎の長男にして明治十七年三月を以て生れ同三十五年家督を相続して襲名す同四十年早瀬田大學商科を卒業し實業界に入り現時前掲諸會社の重役たる傍ら祖業を繼承して貸地業を営み今木屋と號し大阪府多額納稅者たり妹千代(明二二、一)生、早瀬田大學商科出身(同妻部子)同二七、一〇生、大阪 淨田忠次郎三女)と共に其一女を伴ひ分家せり(大阪、東、五町二ノ三電本局四八八) 參照 木村松之助、八馬兼介、深澤宗吉、助、八馬安二、早瀬榮之助の項

早瀬忠太郎 早瀬(株)取締役社長 妻 ミエ 明一七、一、生、北海道、玉井傳次 女 静 江 明三〇、一、二、生 女 タツ江 明四〇、一、二、生

君は北海道人早瀬梅太郎の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正二年家督を相続す現時早瀬株式會社社長たり家族は尚三男佐次郎(大一一、二)生、四女榮(同四、一)生、五女ひろ(同九、六)生、六女忠子(同二、一)生、四男忠次郎(同四、九)生あり(東京市外淀橋町柏木二七八) 早田傳之助 福島縣多額納稅者、桑折電氣、羽 妻 赤太郎 明四四、一〇生 女 タツ江 明三〇、一、二、生

君は福島縣人早田傳之助の長男にして明治二十六年一月を以て生れ大正三年家督を相続す農業を営み現時前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者たり妹育(明二八、二)生(は宮城縣人猪苗代翁長男彌に同秋)同二九、一(二)生(は同縣人上西勇吉郎長男其藏に嫁せり)福島、伊達、半田村)

早田文藏 從五位、理學博士、東京帝國大學 教授、理學部勤務、東京府在籍 妻 クニ 衛門二女 男 文 一 明四一、一〇生 女 幸子 明四四、七、生

君は新潟縣人早田佐四郎の弟にして明治七年十二月を以て生れ同四十年分家して一家を創立す同三十六年東京帝國大學理學部植物學科を卒業し同四十年理學博士の學位を受け同四十二年歐洲に留學し大正八年東京帝國大學助教授に任じ同十一年教授に進み現時に至る家族は尚三女龜子(大九、六)生あり(東京市外西巢鴨町二五七〇)

早野金藏 (株)代表取締役、琴川電力(株) 妻 庶子 欽介 野ふみ 大元、一、一、生、生母、神奈川、早 野ふみ 明一六、三、生、東京、中澤郷妹 君は神奈川縣人早野野郎左衛門の二男にして文久元年十月を以て生れ明治七年家督を相続す農業を営み傍ら共同運搬會社代表取締役の外前記會社の重役にして神奈川縣多額納稅者たり兄松五郎(安政元、八)生(は其妻ヒサ(萬延元、四)生、神奈川、野谷惣右衛門長女)を伴ひ弟吉藏(明元、四)生(は其子を伴ひ妹養子野五郎(同二〇、九)生)同妻ヨフ(同一三、一〇)生、野地角次郎(二女)は其子女を伴ひ各分家し養子トシ(同二七、九)生、早瀬、川上淺治二女(は分家弟吉藏に同テツ)同二七、九)生、神奈川、峰尾留吉三女)は神奈川縣人石塚幸太郎に妹ヤス(同六、二)生(は同縣人福泉義徳に長女千代子(同三三、三)生(は東京府人松山立行に嫁じ養子トイ

(同三八、八)生、神奈川、名古屋四郎吉長女(は前記福泉義徳の養子となり)神奈川、足柄下、下中村)

早野彌會市 雜貨商 大阪府在籍 妻 大八、五、生 女 日出 明四三、一、生

君は大阪府人先代彌會市の長男にして明治二十三年十一月を以て生れ大正十二年家督を相続し前名長三郎を改め襲名す雜貨商を営む家族は尚弟延太郎(明三〇、七)生、妹愛子(同三九、一)生、弟幾太郎(同三三、〇)、一(生)は分家し妹キミ(同三三、二)生(は兵庫縣人早野やすの養子となり)大阪、東、北久太郎町四ノ九電船場一五四〇)

早野龍三 正五位勳四等、京城帝國大學教授 醫學部勤務、岐阜縣在籍 妻 たを 明二〇、八、生、岐阜、土、戸田鏡 男 二 郎 大八、五、生

君は岐阜縣人早野龍左衛門の長男にして明治十四年五月を以て生れ同二十五年家督を相続す同四十年東京帝國大學醫學科大學を卒業し同大學副手同助手を経て同四十五年獨逸に留學し眼科を専攻し歐洲各國を視察し大正二年歸朝後朝鮮總督府醫院醫官に任じ眼科長となり京城醫學專門學校教授を兼任し現時京城帝國大學教授にして醫學部勤務たり家族は尚二女エリサ(大四、一)生(三男三郎(同一二、三)生)あり(京城、西大門町總督府官舎) 參照 戸田鏡之助、森桂三、早川萬一、盛田久左衛門の項

早房長徳 王子製紙(株)大泊工場長、南樺鐵道(株)取締役、東京府在籍 妻 明二、一、生、静岡、中村九十郎 男 長 義 明四一、一〇生 女 節子 明四五、六、生

君は静岡縣人早房長次の長男にして明治十七年七月を以て生れ大正九年家督を相続す明治三十六年東京高等工業學校を卒業し王子製紙會社に入り現に大泊工場長

にして傍ら南樺鐵道會社取締役たり大正十四年製紙業視察のため歐米に出張し同十五年歸朝す家族は尚三男長幸(大三、九)生、二女玉枝(同六、三)生、四男長雄(同一、二)生、四女千代子(同一二、一)生あり(樺太、大泊町王子製紙會社宅電一四〇)

速水健治郎 三重縣農工銀行、三重合同貯蓄銀行、百五銀行、一志銀行各(株)取締役、三重縣在籍 妻 てい 明一六、九、生、三重、萩田悦造妹 女 ち ち 明四一、七、生

君は三重縣人速水政助の長男にして明治七年十二月を以て生れ同三十七年家督を相続す現時前記各銀行の取締役に任じ引本會社社長たり家族は尚三男宏(大一一、二)生、九女あり(長女は明三三、七)生(は分家し二女と(同三九、九)生)は三重縣人吉田善三郎に嫁せり(三重、北牟婁、引本町)

速水太郎 山陽中央電氣(株)社長、今津發電 妻 幸太郎 明三〇、一、二、生 女 山陽電燈各(株)取締役、大阪府在籍 君は舊藤室家支封伊賀上野藩士速水謙益の長男にして文久二年四月を以て生れ明治二十三年分家して一家を創立す初め貿易業に従事し後山陽鐵道に入り尋て阪鶴鐵道に轉じ累進して支配人となり取締役に擧げられたり爾來幾多の會社に關係し關西實業界一方の雄として知られ現時前記諸會社の重役たり家族は尚庶子錢次(大二三、三)生、生母、大阪、渡邊ゆき)同正次郎(同元、一〇)生、生母、大阪、藤川キク)あり長女(明一九、一)生(は兵庫縣人志賀光長男醫學博士光雄に二女隆(同二一、八)生)は同縣人林治郎吉に三女幾久(同二四、一)生(は醫學博士藤原敬徳に嫁じ庶子一(同四一、一)生)は其生母大阪府人渡邊ゆきに同藤太郎(同四一、一)生(は同美代子(大八、一)生)同敬子(同一一、三)生)と共に其生母同府人藤川キクに各養子となり(大阪、北、天満橋筋二ノ一電北三五六八) 參照 藤原敬徳の項

速水健 福島縣多額納稅者、美登利、割烹 妻 ミネ 明一〇、一〇生、福島、飯田大六長 養子 傳 吉 明四〇、一〇生、福島、諸岡淺次 養子 アサ子 明四四、二、生、福島、松田鶴十郎 女 藤子 明四一、一〇生、妻、養子、廣島、飯田大六孫 君は福島縣人速水藤吉の四男にして明治十四年十二月を以て生れ後家督を相続す美登利と稱し割烹業を営み福島縣多額納稅者たり(明三五、八)生、妻、ミネ)は島根縣人中谷待市に嫁せり(福島市中東洲町一一二電四九三三)

速水 從四位勳三等、文學博士、京城帝國大學教授、法文學部長 妻 千代 嘉永三、一、二、生、岡山、土、淺川 勝之介長女 明三七、三、生、東京、土、池田謙三長女、東京女子高等師範學校出身 男 健 一 部在學 明三八、四、生、東京帝國大學文學部 女 不二子 明四三、二、生、聖心女子學院出身 女 美代子 大元、一〇生、聖心女子學院在學 君は岡山縣土族速水洵の長男にして明治九年十月を以て生れ同二十九年家督を相続す同三十三年東京帝國大學文學科大學哲學科を卒業し同大學助手となり爾來山口第一各高等學校教授東京帝國大學文學科大學講師を歴任し大正十年文學博士の學位を受く同十三年朝鮮總督府京城法學專門學校教授に任じ心理學研究の爲佛蘭西來各國に留學し歸朝後同十五年京城帝國大學教授となり現に同大學法文學部長たり家族は尚四女八重子(明四三、八)生、佛英和高等女學校出身(は外祖父池田謙三の養子となり妹寅(同一、九)生)は岡山縣人吉田繁次郎に同壽恵(同一七、七)生(は同縣土族松尾哲太郎に同道同二八、一)生(は同縣土族坪田季一に嫁じ弟萬三郎(同一二〇、八)生)同富四郎(同一二六、三)生(は各分家せり

(京城、京城帝國大學法文學部内)

速水文太郎

島根縣多額納稅者、八東銀行(株)取締役、農業、島根縣在籍

林愛作

南滿鐵業、帝國自動車各株(株)取締役、中央生命保險(五)取締役、パ...

林暉

林外科病院院長、日本醫師共濟生命保險(五)監査役、醫師

男 明三四、一二生
男 是明三九、四生
女 信 明四一、一八生

林朝太郎

近海郵船(株)東京支店長 東京府在籍

林郁彦

從四位勳三等、醫學博士、長崎醫科大學長兼教授、山口縣土族

男 一 郎 明四〇、五生
女 フ サ 明四四、六生

林幾太郎

大倉火災海上保險(株)社長、大倉鐵業(株)常務取締役、北神石油、瀧川炭礦、北辰會、大濱炭礦各...

林市藏

從四位勳三等、大阪府在籍

林市太郎

青森縣多額納稅者 青森縣在籍

林宇三郎

大分縣多額納稅者、農業 大分縣在籍

林榮作

從五位勳四等、通信事務官、經理局勤務、山口縣土族

林卯藏

林平商店(名)代表社員、洋傘羅紗商、大阪府在籍

林榮助

日本橋(株)専務取締役 大阪府在籍

林音吉

林音吉商店(名)代表社員、金物機 械商、大阪府在籍

林 桂 正五位勳三等功五級、陸軍少將、歩兵第一旅團長、和歌山縣土族
 父 和太郎 嘉永三、八生、正四位勳三等、現戸主
 母 千鶴 安政三、一〇生、京都、土、山岡景命姉
 妻 喜美 明三二、二生、東京、大倉喜三郎二女
 男 實 大八、七生

君は和歌山縣土族林和太郎の長男にして明治十三年十一月を以て生る同三十四年陸軍士官學校を卒業し同十五年陸軍歩兵少尉に任じ昭和二年陸軍少將に累進す其間陸軍大學校を卒業し教育總監部附參謀獨駐在丁林國駐在參謀本部附陸軍大學校教官兼研究部主事陸軍大學校兵學教官兼海軍大學校教官近衛歩兵第一聯隊長陸軍省軍務局軍事課長等に歴補し現時歩兵第一旅團長の職にあり家族は尙二男宏(大二三、七生)姪文子(明四〇、三生)あり弟繁(同六一、四生、農學士)は兵庫縣人兼松房次郎の養子となり同棟(同八一、九生、京都府立第一高等女學校出身)は福岡縣人法學士堀貞に同叔子(同二五、五生、京都府立第二高等女學校出身)は京都府人工學士磯村利水に嫁し弟嚴(同三一、二生、工學士)は東京府人岸敬二郎の養子となり(東京市外千駄ヶ谷町榎田九電青山一三一九)參照 大倉直介 柴田幸一 柳田鐵三の項

林 兼太郎 鳥取縣多額納稅者、鳥取糖業(株)代表取締役、鳥取縣土族
 妻 兼 慶應三、一生、鳥取、田中與平二女
 男 兼之亮 大八、九生

君は鳥取縣人上根宣幸の四男にして明治二十三年七月を以て生れ後先代兼太郎の養子となり大正十年家督相続と共に前名惠一を改め兼名す現時鳥取糖業代表取締役にして鳥取縣多額納稅者なり家族は尙二男春雄(大一一、五生)あり(鳥取市川端)

林 勘兵衛 白粉商店、西陣織物商
 妻 登見 明二三、九生、東京、市川多郎妹

林 菊太郎 日本水電(株)取締役
 妻 子 慶應元、五生、香川、松田トミ養
 妻 サワ 明一七、一〇生、香川、高橋諒吉妹、明治女學校出身

君は佐賀縣人中村清七郎の四男にして明治五年五月を以て生れ先代清三郎の養子となり同三十九年家督を相続す夙に慶應義塾文科を卒業し歐洲に留學外交史を研究し後法學博士の學位を授けらる衆議院議員に當選するこ回数に及び現時前掲の職に在り家族は尙三女和子(大七、六生)四女順子(同一一、七生)あり(東京市外澁谷町伊達九電高橋五七四五)

林 吉三郎 北陸貯蓄銀行(株)取締役
 妻 子 明一三、四生、石川、石森清松養

君は石川縣人林孫太郎の長男にして明治七年六月を以て生れ同三十九年家督を相続す現時北陸貯蓄銀行取締役たり家族は尙三女、くみ(大四、六生)あり長女淑子(明三三、五生)は石川縣人小鍛冶長一に二女しす(同三六、三生)は同縣人井村長次郎に嫁せり(石川、石川、館畑村)

林 吉治郎 金物商
 妻 養母 キク 大阪府在籍
 妻 太ま 明二七、五生、京都、八木仁三郎長女

男 貞次 明四一、五生
 女 歌子 大元、一一生

君は東京府人竹内銀藏の長男にして明治十年十月を以て生れ先代勘兵衛の養子となり同四十二年家督を相続す前名種吉を改む現に西陣織物商を營み白粉商店と稱す家族は尙二男寛之助(明四三、九生)二女富美子(大五、八生)三女壽恵子(同七、三生)四女章子(同一二、四生)あり妹美奈子(明二七、一一生)は分家せり(京都、下京、烏丸通六角下ル)

林 寛 林寛商店(名)代表社員
 妻 千代 明一六、一〇生、岐阜、後藤利彦長女
 男 大郎 明四二、二生、大阪明星商業學校出身

君は大阪府人林英子の叔父にして明治十一年一月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す林寛商店を經營し其代表社員たり家族は尙二男次郎(大元、九生、大阪高津中學在學)及び二女規代(同五、一〇生)あり(大阪、南、谷町六ノ八電京三九六二)

林 紀一郎 資商家
 妻 みの 明八、五生、東京、上、松坂三女
 君は舊幕臣林欽次の孫なり欽次は元大阪の人江戸に出て幕府に仕ふ利権の途に明にして幕末土地を購入し以て當家の基を起し先代謙三は其子にして法學士辯護士となり嘗て衆議院議員に擧げられたり君は謙三の長男にして明治三十三年一月を以て生れ同四十四年家督を相続す同家は區内の資産家たり家族は尙三女(明三五、八生、聖心女子學院出身)同桂子(同三八、三生、出身同校)弟達次郎(同三九、五生)妹季子(同四二、四生)あり姉同子(同三〇、二生、東京女學院出身)は長野縣人伊藤信愛に同枝子(同三一、一〇生、出身同校)同上は岐阜縣人堀内寛正に嫁せり(東京市外大崎町上大崎二二三九電高橋二〇五)

林 喜佐治 字和商業銀行(株)頭取、淡路酒造、中筋製絲各(株)社長、伊豫野村銀行(株)取締役、伊豫貯蓄銀行(株)監査役、愛媛縣在籍
 妻 太一郎 大一一、一一生
 君は大阪府人秋庭忠次郎の長男にして明治十九年八月を以て生れ同二十二年先代梅吉の養子となり大正八年家督を相続す金物商を營む家族は尙長女フサ(大三四、四生)五女正子(同四一、一一生)あり(大阪、東、博勞町三ノ三七)

林 久治郎 從四位勳三等、總領事、奉天在勤
 妻 三左衛門 弘化二、三生、栃木、飯塚平左衛門現戸主
 妻 サダ 明二八、三生、宮崎、土、河野虎衛二女

君は栃木縣人林三左衛門の二男にして明治十五年十月を以て生る同三十六年早稻田大學英語政治科を卒業し同三十九年外交官及領事官試験に合格同四十年領事官補に任ぜられ吉林に在勤す爾來領事青島守備軍民政務事務官大使館二等書記官一等書記官總領事臺灣總督府事務官に歴任し天津福州シヤトル英國等の各地に在勤し總領事全權公使として暹羅國に駐劄し現時奉天在勤總領事たり家族は尙長女かつ(大四、七生)二女ユキ(同六、一一生)二男漢次(同五、一一生)兄久平(明一三、一一生)同妻ヒテ(同八、九生、栃木、上田藤一)二女 芳義平(大一一、〇七生、亡弟末三郎長男)あり姉ノメ(明四、一一生)は栃木縣土族武藤重之長男信次郎に同ヒサ(同七、九生)は茨城縣人宮田權平長男信次に同ヌミ(同二〇、九生)は栃木縣人早乙女喜一郎に妹ミホ(同一九、八生)は同縣人前橋喜重郎に嫁せり(在奉天日本總領事館)

林 清夫 片倉製絲紡績(株)常務取締役、日本紡績(株)取締役、片倉殖産、片倉米穀、日支肥料各(株)監査役
 妻 よしな 明二三、一一生、養父利三郎長女
 男 清一 明四四、五生
 女 幾美子 明四二、九生

君は長野縣人花園覺吉の二男にして明治十七年十二月を以て生れ林家の養子となり大正六年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙二男正啓(大

林 喜平治 藤野、鷗野、節商
 妻 スエ 明一九、五生、大阪、藤本惣助妹
 男 喜一郎 明四三、八生

君は岐阜縣人林喜三郎の男にして明治十五年十二月を以て生れ同四十年分家して一家を創立す藤野と稱し鷗野節商を營む家族は尙三男富藏(大二、二生)四男徳太郎(同四、一〇生)五男榮一(同八、六生)二女喜美子(同二一、二生)あり二男孝太郎(明四四、一一生)は岐阜縣人林與三彌の養子となり(大阪、此花、草間町八七電土佐堀四五)

林 喜兵衛 拓殖水電興業(株)社長、燧洋電氣(株)取締役、愛知縣在籍
 妻 貞 明一四、一一生、東京、土、井口龍太郎長女
 男 正和 明四二、一一生
 女 節生 明三九、三生
 女 榮枝 大二、一一生

君は愛知縣人林新助の長男にして明治九年十二月を以て生れ同十九年家督を相続す現時拓殖水電興業會社社長たる外前記會社の重役たり家族は尙五女幹(大七、四生)姉ノ以(明三三、二生)あり長女千鶴子(同三七、三生)は東京府人山田直人に姉さみ(同五、八生)は愛知縣人盛田増太郎に嫁せり(名古屋、中、伊勢山町九七電南九五〇)

林 毅陸 正五位勳三等、法學博士、慶應義塾長、慶應義塾大學總長、香川縣在籍
 妻 治夫 明三九、四生

君は京都府人林新太郎の弟にして明治十二年六月を以て生れ同二十八年家督を相続す木綿太物商を營む家族は尙三男義三(明四二、一一生)五男太郎(同四五、七生)長女チエ子(大二三、八生)六男龍藏(同五、一一生)二女富子(同七、三生)七男啓之助(同九、二生)九男昇造(同一一、二生)十男勝也(同一一、三生)あり二男謙二(明四〇、一一生)は外祖父水谷岩藏の養子となり(大阪、東、南本町一ノ一〇電船場三四八六)

妻 エイ 明五、三生、愛媛、赤松則做三女
 養子 直次郎 明三三、五生、愛媛、清家直男二男

君は愛媛縣人清家與三郎の甥にして慶應元年一月を以て生れ先代重郷の養子となり明治十四年家督を相続す現時字和商業銀行頭取たる外前掲銀行會社の重役を兼ね家族は尙姪捷(明四〇、七生)あり養弟亨(同二五、五生、愛媛、矢野言三男)は其子一子を伴ひ分家せり(愛媛、東宇和、淡路村)

林 喜平治 藤野、鷗野、節商
 妻 スエ 明一九、五生、大阪、藤本惣助妹
 男 喜一郎 明四三、八生

君は岐阜縣人林喜三郎の男にして明治十五年十二月を以て生れ同四十年分家して一家を創立す藤野と稱し鷗野節商を營む家族は尙三男富藏(大二、二生)四男徳太郎(同四、一〇生)五男榮一(同八、六生)二女喜美子(同二一、二生)あり二男孝太郎(明四四、一一生)は岐阜縣人林與三彌の養子となり(大阪、此花、草間町八七電土佐堀四五)

林 喜兵衛 拓殖水電興業(株)社長、燧洋電氣(株)取締役、愛知縣在籍
 妻 貞 明一四、一一生、東京、土、井口龍太郎長女
 男 正和 明四二、一一生
 女 節生 明三九、三生
 女 榮枝 大二、一一生

君は愛知縣人林新助の長男にして明治九年十二月を以て生れ同十九年家督を相続す現時拓殖水電興業會社社長たる外前記會社の重役たり家族は尙五女幹(大七、四生)姉ノ以(明三三、二生)あり長女千鶴子(同三七、三生)は東京府人山田直人に姉さみ(同五、八生)は愛知縣人盛田増太郎に嫁せり(名古屋、中、伊勢山町九七電南九五〇)

林 謹治 木綿太物商
 妻 エン 明一八、一一生、京都、水谷岩藏養

君は京都府人林新太郎の弟にして明治十二年六月を以て生れ同二十八年家督を相続す木綿太物商を營む家族は尙三男義三(明四二、一一生)五男太郎(同四五、七生)長女チエ子(大二三、八生)六男龍藏(同五、一一生)二女富子(同七、三生)七男啓之助(同九、二生)九男昇造(同一一、二生)十男勝也(同一一、三生)あり二男謙二(明四〇、一一生)は外祖父水谷岩藏の養子となり(大阪、東、南本町一ノ一〇電船場三四八六)

林 九兵衛 木屋本店、漆器商
 妻 あや 明七、二生、東京、高野孝行姉
 妻 木子 明一五、二生、養父九兵衛長女
 男 實之助 明四三、三生
 女 きく 明四〇、九生

君は東京府人高野孝悌の弟にして明治十五年三月を以て生れ後先代九兵衛の養子となり大正十四年家督を相続し前名慶長を改め慶名す祖業を継ぎ漆器商を營み木屋本店と稱す家族は尙二男精一(大二三、二生)二女恭子(同五、一〇生)あり妹せん(明一九、三生)は東京府人吉村佐平に同さよ(同三六、四生)は同府土族市原求二男治郎に嫁せり(東京、日本橋、室町二ノ一電日本橋九七八)

林 國藏 長野縣多額納稅者、日本導火線(株)監査役、製絲業並銃砲火藥商
 妻 ふさ 明二三、三生、長野、飯田文太郎妹

君は長野縣土族宮澤清の三男にして明治十六年四月を以て生れ後先代國藏の養子となり大正六年家督相

林 吉治郎 金物商
 妻 養母 キク 大阪府在籍
 妻 太ま 明二七、五生、京都、八木仁三郎長女

林 清夫 片倉製絲紡績(株)常務取締役、日本紡績(株)取締役、片倉殖産、片倉米穀、日支肥料各(株)監査役
 妻 よしな 明二三、一一生、養父利三郎長女
 男 清一 明四四、五生
 女 幾美子 明四二、九生

君は長野縣人花園覺吉の二男にして明治十七年十二月を以て生れ林家の養子となり大正六年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙二男正啓(大

林 吉三郎 北陸貯蓄銀行(株)取締役
 妻 子 明一三、四生、石川、石森清松養

君は石川縣人林孫太郎の長男にして明治七年六月を以て生れ同三十九年家督を相続す現時北陸貯蓄銀行取締役たり家族は尙三女、くみ(大四、六生)あり長女淑子(明三三、五生)は石川縣人小鍛冶長一に二女しす(同三六、三生)は同縣人井村長次郎に嫁せり(石川、石川、館畑村)

續之共に署名して前名豊助を改む製絲業並銃砲火藥商を營み現に前記會社の重役にして縣下の多額納税者たり家族は尙長女せつ子(大三、七生)三男隊男(同九、九生)四男知男(同二〇、一一生)五男治男(同二一、八生)六男男男(同二四、一一生)七男久男(同二五、一一生)あり(東京、日本橋、本町二ノ一電日本橋九二〇)

君は分縣上族林大八の長男にして文久三年十月を以て生れ明治十六年家を相繼ぎ前名仙治郎を改む現に中津藩より選抜せられて東都に遊學し明治二十二年帝國大學法科大學を卒業し後神戸長崎等に於て操艦界に活動し同二十九年三井銀行に入る翌年下關支店支配人兼門司支店長に任じ京都支店長を経て同三十五年本店調査課長に擧げられ三井英商銀行監督を兼ね同四十年銀行組織及金融事業調査の爲め歐米に派遣せられ歸朝後三井家の組織變更と共に三井銀行取締役三井物産會社監査役東神倉庫會社取締役に擧げられ現時三井各名會社の參與たる外前記會社の重役たり家族は尙弟八郎(明二四、五生)同妻ミツ(同二八、六生)大分、永松(清叔母)及一男三女あり長女操(同二六、一一生)は醫學博士小野寺直助に嫁す(同五、一一生)は佐賀縣上族吉田順藏に同マ(同七、九生)は大分縣人松本孫太郎長男盛吉に嫁し弟福五郎(同元、九生)は靜岡縣人内山市藏の養子となり同妻(同二、七生)同妻コフ(同八、八生)山口、金子純介妹)と共に分家し同徳司(同三、一〇生)同妻(同二五、三生)も亦各分家せり(東京、豊町、富士見町一ノ二九電九段四一六)

生れ先代新八郎の養子となり同三十八年家を相繼ぎ現時前記銀行會社の重役たり家族は尙五男武雄(大四、一一生)四女つる(同六、一一生)五女千枝(同七、一〇生)姉さく(明四、二生)あり長女は(同二九、七生)は靜岡縣人高林兵衛に嫁す(同二四、七生)は同縣人磯部喜作に嫁す(靜岡市住吉町二六)

君は舊會津藩士林義亮の長男にして明治十二年七月を以て生れ同三十一年家を相繼ぎ同三十六年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し住友別子鑛業所の技師となり同四十五年論文を提出して工學博士の學位を受け同年九州帝國大學工學科大學助教授となり在任のま、獨逸米三ヶ國に留學を命ぜられ大正六年歸朝し教授に任ぜられ爾來其職にあり家族は尙長女靜(大七、七生)姉フク(明八、六生)同夫徳治(同二五、一一生)、新瀉關吉三男(同六、六生)同夫徳治(同二五、一一生)、新瀉關吉三男(同六、六生)同夫徳治(同二五、一一生)は新瀉關人丸山徳藏叔父和七に嫁せり(福岡市住吉町四十四一六五ノ九電二七一)

君は靜岡縣人高林維兵衛の弟にして明治十九年三月を以て生れ後先代幸の夫となり大正元年家を相繼ぎ同明治四十二年神戸高等商業學校を卒業し日本樂器製造會社に入り現に同社取締役兼支配人たる外山樂器洋行取締役たり家族は尙二男俊次(大六、八生)三男邦彦(同二〇、六生)五男忠夫(同二四、一一生)六男孝司(同二五、六生)あり(靜岡、濱名、曳馬村)

君は舊會津藩士林權助の孫にして萬延元年三月を以て生れ幼にして孤となり幸若を尊む明治二十年帝國大學法科大學政治科を卒業して外交官に入り公使館一等書記官通商局長駐韓駐清各特命全權公使に歴任し同四十年華族に列し男爵を授けらる後特命全權公使に任じ伊太利に駐在し大正五年特命全權公使に兼任して支那駐劄付ける次で關東長官となり更に全權大使として久しく英國に駐劄せしが現時待命となり兼に宮内省御用掛を拜命し秩父宮殿下御補導の大任に當れり家族は尙孫安之(大一一、三生)長男安長男(同安容(同三、二生)同二男)同妻都子(昭二、六生)同長女あり長女芳子(明二五、九生)は大使館參事官岡本武三に嫁せり(東京市外戸塚町上戸塚五七五)

君は舊會津藩士林權助の孫にして萬延元年三月を以て生れ幼にして孤となり幸若を尊む明治二十年帝國大學法科大學政治科を卒業して外交官に入り公使館一等書記官通商局長駐韓駐清各特命全權公使に歴任し同四十年華族に列し男爵を授けらる後特命全權公使に任じ伊太利に駐在し大正五年特命全權公使に兼任して支那駐劄付ける次で關東長官となり更に全權大使として久しく英國に駐劄せしが現時待命となり兼に宮内省御用掛を拜命し秩父宮殿下御補導の大任に當れり家族は尙孫安之(大一一、三生)長男安長男(同安容(同三、二生)同二男)同妻都子(昭二、六生)同長女あり長女芳子(明二五、九生)は大使館參事官岡本武三に嫁せり(東京市外戸塚町上戸塚五七五)

君は舊會津藩士林權助の孫にして萬延元年三月を以て生れ幼にして孤となり幸若を尊む明治二十年帝國大學法科大學政治科を卒業して外交官に入り公使館一等書記官通商局長駐韓駐清各特命全權公使に歴任し同四十年華族に列し男爵を授けらる後特命全權公使に任じ伊太利に駐在し大正五年特命全權公使に兼任して支那駐劄付ける次で關東長官となり更に全權大使として久しく英國に駐劄せしが現時待命となり兼に宮内省御用掛を拜命し秩父宮殿下御補導の大任に當れり家族は尙孫安之(大一一、三生)長男安長男(同安容(同三、二生)同二男)同妻都子(昭二、六生)同長女あり長女芳子(明二五、九生)は大使館參事官岡本武三に嫁せり(東京市外戸塚町上戸塚五七五)

君は舊會津藩士林權助の孫にして萬延元年三月を以て生れ幼にして孤となり幸若を尊む明治二十年帝國大學法科大學政治科を卒業して外交官に入り公使館一等書記官通商局長駐韓駐清各特命全權公使に歴任し同四十年華族に列し男爵を授けらる後特命全權公使に任じ伊太利に駐在し大正五年特命全權公使に兼任して支那駐劄付ける次で關東長官となり更に全權大使として久しく英國に駐劄せしが現時待命となり兼に宮内省御用掛を拜命し秩父宮殿下御補導の大任に當れり家族は尙孫安之(大一一、三生)長男安長男(同安容(同三、二生)同二男)同妻都子(昭二、六生)同長女あり長女芳子(明二五、九生)は大使館參事官岡本武三に嫁せり(東京市外戸塚町上戸塚五七五)

君は舊會津藩士林權助の孫にして萬延元年三月を以て生れ幼にして孤となり幸若を尊む明治二十年帝國大學法科大學政治科を卒業して外交官に入り公使館一等書記官通商局長駐韓駐清各特命全權公使に歴任し同四十年華族に列し男爵を授けらる後特命全權公使に任じ伊太利に駐在し大正五年特命全權公使に兼任して支那駐劄付ける次で關東長官となり更に全權大使として久しく英國に駐劄せしが現時待命となり兼に宮内省御用掛を拜命し秩父宮殿下御補導の大任に當れり家族は尙孫安之(大一一、三生)長男安長男(同安容(同三、二生)同二男)同妻都子(昭二、六生)同長女あり長女芳子(明二五、九生)は大使館參事官岡本武三に嫁せり(東京市外戸塚町上戸塚五七五)

君は舊會津藩士林權助の孫にして萬延元年三月を以て生れ幼にして孤となり幸若を尊む明治二十年帝國大學法科大學政治科を卒業して外交官に入り公使館一等書記官通商局長駐韓駐清各特命全權公使に歴任し同四十年華族に列し男爵を授けらる後特命全權公使に任じ伊太利に駐在し大正五年特命全權公使に兼任して支那駐劄付ける次で關東長官となり更に全權大使として久しく英國に駐劄せしが現時待命となり兼に宮内省御用掛を拜命し秩父宮殿下御補導の大任に當れり家族は尙孫安之(大一一、三生)長男安長男(同安容(同三、二生)同二男)同妻都子(昭二、六生)同長女あり長女芳子(明二五、九生)は大使館參事官岡本武三に嫁せり(東京市外戸塚町上戸塚五七五)

君は舊會津藩士林權助の孫にして萬延元年三月を以て生れ幼にして孤となり幸若を尊む明治二十年帝國大學法科大學政治科を卒業して外交官に入り公使館一等書記官通商局長駐韓駐清各特命全權公使に歴任し同四十年華族に列し男爵を授けらる後特命全權公使に任じ伊太利に駐在し大正五年特命全權公使に兼任して支那駐劄付ける次で關東長官となり更に全權大使として久しく英國に駐劄せしが現時待命となり兼に宮内省御用掛を拜命し秩父宮殿下御補導の大任に當れり家族は尙孫安之(大一一、三生)長男安長男(同安容(同三、二生)同二男)同妻都子(昭二、六生)同長女あり長女芳子(明二五、九生)は大使館參事官岡本武三に嫁せり(東京市外戸塚町上戸塚五七五)

君は舊會津藩士林權助の孫にして萬延元年三月を以て生れ幼にして孤となり幸若を尊む明治二十年帝國大學法科大學政治科を卒業して外交官に入り公使館一等書記官通商局長駐韓駐清各特命全權公使に歴任し同四十年華族に列し男爵を授けらる後特命全權公使に任じ伊太利に駐在し大正五年特命全權公使に兼任して支那駐劄付ける次で關東長官となり更に全權大使として久しく英國に駐劄せしが現時待命となり兼に宮内省御用掛を拜命し秩父宮殿下御補導の大任に當れり家族は尙孫安之(大一一、三生)長男安長男(同安容(同三、二生)同二男)同妻都子(昭二、六生)同長女あり長女芳子(明二五、九生)は大使館參事官岡本武三に嫁せり(東京市外戸塚町上戸塚五七五)

君は舊會津藩士林權助の孫にして萬延元年三月を以て生れ幼にして孤となり幸若を尊む明治二十年帝國大學法科大學政治科を卒業して外交官に入り公使館一等書記官通商局長駐韓駐清各特命全權公使に歴任し同四十年華族に列し男爵を授けらる後特命全權公使に任じ伊太利に駐在し大正五年特命全權公使に兼任して支那駐劄付ける次で關東長官となり更に全權大使として久しく英國に駐劄せしが現時待命となり兼に宮内省御用掛を拜命し秩父宮殿下御補導の大任に當れり家族は尙孫安之(大一一、三生)長男安長男(同安容(同三、二生)同二男)同妻都子(昭二、六生)同長女あり長女芳子(明二五、九生)は大使館參事官岡本武三に嫁せり(東京市外戸塚町上戸塚五七五)

君は舊會津藩士林權助の孫にして萬延元年三月を以て生れ幼にして孤となり幸若を尊む明治二十年帝國大學法科大學政治科を卒業して外交官に入り公使館一等書記官通商局長駐韓駐清各特命全權公使に歴任し同四十年華族に列し男爵を授けらる後特命全權公使に任じ伊太利に駐在し大正五年特命全權公使に兼任して支那駐劄付ける次で關東長官となり更に全權大使として久しく英國に駐劄せしが現時待命となり兼に宮内省御用掛を拜命し秩父宮殿下御補導の大任に當れり家族は尙孫安之(大一一、三生)長男安長男(同安容(同三、二生)同二男)同妻都子(昭二、六生)同長女あり長女芳子(明二五、九生)は大使館參事官岡本武三に嫁せり(東京市外戸塚町上戸塚五七五)

野、諏訪、平野村)

參照 林雄平の項

林 治作

大阪府多額納税者、寶塚ホテル(株) 監査役、大阪府土族

妻 まさ

男 精一 明四〇、九生

林 茂樹

從五位勳六等、朝鮮總督府鐵道局 參事、鐵道局經理課長

妻 茂 明二七、一五、長崎、國分建見孫

男 新太郎 大五、七生

林 茂久

川崎第百銀行員 京都府土族

妻 さめ 明一五、六生、東京、加藤直矢四女

女 三重子 明三三、一五、東京女子高等師範 學校出身、同志社女學校教諭

女 芳野 明三七、一五、京都府立第一高等 女學校出身

女 周子 明三九、一五、京都府立第一高等 女學校出身

女 信子 明四二、五生

林 靜

從五位勳五等、檢事、札幌控訴院 參事、奈良監獄長

妻 ハル 明一八、五五、大阪、沖濱トミ子

男 新一郎 嘉永三、三三

林 七六

長野縣多額納税者、岡谷倉庫(株) 社長、電氣鐵道(株) 取締役、酒造業

妻 はる 明一〇、二二、長野、黒河内作 治郎二女

養子 淑輔 野、小澤五郎三郎二男

女 よしす 明三〇、一二、養子淑輔妻

君は長野縣人林新一郎の長男にして明治八年九月を以て生れ大正八年家督を相続す風を扶けて酒造業を營み傍ら前記各會社の重役を兼ね現に縣下の多額納税者たり家族は尙孫一壽子(大五、一五、養子淑輔長女)同六(同六、一五、同長男)同千壽子(同八、一五、同二女)同多壽子(同二、三三、同三女)同壽子(同四、一二、同四女)あり(長野、諏訪、平野村) 參照 林新一郎の項

林 重介

兵馬瑞寶寺土地(株) 事務取締役 兵庫縣在籍

妻 なを 慶應三、八生、養父重一長女

男 寅治 明二四、一〇生

女 美佐子 明三五、三三

女 幸子 明四四、七生

林 正三

紀之政、吳服商 京都府在籍

妻 アイ 明三五、一五、京都、林善次姉

君は京都府人林政次郎の長男にして明治三十年七月を以て生れ大正十四年家督を相続す祖業を受けて紀之政と稱し吳服商を營む家族は尙長女榮美(大一一、一五)二女綾子(同四、一〇)生、妹きみ(同三三、四四)弟次郎(同四四、一〇)あり(同三三、四四、五五)は京都府人小島らむに各養子となれり(京都、上京、西陣寺ノ内通 大宮東入電西陣一九八)

林 條三郎

中備銀行(株) 常務取締役、關西酒造(株) 取締役、東洋織物、岡山證券各株 監査役、岡山縣在籍

林 讓治

高知縣多額納税者、農業 高知縣土族

妻 靜 明三五、六生、男爵新井清一妹

男 迪 大一一、五生

林 眞一

大正鋼業、大濱炭礦、九州酒精各(株) 取締役、福岡縣在籍

妻 イワ 明七、五五、養父八郎長女

養子 得一 大四、九生、養父一三三男

林 進士

正五位勳五等、地方技師、宮崎縣 耕地課長、熊本縣土族

妻 英 明二〇、八生、長崎、藤瀬孝之長

男 晴夫 明四三、六生

君は熊本縣土族林惟喜の弟にして明治十六年二月を以て生れ同二十八年家督を相続す同四十年東京帝國大學

林 新一郎

長野縣多額納税者、酒造業 長野縣在籍

妻 七六 明八、九生、現戸生

養子 かく 嘉永六、七生、長野、小口わくり 姉

林 新助

京都府多額納税者、書畫骨董商 京都府在籍

妻 エイ 明二、四生、京都、西村彦兵衛長女

養子 謙造 高畑彦次郎弟

女 トク 明二三、二生、養子謙造妻

養子 竹三郎 野間光彦三男

養子 民 明三七、一五、生母、京都、三上ミサ、養子竹三郎妻

林 新八

大分縣多額納税者、酒類醬油醸造 業、大分縣在籍

妻 末吉 慶應三、四生、大分、林千登吉三 男、現戸主

養子 マサ 明一五、九生、養子末吉妻、大分、 河合弘太郎妹

養子 直 明二〇、四生、新八三男、養子末 吉養子

林 新兵衛

京都府多額納税者、美術品商 京都府在籍

妻 ヒサ 明一八、一五、京都、林新助長女

養子 ヤス 明三八、一五、京都、平本八重長 女

林 甚吉

滋賀縣會副議長、近畿パラスト 賀銀行各株 監査役、滋賀縣在籍

妻 しげ 明一一、五五、養父見治長女

養子 正治 明三九、三三、亡長男啓作養子、 滋賀、青木熊藏四男

女 芳枝 明四五、一五

林 甚之丞

日本レール(株) 事務取締役 北海道在籍

妻 イシ 明二、七生、北海道、渡邊桃次郎 妹

男 千代 明二〇、八生、岡山、佐々木槌夫 姉

君は北海道人林源次郎の長男にして明治十七年三月を

三郎(同二三、五生、愛知、丹下久次郎二男及其一子
と共に分家し母あい(弘化元、二生、岐阜、水野利藏
二女)は其家籍に入れり(愛知、丹羽、犬山町)

林 半右衛門

林(名)代表社員
岐阜縣在籍

妻 文久二、八生、岐阜、上松文内二女
男 半三郎 明一四、一五、長男半三郎妻、岐阜、
川島政右衛門四女
男 隆二郎 明二七、一八、一五、長男隆二郎妻、岐阜、
明三五、九生、四男隆二郎妻、岐阜、
婦 富子 明三九、七生、
男 一雄 明三九、七生、

君は岐阜縣人林半平の長男にして安政六年正月を以て
生れ明治九年家督を相續す現時林合名會社代表社員た
り家族は尚孫一郎(大九、一五、長男半三郎二男)同
三子(同二〇、八生、同五女)同春男(同二五、二生、同
三男)同隆一(同二一、三三、四男隆二郎長男)同貞雄
(同二五、七生、同二男)あり二女あり(明一七、八生、
は愛知縣人淺井松兵衛に嫁し二男あり(同二九、九、
生)は同妻、(同二四、五生、岐阜、酒井正兵衛姉及
其一女を伴ひ分家し三女千代(同二三、一五)は愛知
縣人魚田庄五郎長男生造に四女照(同二五、八生)は同
縣人水谷文一に六女みつ(同二三、七生)は同縣人種田
勘七に孫照子(同三三、八生、亡長女ゆづり長女)は同縣人
内田善助弟健太郎に嫁り(慶應三、四生)は岐阜縣人
酒井善三郎交捨吉に弟義次郎(明三、二生)は分家せり
(岐阜、羽島、笠松町)

林 半助

山陽銀行(株)取締役、醸造業
廣島縣在籍

妻 保子 明三二、五生、香川、鈴木幾次郎
男 宏太郎 大七、一五、
君は廣島縣人先代半助の長男にして明治二十三年一月
を以て生れ大正十五年家督を相續し前名一美を改む醸造
業を營み傍ら山陽銀行取締役たり家族は尚妹テロコ
(明二七、三三)弟三郎(同三一、九生)同妻けい(同
三八、七生、長野、越前三郎養子)甥弘勝(同四一、七

林 平

關西物産(株)代表取締役、關西商
業(株)取締役、岐阜縣在籍

妻 健藏 明三二、八生、
君は岐阜縣人先代武平の長男にして明治四年七月を以
て生れ同二十年家督を相續す現に關西物産代表取締役
役たる外前記會社の重役たり家族は尚三男照男(昭二、
五生)あり長女よれ(明二三、三三)は山口縣土族丸山
藤太郎長男新介に嫁せり(東京市外墨田町上駒込四三
〇電小石川五六三)

林 文左衛門

河文、割烹業
愛知縣在籍

妻 文之助 明二八、五生、
君は愛知縣人先代文左衛門の長男にして文久元年九月
を以て生れ明治元年家督を相續し前名河文と稱し割
烹業を營む家族は尚孫永治郎(大九五、九生、長男文之
助二男)あり庶子つき(明二三、一五、生母、歌村き
く)は愛知縣人棟方武次に嫁せり(名古屋、西、小田
原町三ノ五〇電東五〇二〇)
參照 棟方武次の項

林 文太郎

旭電氣(株)社長
山口縣在籍

妻 廣平 明三〇、一〇生、
君は山口縣人林平右衛門の長男にして文久元年十月を
以て生れ明治三年家督を相續す現時旭電氣會社社長た
り長女チカ(明一六、一五)は山口縣人磯部市太郎に
嫁せり(東京、赤坂、青山町二ノ六三)

林 平四郎

勸業、貴族院議員、山口縣多額
納税者、長門鐵道、山口電氣鐵道
各(株)社長、關門汽船、下關瓦斯
下關倉庫各(株)取締役、下關五軒
取引所(株)理事長、山口縣在籍

妻 佳介 明三三、七生、孫トヲ夫、山口、
君は山口縣人林太平の長男にして同助之進の養弟なり
安政四年十一月を以て生れ明治十六年家督を相續す
山口縣會議員下關商業會議所頭等に推され衆議院
議員に當選する事二回に及び現時長州鐵道山口電氣鐵
道各會社に長たる外前記會社の重役たり又縣下の多額
納税者にして貴族院議員に擧げらる家族は尚孫ハル
(大三、一五、亡長男五郎二女)曾孫義郎(昭二、六生、
養孫佳介長男)あり長女トキ(明二一、三三)養子シセ
(同六、一五、山口、土、吉田六郎妹)は各分家せり
(下關、關後地村)
參照 林助之進中村芳治の項

林 平

大和索道、福宜鐵業、大和酒造各
(株)社長、吉野銀行(株)取締役
奈良縣在籍

妻 春子 大八、一五、
君は奈良縣人林榮次郎の甥にして明治十九年六月を以
て生れ後先代平造の養子となり大正五年家督を相續し
前名德太郎を改む現時大和索道福宜鐵業大和酒造各會
社社長にして吉野銀行取締役たり家族は尚三女妙子
(大一一、八生)二男良昭(昭二、三三)弟龍作(明三〇、
五生)あり同三女郎(同二七、三三)は分家せり(奈良、
宇智、五條町)

林 平次郎

國定教科書共同販賣所(株)常務取
締役、大日本圖書、東京書籍出版
日本書籍、大隈用品各(株)取締役
東京府在籍

妻 成昭 大一一、七生、
君は奈良縣人林士太郎の弟にして明治二十一年九月を
以て生れる郷里中學校に學び上京して工業學校を卒
業し一年志願兵として歩兵第五十三聯隊に入隊歩兵少
尉に任ぜらる現に前記諸會社の重役にして帝國海軍
人會大阪豐崎支部評議員たり義に國勢調査員労働統計
調査員等に擧げらる家族は尚二女伸子(大九、一五生)
あり(大阪、東淀川、本庄東通三丁目電北三九五〇)

林 英敏

正八位、陸軍歩兵少尉、大阪染染、
東洋染料各(株)取締役、大阪染工
(會)社員兼工場長、奈良縣在籍

妻 明二、九生、東京、大八木勇吉
君は島縣人林修巳の弟にして明治十二年十二月を以
て生れ同四十二年分家して一家を創立す貿易商を營
み滯英二十數年に及ぶ現時野澤組支配人たり家族は尚
二女英子(大二三、五生)三女和子(同五、一五)四女智子
(同二二、一五生)あり(東京市外中野町上原二八四八
電中野二三三)

生、木村喜之助長男)同正男(同四四、一五、同二男)あ
り(廣島、沼隈、鞆町)
參照 大橋平右衛門、越前三郎密武藤壽太郎の項

林 彦一

正五位勳二等功四級、陸軍少將、
第三師團司令部附、山口縣土族

妻 亮三 明一五、九生、山口、粟屋幹二女
男 春明 三九、一五、
君は山口縣土族村上芳三の二男にして明治八年三月を
以て生れ先代準之輔の養子となり同三十二年家督を相
續す現に陸軍士官學校を卒業し同三十一年陸軍歩兵少
尉に任じ大正十四年陸軍少將に累進す其間北清事變日
露戰役及青島役に第十八師團高級副官として又西伯利
亞派遣軍高級副官として出征す爾來歩兵第八聯隊長歩
兵第四旅團長等に歷補し現時第三師團司令部附たり家
族は尚二男真彦(大三、九生)三男文彦(同六、一五)四
女孝(同八、一〇)生、五女伊津子(同二四、七生)あり
(名古屋、東、東白壁町一七電東二〇九九)

君は長野縣人林其右衛門の二男にして明治十五年五月
を以て生れ大正五年分れて一家を創立す第一高等學校
を経て明治四十四年東京帝國大學文部科大學獨逸文科を
卒業し第七高等學校造士館教授を経て第二高等學校教
授に任ぜられ大正六年第三高等學校教授に轉す同十
年獨逸文學及語學教授研究の爲め獨逸英米各國に差
遣せられ同十三年歸朝す子弟薫陶の傍ら鳴南と號し
「藝術より生活」(現代戯曲集)その他思想文學戯曲の
著書及翻譯數種あり家族は尚二男達男(明四四、一〇
生)三男恒男(大八、一五)二女八枝子(同二一、八生)
四男博男(昭二、八生)あり(京都、上京、下鴨下河原
町四六)

林 久男

正五位勳五等、埼玉縣書記官、内
務省在籍

妻 明一五、一五、長野、土、渡邊
男 學 明四二、一〇生、第三高等學校在
女 千枝子 大二、一〇生

林 壽夫

正五位勳五等、埼玉縣書記官、内
務省在籍

君は山口縣人林平右衛門の長男にして文久元年十月を
以て生れ明治三年家督を相續す現時旭電氣會社社長た
り長女チカ(明一六、一五)は山口縣人磯部市太郎に
嫁せり(東京、赤坂、青山町二ノ六三)

林 平作

高瀬水力電氣、南薩鐵道各(株)取
締役、鹿児島縣土族、監
査役、鹿児島縣土族、監
査長女

妻 尚武 明三〇、三三、
君は鹿児島縣人吉峰明造の弟にして慶應元年三月を以
て生れ明治十七年先代龍右衛門の養子となり家督を相
續す現時前記會社の重役たり長女サチ(明三四、四
生)は鹿児島縣人野崎隆に嫁り三男尚之(同三七、四
生)は同縣人藤田卯兵衛の養子となり(鹿児島、川
邊、東加世田町)

林 平造

大和索道、福宜鐵業、大和酒造各
(株)社長、吉野銀行(株)取締役
奈良縣在籍

妻 春子 大八、一五、
君は奈良縣人林榮次郎の甥にして明治十九年六月を以
て生れ後先代平造の養子となり大正五年家督を相續し
前名德太郎を改む現時大和索道福宜鐵業大和酒造各會
社社長にして吉野銀行取締役たり家族は尚三女妙子
(大一一、八生)二男良昭(昭二、三三)弟龍作(明三〇、
五生)あり同三女郎(同二七、三三)は分家せり(奈良、
宇智、五條町)

林 平

大和索道、福宜鐵業、大和酒造各
(株)社長、吉野銀行(株)取締役
奈良縣在籍

妻 春子 大八、一五、
君は奈良縣人林榮次郎の甥にして明治十九年六月を以
て生れ後先代平造の養子となり大正五年家督を相續し
前名德太郎を改む現時大和索道福宜鐵業大和酒造各會
社社長にして吉野銀行取締役たり家族は尚三女妙子
(大一一、八生)二男良昭(昭二、三三)弟龍作(明三〇、
五生)あり同三女郎(同二七、三三)は分家せり(奈良、
宇智、五條町)

林 平馬

勸業、衆議院議員(福島縣選出)、
協同會參事、福島縣在籍

妻 邦明 大八、一五、
君は福島縣人林八三郎の弟にして明治十六年十一月を

林 平

勸業、衆議院議員(福島縣選出)、
協同會參事、福島縣在籍

妻 邦明 大八、一五、
君は福島縣人林八三郎の弟にして明治十六年十一月を

林 平

勸業、衆議院議員(福島縣選出)、
協同會參事、福島縣在籍

妻 邦明 大八、一五、
君は福島縣人林八三郎の弟にして明治十六年十一月を

以て生るるに日本大學を卒業し現時財團法入協調會參事たり昭和三年福島縣より推され衆議院議員に當選し立憲民政黨に屬す家族は尙二男長平(大九、八生)三男達雄(同六、一)四男徹夫(同九、八生)二女和子(同二、一)二生あり(東京市外神倉町碑文谷一四六四ノ八)

林 政吉

唐津鐵工所(株)取締役 愛知縣在籍 妻 明二〇、六生、愛知、竹尾年助妹 男 不二太郎 明四二、一〇生 女 明四四、一〇生

君は愛知縣人林繁太郎の四男にして明治十四年六月を以て生る同三十九年東京高等工業學校機械科を卒業し現時唐津鐵工所取締役たり家族は尙二男制二郎(大九、一)三男清三郎(同六、五)二女す(同九、一)男清江(明二八、二)生、現戶主)同妻わか(同三五、一)生、愛知、鈴木藤四郎(二女)及其一子あり(佐賀、東松浦、唐津町)

林 政武

北國新聞社長 石川縣在籍 妻 ますよ 明四九、九生、長野、士、林政房三 男 八重 明三二、六生、石川、士、神保八 女 明三三、三女

君は前北國新聞社長林政通の孫なり政通は松本藩士林政美の二男にして明治十九年長野町に徳中館を創設し館長となり信濃一國の麥藁を買収麥藁種子製造に從事す後日刊信濃新報を創立し又北國新聞社を買収して其社長たり君は政通の孫にして明治二十七年六月を以て生れ大正十年祖父の後を承けて家督を相続す第四高等學校を経て同八年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し翌九年北國新聞社長となり新に編輯營業の方針を確立して面目全く一新せり家族は尙長女雅子(大八、一)一男(三男政重(同三、九)生)三女富美(同五、一)生)あり(金澤、高岡町) 參照 神保八十吉 落中山 落吉の項

林 將治

岐阜電力(株)取締役、東邦電力(株)理事、技術第二課長 長野縣在籍 妻 路子 明三二、七生、長野、川上孫一三 男 泰造 大九、六生

君は長野縣人林八彌の四男にして明治十七年十一月を以て生れ同三十八年分家して一家を創立す大正二年東京帝國大學工科大学を卒業し名古屋電燈會社技師を経て現時東邦電力會社理事にして技術第二課長たる外前記會社の重役たり家族は尙二男卓男(大一二、五)三男英男(同五、九)生)あり(東京、麻布、新網町二ノ一五電神山五六六)

林 雅之助

正四位、伯爵、東洋織布(株)取締役 妻 安政六、一〇生、東京、山内堤雲 女 壽美 明四三、七生 女 美 明四四、一〇生

當家は先代重より家名を揚ぐ輩は佐倉藩醫佐藤泰然の三男にして幕臣林洞海の養子となる慶應二年英國に遊學し維新後諸官に歷任後外務省に出仕して外務次官駐清駐露駐英等特命全權公使駐英全權大使外務大臣通信大臣等に歷任す明治二十八年日清事件の功に依り華族に列し男爵を授けられ同三十五年日英同盟の功に依り子爵に同三十九年日露事件の功に依り伯爵に陞る君は其長男にして明治十年四月を以て生れ大正二年慶應醫學士として明治三十年醫學院中等科を卒業し同廿三年英國に航し倫敦市立中央工科大学電氣科を卒業し同廿九年歸朝す現時東洋織布會社取締役社長たり家族は尙二男孝次(大四、八)三男信(同六、八)あり長女ラク(明四〇、一〇)生)は東京府人福澤捨次郎に叔母さ(同元、七)生)は同府人關原民嘉に同カン(同二〇、七)生)は鹿兒島縣士族伊地知季珍に再從妹さ(同八、一)生)は東京府士族佐々木和策に嫁し叔父神六郎(萬延元、九)生)は西男爵家を相続し當主たり(東京市外日暮町下目黒三〇八電高輪一八三八)

林 亦吉

化學工業用藥品製造業 大阪府在籍 妻 秀 明三九、一〇生 女 春子 明四五、一〇生

君は京都府人林次助の二男にして明治六年十月を以て生れ同三十二年分家して一家を創立す同三十九年業種商を創め今日に至る専ら化學工業用藥品の製造及輸出を營む(大阪、東、道修町二ノ一電本局七九九)

林 松次郎

商業通信社(株)代表取締役、東京製紙、日本建築紙工各(株)監査役 妻 ちか 明一七、三三、神奈川、田中孝太郎 女 満智子 明四一、六生、双葉高等女學校出身

君は滋賀縣人林太郎の四男にして明治十二年十一月を以て生れ同三十八年分家して一家を創立す東京米穀商會取引所取引員にして商業通信社代表取締役たる外前記會社の重役たり(東京、日本橋、堀切町一ノ二電芝町七八一) 參照 田中孝太郎 渡邊吉郎の項

林 松藏

北海道多額納稅者、雜穀商 妻 トモ 明一八、三三、北海道、牧田磯四郎長女 男 武治郎 明三七、四生 男 康 明四一、四生 女 謙 明四一、四生

君は鳥取縣人林兼造の弟にして明治十年十一月を以て生れ同三十七年分家して一家を創立す雜穀商を營み北海道多額納稅者たり家族は尙三女昌子(大一二、三)生)あり長女千代(明三五、四)生)は岩手縣人川井猪太郎長

林 路

衆議院議員(北海道選出)、農業 妻 初代 明二七、一〇生、北海道、岡本延太郎長女 男 路 彰 大三、一〇生

君は北海道人林福藏の長男にして明治二十三年八月を以て生れ大正八年家督を相続す農業を營み義に北海道會議議員に選ばれ昭和三年北海道より推されて衆議院議員に當選し立憲政友會に屬す家族は尙長女弘子(大一一、一)一男(弟清(明三一、四)生)同妻キヨ(同三七、八)生、岩手、野田(二女)共一妹(弟余子(同三九、四)生)あり二男透(大九、四)生)は北海道人岡本忠雄の死跡を相続し弟忠義(明三五、三)生)は分家せり(北海道、上川、當麻村)

林 守

正五位勳六等、第八高等學校教授 妻 芳枝 明二八、九生、養父正亮養子 男 守 芳 大一一、二〇生

君は福井縣人林大井八十一の弟にして明治十八年五月を以て生れ先代正亮の養子となり大正五年家督を相続す明治四十二年京都帝國大學理工科大學理學科を卒業し更に大學院に入り同四十四年第八高等學校教授に任じ現時洋行中たり家族は尙長女正枝(大三、三)生)あり(名古屋、中、下前津町一〇九)

林 盛治

從五位勳五等、判事、飯田區裁判所判事兼長野地方裁判所飯田支部長、長野縣在籍 妻 春 明一八、四生、山形、太田實三女 男 章 明三九、二〇生 男 秋 明四〇、二〇生 男 秀 明四一、二〇生 女 婿 美 大二、二〇生

君は長野縣人林文之助の二男にして明治九年六月を以

林 彌一郎

滋養會館(株)營業部長 妻 芳太郎 文久元、九生、現戶主 女 伊奈、飯田區裁判所官舎

て生れ大正二年分れて一家を創立す先是明治三十九年東京帝國大學法科大學法科を卒業し司法官試補となり次いで判事に任じ横濱區兼同地方六日町區長野木區千葉區佐倉區兼八日市場區上田區各裁判所判事長野地方裁判所本支部兼松本區裁判所各判事を経て大正十五年現職に補せらるる家族は尙四男憲治(明四四、二)生)三女美津(大四、六)生)あり(長野、下伊奈、飯田區裁判所官舎)

林 彌三吉

從四位勳二等功四級、陸軍少將、陸軍歩兵學校長、陸軍技術會議々 妻 敬三 明四〇、一〇生 女 繁子 明四三、一〇生

君は石川縣人林三三の長男にして明治九年四月を以て生れ同二十三年家督を相続す風に陸軍士官學校を卒業し同三十年陸軍歩兵少尉に任じ大正十一年陸軍少將に累進す其間陸軍大學校を卒業し爾來元帥副官歩兵第三十七聯隊長第四師團參謀長陸軍省軍務局軍事課長支

林 彌太郎

大日本醸造(株)事務取締役、大和味噌醸造(株)監査役、東京府在籍 妻 のふ 明二九、四生、東京、川島鐵次郎 女 功 明三七、三三

君は長野縣人林彌右衛門の長男にして明治十三年七月を以て生れ同四十四年家督を相続し後前名彌子之助を改む同三十三年專修大學理財科を卒業し現時前記各會社の重役として知らる(東京、本所、相生町五丁目北野川河岸六二電本所七六七)

林 安五郎

鹿兒島縣多額納稅者 妻 安 明二八、一〇生、長男安治妻、宮崎 男 末 明三三、二〇生、二男末吉妻、鹿兒 女 ツルエ 明三九、四生、田中虎製裝長女

君は鹿兒島縣人林安太郎の二男にして安政二年九月を以て生れ明治二十一年分家して一家を創立す實業家として知られ同縣多額納稅者たり家族は尙孫清子(大九、六)生、長男安治(長女)同芳子(同二、三)生、同二女(同安幸(同五、一)生、同長男同昭男(昭二、一)生、二男末吉(長男)あり長女アサ(明一二、三)生)は鹿兒島縣人白石龜吉弟虎吉に二女ナチ(同五、七)生)は同縣人池田金助長男金助に三女ミ(同二、一)生)は同縣人堀章海に四女ヌエ(同二、一)生)は同縣人新納實雄に六女アグリ(同二、一)生)は同縣人神樹榮吉に嫁せり(鹿兒島、始良、栗野村)

林 安次郎

山口縣多額納稅者、長周銀行、防長商會、萩疏水土地、萩製糸、林業各(株)取締役、山口縣在籍 妻 眞 明一〇、一〇生、山口、馬木ハル妹 男 眞 明四一、九生

林 喜代子 明四三、一
君は山口縣人林直七郎の長男にして慶應三年十二月を以て生れ大正四年家督を相續す現時前記銀行會社の重役にして山口縣多額納稅者なり家族は尙三男久生(大六、八生)妹リウ(明四、四生)あり長女菊香(同三七、六、八生)妹リウ(明四、四生)あり長女菊香(同三七、一、二生)は山口縣人清茂作の養子となり養子金(同三〇、三、生)妹リウ(長女)は同縣人河井一士に嫁せり(山口、阿武、萩町電七八)

林 安繁

大阪商工會議所議員、宇治川電球(株)社長、大倉火災海上保險、取締役、大阪商工會議所、川崎電球(株)所各(株)監査役、日ノ丸電線(株)相談役、石川縣士族
母 正 安政二、八生、祖父安政長女
妻 眞子 明二〇、一、生、大阪、佐々木秀子
男 清 明三八、八生
女 品子 明四〇、四生
君は石川縣士族林文次郎の長男にして明治九年二月を以て生れ同四十五年先代祖父安政の後を襲ひ家督を相續す同三十四年東京帝國大學法科大學法科を卒業し直に大阪商船會社に入り支那廈門出張所長上海漢口各支店勤務となり同四十四年日清汽船會社創立に際し聘せられて上海支店長に擧げらる現時前記各會社の重役として知られ推されて大阪商工會議所議員に就任す家族は尙養子とみ子(大四、二、生、石川、内山小枝妹)あり妹は文學士白井弘に嫁せり(兵庫、武庫、本山村電影一三六七)

林 雄助

帝國油脂(株)取締役、平野肥料(株)監査役、徳島縣在籍
妻 千鶴 明一一、三、生、大阪、金澤定七長
男 英夫 明三四、八生
女 長子 明三〇、四生
君は徳島縣人逢坂平次郎の二男にして同佐七同帝衛の兄なり明治八年一月を以て生れ先代角次の養子となり後家督を相續す同二十八年大阪高等商業學校科を卒業

林 雄平

製絲業
長野縣在籍
繼母 文久三、四生、長野、武田増太郎
妻 リウ 明一六、一、生、長野、士、馬島
男 裕藏 大一一、一〇生
養子 文吾 明三三、一、生、長女、ちえ夫、長野、宇治芳治郎二男
女 ちえ 明三七、一、二、生、養子文吾妻
君は長野縣人林助の長男にして同志一の兄なり明治十五年二月を以て生れ大正十五年家督を相續す製絲業を營む家族は尙亡弟連次妻、ま(明二二、一、二、生、長野、川澄金三郎四女)及び其子女あり(長野、諏訪、平野村)
參照 林志一の項

林 讓

上伊那銀行、信産館製絲各(株)取締役、長野縣在籍
母 安政五、三、生、長野、前田澤清
妻 さき 明一一、一、生、長野、澤柳賢宗
養子 正 明四三、一、二、生、長野、木下千之助三男
君は長野縣人林讓三の長男にして明治十年十二月を以て生れ同二十一年家督を相續す現に前記銀行會社の重役なり(長野、南信精紡績會社取締役たり、こあり(長野、上伊那、飯島村))

林 譽四郎

東洋金網製造(株)社長
妻 明一三、一、生、千葉、大木岩松長
男 辯 明三二、七、生
女 さき 明三九、六、生、長男辯妻、茨城、佐川源之介長女

林 要吉

長野縣多額納稅者、製絲業
長野縣七族
妻 ちか 明二、一、生、長野、士、武蔵野大
男 正一 明三五、一、生
男 恭子 明三六、一、一、生、二男正一妻、長野、武井文武妹
男 茂吉 明三六、五、生
男 清治 明四一、五、生
女 清子 明四三、三、生
君は長野縣士族林秀左衛門の長男にして慶應元年七月を以て生れ明治十六年家督を相續す製絲業を營み長野縣多額納稅者なり家族は尙七男辰五郎(大五、三、生、孫まさ子(同一一、四、四生、二男正一長女)あり長女美知恵(明三〇、六、生)は長野縣人武井文武に二女せつ(同三八、二、生)は山梨縣人跡部鐵に嫁し亡弟辰次郎妻(同四五、七、生、長野、牛山彌太郎妹)は其二女と共に分家せり(長野、諏訪、平野村)
參照 柴尾澤菊太郎の項

林 嘉雄

從四位勳三等、製鐵所技師、二瀬出張所長、熊本縣士族
妻 嘉久 安政三、三、生、熊本、士、丹勢貞
女 秀子 明四一、四、生
女 澄子 明四三、一〇生
君は熊本縣士族林嘉内の長男にして明治九年一月を以て生れ大正三年家督を相續す明治三十四年東京帝國大學工科大学を卒業し製鐵所技師に任じ現に二

林 頼三郎

正四位勳三等、法學博士、檢事、大審院檢事、會計檢査官懲戒裁判所豫備檢査官、埼玉縣在籍
妻 有 章 安政五、三、生、現戸主
養子 晃彦 大三、六、生、埼玉、三田幸司男
君は舊武州忍藩の儒者三輪頼三の四男にして同智の弟なり明治十一年九月を以て生れ同三十七年林有章の養子となる同三十年東京法學院法科を卒業し判事任用試験に合格し同三十二年判事に任じ東京區同地方各裁判所判事東京地方裁判所部長宮城控訴院判事仙臺地方裁判所部長宮城控訴院判事東京控訴院判事大審院判事に歴補し大正九年法學博士の學位を受け同十年司法省判事局長となり次で馬政調査會委員を経て同十三年司法官に任じ更に昭和二年檢事となり現に前記の職にあり養妹ふみ(明一四、一、生)は埼玉縣人三田清太郎二男昌治に同(同二〇、七、生)は同縣人中村成一郎に養姉つる(文久、一、七、生、埼玉、林久五郎長女)は同縣人水村龜三郎に嫁し養妹八重(明二四、一、一、生)は分家せり(東京、牛込、市ヶ谷富久町六〇電四谷五五六)

林 利平

廣島縣多額納稅者、吳物産、藝南電軌(株)監査役、廣島縣在籍
妻 眞子 安政五、一〇生、現戸主
女 澄子 文久二、三、生、廣島、林九右衛門
君は廣島縣人高橋利吉の弟にして明治十八年二月を以て生れ同三十五年林眞平の養子となる現時前記各會社の重役にして廣島縣多額納稅者なり家族は尙三男眞三(大五、二、生)三女松枝(同七、一、生)四女道子(同一一、一、生)孫眞子(同一一、一、生、長男好人長女)あり長女シヅエ(明三九、八、生)は廣島縣人永井三七雄に養妹マツ(同二二、二、生、養父眞平二女)は同縣人中鹽梅吉二男寛一に同(同二四、一、一、生、同三女は大阪府人下常三郎長男龜太郎に同(同二七、一、一、生、同四女)は廣島縣人林一人に養母キヌ(同二二、一、一、生、同妹)は同縣人中津茂吉に嫁せり(吳、藏本通)

林 良吉

資産家
兵庫縣在籍
妻 ちか 安政六、五、生、兵庫、林喜平長女
男 治一 大二三、七、生
君は兵庫縣人林良助の二男にして明治十六年二月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十二年神戸高等商業學校を卒業し資産家として知らる家族は尙長女あり(大五、四、生)二男眞平(同八、三、生)二女やす(同二〇、一、一、生)三男久三(同二一、一、一、生)あり(神戸、北長狭通四ノ外二電番合三三三三)

林 榮次郎

熊本縣多額納稅者、菊池電氣軌道(株)取締役、農業、熊本縣在籍
妻 榮 明一九、一、一、生
君は熊本縣人吉井長平の二男にして安政四年九月を以て生れ先代忠平の養子となり明治十一年家督を相續す農業を營み熊本縣多額納稅者にして現時菊池電氣軌道會社取締役たり(熊本、菊池、隈府町)
參照 林田榮の項

林 田榮

鹿兒島縣多額納稅者、貸自動車業、鹿兒島縣在籍
妻 喜八 文久三、六、生、現戸主
母 ケサ 慶應三、三、生、鹿兒島、藤崎益太
父 喜八 慶應三、三、生、鹿兒島、藤崎益太
男 榮 明二六、二、生
男 榮 大一、七、生

林 連

東京府參事會、辯護士
妻 友江 明二七、六、生、群馬、土屋善門三
女 博 大六、七、生
君は福岡縣人林利平の二男にして明治十四年四月を以て生れ大正十一年分家して一家を創立す明治四十二年明治大學法科を卒業し辯護士試験に合格す現に辯護士を開業し東京府參事會員なり家族は尙長女妙子(大四、一、一、生)二女操(同九、一、一、生)三女富(同二三、八、生)あり(東京市外南千住町千住二電番八七七)

林 田勇夫

長崎縣多額納稅者、長崎製絲、溫泉鐵道、千々石商事各(株)取締役、酒造業、長崎縣士族
妻 明一七、一、二、生、長崎、永田治郎
君は長崎縣人林田雄四郎の二男にして明治三年十一月を以て生れ同二十九年家督を相續す酒造業を營み現時前記各會社の重役にして同縣多額納稅者なり家族は尙二男耕助(明四二、五、生)姉アツ(文久三、一、一、生)あり(長崎、西彼杵、矢上村)
參照 永田治郎の項

林 田榮

鹿兒島縣多額納稅者、貸自動車業、鹿兒島縣在籍
妻 喜八 文久三、六、生、現戸主
母 ケサ 慶應三、三、生、鹿兒島、藤崎益太
父 喜八 慶應三、三、生、鹿兒島、藤崎益太
男 榮 明二六、二、生
男 榮 大一、七、生

君は鹿兒島縣人林田善八の長男にして明治二十三年三月を以て生る貸自動車業を營み鹿兒島縣多額納税者たり...

林田好藏 日本醸造機械製造(株)社長 東京府在籍...

林田好弘 明四三、三生 君は長崎縣人林田高六の長男にして明治九年四月を以て生れ...

林田榮 熊本縣多額納税者、吳服商並金融業、熊本縣在籍...

林田昌藏 肥後協同銀行、南薩酒造各(株)取締役、肥後縣在籍...

林田雄良 獨逸染料(名)技師 兵庫縣土族...

林田精一 日高銀行(株)取締役 和歌山縣在籍...

林原信太郎 化粧品商 大阪府在籍...

林原保次郎 岡山縣多額納税者、製鉛業 岡山縣在籍...

母 アイ 文久三、一〇生、熊本、士、中熊 惣四郎二女...

林田隆壽 福岡縣多額納税者、農業 福岡縣在籍...

林田寅次郎 從五位勳五等、種馬所技師、熊本種馬所長、東京府土族...

君は滋賀縣土族林田勤次の二男にして明治十一年五月を以て生れ...

林屋新兵衛 日本茶精(株)社長 京都府在籍...

君は石川縣人先代新兵衛の三男にして明治七年九月を以て生れ...

林屋友次郎 駒澤大學講師 東京府在籍...

君は石川縣人林屋新造の二男にして明治十九年五月を以て生れ...

馬所長を経て現に熊本種馬所長たり兼に大正十五年歐米各國に出張を命ぜらるる家族は尙長女綾子(大三、二生)...

林田春次郎 林田朝鮮農事改良(株)社長 福岡縣在籍...

君は福岡縣人林田清三郎の長男にして明治八年十一月を以て生れ...

林田操 富士瓦斯紡績(株)常務取締役 福岡縣在籍...

原伊代次 徳島縣多額納税者、阿波木材(株)代表取締役、材木商 徳島縣土族...

君は徳島縣人宮田衛三郎の三男にして慶應元年九月を以て生れ...

原逸郎 京都電燈(株)總支配人 京都府在籍...

原卯三郎 第一土地商事、日本共三無盡、帝國共立無盡各(株)取締役 京都府在籍...

君は新潟縣人秋山善八の二男にして慶應元年一月を以て生れ後先代五作の養子となり明治二十三年家督を相續す...

原 悦平

德島縣多額納稅者、醬油醸造業、安政三、五生、德島、宇野鶴...

男 重文 明一〇、三三、長男重文妻、德島、...

女 文吉 明一八、五五、二男文吉妻、德島、...

孫 修一 明三三、五五、長男重文長男、...

孫 正子 明四一、一〇、孫修一妻、德島、...

孫 美子 明四一、五五、長男重文二女、...

孫 美子 明四一、五五、長男重文二女、...

孫 美子 明四一、五五、長男重文二女、...

孫 美子 明四一、五五、長男重文二女、...

孫 美子 明四一、五五、長男重文二女、...

孫 美子 明四一、五五、長男重文二女、...

孫 美子 明四一、五五、長男重文二女、...

孫 美子 明四一、五五、長男重文二女、...

孫 美子 明四一、五五、長男重文二女、...

孫 美子 明四一、五五、長男重文二女、...

君は岐阜縣人村井新七の長男にして文久二年二月を以て生れ明治十年先代小十郎の養子となり家督を相續す...

原 兼吉

岐阜縣多額納稅者、百二十八銀行、岐阜、...

妻 文久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

女 久元、二生、岐阜、原重左衛門...

現時百二十八銀行取締役に於て岐阜縣多額納稅者なり、家族は尚孫玉枝(大四、七生、亡長男一郎長女)あり...

原 敢二郎

正五位勳二等、海軍少將、第五戰隊司令官、東京府在籍、...

妻 龍 明二五、七生、岡山、坂田實三女...

男 幸夫 大八、八生、...

女 幸子 明二七、一〇、...

女 幸子 明二七、一〇、...

女 幸子 明二七、一〇、...

女 幸子 明二七、一〇、...

君は大阪府人田中慶造の弟にして明治十六年六月を以て生れ同十四年原六郎の養子となり...

原 邦道

從五位、銀行検査官、日本勸業銀行監理官、島根縣在籍、...

妻 てる子 明三五、四生、東京、杉原宗三郎...

女 明三、四生、島根、...

女 明三、四生、島根、...

女 明三、四生、島根、...

女 明三、四生、島根、...

女 明三、四生、島根、...

君は福岡縣人原仙藏の弟にして安政元年十一月を以て生れ明治二十二年分れて一家を創立す...

原 孝次

大倉土木株式取締役、中央セメント(株)取締役、...

妻 大倉 明一、一〇、...

女 大倉 明一、一〇、...

女 大倉 明一、一〇、...

女 大倉 明一、一〇、...

女 大倉 明一、一〇、...

女 大倉 明一、一〇、...

君は兵庫縣人上月豊隆の二男にして明治二十年十月を以て生れ原ちかの養子となり...

原 潔

正五位勳六等、鐵道省委託久太郎町小荷物取扱所主、...

妻 明一、五五、...

女 明一、五五、...

女 明一、五五、...

女 明一、五五、...

女 明一、五五、...

女 明一、五五、...

君は神奈川縣人原安兵衛の二男にして明治十八年三月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す...

原 幸次郎

岐阜縣多額納稅者、付知銀行(株)取締役、...

妻 明三、八生、...

女 明三、八生、...

女 明三、八生、...

女 明三、八生、...

女 明三、八生、...

女 明三、八生、...

君は鹿兒島縣人原平之進の二男にして明治九年二月を以て生れ大阪高等醫學校を卒業し...

原 耕

鹿兒島縣士族、銀行(株)取締役、...

妻 明二、六、...

女 明二、六、...

女 明二、六、...

女 明二、六、...

女 明二、六、...

女 明二、六、...

君は岐阜縣人水野金之助の三男にして明治十五年十一月を以て生れ先代百次郎の養子となり...

原 邦造

東京貯蓄銀行(株)頭取、愛國生命(株)社長、...

妻 明一、九、...

女 明一、九、...

女 明一、九、...

女 明一、九、...

女 明一、九、...

女 明一、九、...

原 耕三 三菱造船(株)長崎造船所副長
 母 安政四、五生、長野、土、山寺信
 妻 俊子 明三二、一女生、男爵坂本俊馬二
 男 昌三 大五、九生

君は舊信州松代藩士原忠治郎の長男にして明治十九年四月を以て生れ大正八年家を相續す明治四十一年東京高等商業學校を卒業し三菱造船會社に入り累進して參事となり神戸造船部總務部長を経て現時長崎造船所副長たり家族は尙長女琴子(大二、二生)一女稻子(同一三、九生)あり(長崎市出来大町電八二八)
 參照 男爵坂本俊馬參齋傳の項

原 佐一 五位勳六等、礦山監督局書記官、
 福岡縣監獄局長
 妻 ムメ 明二四、一女生、山口、青木利作
 男 現吉 大三、三生

君は東京府人原斌の弟にして明治十八年一月を以て生れ同三十七年家を相續す同四十三年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し大正元年文官高等試驗に合格し石川縣理事官に任じ同縣河北部長を経て京都府理事官に轉じ次で工場監督官となり更に軍需局書記官に轉じ庶務課長兼農務書記官となり次で特許局事務官に轉じ審判官を経て現に礦山監督局書記官に任じ福岡縣監獄局長たり家族は尙二男象平(大八、四生)三男春樹(同一三、三生)長女麗子(昭二、四生)あり(福岡市住吉葛島町電九九三)

原 定男 五位勳五等、検事、新潟地方裁
 判所檢察官兼新潟區裁判所檢察官
 妻 ケン 明一五、三生、養父柳八長女
 男 養子 丘 明三九、八生、東京、藤部正男二
 君は藤部重太郎の二男にして明治十三年二月を以て生れ後原柳八の養子となり同四十六年分家して一家を創立す同三十九年中央大學を同三十九年明治大學高等科を同三十九年歐米館英學科を各卒業し判事任用試験に合格し同四十四年検事に任じ爾來松本區長野地方同區新潟區同地方水戸區同地方田區各裁判所檢察官土浦區裁判所檢察官水戸地方裁判所土浦支部檢察官浦和地方法裁判所檢察官に歴補し昭和二年現職に轉ず(新潟市地方裁判所官舎)

原 四朗 靜岡縣多額納稅者
 妻 けい 慶應三、九生、神尾金兵衛長女
 男 佐 明四〇、一女生、養父榮重二女

君は靜岡縣人藤六亮の弟にして明治十八年十月を以て生れ原榮重の養子となり大正十年家を相續す家商にして靜岡縣多額納稅者たり家族は尙二男寛治(明四四、一女生)長女まさ(大三、一〇生)一女植枝(同一〇、九生)あり(靜岡、田方、田中村)

原 繁造 熱帯殖産(株)副社長、高砂煉房工
 事、甲子製紙各(株)事務取締役、
 山陽無煙炭礦、高砂ゴム工業、高
 砂製糖工業、高砂製糖工業、高砂
 濱業各(株)取締役、滋賀縣在籍
 弘化二、一女生、現戸主
 妻 トク 明二五、五生、愛媛、土、竹村シ
 男 一郎 明四五、一女生

君は滋賀縣人小島兵衛の弟にして明治十五年三月を以て生れ後叔父原萬助の養子となる同四十年京都帝國大學大學法科大學經濟科を卒業し直ちに住友家に入り石炭肥料及び製鋼事業に従事す大正八年辭して高砂工業會社に轉じ現時熱帯殖産會社社長たる外前記諸會社の重役たり家族は尙三男紀三郎(大七、一女生)四男四郎(同一五、五生)長女お紀子(同一四、一女生)あり(東京市外品川町北品川宿御殿山三二五電高輪一五二)

原 治助 長野縣多額納稅者、佐久銀行(株)
 監査役、千曲錦織造元、酒造業
 長野縣在籍
 男 英一 明二七、九生
 女 なりめ 明二六、三生、長男英一妻、長野、大井爲助二女
 男 隆四郎 明三三、一女生
 女 きみ 明三七、一女生
 男 隆四郎 明四一、二女生

君は長野縣人中澤清太郎の四男にして明治三年十月を以て生れ先代彌八の養子となり同四十年家を相續す酒造業を營み長野縣多額納稅者にして前記銀行の監査役たり家族は尙六女しん(大三、九生)孫智恵子(同五、八生、長男英一長女)同光子(同八、一〇生、同二女同英治(同一一、八生、同長男)同敬夫(同一四、八生、同二男)あり養父彌八(嘉永五、九生)は分家し四女せい(明三九、三生)は長野縣人町田勝二に嫁せり(長野、北佐久、岩村田町)

原 治 長野縣多額納稅者、南和公司
 代表取締役、第二銀行、大成
 ホテル、ニューグランド各(株)取
 締役、横濱生命保險(株)監査役、
 原(名)副社長、益絲貿易商
 神奈川縣在籍
 妻 壽枝 明三〇、九生、東京、團琢磨四女
 君は益絲貿易商の巨擘原富太郎の長男にして明治二十五年四月を以て生れ原富太郎の養子となり同三十二年家を相續す風米國に留學すること多年又歐洲各國を視察遊遊し歐米通を以て知らるる益絲貿易商を營み原合名會社副社長にして傍ら南和公司代表取締役たる外前記銀行會社の重役として同縣多額納稅者たり(横濱、中、辨天通三ノ四九電本局四三三三)
 參照 團琢磨、原富太郎、※小倉常吉※西郷健雄※原太三郎※牧田環の項

原 澄治 中國信託、獎勵土地各(株)取締役
 代表、倉敷紡績(株)取締役
 岡山縣在籍
 妻 卯野 慶應三、六生、岡山、大原孫三郎
 男 長 明一八、一〇生、原孝四郎長女
 妻 玄太郎 明三九、八生

君は岡山縣人星島寛の二男にして明治十一年七月を以て生れ同四十五年先代長の入夫となり家を相續す同三十六年早稲田大學英語政治科を卒業し現時中國信託會社取締役代表たる外前記各會社の重役を兼ねるに中國日報社長に擧げらるる家族は尙三男吉彦(大四、一〇生)一女睦(同八、三生)あり(岡山、都窪、倉敷町電七五)

原 惣兵衛 衆議院議員(兵庫縣選出)、辯護士
 東京府在籍
 妻 スエ 明一九、一〇生、東京、高尾芳子
 養子 芳夫 大二三、九生、兵庫、木村啓太郎

君は兵庫縣人原惣吉の五男にして明治二十四年一月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す同八年日本大學を卒業し辯護士試験に合格す更に獨逸に留學し伯林大學ミューンヘン大學に學び歸朝後日本大學々生監兼幹事に擧げらるる辯護士にして大正十三年以來衆議院議員に當選する事二回現に立憲政友會に屬す兼道に長じ又演藝に興味を有す(東京、小石川、關口臺町一五電牛込六九九七)

原 太三郎 京都府多額納稅者、京都取引所、取
 引員、京都府在籍
 妻 いし 文久三、一〇生、養父喜三郎長女
 男 善藏 明二二、一〇生
 女 ヒサ 明二二、三生、京都、原田三之助
 男 要造 明三七、一〇生
 女 サト 明四二、七生、五男要造妻、京都山本榮次郎二女

君は滋賀縣人黒井秀次郎の長男にして安政五年四月を以て生れ後先代喜三郎の養子となり同十四年家を相續す京都取引所米穀取引員にして京都府多額納稅者たり三男善藏(明三一、一〇生)は同妻マツ(同三三、一〇生)は同妻ハツ(同三七、五生)は京都府人岡田半次郎に嫁し三女よね(同一九、八生)は同府藤井氏を五女たみ(同二八、一〇生)は滋賀縣伊藤氏を各再興し孫千代(大八、一〇生、五女たみ女)は京都府人藤野寅次郎の養子となり(京都、下京、油小路通綾小路下風早町五五九電下一五〇九)
 參照 ※辻利兵衛の項

原 十太 從三位勳二等、理學博士、東京帝
 國大學教授、農學部勤務
 靜岡縣在籍
 妻 かつ 明三八、三生、御茶水高等女學校
 女 ひろ 明四二、四生、御茶水高等女學校
 女 出 明四二、四生、御茶水高等女學校

君は靜岡縣土族原退藏の長男にして明治五年十一月を以て生れ同二十九年家を相續す同二十八年帝國大學理科大學動物科を卒業し大學院に入り札幌農學校教授學藝院教授等に歴任し水産海洋學研究のため英佛獨各國に留學し同四十四年東京帝國大學農學部教授に任じ現在に至る大正二年理學博士の學位を受け同四年マニシヤル、カロン、マリヤナ群島に出張せり(東京、小石川、白山御殿町一〇九)

原 庄右衛門 和歌山縣多額納稅者、請負業
 和歌山縣在籍
 妻 英 明一二、一〇生、和歌山、橋原志
 男 庄太郎 明三五、三生
 男 正路 明三八、一〇生
 女 いさな 明四〇、一〇生
 女 稔 明四三、一〇生

君は和歌山縣人原庄次郎の長男にして明治五年十月を

原 善一郎 神奈川縣多額納稅者、南和公司
 (株)代表取締役、第二銀行、大成
 ホテル、ニューグランド各(株)取
 締役、横濱生命保險(株)監査役、
 原(名)副社長、益絲貿易商
 神奈川縣在籍
 妻 壽枝 明三〇、九生、東京、團琢磨四女
 君は益絲貿易商の巨擘原富太郎の長男にして明治二十五年四月を以て生れ原富太郎の養子となり同三十二年家を相續す風米國に留學すること多年又歐洲各國を視察遊遊し歐米通を以て知らるる益絲貿易商を營み原合名會社副社長にして傍ら南和公司代表取締役たる外前記銀行會社の重役として同縣多額納稅者たり(横濱、中、辨天通三ノ四九電本局四三三三)
 參照 團琢磨、原富太郎、※小倉常吉※西郷健雄※原太三郎※牧田環の項

原 惣兵衛 衆議院議員(兵庫縣選出)、辯護士
 東京府在籍
 妻 スエ 明一九、一〇生、東京、高尾芳子
 養子 芳夫 大二三、九生、兵庫、木村啓太郎

君は兵庫縣人原惣吉の五男にして明治二十四年一月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す同八年日本大學を卒業し辯護士試験に合格す更に獨逸に留學し伯林大學ミューンヘン大學に學び歸朝後日本大學々生監兼幹事に擧げらるる辯護士にして大正十三年以來衆議院議員に當選する事二回現に立憲政友會に屬す兼道に長じ又演藝に興味を有す(東京、小石川、關口臺町一五電牛込六九九七)

原 太三郎 京都府多額納稅者、京都取引所、取
 引員、京都府在籍
 妻 いし 文久三、一〇生、養父喜三郎長女
 男 善藏 明二二、一〇生
 女 ヒサ 明二二、三生、京都、原田三之助
 男 要造 明三七、一〇生
 女 サト 明四二、七生、五男要造妻、京都山本榮次郎二女

君は滋賀縣人黒井秀次郎の長男にして安政五年四月を以て生れ後先代喜三郎の養子となり同十四年家を相續す京都取引所米穀取引員にして京都府多額納稅者たり三男善藏(明三一、一〇生)は同妻マツ(同三三、一〇生)は同妻ハツ(同三七、五生)は京都府人岡田半次郎に嫁し三女よね(同一九、八生)は同府藤井氏を五女たみ(同二八、一〇生)は滋賀縣伊藤氏を各再興し孫千代(大八、一〇生、五女たみ女)は京都府人藤野寅次郎の養子となり(京都、下京、油小路通綾小路下風早町五五九電下一五〇九)
 參照 ※辻利兵衛の項

原 太三郎 朝鮮農林(株)取締役、南和公司
 (株)監査役、原(名)社員
 神奈川縣在籍
 妻 壽枝 明三〇、九生、東京、團琢磨四女
 君は益絲貿易商の巨擘原富太郎の長男にして明治二十五年四月を以て生れ原富太郎の養子となり同三十二年家を相續す風米國に留學すること多年又歐洲各國を視察遊遊し歐米通を以て知らるる益絲貿易商を營み原合名會社副社長にして傍ら南和公司代表取締役たる外前記銀行會社の重役として同縣多額納稅者たり(横濱、中、辨天通三ノ四九電本局四三三三)
 參照 團琢磨、原富太郎、※小倉常吉※西郷健雄※原太三郎※牧田環の項

妻 照子 明三三、一〇生、神奈川、原富太
 男 晴之助 大九、九生

君は神奈川縣人原鐵五郎の長男にして明治二十四年十二月を以て生れ同三十四年家督を相続す現時前記各會社の重役たり兼に第二銀行取締役に擧げらるる家族は尙長女藤子(大七、五生)二男容次郎(同二五、一一生)あり横濱、中、辨天通三ノ四九電本局(二九五七)

參照 原富太郎(西郷健雄)原善一郎の項

原 孝徳 西郷商業銀行、共同貯蓄銀行各(株)取締役、佐賀縣士族

妻 ムメ 明二二、三生、佐賀、士、淺原政孝二女

養子 明三九、一一生、高知、士、松木正雄四男、慶應義塾大學在學

君は佐賀縣士族原徳實の長男にして明治六年一月を以て生れ大正九年家督を相続す現に前記銀行の重役の外神集島大綱組合長たり家族は尙養子悦子(大八、五生)、高知、松木正雄(四女)あり(佐賀、東松浦、唐津町)

參照 秋田久麻生政一郎の項

原 爲吉 田邊銀行(株)常務取締役
 和歌山縣在籍

妻 つれ 明一〇、五生、和歌山、士、猪野民藏長女

男 豐次郎 明二三、二生、二男豐次郎妻、和歌山、田邊昌平(四女)

君は和歌山縣人近藤新十郎の弟にして明治二年三月を以て生れ先代爲吉の養子となり同二十六年家督を相続す後襲名して前名芳吉を改め現時田邊銀行常務取締役たり家族は尙孫澄(大八、一一生)二男豐次郎長女(同三三、一〇生、同二女)同文(同二一、八生、同三女)同誠一郎(同四、一〇生、同長男)同八郎(同四、五、七生、二男豐次郎養子、和歌山、近藤新十郎七男)あり長女喜代(同三三、一〇生)は其夫次郎(同三三、一〇生、和歌山、中村吉二男)と共に分家せり(和歌山、西牟婁、田邊町)

參照 近藤新十郎(同本吉太郎)手由兵衛の項

原 忠一 佐賀縣多額納稅者、濱銀行(株)取締役、徳島屋商店(株)監査役

妻 ヒテ 嘉永五、六生、佐賀、士、倉崎喜作養姉

男 淑子 明二〇、五生、故農學博士稻垣乙丙長女

女 忠孝 大七、八生

君は佐賀縣士族原忠順の長男にして明治十六年五月を以て生れ同二十七年家督を相続す現時濱銀行取締役徳島屋商店監査役に於て縣下の多額納稅者たり家族は尙ほ妹タニ(明二七、四生)あり姉サワ(同二一、一〇生)は秋田縣人齋藤精一郎に嫁せり(佐賀、藤津、鹿島町)

參照 倉崎喜作(白澤保美)の項

原 忠三郎 東京府多額納稅者、關東土地證券(株)取締役、公債社債券買賣業

男 久一郎 明三六、二生、法學士、大藏省專賣局勤務

男 虎治郎 明四〇、三生、早稻田大學在學

君は神奈川縣人岩崎辰蔵の長男にして明治七年七月を以て生れ先代からの養子となり大正十年家督を相続す夙に公債社債の専門買賣業を營み家族は支店として京橋區新富町及府下吾儘町に開き關東土地證券會社を主宰し現に東京府多額納稅者たり家族は尙三男龍三郎(明四三、三生)あり長女タカ(同三七、一一生)、雙葉高等女學校出身(は東京府人大堀清之助長男農學士俊雄に嫁せり(東京市外濠谷町金王電音山五七七))

原 鐵五郎 埼玉縣多額納稅者、武蔵貯蓄銀行(株)監査役、農業、埼玉縣在籍

妻 きわ 慶應元、二生、養父鐵五郎長女

養子 善直 明二四、四生、神奈川、鴨志田平藏男

男 一美 明三〇、一一生、養子善直妻、群馬、田中孫三郎孫

君は埼玉縣人富田喜左衛門の三男にして元治元年五月を以て生れ後先代鐵五郎の養子となり明治三十四年家督を相続し前名保平を改め襲名す農業を營み傍ら前記銀行の重役に於て埼玉縣多額納稅者たり家族は尙孫敬子(大一〇、二生、生母、神奈川、鴨志田)養子ワカ(明一八、二生、神奈川、鴨志田)は各分家し同喜代(同二六、一〇生、同姓)は群馬縣人櫻井朝雄に嫁せり(埼玉、兒玉、若泉村)

原 鐵三郎 王子製紙(株)取締役
 兵庫縣在籍

原 東周 住友銀行(株)天王寺支店長
 岐阜縣在籍

妻 さく 明二三、三生、岐阜、白木明治妹

男 大造 明四五、六生

君は岐阜縣人原萬三の弟にして明治十六年九月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す現に住友銀行天王寺支店長たり家族は尙二男芳郎(大三、一一生)三男敏郎(同四、一一生)長女千代子(同七、一一生)二女和香子(同二〇、一一生)四男禮造(同二二、八生)あり(大阪、住吉、南田邊町一〇八〇電致二五四)

參照 目真亮三(大瀧甚太郎)の項

原 秀 島根縣多額納稅者、日本貯蓄産業銀行(株)取締役、農業

妻 マサ 明一〇、八生、島根、高見善次郎長女

男 傳 明三三、一〇生

男 繼子 エイ 明三一、一〇生

君は島根縣人西村次兵衛の二男にして明治八年五月を以て生れ先代與兵衛の養子となり同三十六年家督を相続す農業を營み島根縣多額納稅者にして現時日本貯蓄産業銀行取締役たり(島根、飯石、鍋山村)

參照 小原虎造(古津元市)の項

原 照 正四位勳二等、農學博士、東京帝國大學教授、農學部勤務

妻 三喜 明六、二生、石川、士、猪山成之長女

養子 辰二 明二五、三生、長女榮夫、石川、山崎延吉弟

君は石川縣士族原種方の四男にして明治元年四月を以て生れ幼名を潤四郎と云ふ同二十五年分家して一家を創立す同年東京帝國大學農學部農學科を卒業し同大學助手となり同二十八年農商務技手より陸軍省雇員大本營附となり臺灣に差遣を命ぜられ同二十九年臺灣總督府技師次で拓殖務技師となり同三十年林務官に轉じ同三十三年東京帝國大學農學部助教授を被命同三十四年香港比律實ジャバ及スマトラに差遣せられ同三十五年同大學附屬農場長に補じ同四十三年園藝學及農場經營研究の爲歐米に留學し同四十四年歸朝して同大學教授に任じ園藝學講座擔任農場長となり現に其職に在り大正三年農學博士の學位を受く兼に再三支那に差遣せらるる家族は尙孫直子(大一一〇、三生、養子辰二長女)同正子(同一四、九生、同二女)あり(東京市外目黒町東京帝國大學農學部官舎電音山一九八四)

原 夫次郎 正五位勳四等、衆議院議員(島根縣選出)、辯護士、島根縣在籍

妻 カチ 明一六、六生、島根、保科陽治妹

男 武 明四〇、一〇生

君は島根縣人原幾次郎の三男にして明治八年六月を以

原 富太郎 從五位勳三等、神奈川縣多額納稅者、第二銀行、橫濱興信銀行各(株)取締役、三井銀行、日本郵船各(株)取締役、東洋製鐵(株)監査役、南洋洲鐵道(株)監事、原(名)代表社員、蠶絲貿易商、神奈川縣在籍

妻 屋壽 明七、一一生、養父元三郎長女

男 眞三郎 米國コロンビヤ大學出身

君は岐阜縣の豪農青木久衛の長男にして明治元年八月を以て生れ後原家の養子となり同十九年分れて一家を創立す夙に東京專門學校に學び蠶絲貿易商を營み斯界の巨擘を以て知られ神奈川縣多額納稅者にして前記各銀行會社の重役を兼ね横濱商業會議所特別議員に推され又日露事件及日獨事件の功により從五位に叙せられ蠶絲救済の功により勳三等に叙せらるる美術及茶道の嗜み深く書畫骨董等珍品の所藏多し京都桃山時代の

原 秀次郎 和歌山縣多額納稅者、湯崎溫泉文里土地(株)取締役、田邊銀行、日高紡織各(株)監査役、保險代理業

母 のぶ 元治元、正生、和歌山、田邊春郷妹

男 浩吉郎 大九、一〇生

君は和歌山縣人原秀次郎の二男にして明治二十三年三月を以て生れ同三十六年家督を相続し共に襲名して前名元吉を改む現時前記銀行會社の重役にして和歌山縣多額納稅者たり姉順枝(明一四、一〇生)は和歌山縣人那須小八郎二男孫次郎に同幸(同二〇、五生)は同縣人鹽路淳之助に嫁せり(和歌山、西牟婁、田邊町)

參照 鹽路淳之助の項

原 弘毅 正五位勳四等、姫路高等學校教授

母 シケ 廣島縣士族

妻 フミ 明一九、六生、廣島、秦彦助長女

男 毅 明四三、六生

原口 徠

從四位、男爵、日本勸業銀行(株) 債券課長、東京府華族 元治元、一、二生、東京、土、横川 美高三女

原口 忠雄

熊本縣多額納稅者、農業 熊本縣土族 原口十郎の長男にして明治十九年九月を以て生れ同二十九年家督を相続す農業を營み現時熊本縣多額納稅者たり家族は尙長女マツ(大、三、五生)三男邦彦(同五、三、生)四男泰彦(同七、四生)二女フサ(同九、三、生)三女ソネ(同二、一、八生)あり姉シヅ(明一七、三、生)は熊本縣人高田作太に妹タズ(同二二、四生)は同縣人小林ナミ叔父吉人に同タミ(同二三、九生)は同縣人栗林東一郎長男謙輔に嫁せり(熊本、玉名、玉水村)

原口 初太郎

從四位勳二等功五級、陸軍中將、陸軍砲工學校校長、福岡縣土族 妻 ハ マ 明八、九生、養父幸一二女 女 幸子 明四三、一、一、生

原口 亮平

正五位勳四等、神戸高等商業學校 教授、京都帝國大學法學部講師 兵庫縣在籍 妻 幸子 明四三、一、一、生

原崎 源作

富士製茶(株)事務取締役 靜岡縣在籍 妻 よう 明五、一、生、靜岡、池端源七長女 男 幸三郎 明一四、一、生 男 明二、八、生、長男幸三郎妻、靜岡、宮城傳藏二女 男 明一七、一、生 男 明二九、七、生、二男福一妻、靜岡、内藤邦三郎二女 男 明二〇、一、二、生 男 明二八、八、生、三男得三妻、東京、塚田録平長女 男 明二六、一、生 男 明二九、二、生、五男和一妻、靜岡、望月源吉四女 男 明三三、八、五、生 男 明四一、六、生 孫 は つ 明四二、一、生、長男幸三郎長女 一〇生、二男福一長男(同六、一、二、生、同長女) 同信夫(同九、二、生、同二男)同道子(同二、一、一、生、同二女)あり弟作重(文久二、一、二、生)は靜岡縣人木下は

原口 武夫

從六位、大藏事務官、組育駐在 長崎縣土族 妻 喜美 曾野作太郎二女、第一高等女學校 高等科出身 原口家は舊肥前國島原藩の御典醫なり君は先代工學博士要の三男にして明治二十八年九月を以て生れ昭和二年家督を相続す大正八年東京帝國大學法科大學法科を卒業し大藏省に入り淀橋稅務署長を経て現時大藏事務官にして米國駐在たり家族は尙弟信雄(明三〇、一、一、生)あり姉喜久代(同二三、一、二、生)は茨城縣人夫賀清七二男龍城に同松代(同二六、三、生)は山梨縣人宮澤源吉に妹操(同三八、八、生)は東京府人岩本藤吉長男敬太郎に嫁せり(留守宅、東京、芝、田町七ノ八電高輪一八三)

原口 忠雄

熊本縣多額納稅者、農業 熊本縣土族 原口十郎の長男にして明治十九年九月を以て生れ同二十九年家督を相続す農業を營み現時熊本縣多額納稅者たり家族は尙長女マツ(大、三、五生)三男邦彦(同五、三、生)四男泰彦(同七、四生)二女フサ(同九、三、生)三女ソネ(同二、一、八生)あり姉シヅ(明一七、三、生)は熊本縣人高田作太に妹タズ(同二二、四生)は同縣人小林ナミ叔父吉人に同タミ(同二三、九生)は同縣人栗林東一郎長男謙輔に嫁せり(熊本、玉名、玉水村)

原口 亮平

正五位勳四等、神戸高等商業學校 教授、京都帝國大學法學部講師 兵庫縣在籍 妻 幸子 明四三、一、一、生

原田 維織

正五位勳四等、三重縣知事 鹿兒島縣土族 妻 ヤス 安政五、一、二、生、鹿兒島、土、永井利充三女 母 ヲ マ 明二四、一、生、鹿兒島、玉利季盛長女 養子 フ ヌ 大、一、生、鹿兒島、玉利季盛五女

原田 愛治

鳥取縣多額納稅者、農業 鳥取縣在籍 妻 保之助 明三一、三、生 男 明三二、一、一、生、二男保之助妻、鳥取、中谷龜治長女 女 明三三、九、生、鹿子貞夫、鳥取、山根長治弟

原田 愛治

鳥取縣多額納稅者、農業 鳥取縣在籍 妻 保之助 明三一、三、生 男 明三二、一、一、生、二男保之助妻、鳥取、中谷龜治長女 女 明三三、九、生、鹿子貞夫、鳥取、山根長治弟

原田 愛治

鳥取縣多額納稅者、農業 鳥取縣在籍 妻 保之助 明三一、三、生 男 明三二、一、一、生、二男保之助妻、鳥取、中谷龜治長女 女 明三三、九、生、鹿子貞夫、鳥取、山根長治弟

原科 彌太郎

靜岡縣多額納稅者、農業 靜岡縣在籍 妻 くに 明八、二、生、靜岡、和田源作四女 男 彦雄 明三一、七、生 男 英 明三四、七、生 女 光 明三八、三、生 男 三郎 明四一、三、生 女 妙子 明四三、六、生

原科 彌太郎

靜岡縣多額納稅者、農業 靜岡縣在籍 妻 くに 明八、二、生、靜岡、和田源作四女 男 彦雄 明三一、七、生 男 英 明三四、七、生 女 光 明三八、三、生 男 三郎 明四一、三、生 女 妙子 明四三、六、生

原科 彌太郎

靜岡縣多額納稅者、農業 靜岡縣在籍 妻 くに 明八、二、生、靜岡、和田源作四女 男 彦雄 明三一、七、生 男 英 明三四、七、生 女 光 明三八、三、生 男 三郎 明四一、三、生 女 妙子 明四三、六、生

原科 彌太郎

靜岡縣多額納稅者、農業 靜岡縣在籍 妻 くに 明八、二、生、靜岡、和田源作四女 男 彦雄 明三一、七、生 男 英 明三四、七、生 女 光 明三八、三、生 男 三郎 明四一、三、生 女 妙子 明四三、六、生

原科 彌太郎

靜岡縣多額納稅者、農業 靜岡縣在籍 妻 くに 明八、二、生、靜岡、和田源作四女 男 彦雄 明三一、七、生 男 英 明三四、七、生 女 光 明三八、三、生 男 三郎 明四一、三、生 女 妙子 明四三、六、生

原科 彌太郎

靜岡縣多額納稅者、農業 靜岡縣在籍 妻 くに 明八、二、生、靜岡、和田源作四女 男 彦雄 明三一、七、生 男 英 明三四、七、生 女 光 明三八、三、生 男 三郎 明四一、三、生 女 妙子 明四三、六、生

原科 彌太郎

靜岡縣多額納稅者、農業 靜岡縣在籍 妻 くに 明八、二、生、靜岡、和田源作四女 男 彦雄 明三一、七、生 男 英 明三四、七、生 女 光 明三八、三、生 男 三郎 明四一、三、生 女 妙子 明四三、六、生

ハ之部 原田

(※印は姻族関係)

原田 幾造 從五位、商工書記官、工務局工務課長、山口縣在籍

原田 岩三郎 島根縣多額納稅者、島根縣在籍

原田 榮太郎 神奈川縣多額納稅者、平塚銀行

原田 乙吉 秋田木材(株)取締役、長野縣在籍

原田 龜太郎 原田商事(株)取締役、和井田

原田 金三郎 栃木縣多額納稅者、生絲仲買商

原田 熊雄 從四位、男爵、岡山縣在籍

原田 敬治 神奈川縣多額納稅者、平塚銀行

原田 喜三郎 大阪三品取引所取引員、大阪府在籍

原田 久吉 神奈川縣多額納稅者、地主

原田 久次 佐賀縣多額納稅者、酒造業

原田 敬一 正五位勳三等功四級、陸軍少將

原田 敬治 神奈川縣多額納稅者、平塚銀行

原田 敬一 正五位勳三等功四級、陸軍少將

原田 敬治 神奈川縣多額納稅者、平塚銀行

原田 耕一 大連錢鈔信託(株)監査役、大連株式會社

原田 喜三郎 大阪三品取引所取引員、大阪府在籍

原田 久吉 神奈川縣多額納稅者、地主

原田 久次 佐賀縣多額納稅者、酒造業

原田 敬一 正五位勳三等功四級、陸軍少將

原田 敬治 神奈川縣多額納稅者、平塚銀行

原田 敬一 正五位勳三等功四級、陸軍少將

原田 敬治 神奈川縣多額納稅者、平塚銀行

原田 耕一 大連錢鈔信託(株)監査役、大連株式會社

ハ之部 原田

(※印は姻族関係)

原田 幾造 從五位、商工書記官、工務局工務課長、山口縣在籍

原田 岩三郎 島根縣多額納稅者、島根縣在籍

原田 榮太郎 神奈川縣多額納稅者、平塚銀行

原田 乙吉 秋田木材(株)取締役、長野縣在籍

原田 龜太郎 原田商事(株)取締役、和井田

原田 金三郎 栃木縣多額納稅者、生絲仲買商

原田 熊雄 從四位、男爵、岡山縣在籍

原田 敬治 神奈川縣多額納稅者、平塚銀行

原田 喜三郎 大阪三品取引所取引員、大阪府在籍

原田 久吉 神奈川縣多額納稅者、地主

原田 久次 佐賀縣多額納稅者、酒造業

原田 敬一 正五位勳三等功四級、陸軍少將

原田 敬治 神奈川縣多額納稅者、平塚銀行

原田 敬一 正五位勳三等功四級、陸軍少將

原田 敬治 神奈川縣多額納稅者、平塚銀行

原田 耕一 大連錢鈔信託(株)監査役、大連株式會社